

第 10 期東郷町高齢者福祉計画
策定のための
アンケート調査結果報告書

令和 8 年 2 月

東 郷 町

目 次

I アンケート調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 回収結果	1
4. 報告書の見方	2
II 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果	3
1. あなたとあなたの家族や生活状況について	3
2. からだを動かすことについて	9
3. 食べることについて	16
4. 毎日の生活について	20
5. 就労について	27
6. 地域での活動について	28
7. 回答者とまわりの人の「助け合い」について	44
8. 健康について	58
9. 介護保険制度について	65
10. 地域包括支援センターについて	71
11. 認知症について	74
12. 調査結果からみる調査対象者の評価	84
III 在宅介護実態調査の結果	94
1. 調査対象者自身のことについて	96
2. サービスや支援について	99
3. 今後の生活の場所について	104
4. 地域包括支援センターについて	108
5. 地域での支え合いや地域活動について	115
6. 認知症施策について	122
7. 主な介護者自身のことについて	133
8. 仕事と介護の両立について	140
9. 介護する上での不安について	150
10. 介護者への支援について	154
IV ケアマネジャー調査の結果	160
V 事業者調査の結果	197
1. サービス提供の概要について	197
2. 人材確保の状況について	199
3. 高齢者虐待について	205
4. 他機関等との連携状況について	207
5. サービスの質の向上等について	210
6. 地域包括支援センターや町へ期待することについて	211
7. 居宅介護支援及び施設サービスについて	213

VI 在宅生活改善調査の結果	216
【事業者票】	216
【利用者票】	219
1. 対象となる利用者の状況等について	219
2. 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由について	221
3. 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況を改善するための、サービス利用の変更等について	227
VII 居所変更実態調査の結果	231
VIII 介護人材実態調査の結果	240

I アンケート調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、「第9期東郷町高齢者福祉計画」が令和8年度をもって満了となることから、新たな計画づくりに向けた基礎資料として、本町在住の65歳以上の高齢者、要支援・要介護認定者及び本町の利用者のサービス計画作成に携わっているケアマネジャー、介護サービスを提供していただいている事業者等を対象として、本町の高齢者福祉に関する実態や高齢者の現状を把握し、高齢者福祉の推進に活用することを目的として実施しました。

2. 調査概要

全体で5種の調査を実施しました。各調査の対象、方法等は下表のとおりです。

調査種別	対 象	調査基準日	調査期間	調査方法
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	本町在住の65歳以上から2,200人を無作為抽出	令和7年 11月1日	令和7年 12月26日 ～令和8年 1月16日	郵送による 配布・回収
在宅介護実態調査	本町在住の要支援・要介護認定者から1,000人を無作為抽出			
ケアマネジャー調査	本町で居宅サービス計画を作成している ケアマネジャー44人	令和7年 12月1日	令和7年 12月16日 ～令和8年 1月16日	事業所を通じた 郵送による 配布・回収
事業者対象調査	本町の介護保険サービス 事業者 41 事業者			電子メールによる 配布・回収
在宅生活改善調査	本町の居宅介護支援事業者及び本町のケアマネジャー			

3. 回収結果

各調査の回収結果は下表のとおりです。

調査種別	配付数	有効回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,200 件	1,532 件	69.6%
在宅介護実態調査	1,000 件	641 件	64.1%
ケアマネジャー調査	44 件	42 件	95.5%
事業者調査	41 件	41 件	100.0%
在宅生活改善調査	-	事業者 13 件 ケアマネジャー27 人	-

4. 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇クロス集計の表組においては、「その他」「不明・無回答」を除き、回答の高いもの第1位に網掛けをしています。
- ◇集計対象者数（n値）が少ない（10件未満）クロス集計について、コメント対象外としています。さらに、クロス集計において、日常生活圏域ニーズ調査での性別「回答しない」（n=1）、在宅介護実態調査での主な介護者の性別「回答しない」（n=7）、主な介護者の年齢別「わからない」（n=1）は、掲載を省略しています。
- ◇全体の調査結果について、令和4年度に実施した前回調査との比較を行っています。令和4年度調査の概要は下記のとおりです。なお、今回調査は「本報告書中での表記」の「R4」を「R7」として報告書中で表記しています。

調査種別	本報告書中での表記	配付数	有効回収数	回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	R4年一般高齢者	2,200件	1,547件	70.3%
在宅介護実態調査	R4年在宅介護認定者	1,000件	575件	57.5%
ケアマネジャー対象調査	R4年ケアマネジャー	42件	32件	76.2%
事業所対象調査	R4年事業所	35件	35件	100.0%
在宅生活改善調査	R4年生活維持困難者	-	事業者12件 ケアマネジャー32人	-

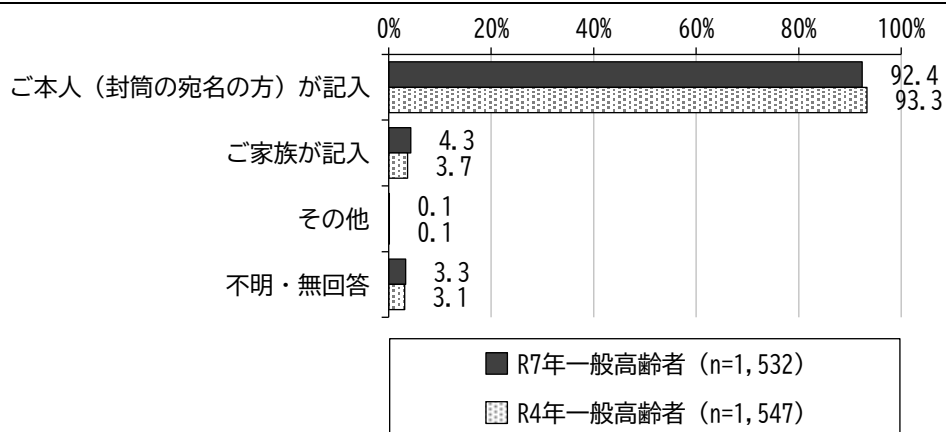
- ◇調査結果について、地域ごとの状況を把握するため、日常生活圏域別に集計結果を示していることがあります。本町の日常生活圏域は北部と南部の2圏域となっており、それぞれに含まれる地区は下記の通りです。

圏域	含まれる地区
北部	諸輪、和合、和合ヶ丘、諸輪住宅、白鳥、御岳、押草団地南、押草団地北、北山台
南部	傍示本、祐福寺、部田、白土、春木台、西白土、清水、兵庫、三ツ池

II 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

調査票を記入されたのはどなたですか。(複数回答)

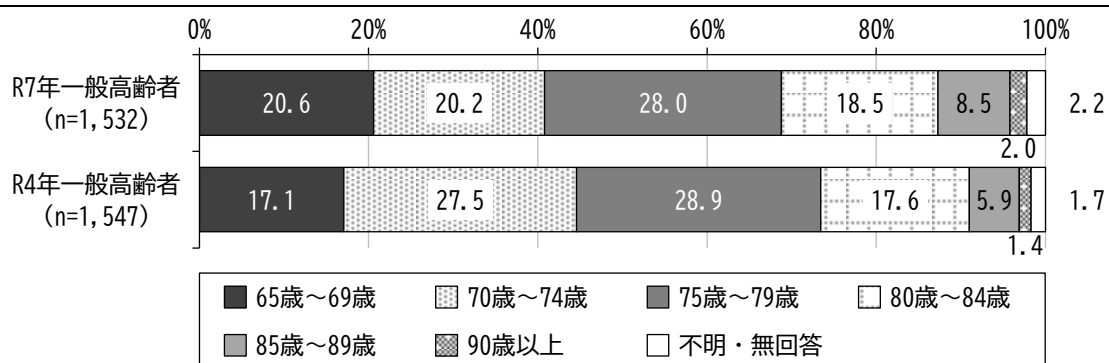
「ご本人(封筒の宛名の方)が記入」が92.4%と最も高く、次いで「ご家族が記入」が4.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



1. あなたとあなたの家族や生活状況について

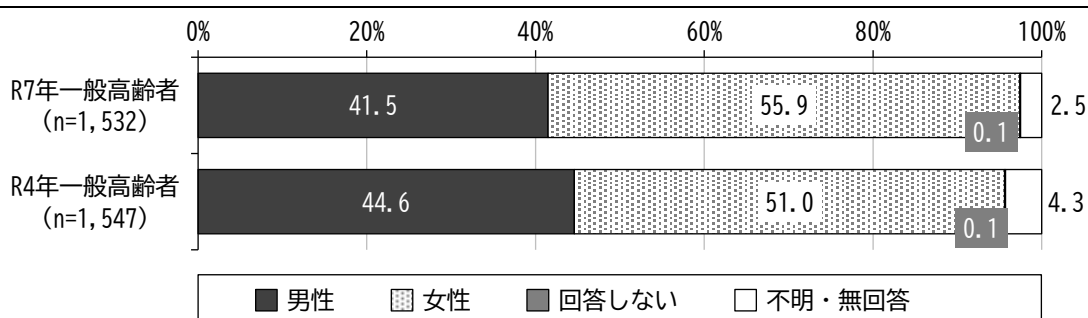
問1 あなたの年齢を教えてください。(数量回答)

「75歳～79歳」が28.0%と最も高く、次いで「65歳～69歳」が20.6%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「70歳～74歳」が7.3ポイント低くなっています。



問2 性別を教えてください。(単数回答)

「女性」が55.9%と最も高く、次いで「男性」が41.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

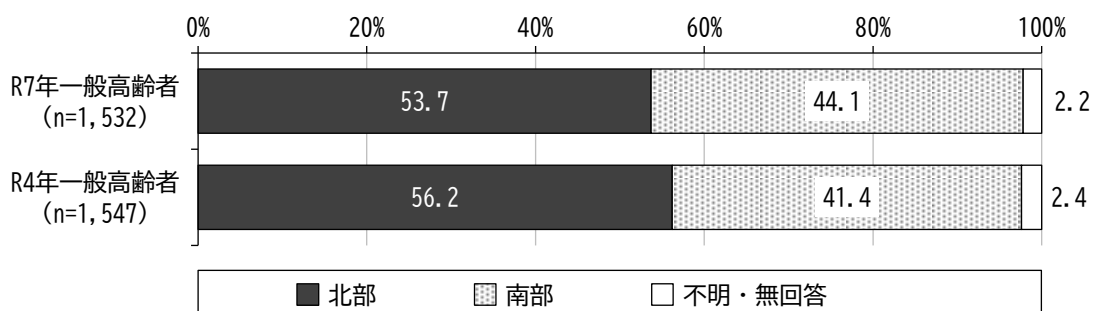
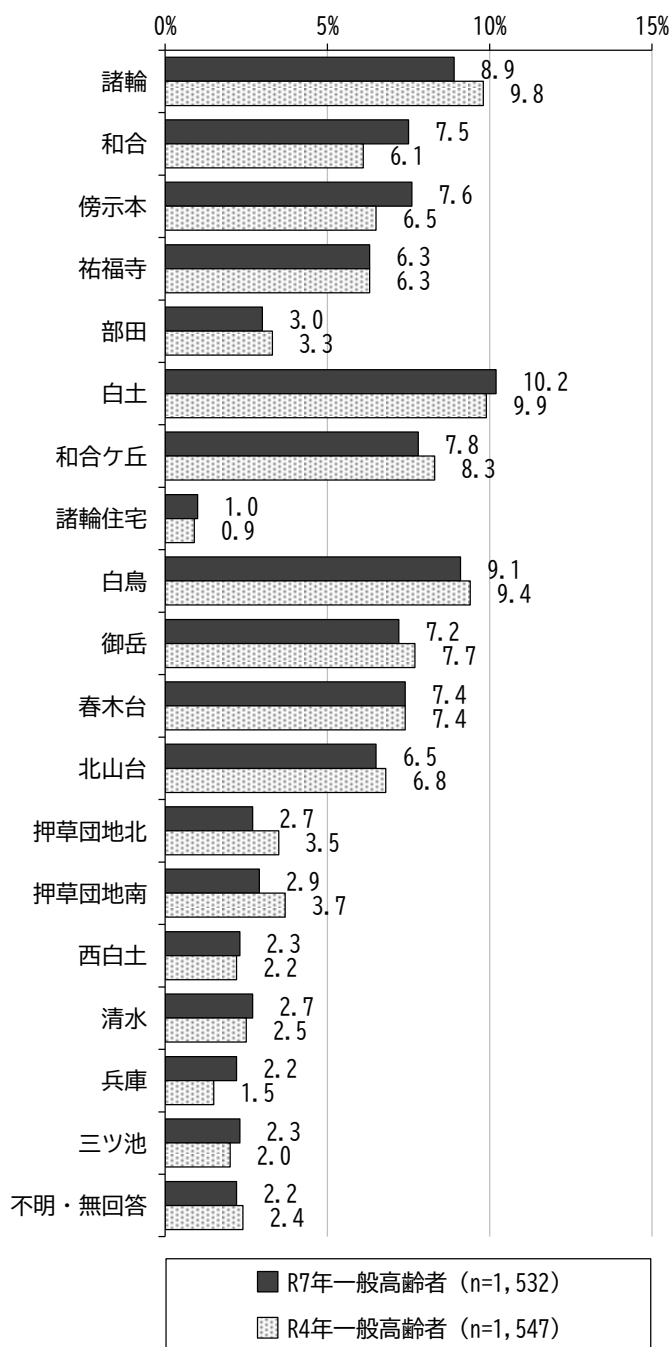


問3 あなたのお住まいはどこですか。(単数回答)

「白土」が10.2%と最も高く、次いで「白鳥」が9.1%となっています。

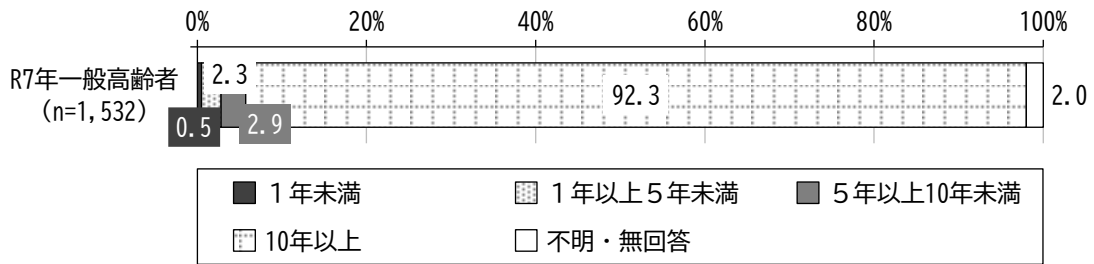
日常生活圏域別でみると、「北部」が53.7%、「南部」が44.1%となっています。

なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

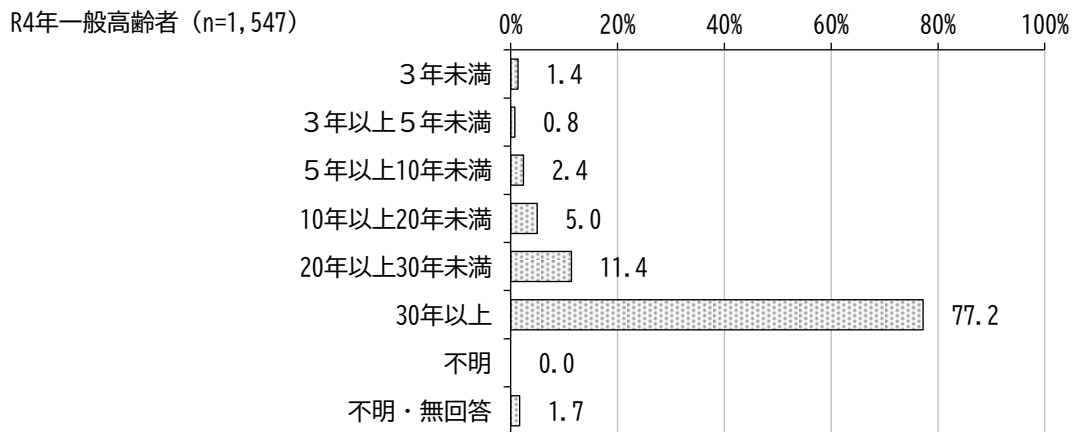


問4 あなたは、東郷町に住んで何年になりますか。(単数回答)

「10年以上」が92.3%と最も高く、次いで「5年以上10年未満」が2.9%となっています。

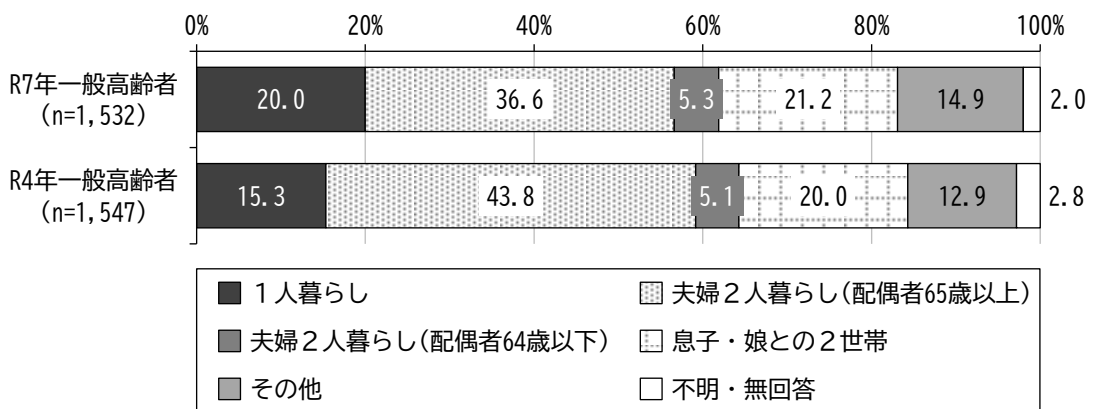


□参考値



問5 家族構成を教えてください。(単数回答)

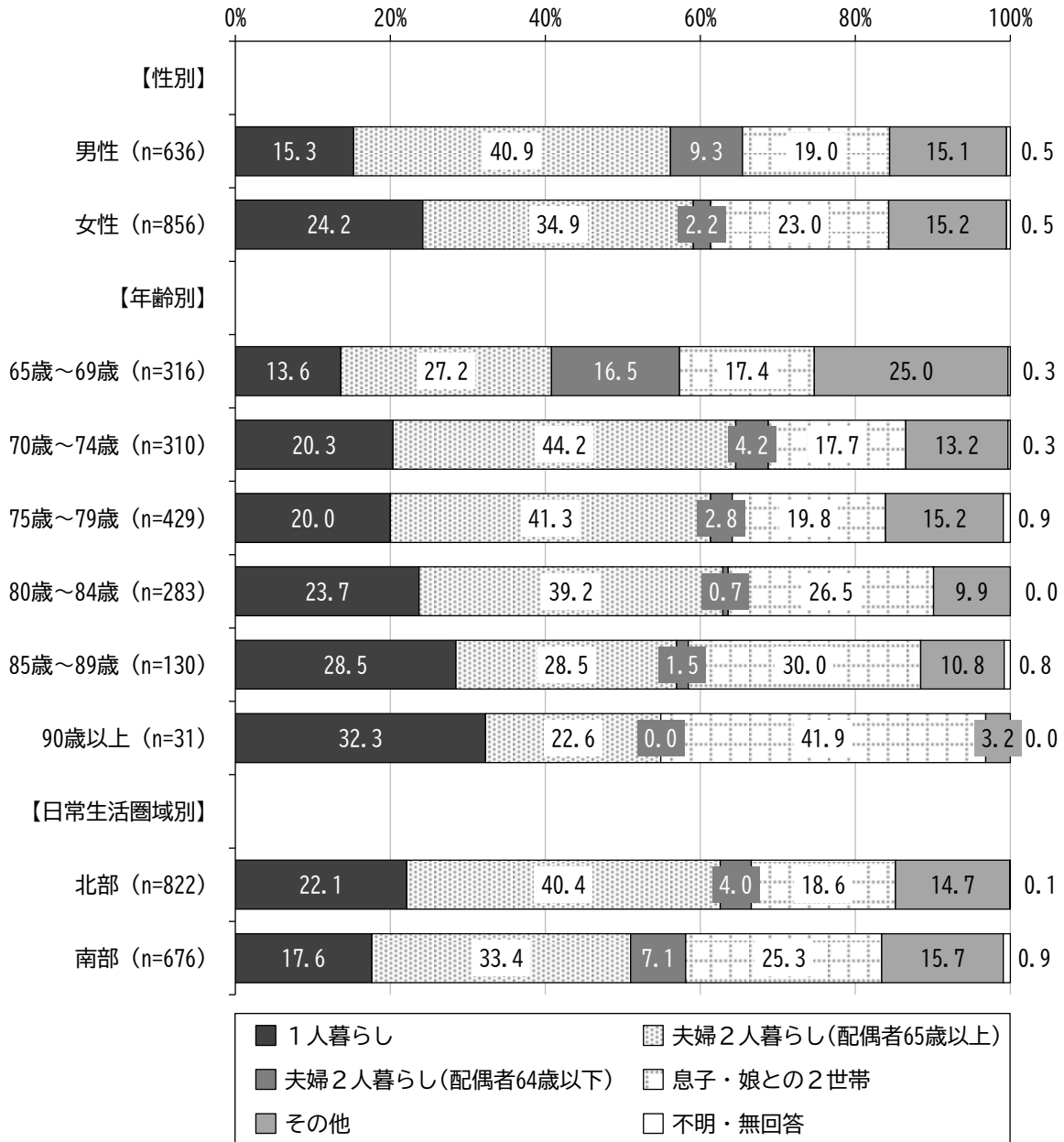
「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が36.6%と最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が21.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が7.2ポイント低くなっています。



性別でみると、男女ともに「夫婦2人暮らし(配偶者 65歳以上)」が最も高くなっています。

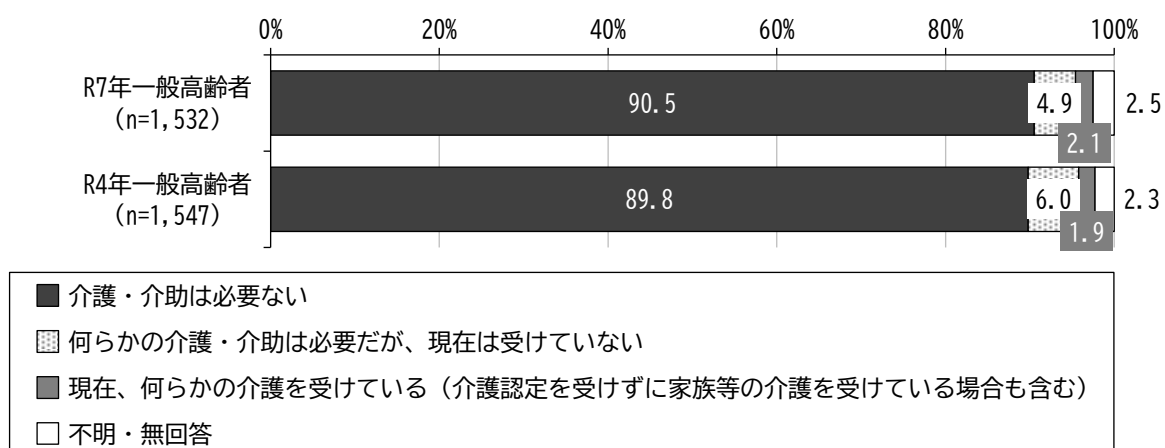
年齢別でみると、65歳～84歳では「夫婦2人暮らし(配偶者 65歳以上)」、85歳以上では「息子・娘との2世帯」が最も高くなっています。

日常生活圏域別でみると、北部・南部ともに「夫婦2人暮らし(配偶者 65歳以上)」が最も高くなっています。



問6 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(単数回答)

「介護・介助は必要ない」が90.5%と最も高く、次いで「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が4.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



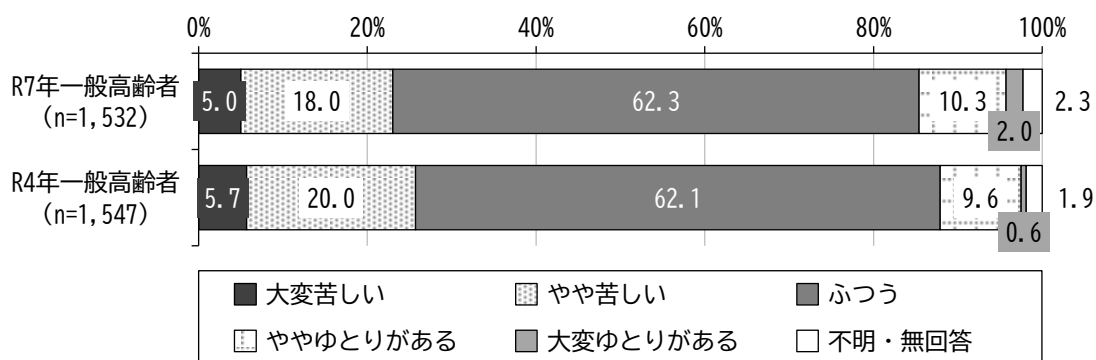
問7 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

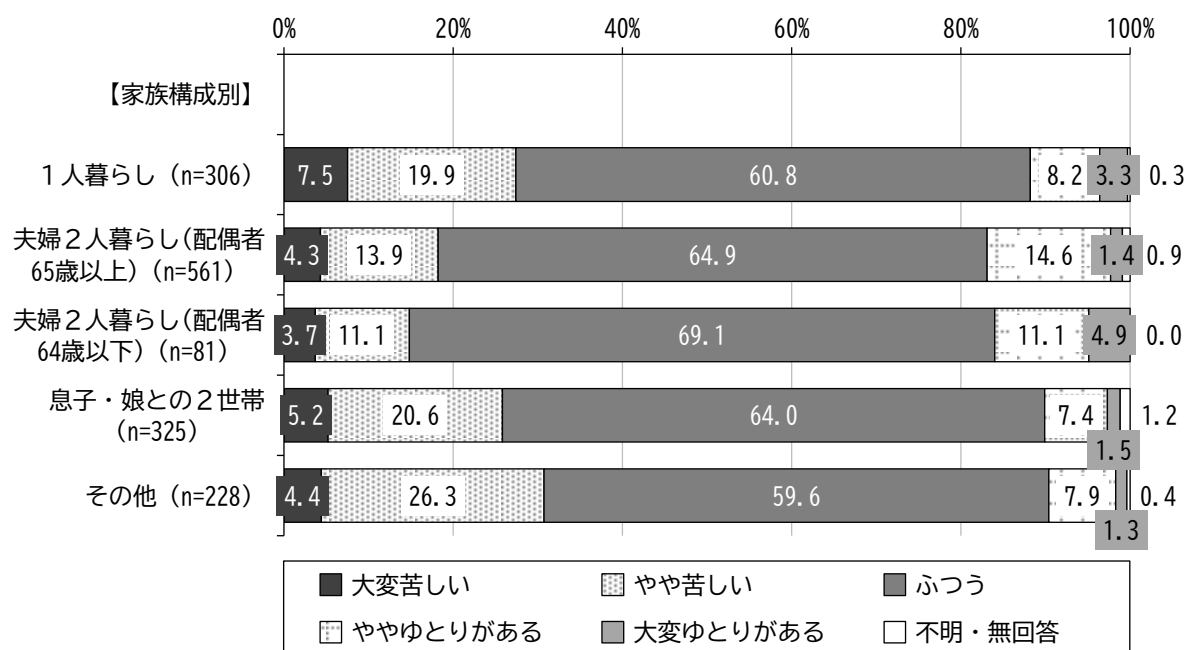
『苦しい』 … 「大変苦しい」と「やや苦しい」の合算

『ゆとりがある』 … 「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」の合算

『苦しい』が23.0%、「ふつう」が62.3%、『ゆとりがある』が12.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



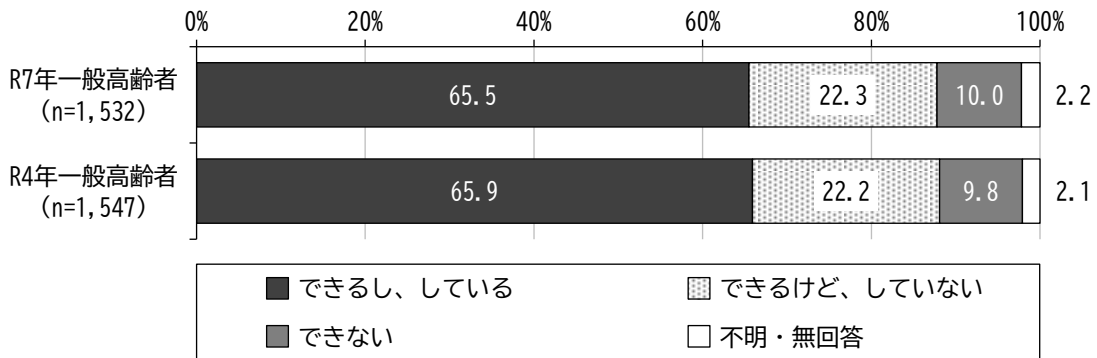
家族構成別でみると、いずれの家族構成も「ふつう」が最も高くなっています。また、『苦しい』では夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上・配偶者64歳以下）で2割未満となっています。



2. からだを動かすことについて

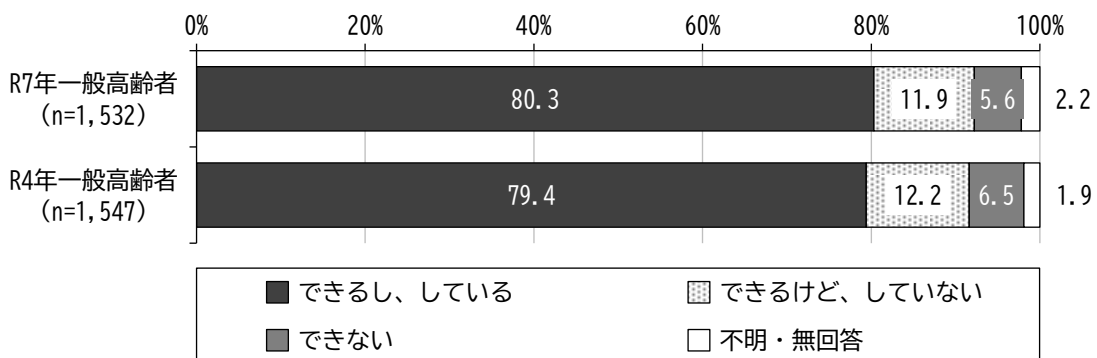
問8 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(単数回答)

「できるし、している」が65.5%と最も高く、次いで「できるけど、していない」が22.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



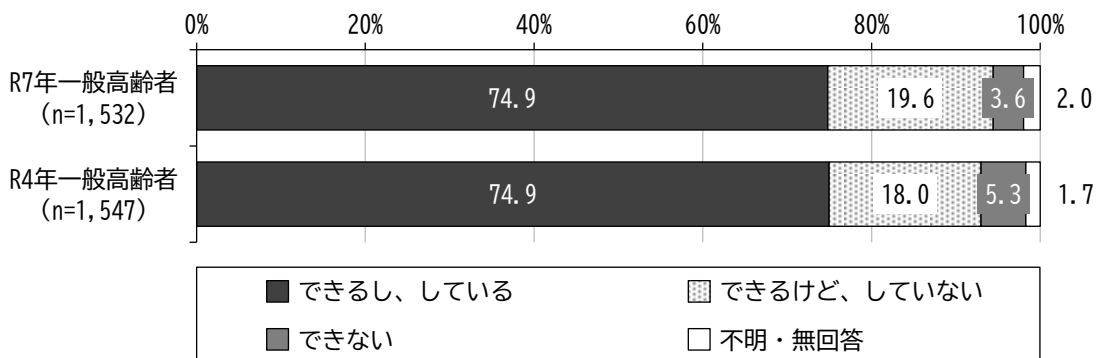
問9 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(単数回答)

「できるし、している」が80.3%と最も高く、次いで「できるけど、していない」が11.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



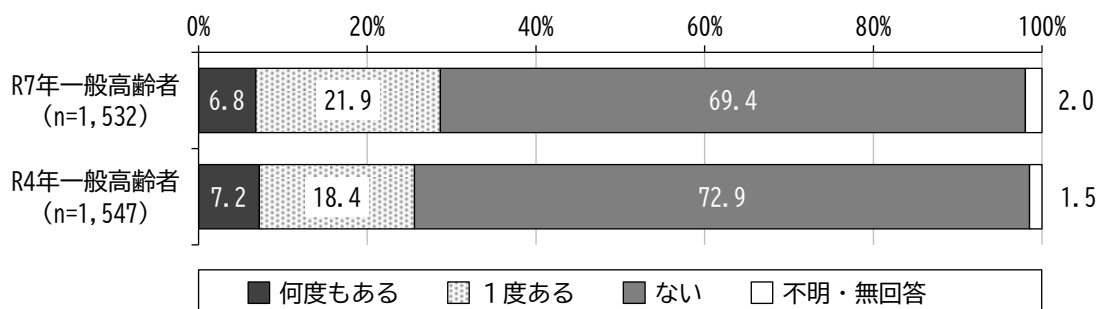
問10 続けて15分位歩いていますか。(単数回答)

「できるし、している」が74.9%と最も高く、次いで「できるけど、していない」が19.6%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問 11 過去1年間に転んだ経験がありますか。(単数回答)

「ない」が69.4%と最も高く、次いで「1度ある」が21.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



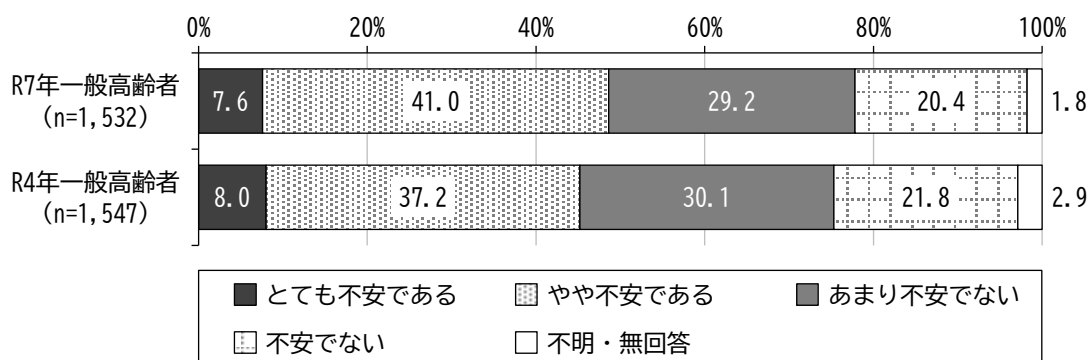
問 12 転倒に対する不安はありますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『不安である』…「とても不安である」と「やや不安である」の合算

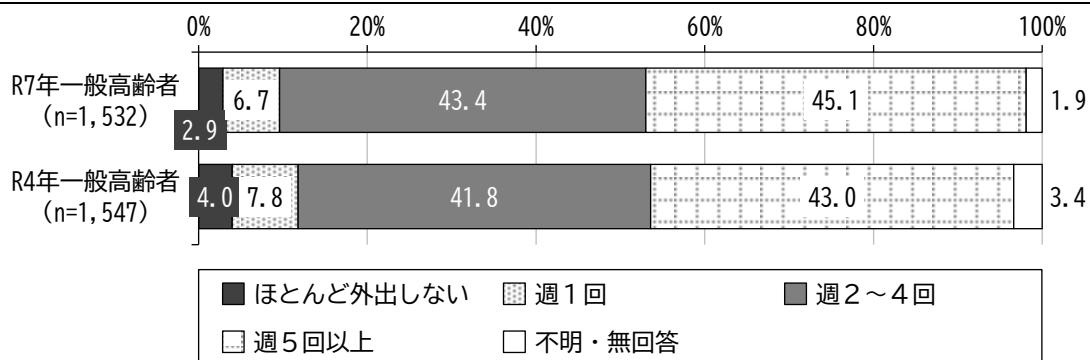
『不安でない』…「あまり不安でない」と「不安でない」の合算

『不安である』が48.6%、『不安でない』が49.6%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

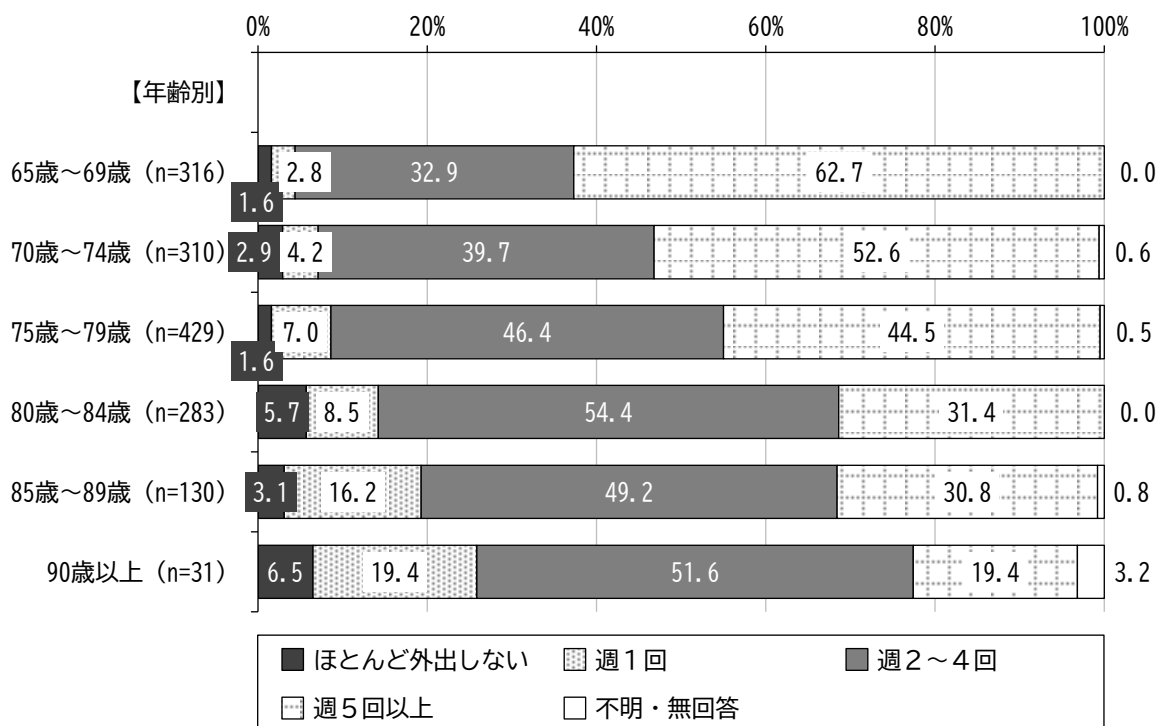


問 13 週にどの程度外出していますか。(単数回答)

「週5回以上」が45.1%と最も高く、次いで「週2～4回」が43.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



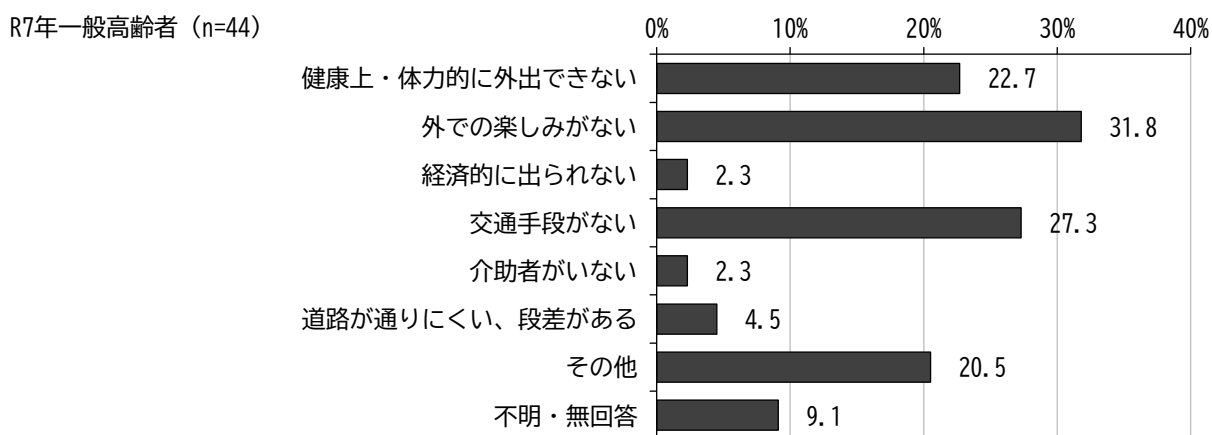
年齢別でみると、65歳～74歳では「週5回以上」、75歳以上では「週2～4回」最も高くなっています。



【問13で「ほとんど外出しない」と回答した方のみ】

問13-1 ほとんど外出をしていない理由は、次のどれですか。(複数回答)

「外での楽しみがない」が31.8%と最も高く、次いで「交通手段がない」が27.3%となっています。



その他回答記載例
親の介助があるため。
買物
先々交通手段がないので、病院行きに不安に思っている。
脊柱管狭窄症で歩けない。
特に外出しようとは思わない。
日常生活が多忙のため。
年末で家出の作業が増えた。

性別でみると、男性では「外での楽しみがない」、女性では「交通手段がない」が最も高くなっています。

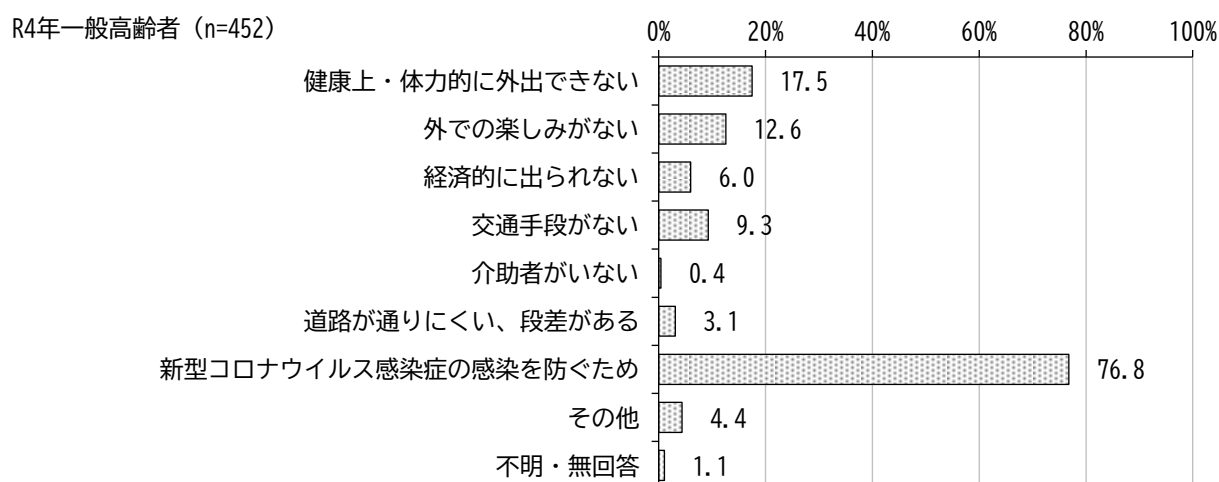
年齢別でみると、80歳～84歳では「健康上・体力的に外出できない」が最も高くなっています。

日常生活圏域別でみると、北部では「健康上・体力的に外出できない」「外での楽しみがない」、南部では「外での楽しみがない」が最も高くなっています。

単位：%		健康上・体力的に外出できない	外での楽しみがない	経済的に出られない	交通手段がない	介助者がいない	道路が通りにくい、段差がある	その他	不明・無回答
性別	男性 (n=19)	15.8	36.8	0.0	10.5	5.3	5.3	36.8	5.3
	女性 (n=25)	28.0	28.0	4.0	40.0	0.0	4.0	8.0	12.0
年齢別	65歳～69歳 (n=5)	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0
	70歳～74歳 (n=9)	0.0	77.8	0.0	55.6	0.0	0.0	0.0	11.1
	75歳～79歳 (n=7)	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0
	80歳～84歳 (n=16)	31.3	12.5	0.0	18.8	0.0	6.3	18.8	12.5
	85歳～89歳 (n=4)	25.0	25.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	90歳以上 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
日常生活圏域別	北部 (n=21)	28.6	28.6	0.0	23.8	0.0	0.0	19.0	14.3
	南部 (n=23)	17.4	34.8	4.3	30.4	4.3	8.7	21.7	4.3

□参考値：【設問「外出を控えていますか」で「はい」と回答した方のみ】

設問 外出を控えている理由は、次のどれですか。(複数回答)



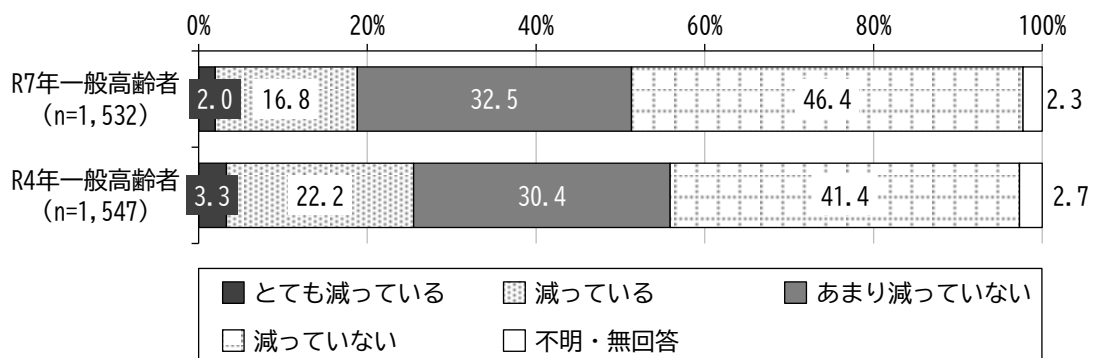
問 14 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『減っている』…「とても減っている」と「減っている」の合算

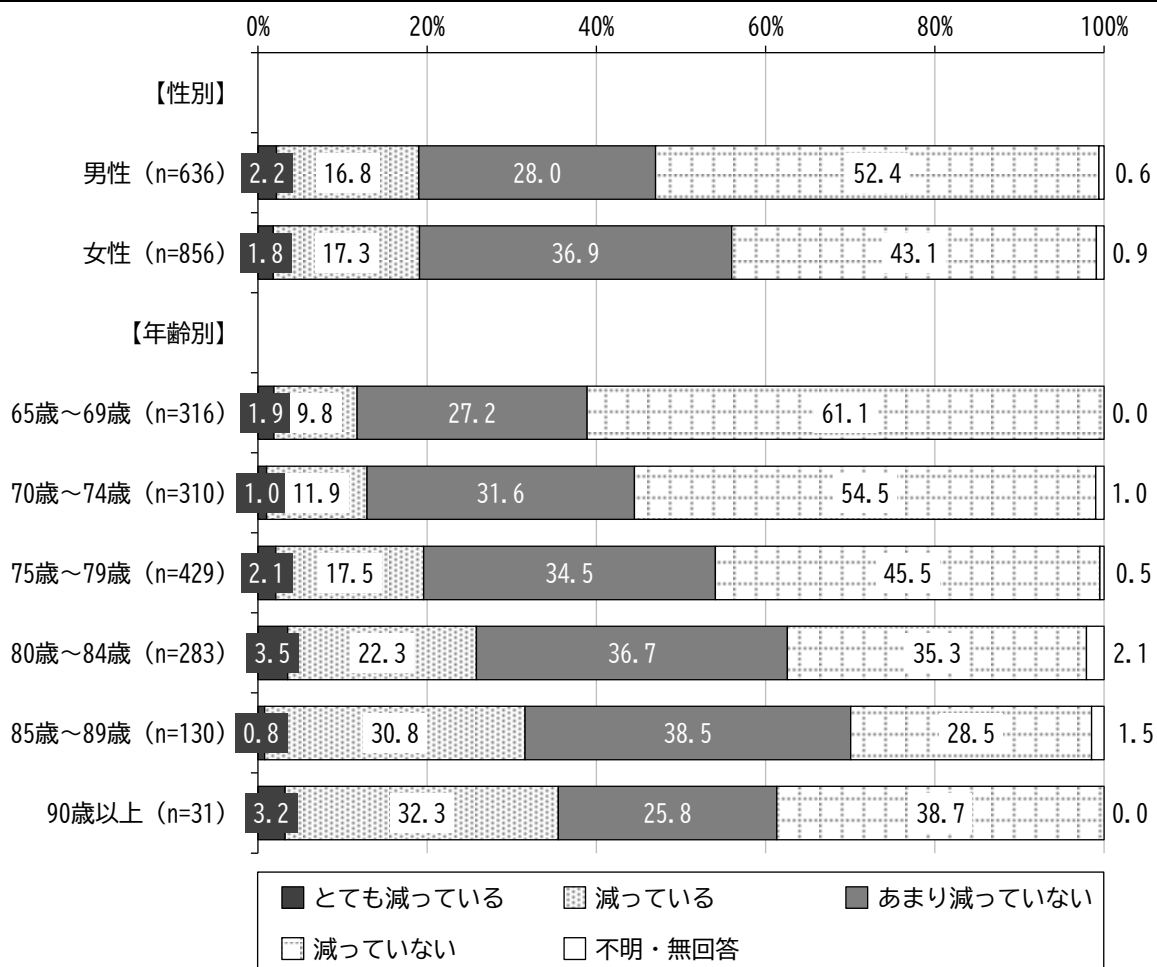
『減っていない』…「あまり減っていない」と「減っていない」の合算

『減っている』が18.8%、『減っていない』が78.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、『減っていない』が7.1ポイント高く、『減っている』が6.7ポイント低くなっています。



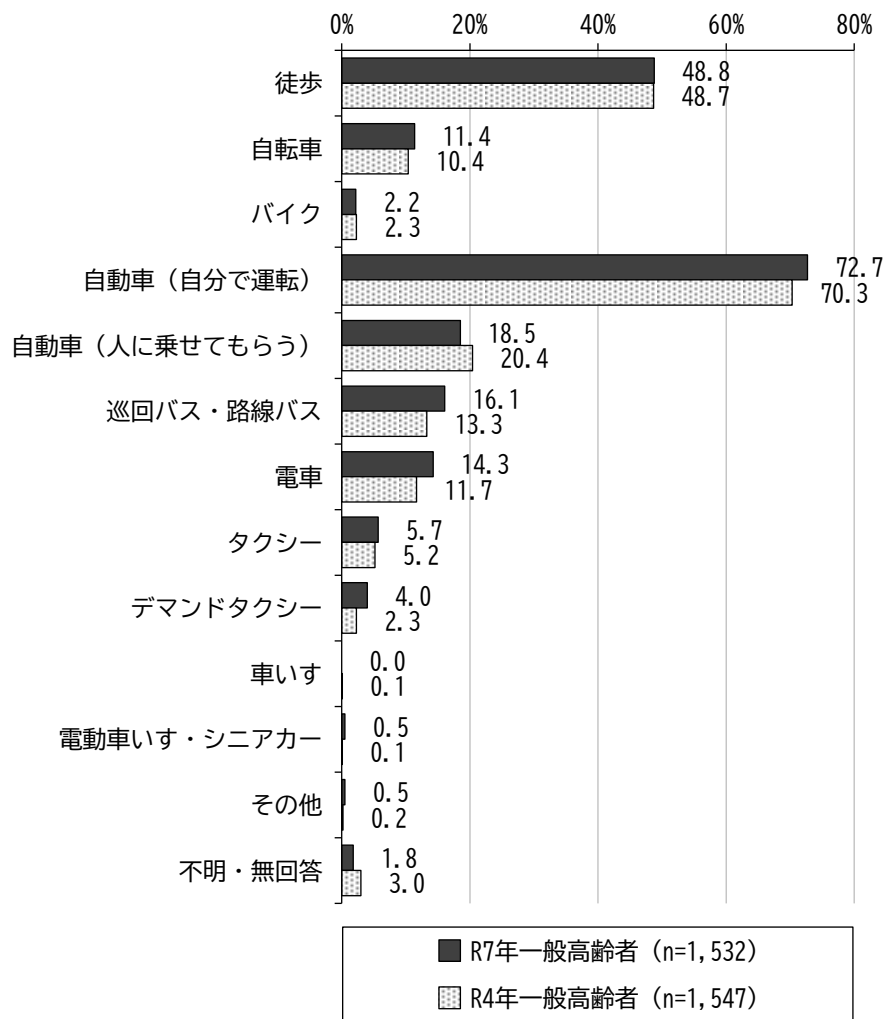
性別でみると、男女ともに「減っていない」が最も高くなっています。

年齢別でみると、80歳～89歳では「あまり減っていない」、その他の年齢では「減っていない」が最も高くなっています。また、年齢が上がるにつれて『減っている』が高くなっています。



問 15 外出する際の移動手段は何ですか。(複数回答)

「自動車（自分で運転）」が72.7%と最も高く、次いで「徒歩」が48.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



その他回答記載例
スクーター
地下鉄
知人の車。
娘

性別でみると、男女ともに「自動車（自分で運転）」が最も高くなっています。

年齢別でみると、65歳～84歳では「自動車（自分で運転）」、85歳以上では「徒歩」が最も高くなっています。

日常生活圏域別でみると、北部・南部ともに「自動車（自分で運転）」が最も高くなっています。

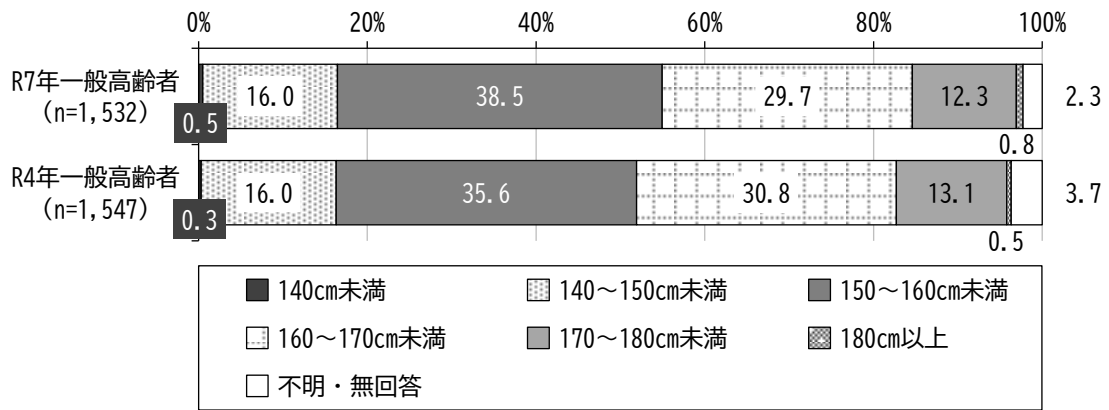
単位：%		徒歩	自転車	バイク	軽自動車（自分で運	自動車（人に乗せて	巡回バス・路線バス	電車	タクシー	デマンドタクシー	車いす	電動自転車・シニア	その他	不明・無回答
性別	男性 (n=636)	50.9	13.7	3.3	86.9	8.3	12.6	16.0	4.6	1.7	0.0	0.3	0.5	0.2
	女性 (n=856)	48.7	9.7	1.3	64.0	26.9	19.4	13.7	6.8	6.0	0.0	0.6	0.6	0.4
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	48.7	11.1	3.8	89.9	11.7	15.5	17.4	3.2	0.3	0.0	0.0	0.6	0.0
	70歳～74歳 (n=310)	45.2	13.5	1.3	83.2	15.5	11.6	15.2	2.3	1.3	0.0	0.0	0.3	0.3
	75歳～79歳 (n=429)	51.7	10.3	3.3	77.2	17.2	17.0	14.2	6.5	3.3	0.0	0.0	0.9	0.2
	80歳～84歳 (n=283)	49.5	10.6	0.4	60.4	24.4	19.1	11.0	8.5	8.1	0.0	0.0	0.4	0.7
	85歳～89歳 (n=130)	56.2	13.8	0.8	39.2	31.5	22.3	16.9	11.5	13.8	0.0	3.8	0.0	0.0
	90歳以上 (n=31)	41.9	9.7	3.2	38.7	38.7	16.1	6.5	9.7	6.5	0.0	6.5	0.0	0.0
日常生活圏域別	北部 (n=822)	50.7	9.1	2.4	73.2	19.2	19.8	18.2	6.1	3.8	0.0	0.4	0.0	0.5
	南部 (n=676)	48.4	14.5	1.8	74.7	18.3	12.1	9.9	5.3	4.6	0.0	0.6	1.2	0.0

3. 食べることについて

問16 身長・体重をご記入ください。(数量回答)

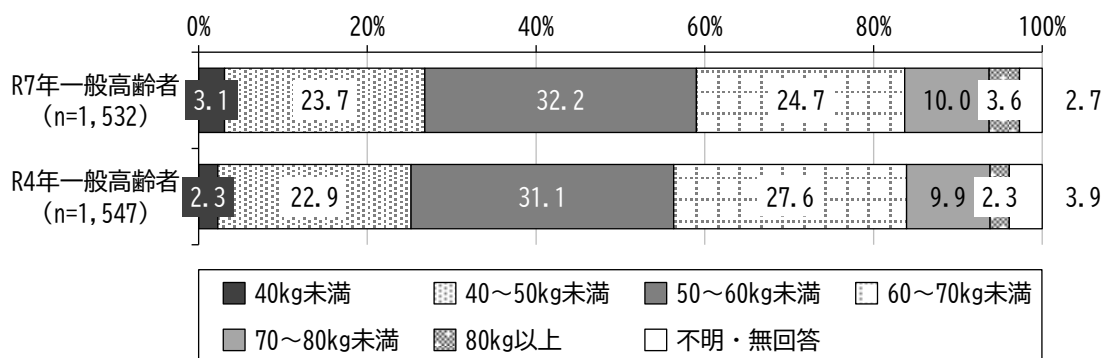
①身長

「150～160cm未満」が38.5%と最も高く、次いで「160～170cm未満」が29.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



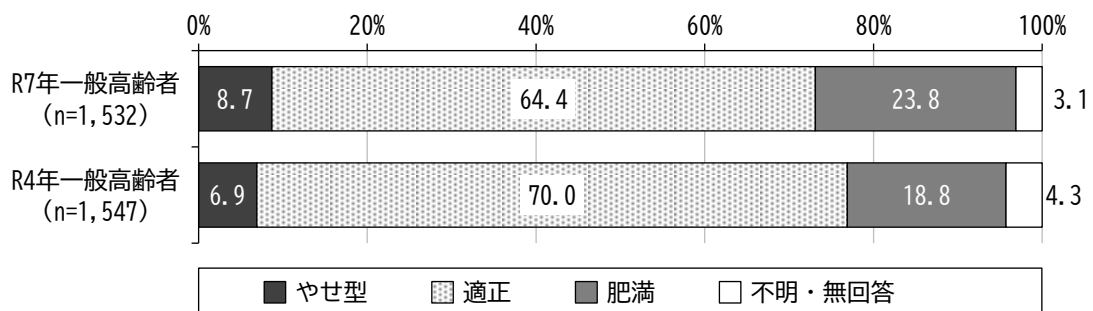
②体重

「50～60kg未満」が32.2%と最も高く、次いで「60～70kg未満」が24.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

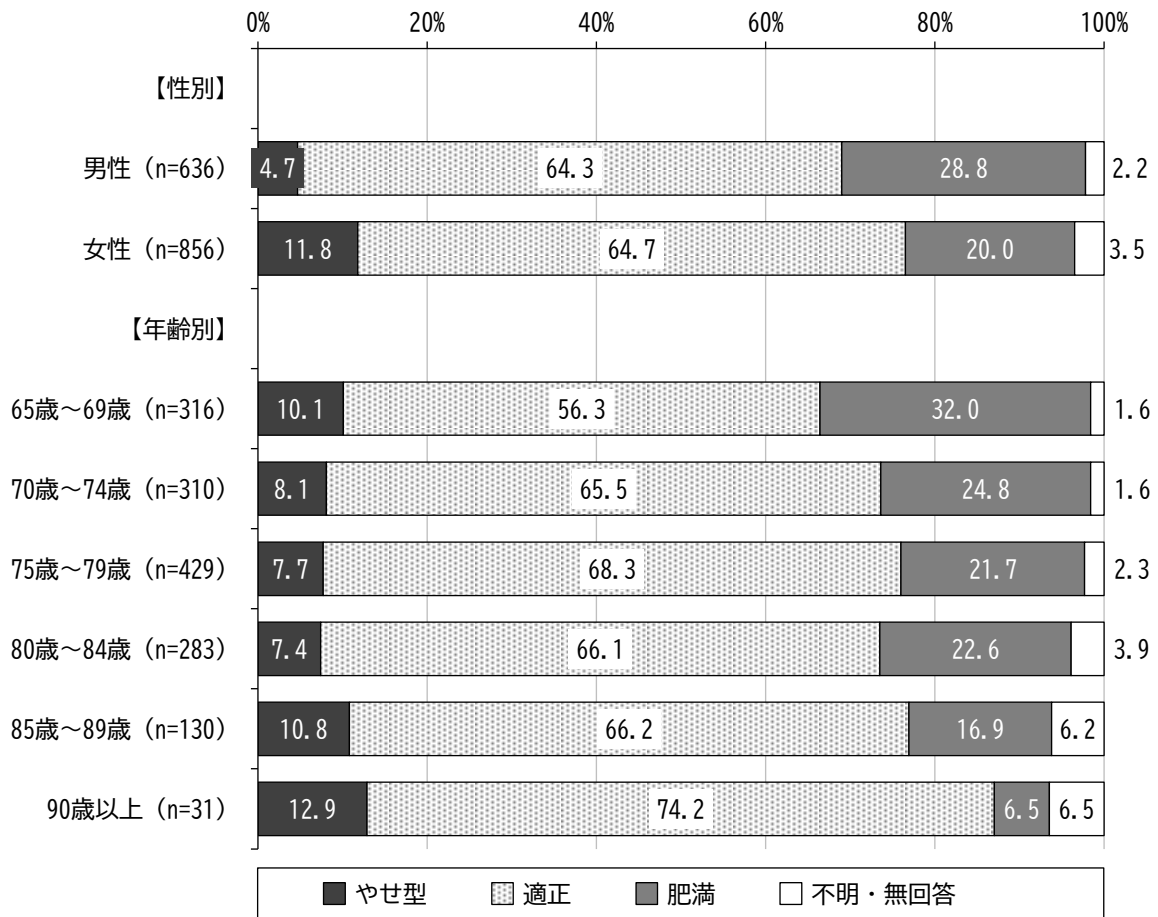


■BMI値 (3区分)

「適正」が64.4%と最も高く、次いで「肥満」が23.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「肥満」が5.0ポイント高く、「適正」が5.6ポイント低くなっています。

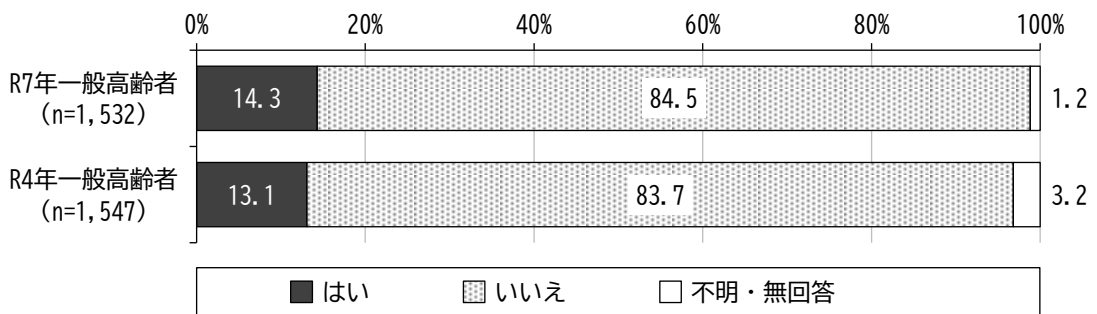


性別でみると、男女ともに「適正」が最も高くなっています。
 年齢別でみると、いずれの年齢も「適正」が最も高くなっています。



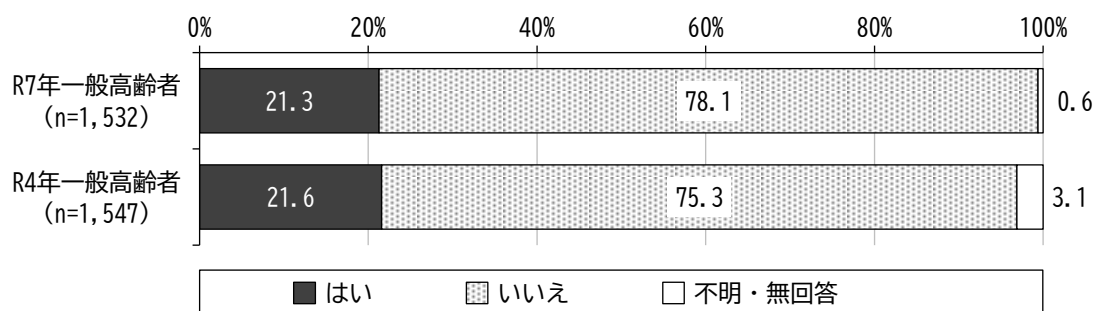
問 17 この半年間で、2～3 kg以上の体重減少がありましたか。(単数回答)

「はい」が14.3%、「いいえ」が84.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



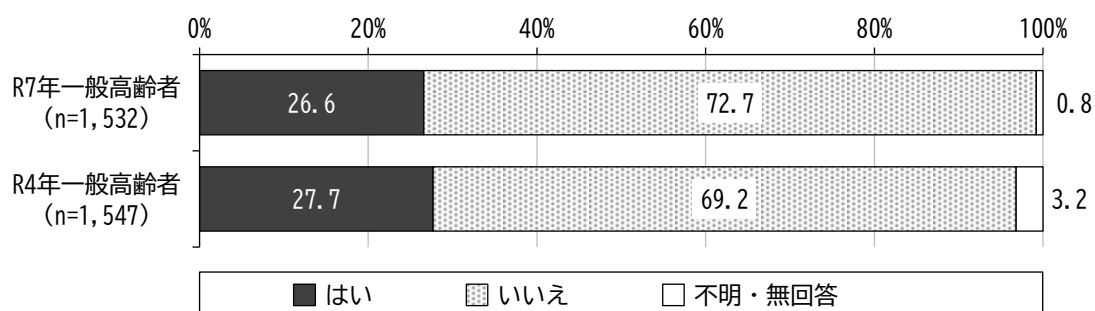
問 18 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(単数回答)

「はい」が21.3%、「いいえ」が78.1%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



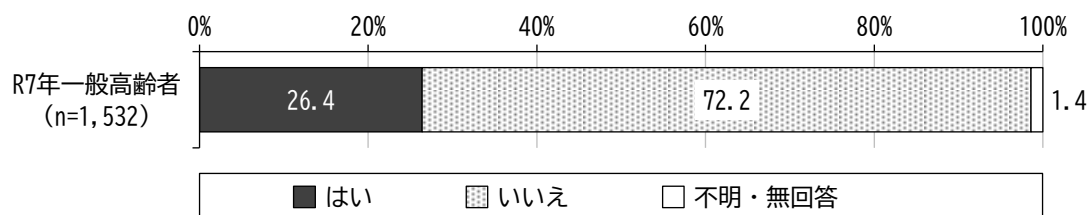
問 19 この半年間で、お茶や汁物等でむせることがありましたか。(単数回答)

「はい」が26.6%、「いいえ」が72.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



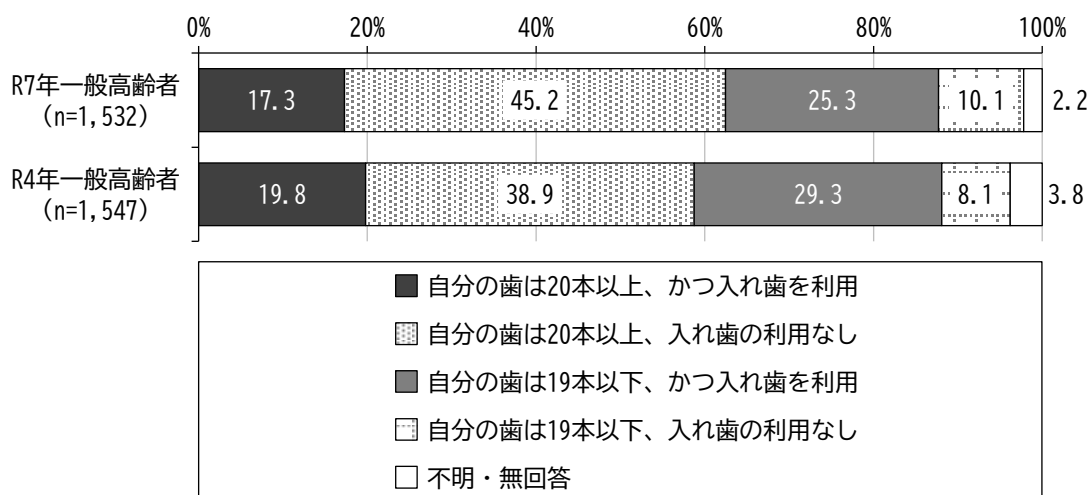
問 20 口の湯きが気になりますか。(単数回答)

「はい」が26.4%、「いいえ」が72.2%となっています。



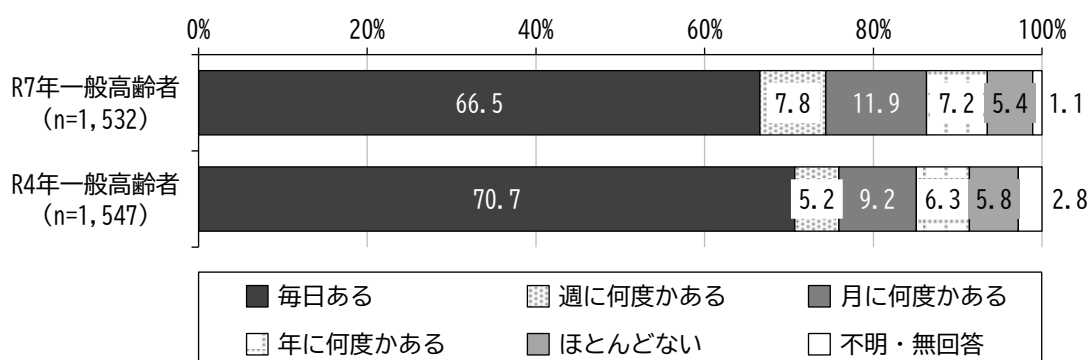
問 21 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(単数回答)

「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 45.2%と最も高く、次いで「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 25.3%となっています。なお、令和 4 年度調査と比較すると、「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が 6.3 ポイント高くなっています。



問 22 どなたか（家族を含む）と食事をともにする機会がありますか。(単数回答)

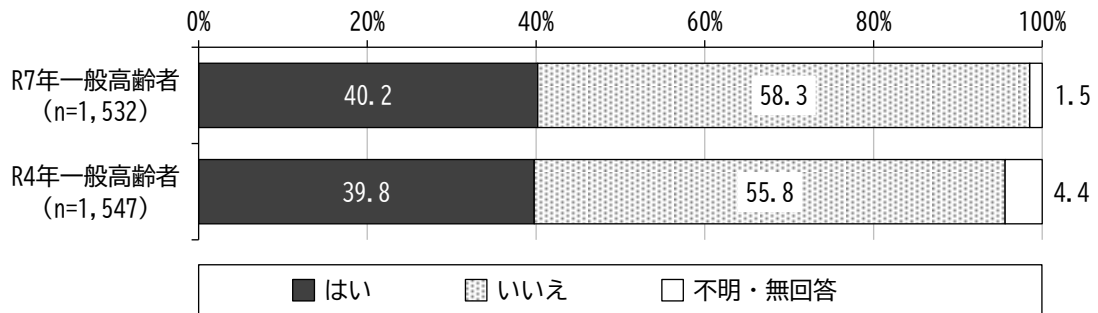
「毎日ある」が 66.5%と最も高く、次いで「月に何度かある」が 11.9%となっています。なお、令和 4 年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



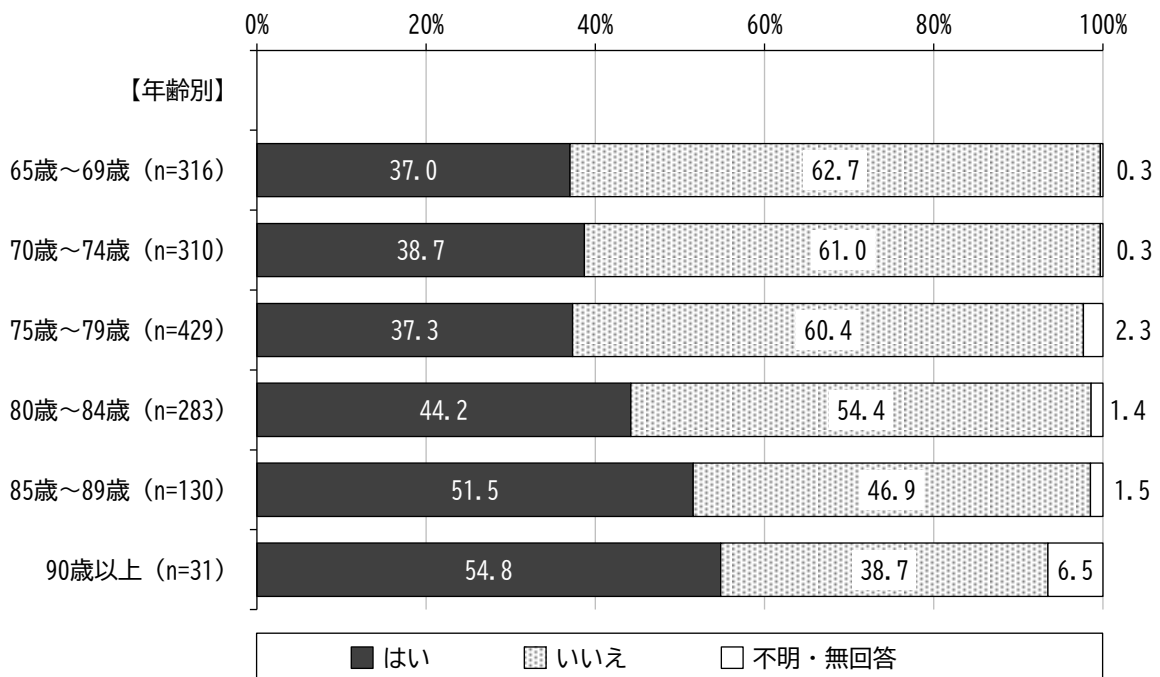
4. 毎日の生活について

問 23 物忘れが多いと感じますか。(単数回答)

「はい」が40.2%、「いいえ」が58.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

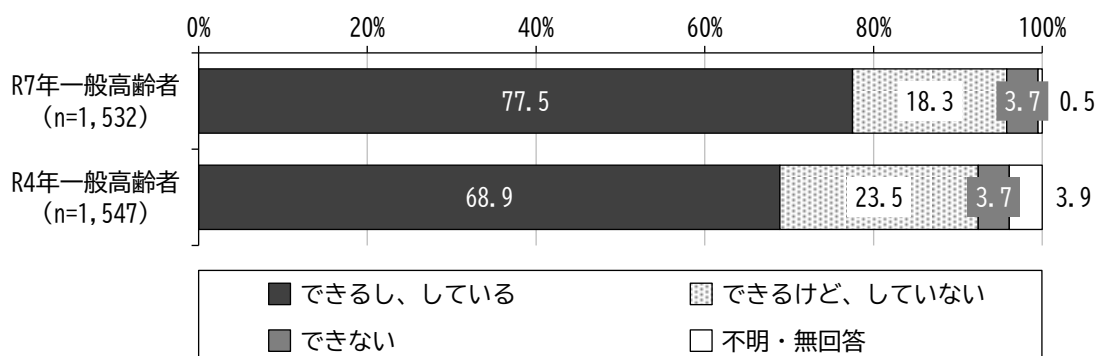


年齢別でみると、65歳～84歳では「いいえ」、85歳以上では「はい」が高くなっています。

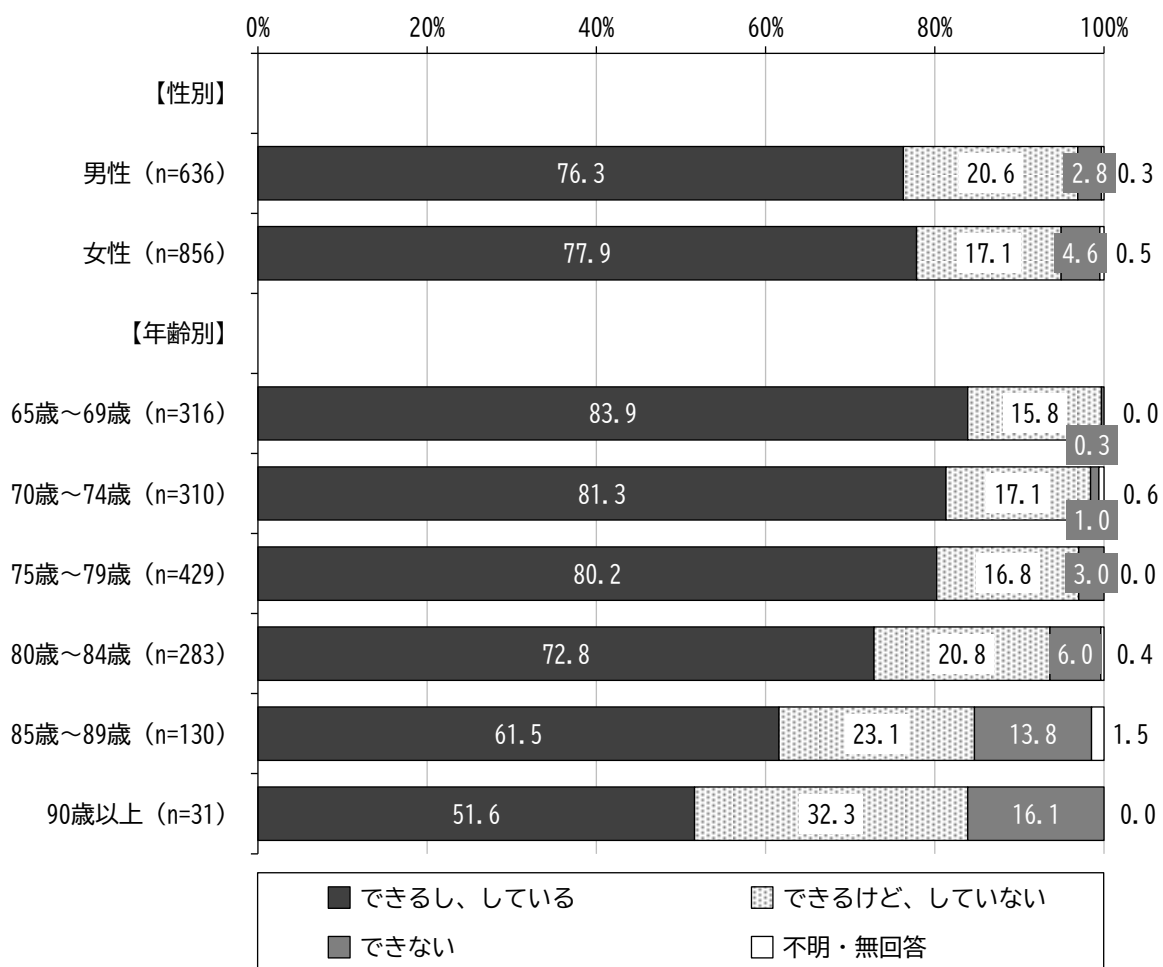


問 24 バスや電車等（自家用車を含む）を使って1人で外出していますか。（単数回答）

「できるし、している」が77.5%と最も高く、次いで「できるけど、していない」が18.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」が8.6ポイント高く、「できるけど、していない」が5.2ポイント低くなっています。

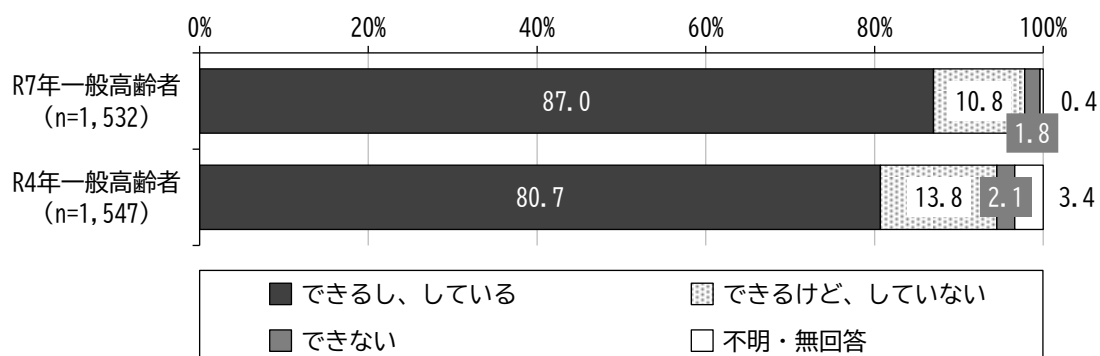


性別で見ると、男女ともに「できるし、している」が最も高くなっています。
 年齢別で見ると、いずれの年齢も「できるし、している」が最も高くなっています。



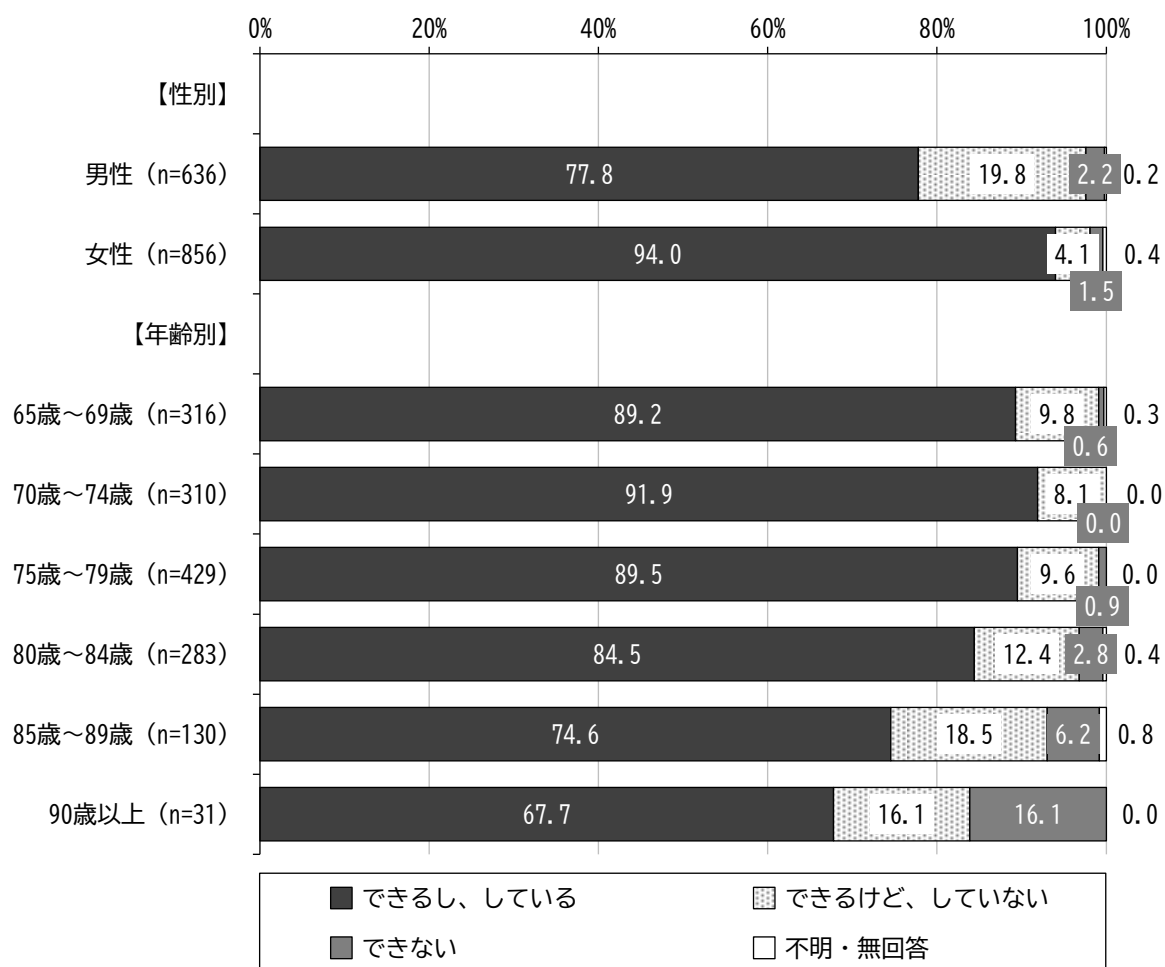
問 25 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(単数回答)

「できるし、している」が87.0%と最も高く、次いで「できるけど、していない」が10.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」が6.3ポイント高くなっています。



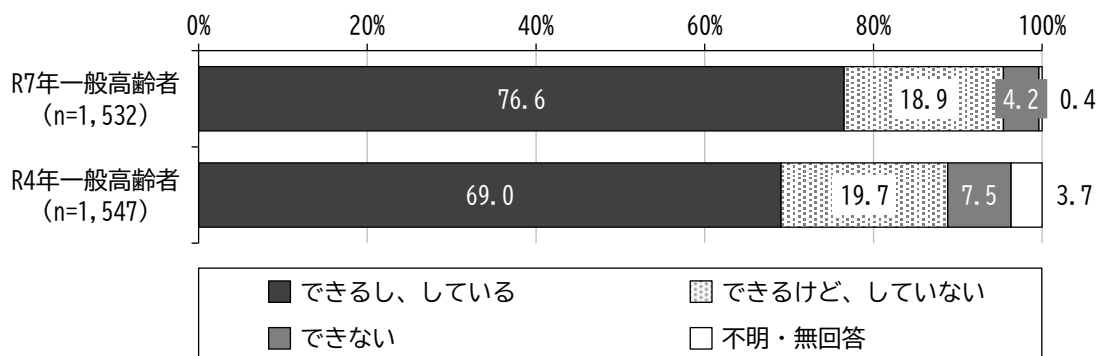
性別で見ると、男女ともに「できるし、している」が最も高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年齢も「できるし、している」が最も高くなっています。

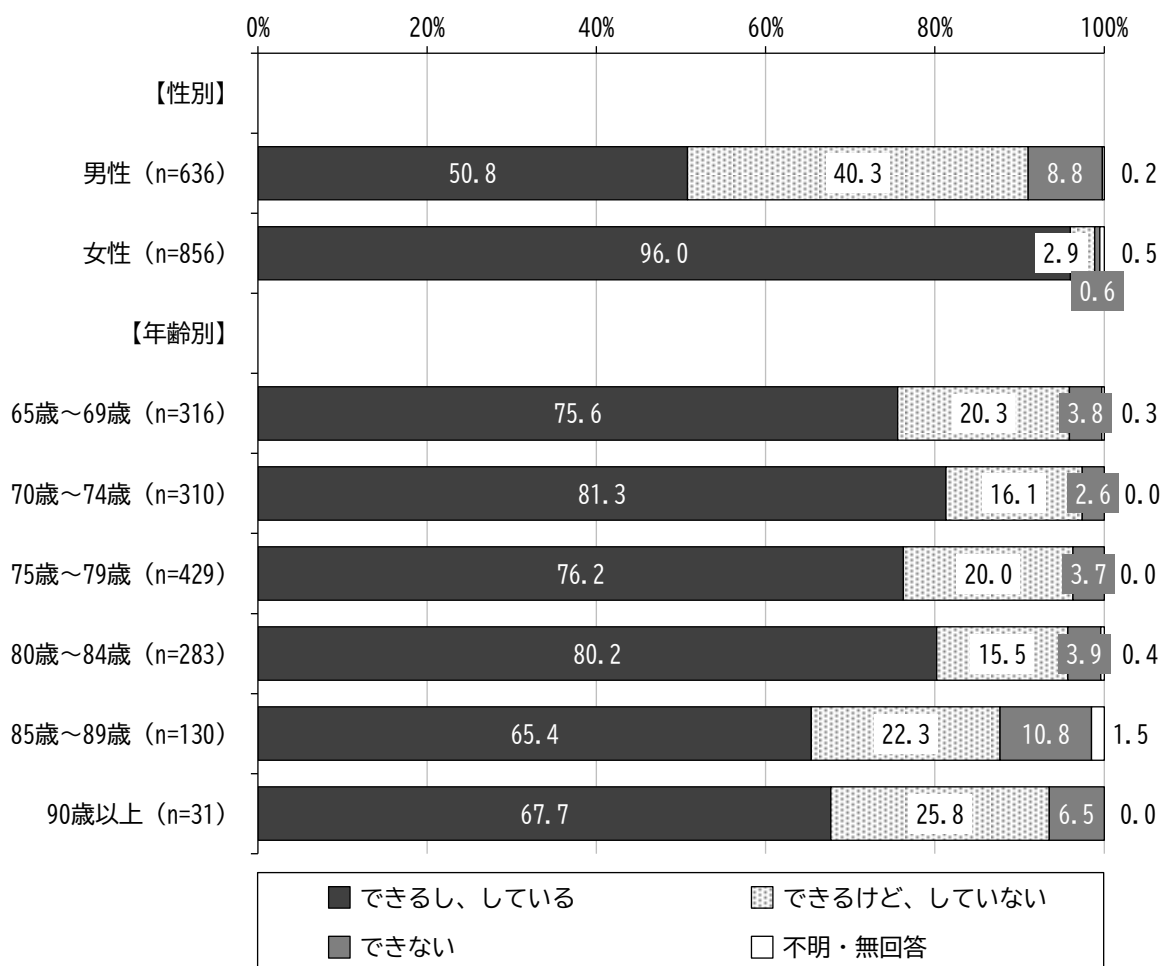


問 26 自分で食事の用意をしていますか。(単数回答)

「できるし、している」が76.6%と最も高く、次いで「できるけど、していない」が18.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」が7.6ポイント高くなっています。

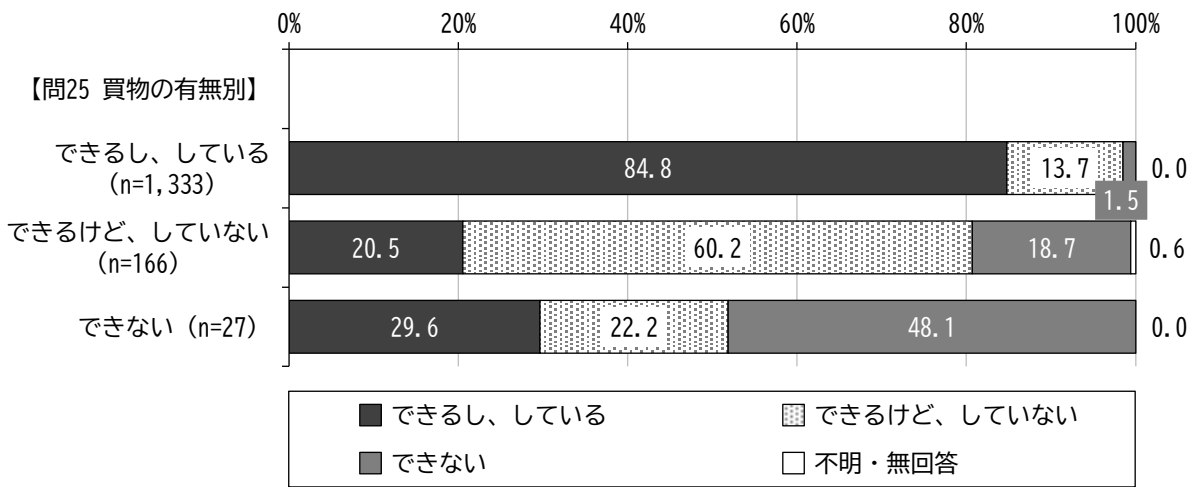


性別でみると、男女ともに「できるし、している」が最も高くなっています。
年齢別でみると、いずれの年齢も「できるし、している」が最も高くなっています。



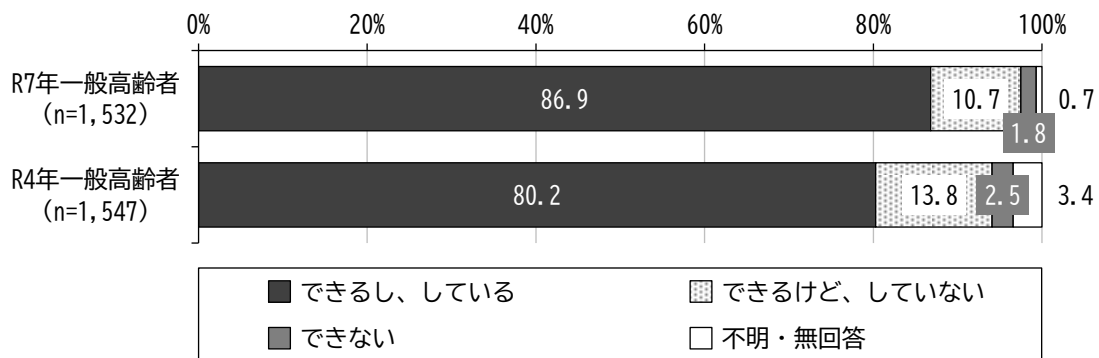
■問 26（食事の用意）×問 25（買物の有無別）

買物の有無別でみると、買物が自分で「できるし、している」では、食事の用意も「できるし、している」、買物が自分で「できるけど、していない」では、食事の用意も「できるけど、していない」、買物が自分で「できない」では、食事の用意も「できない」が最も高くなっています。

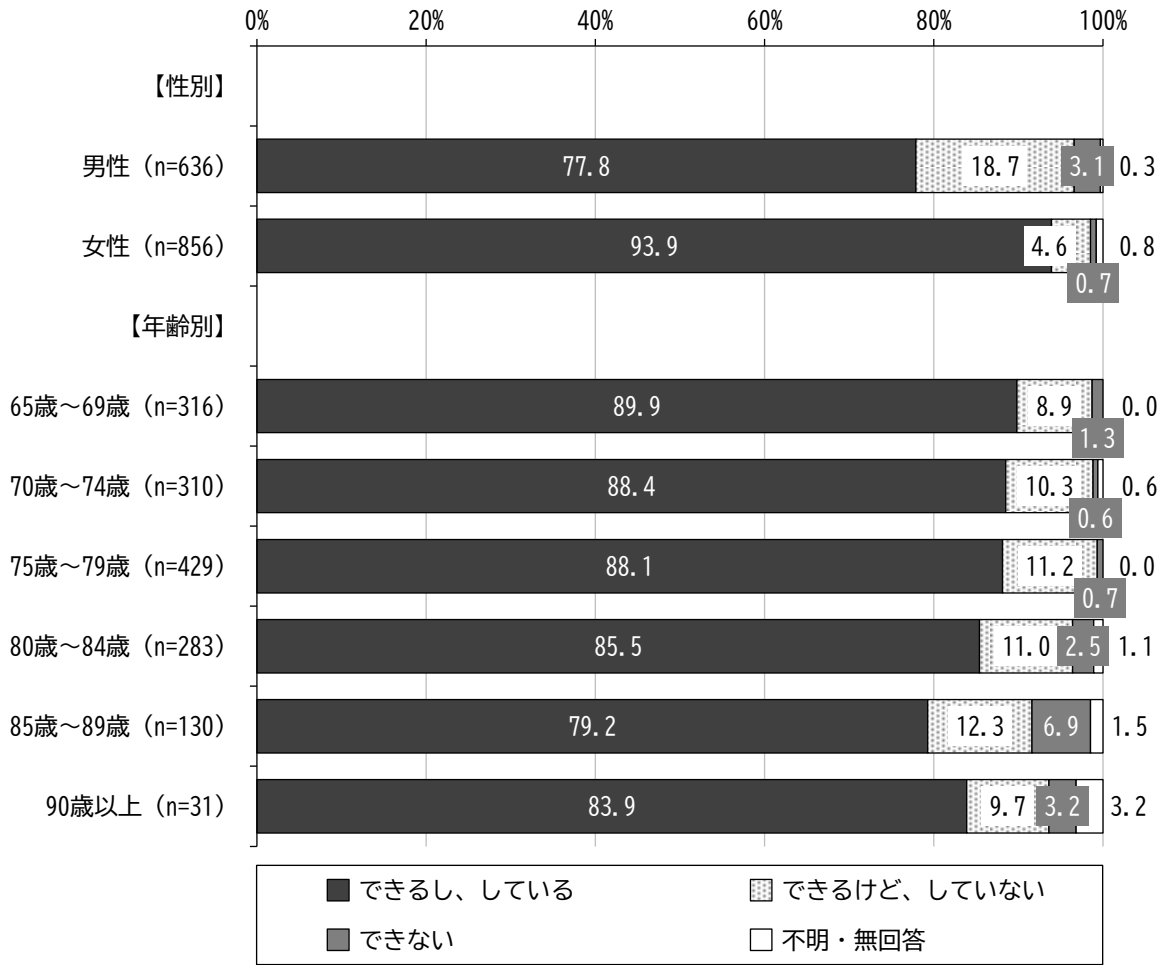


問 27 自分で請求書の支払いをしていますか。（単数回答）

「できるし、している」が86.9%と最も高く、次いで「できるけど、していない」が10.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「できるし、している」が6.7ポイント高くなっています。

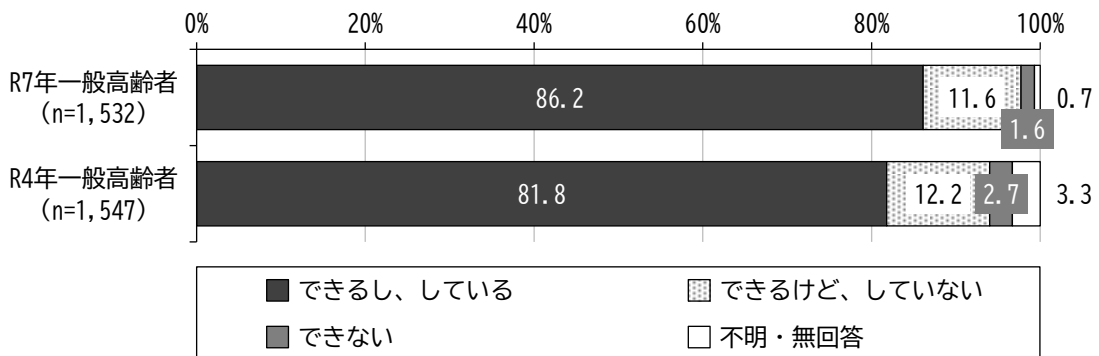


性別で見ると、男女ともに「できるし、している」が最も高くなっています。
 年齢別で見ると、いずれの年齢も「できるし、している」が最も高くなっています。



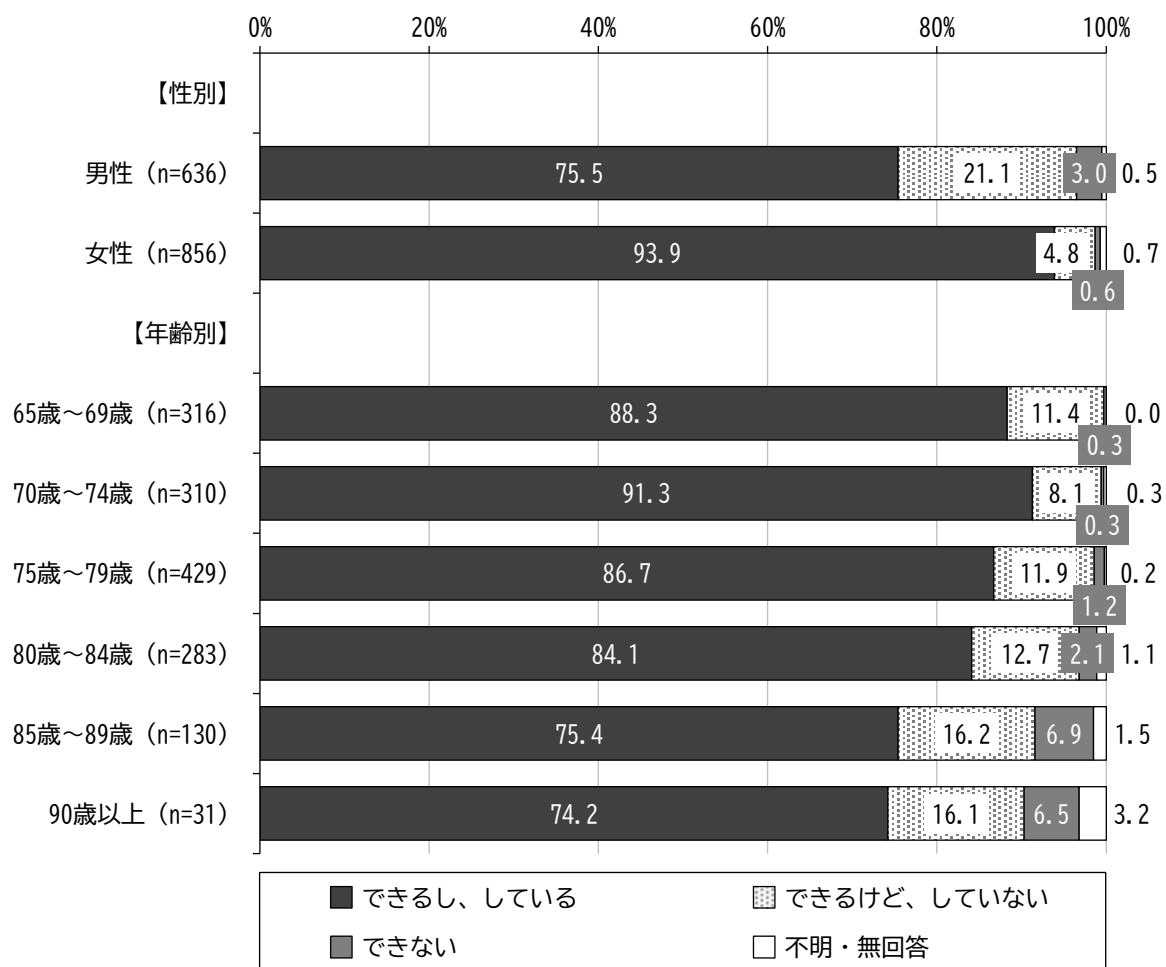
問 28 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(単数回答)

「できるし、している」が86.2%と最も高く、次いで「できるけど、していない」が11.6%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別で見ると、男女ともに「できるし、している」が最も高くなっています。

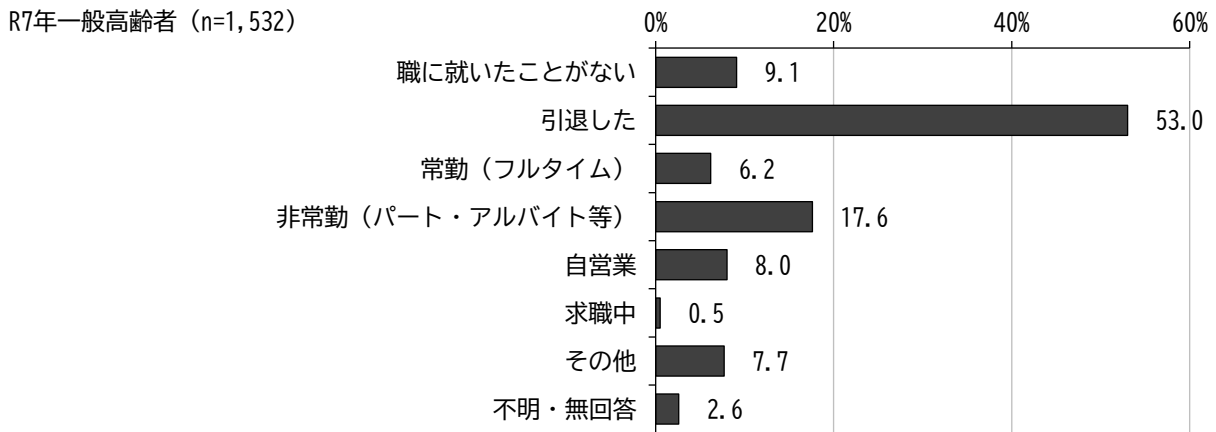
年齢別で見ると、いずれの年齢も「できるし、している」が最も高くなっています。



5. 就労について

問 29 現在のあなたの就労状態はどれですか。(複数回答)

「引退した」が53.0%と最も高く、次いで「非常勤(パート・アルバイト等)」が17.6%となっています。



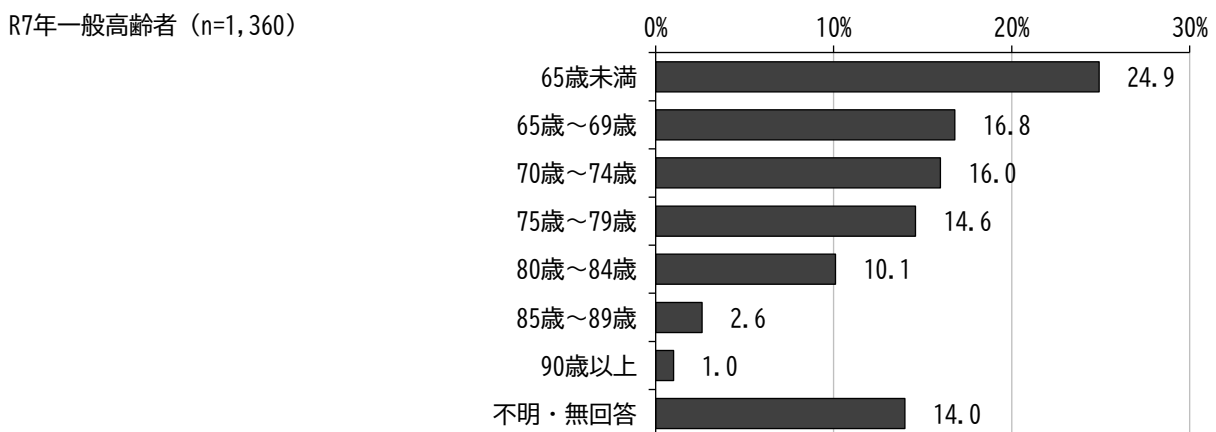
その他回答記載例
介護が必要な者がいるので(20年以上)仕事に行けていない。
結婚後は職に就いていない。
シルバー人材センター
農業
ボランティア

【問 29 で「引退した」～「その他」と回答した方のみ】

問 29-1 あなたは何歳まで働きたいとお考えですか。(数量回答)

※「引退した」と回答した方は何歳まで就労していたか。

「65歳未満」が24.9%と最も高く、次いで「65歳～69歳」が16.8%となっています。



6. 地域での活動について

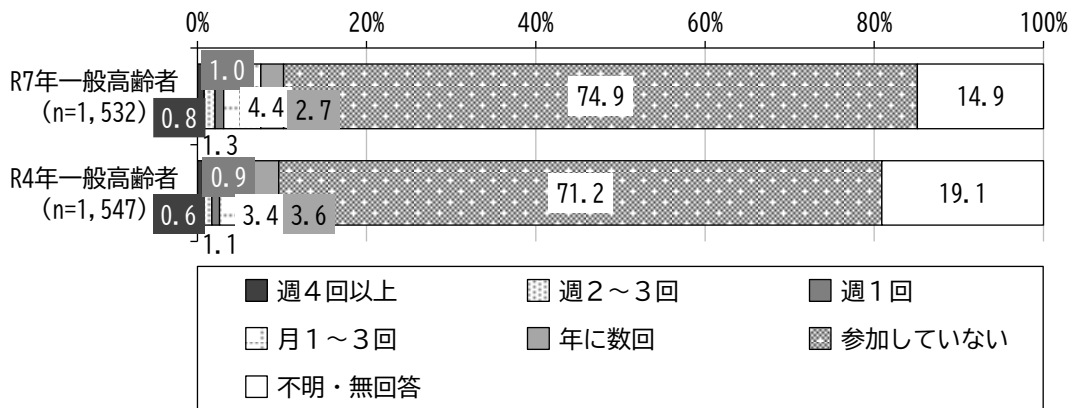
問 30 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『参加している』…「週4回以上」「週2～3回」「週1回」「月1～3回」「年に数回」の合算

①ボランティアのグループ（NPOを含む）（単数回答）

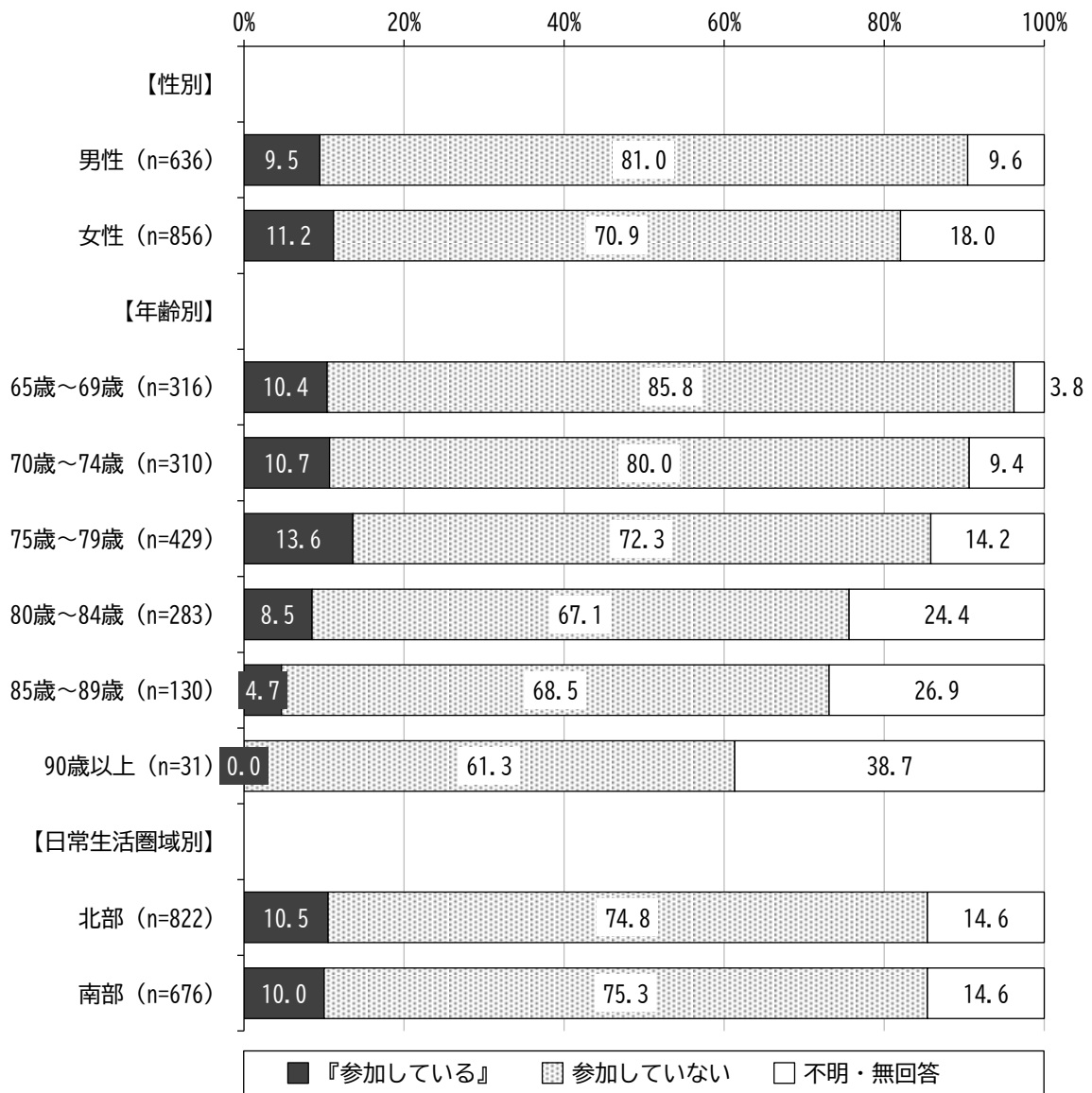
「参加していない」が74.9%と最も高く、次いで「月1～3回」が4.4%となっており、年に数回以上『参加している』は10.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別でみると、『参加している』は男性で9.5%、女性で11.2%となっています。

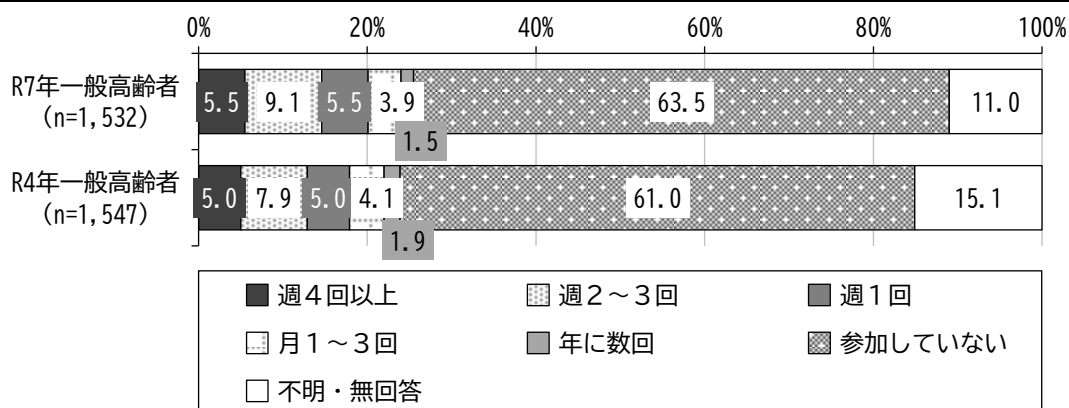
年齢別でみると、『参加している』は65歳～79歳で1割台となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で10.5%、南部で10.0%となっています。



②スポーツ関係のグループやクラブ（単数回答）

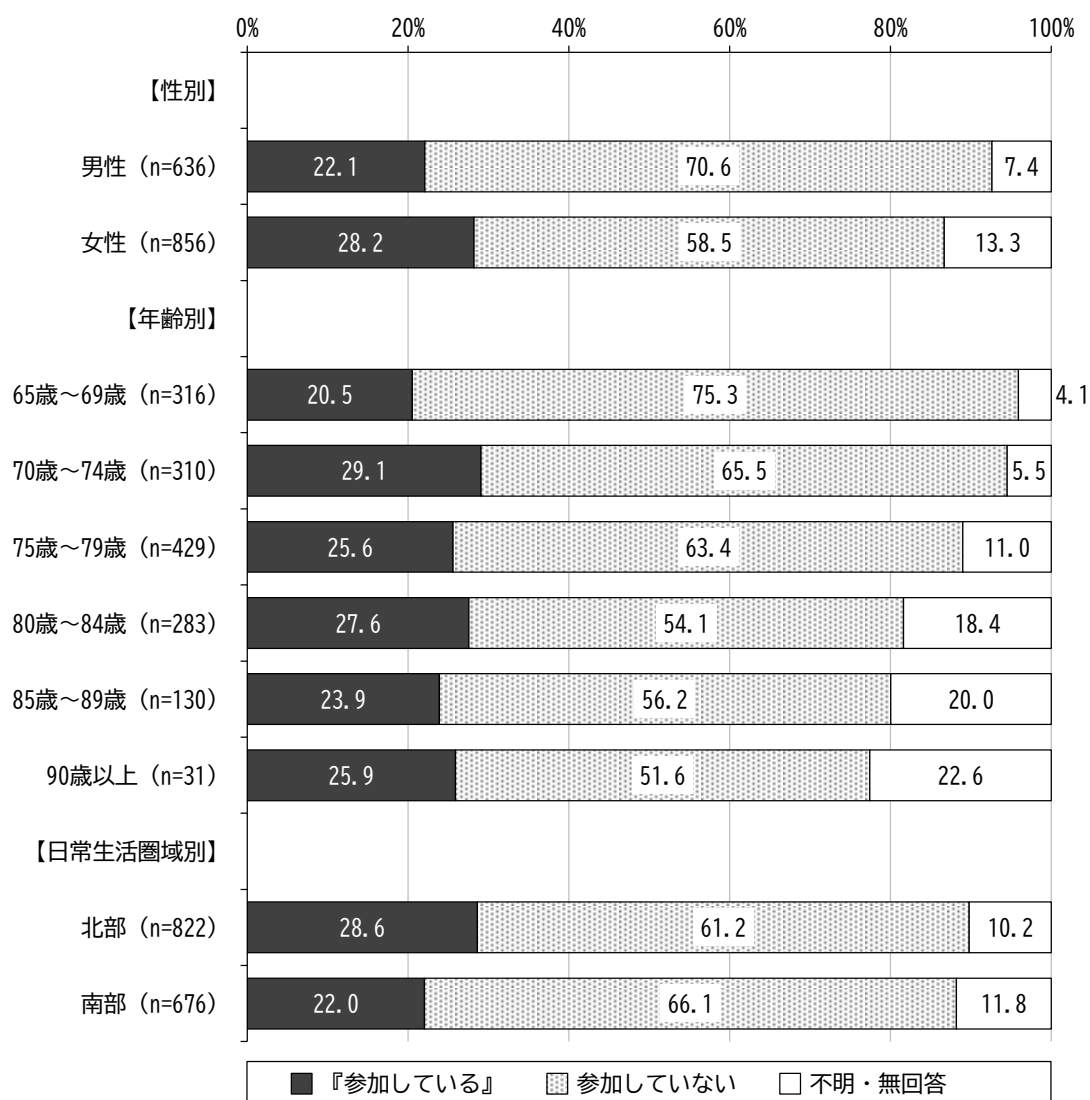
「参加していない」が63.5%と最も高く、次いで「週2～3回」が9.1%となっており、年に数回以上『参加している』は25.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別でみると、『参加している』は男性で22.1%、女性で28.2%となっています。

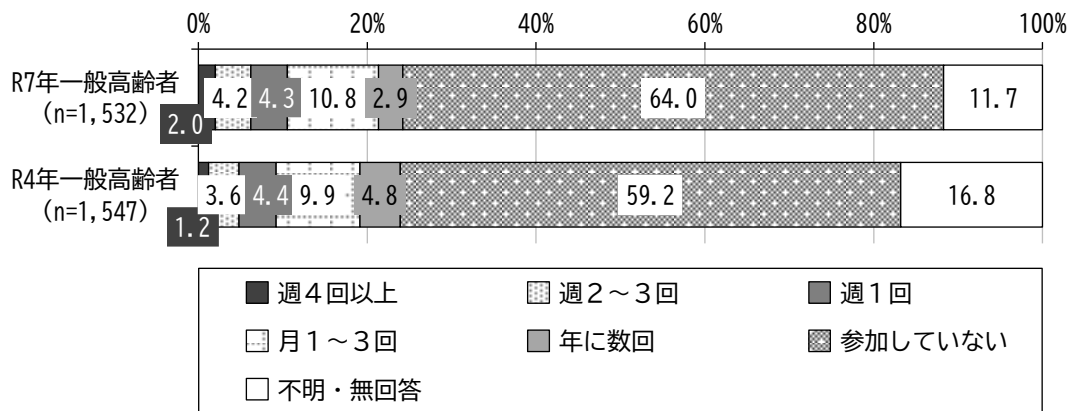
年齢別でみると、いずれの年齢も『参加している』が2割台となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で28.6%、南部で22.0%となっています。

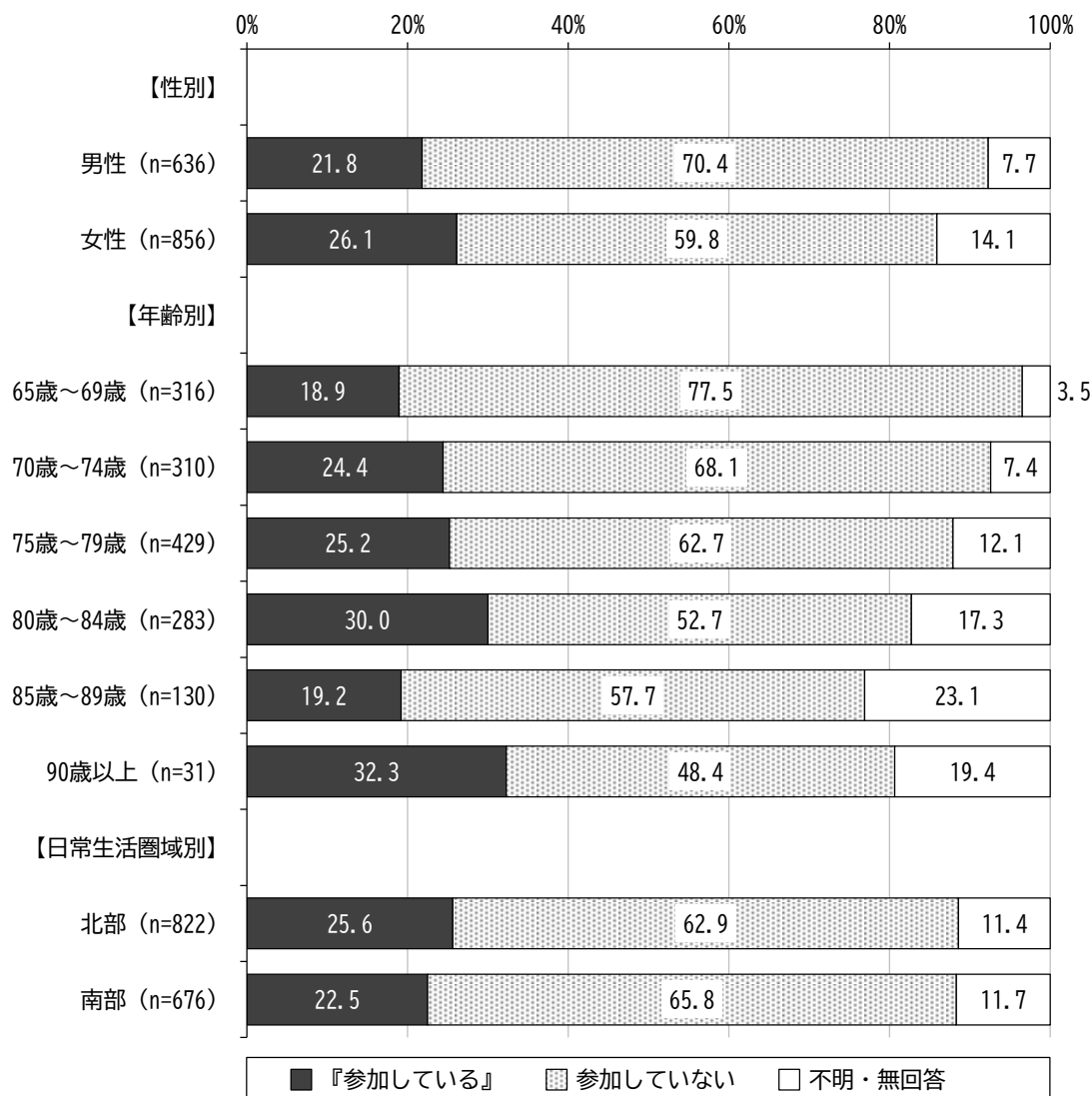


③趣味関係のグループ（単数回答）

「参加していない」が64.0%と最も高く、次いで「月1～3回」が10.8%となっており、年に数回以上『参加している』は24.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

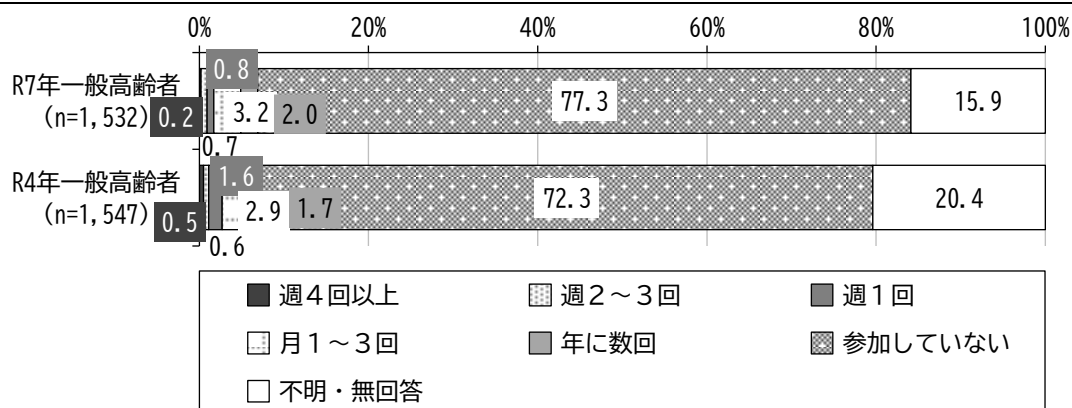


性別でみると、『参加している』は男性で21.8%、女性で26.1%となっています。
 年齢別でみると、『参加している』は80歳～84歳・90歳以上で3割台となっています。
 日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で25.6%、南部で22.5%となっています。

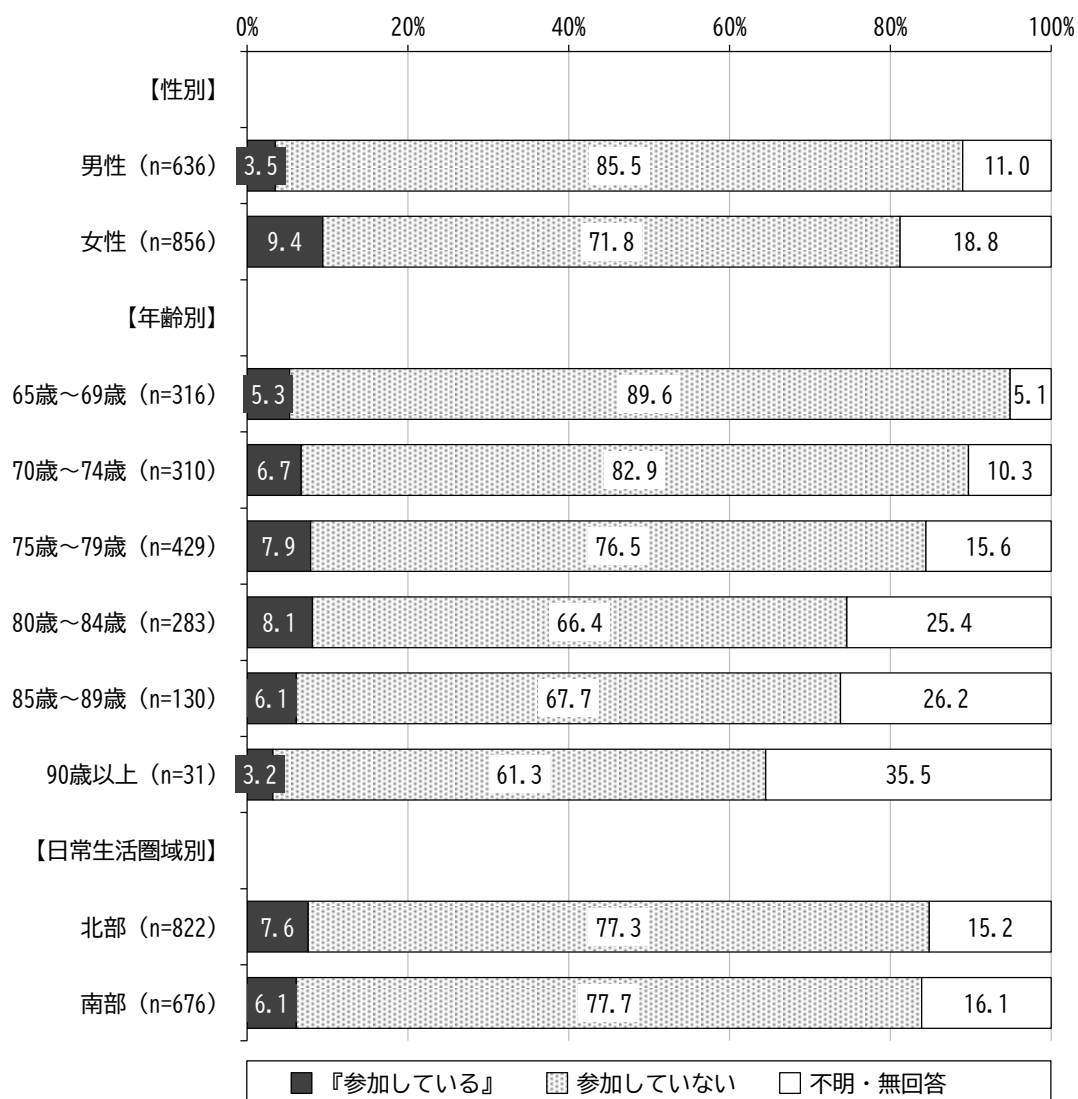


④学習・教養サークル（単数回答）

「参加していない」が77.3%と最も高く、次いで「月1～3回」が3.2%となっており、年に数回以上『参加している』は6.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「参加していない」が5.0ポイント高くなっています。

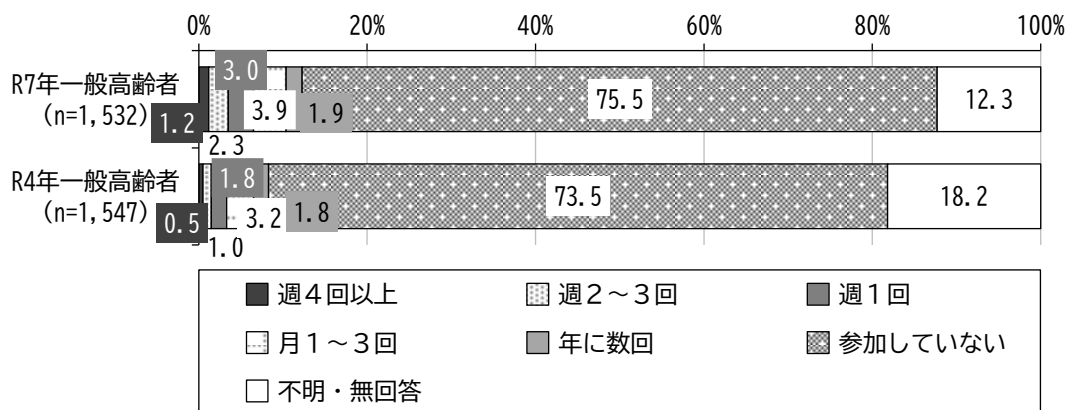


性別でみると、『参加している』は男性で3.5%、女性で9.4%となっています。
 年齢別でみると、『参加している』はいずれの年齢も1割未満となっています。
 日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で7.6%、南部で6.1%となっています。



⑤ TOGOまちかど運動教室、健康たまり場、元気アップ教室、住民主体のサロン等介護予防のための通いの場（単数回答）

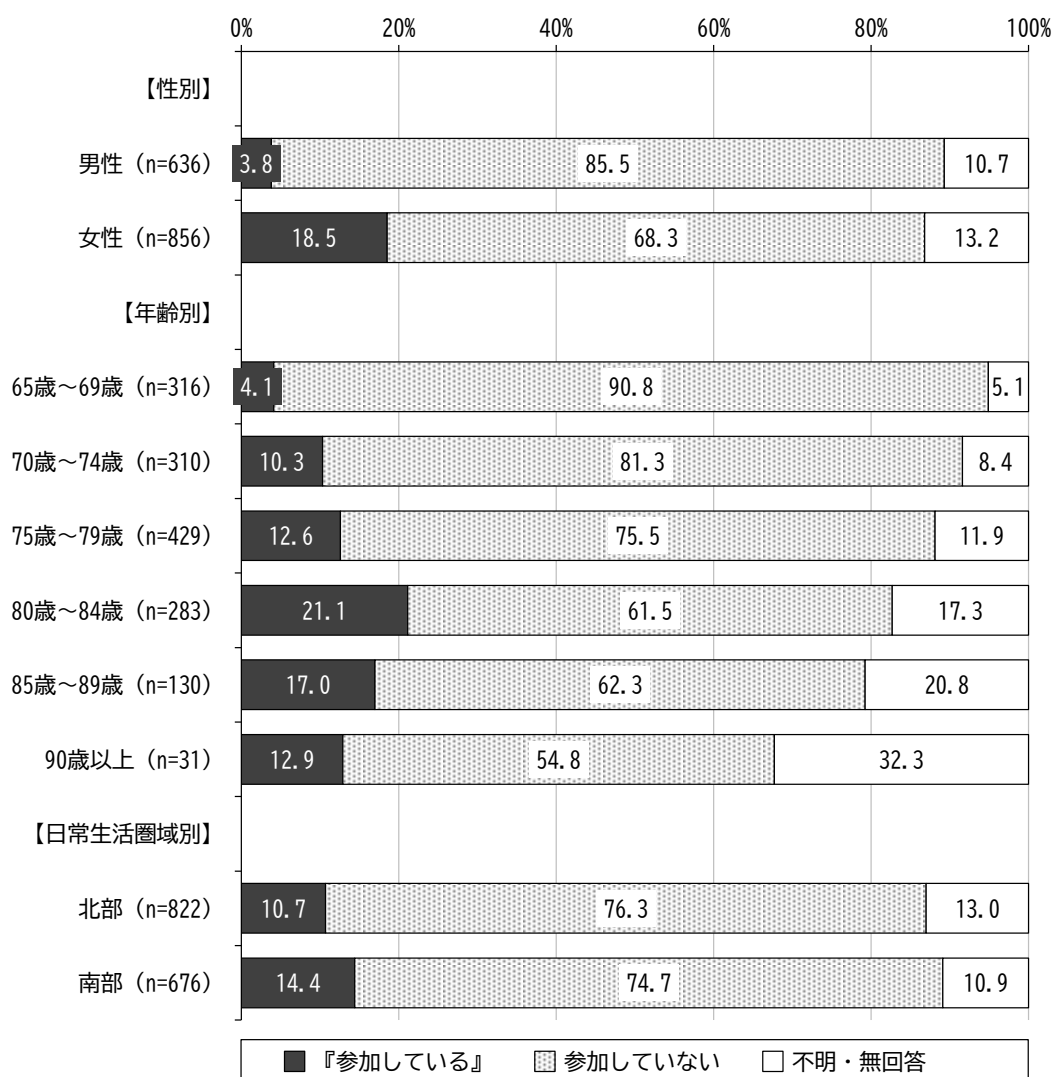
「参加していない」が75.5%と最も高く、次いで「月1～3回」が3.9%となっており、年に数回以上『参加している』は12.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別でみると、『参加している』は男性で3.8%、女性で18.5%となっています。

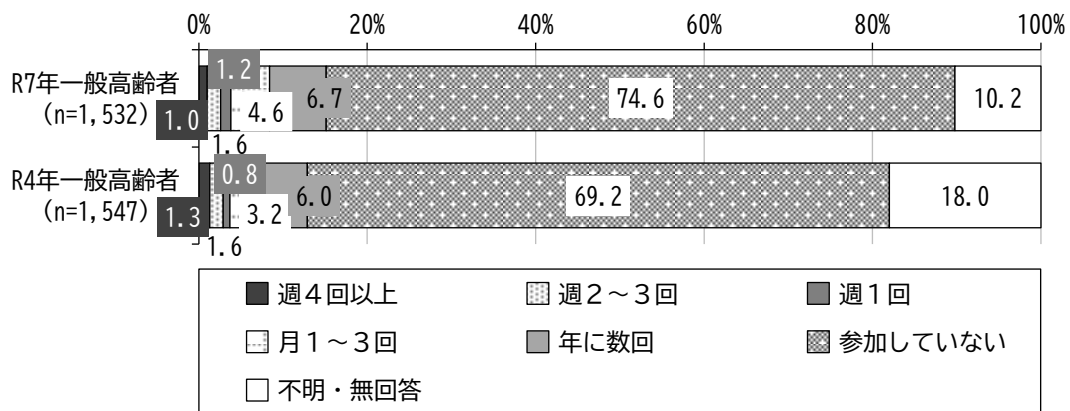
年齢別でみると、『参加している』は80歳～84歳で2割台となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で10.7%、南部で14.4%となっています。



⑥老人クラブ（単数回答）

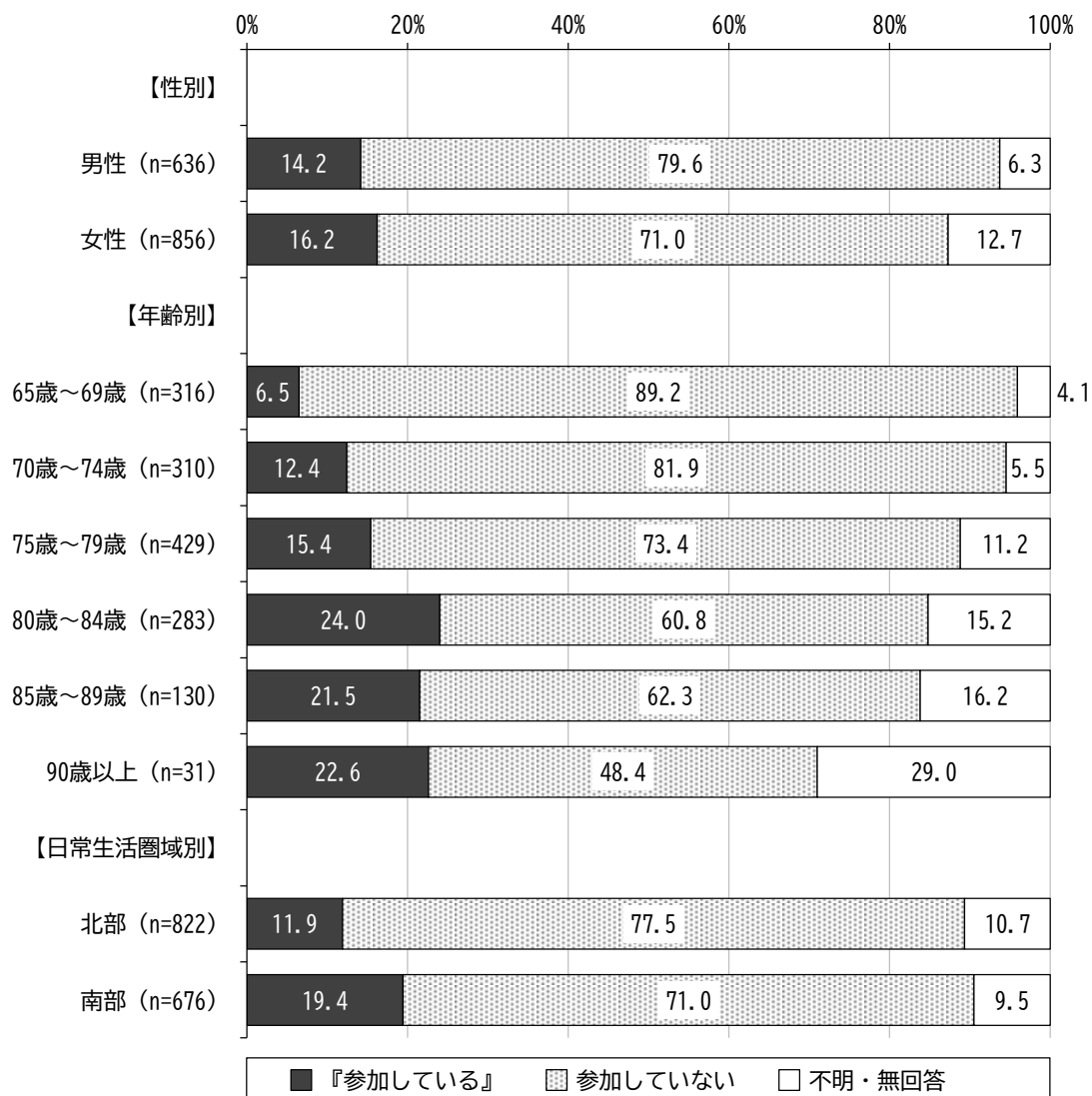
「参加していない」が74.6%と最も高く、次いで「年に数回」が6.7%となっており、年に数回以上『参加している』は15.1%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「参加していない」が5.4ポイント高くなっています。



性別でみると、『参加している』は男性で14.2%、女性で16.2%となっています。

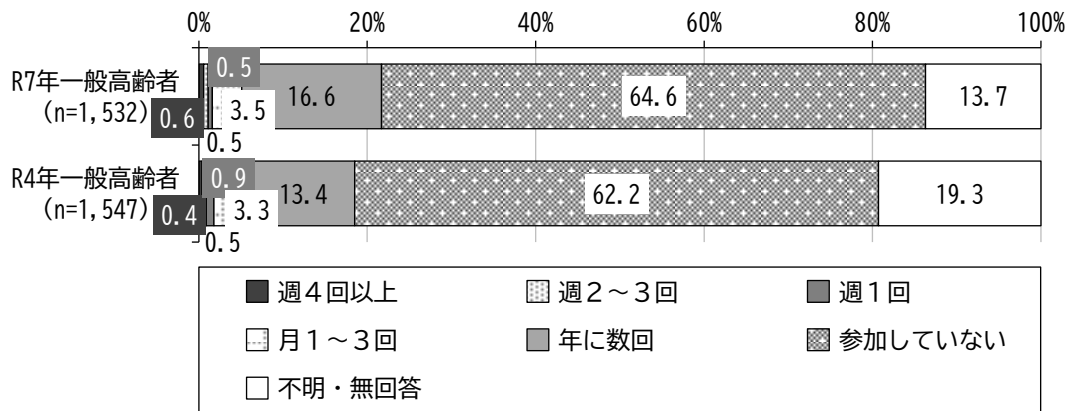
年齢別でみると、『参加している』は80歳以上で2割台となっています。

日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で11.9%、南部で19.4%となっています。

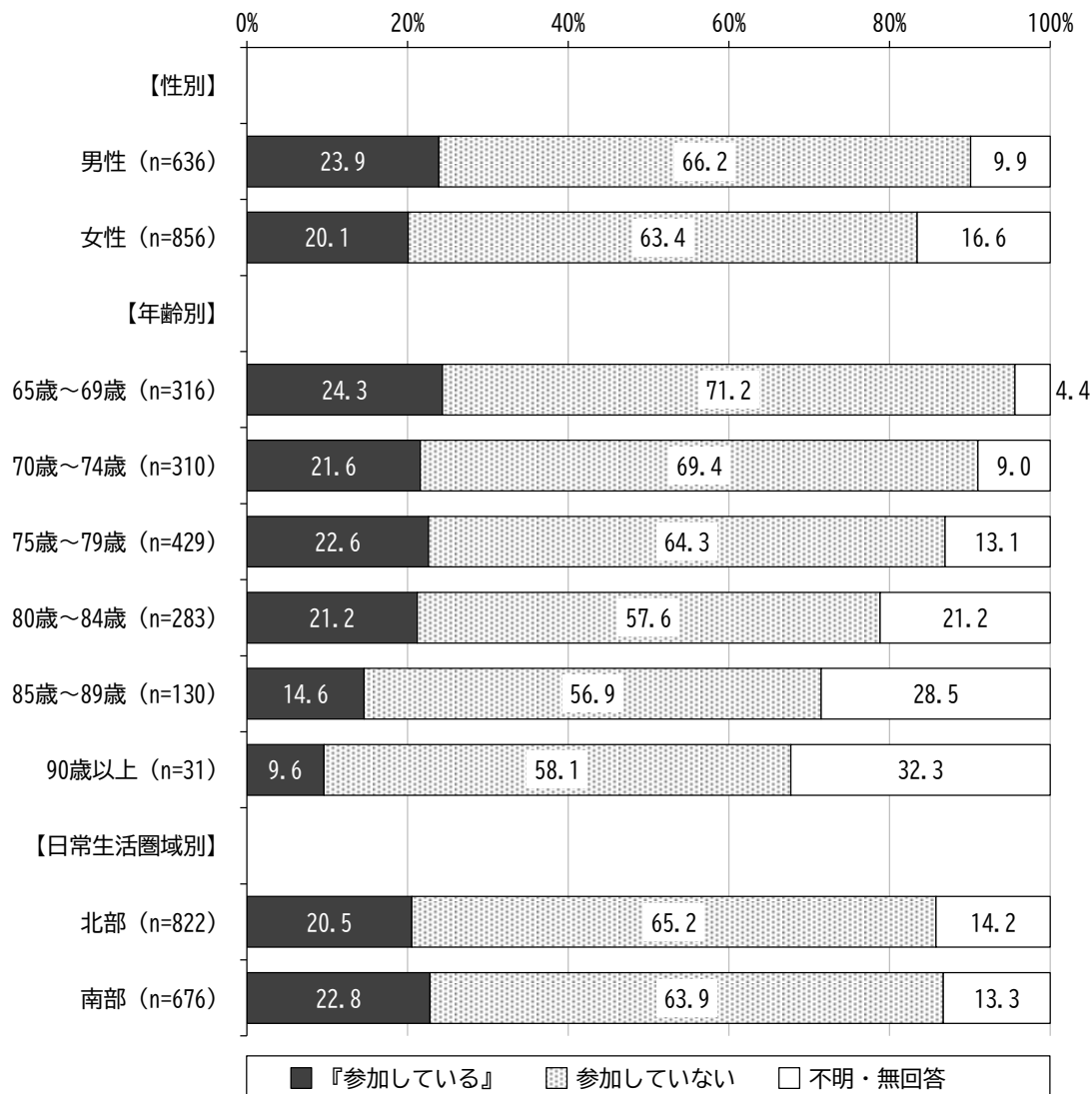


⑦区・自治会（単数回答）

「参加していない」が64.6%と最も高く、次いで「年に数回」が16.6%となっており、年に数回以上『参加している』は21.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

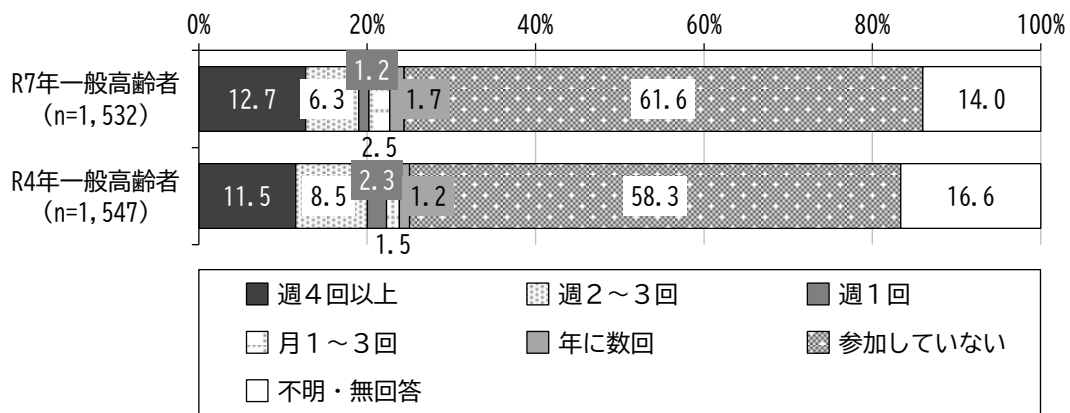


性別でみると、『参加している』は男性で23.9%、女性で20.1%となっています。
 年齢別でみると、『参加している』は65歳～84歳で2割台となっています。
 日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で20.5%、南部で22.8%となっています。



⑧就労等収入のある仕事（単数回答）

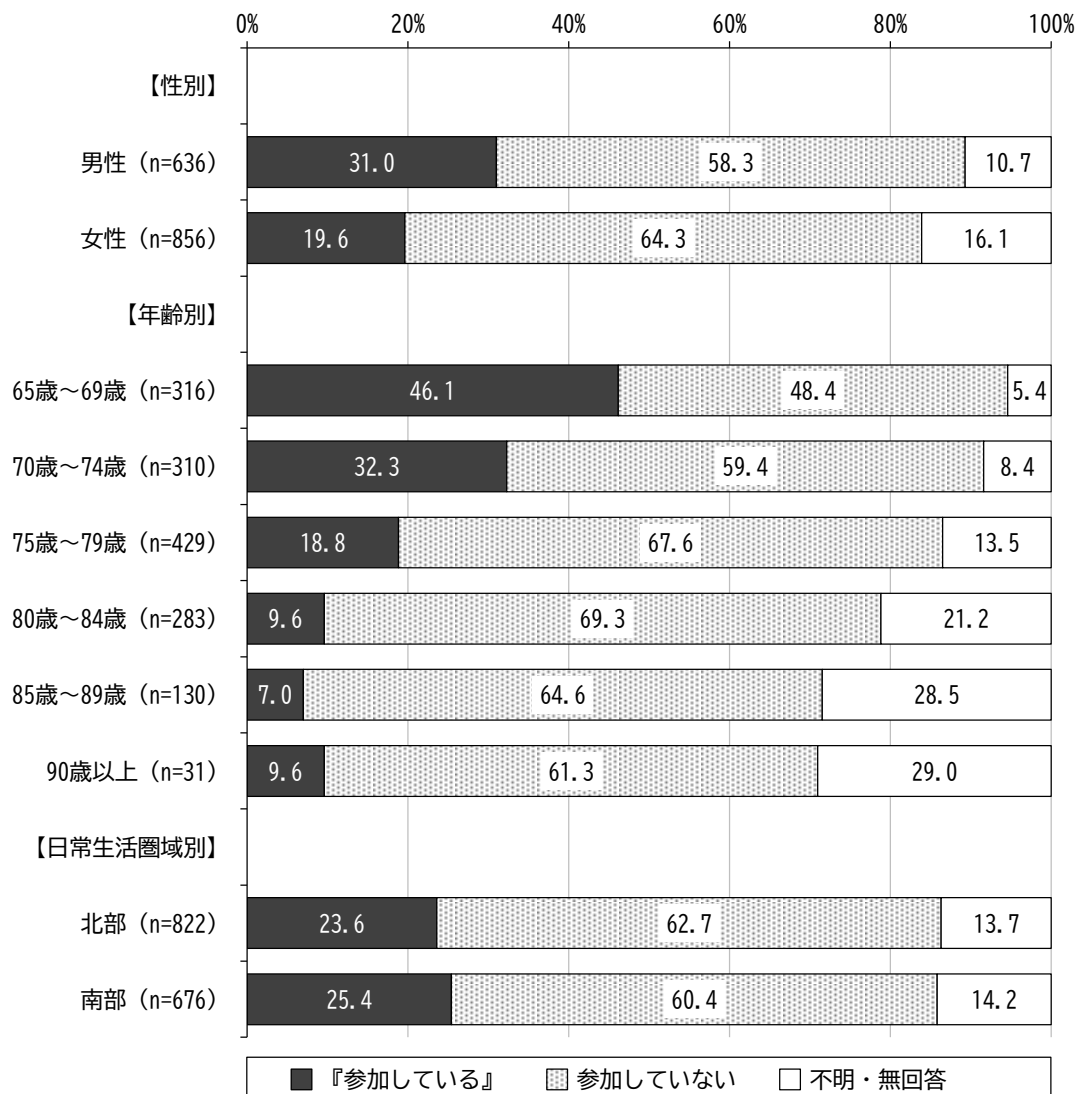
「参加していない」が61.6%と最も高く、次いで「週4回以上」が12.7%となっており、年に数回以上『参加している』は24.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別でみると、『参加している』は男性で31.0%、女性で19.6%となっています。

年齢別でみると、『参加している』は65~69歳で4割台となっています。

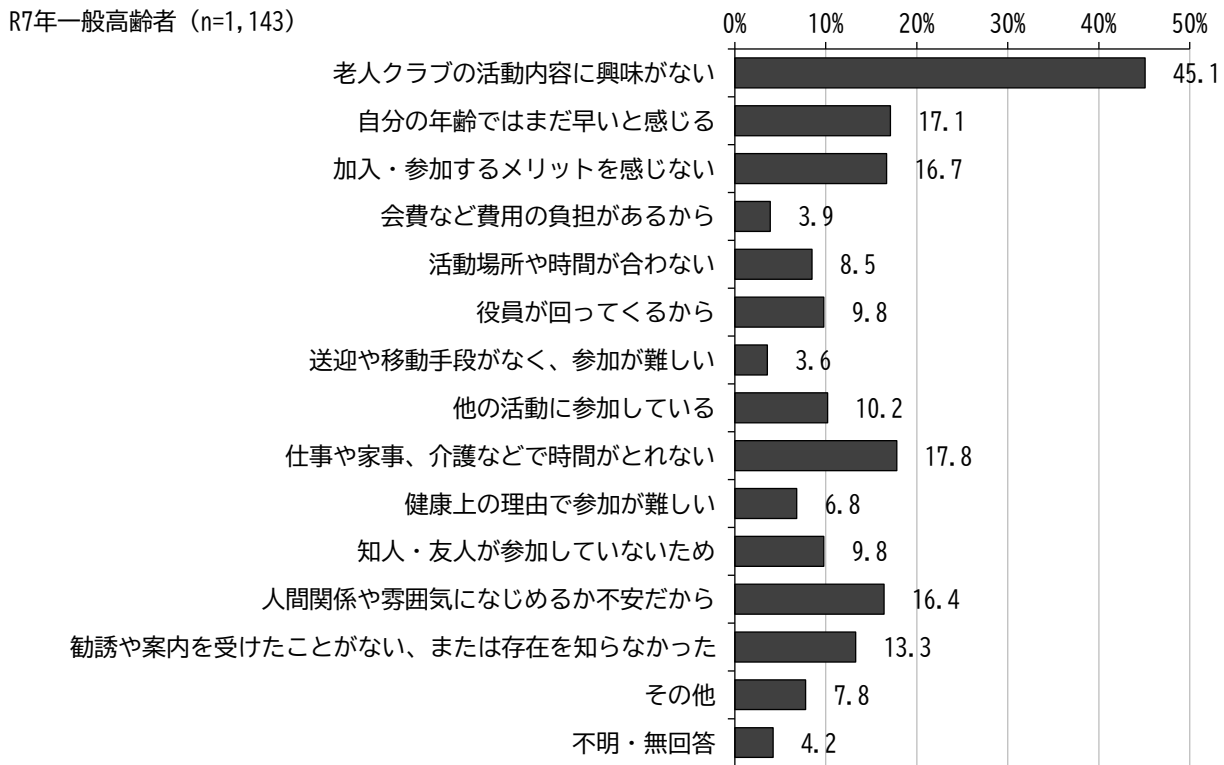
日常生活圏域別でみると、『参加している』は北部で23.6%、南部で25.4%となっています。



【問 30 ⑥老人クラブで「参加していない」と回答した方のみ】

問 30-1 老人クラブに加入・参加していない理由は何ですか。(複数回答)

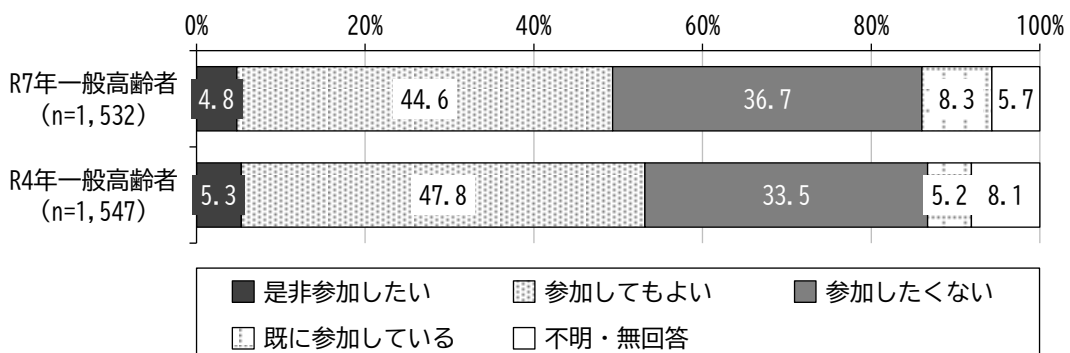
「老人クラブの活動内容に興味がない」が45.1%と最も高く、次いで「仕事や家事、介護などで時間がとれない」が17.8%となっています。



その他回答記載例	
自分の趣味がある。	
家での事で1日がいっぱいです。持病がある為、無理しない。	
仕事をしているから。	
老人クラブがどのような活動しているか知らない。	
参加する手段、方法がわかりません。	
かつて誘われて数回会合に出席したが自分には合わないと感じたので。	

問 31 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(単数回答)

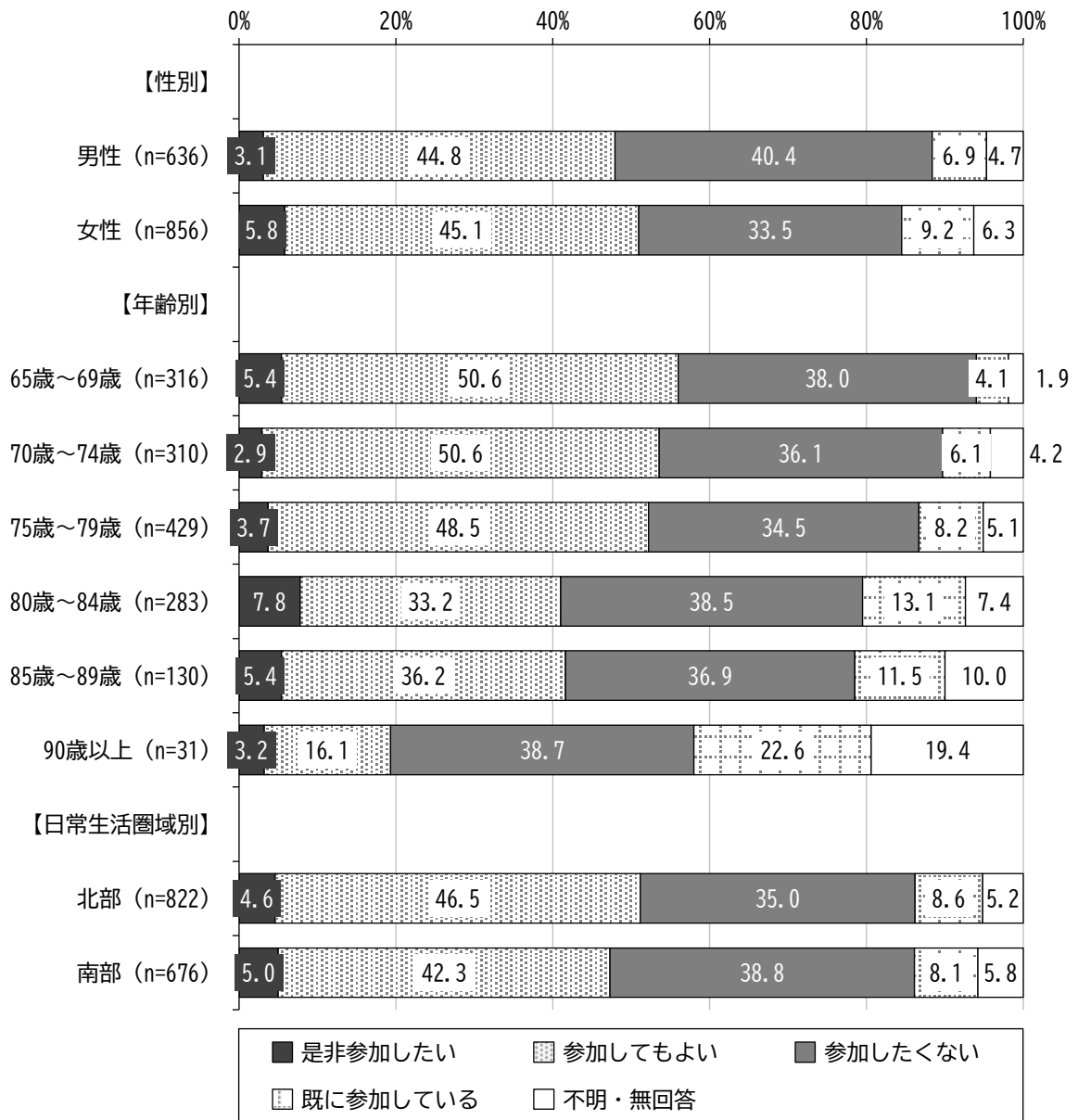
「参加してもよい」が44.6%と最も高く、次いで「参加したくない」が36.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別で見ると、男女ともに「参加してもよい」が最も高くなっています。

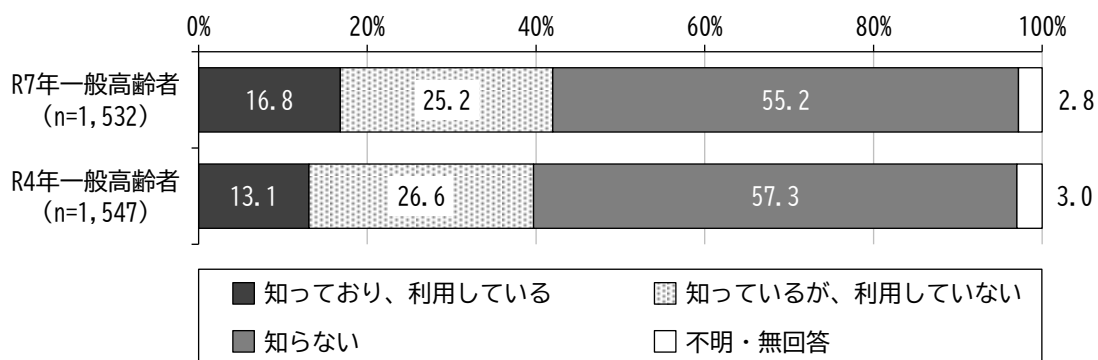
年齢別で見ると、65歳～79歳では「参加してもよい」、80歳以上では「参加したくない」が最も高くなっています。

日常生活圏域別で見ると、北部・南部ともに「参加してもよい」が最も高くなっています。



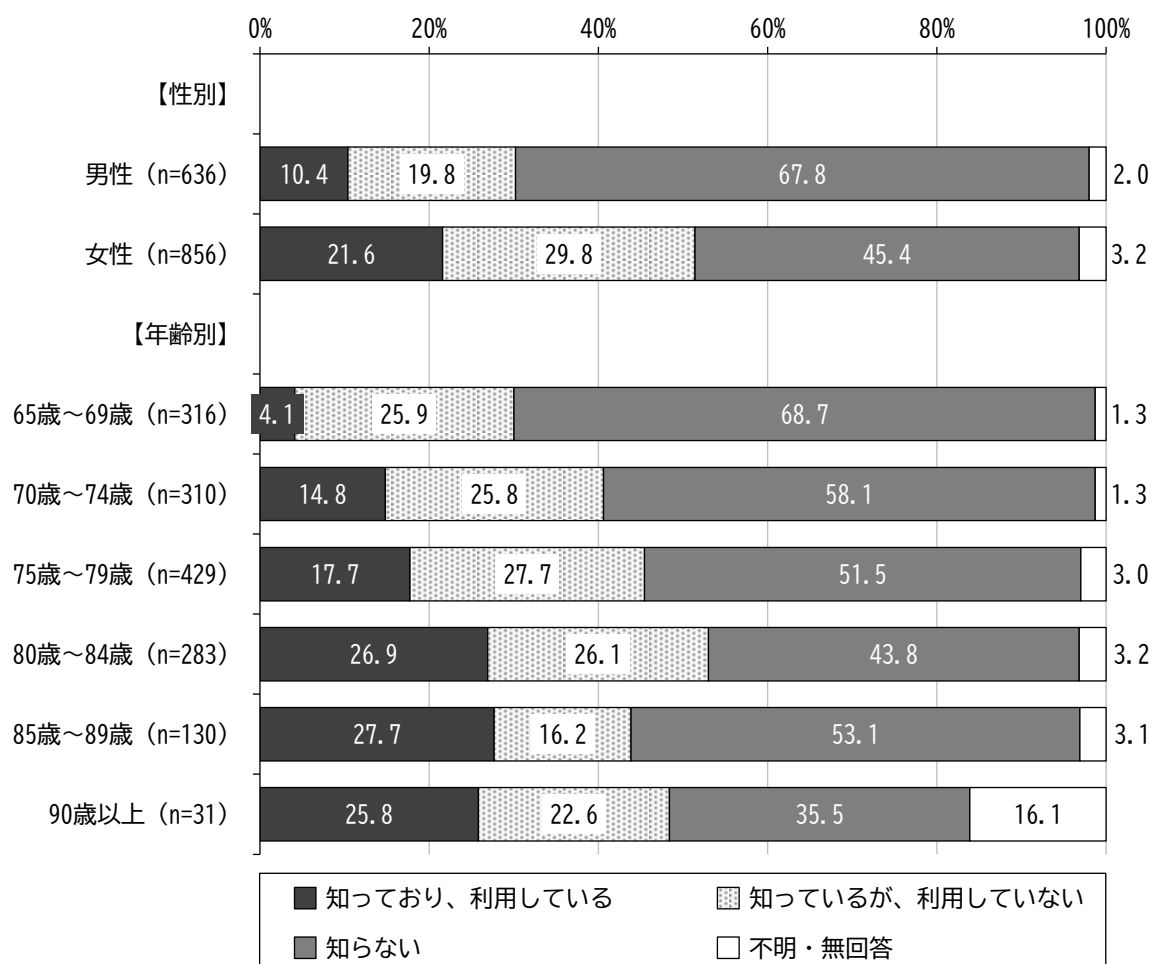
問 32 社会参加ポイント制度を知っていますか。(単数回答)

「知らない」が55.2%と最も高く、次いで「知っているが、利用していない」が25.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



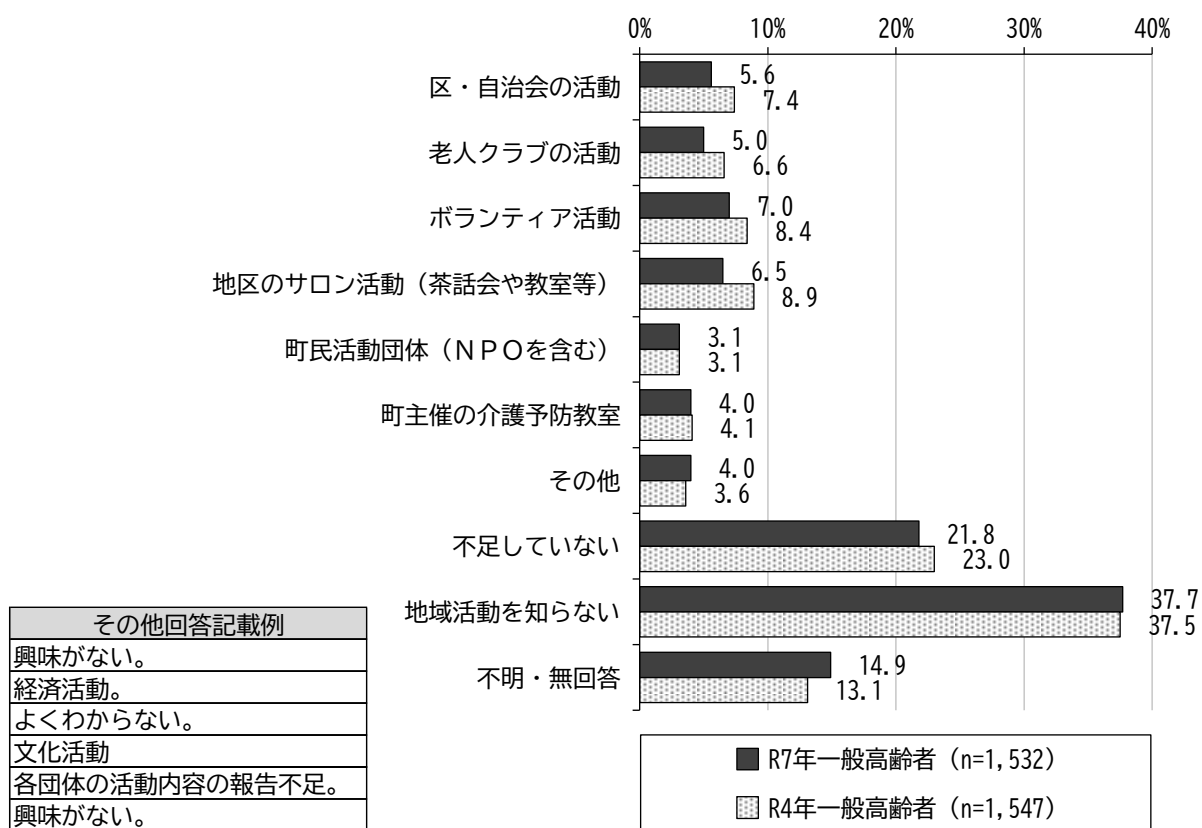
性別で見ると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年齢も「知らない」が最も高くなっています。



問 33 あなたの住む地域には、どのような地域活動が不足していると思いますか。
(複数回答)

「地域活動を知らない」が37.7%と最も高く、次いで「不足していない」が21.8%となっています。
なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



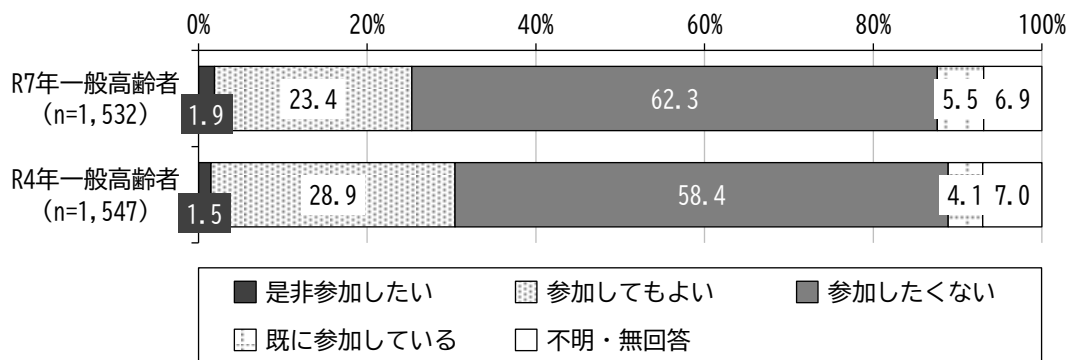
年齢別でみると、65歳～89歳では「地域活動を知らない」、90歳以上では「不足していない」が最も高くなっています。

日常生活圏域別でみると、北部・南部ともに「地域活動を知らない」が最も高くなっています。

単位：%		区・自治会の活動	老人クラブの活動	ボランティア活動	地区のサロン活動（茶話会や教室等）	町民活動団体（NPOを含む）	町主催の介護予防教室	その他	不足していない	地域活動を知らない	不明・無回答
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	3.5	1.3	5.4	4.1	3.2	3.2	3.8	23.4	52.8	6.0
	70歳～74歳 (n=310)	4.5	3.2	9.7	6.8	3.2	3.2	3.9	19.4	45.8	8.7
	75歳～79歳 (n=429)	5.1	4.9	6.3	6.3	2.8	3.3	4.2	24.5	35.7	15.2
	80歳～84歳 (n=283)	11.0	8.8	9.2	9.9	3.2	7.1	2.8	19.8	24.7	20.1
	85歳～89歳 (n=130)	3.8	10.8	2.3	5.4	3.1	3.8	6.9	16.9	23.8	30.8
	90歳以上 (n=31)	6.5	3.2	3.2	6.5	0.0	0.0	3.2	29.0	19.4	35.5
日常生活圏域別	北部 (n=822)	6.6	4.1	7.1	8.4	3.4	4.3	4.9	20.8	36.9	13.7
	南部 (n=676)	4.6	6.1	7.0	4.1	2.7	3.7	2.8	22.9	39.1	15.8

問34 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（単数回答）

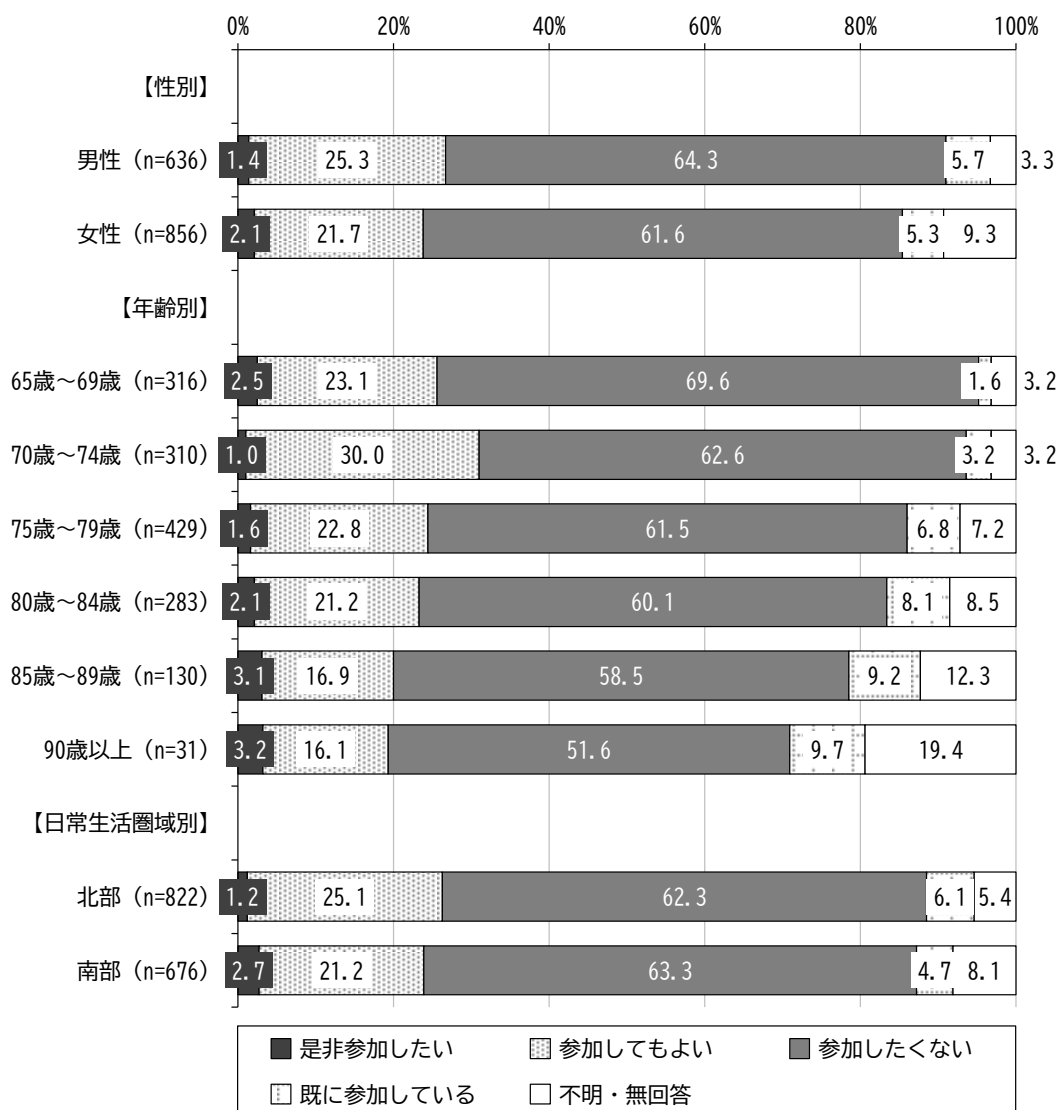
「参加したくない」が62.3%と最も高く、次いで「参加してもよい」が23.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「参加してもよい」が5.5ポイント低くなっています。



性別でみると、男女ともに「参加したくない」が最も高くなっています。

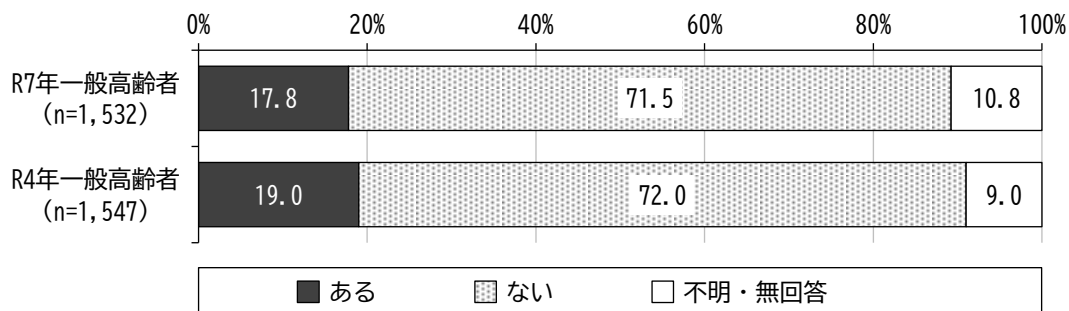
年齢別でみると、いずれの年齢も「参加したくない」が最も高くなっています。

日常生活圏域別でみると、北部・南部ともに「参加したくない」が最も高くなっています。



問 35 あなたの趣味や特技を生かせる場が地域活動の中にありますか。(単数回答)

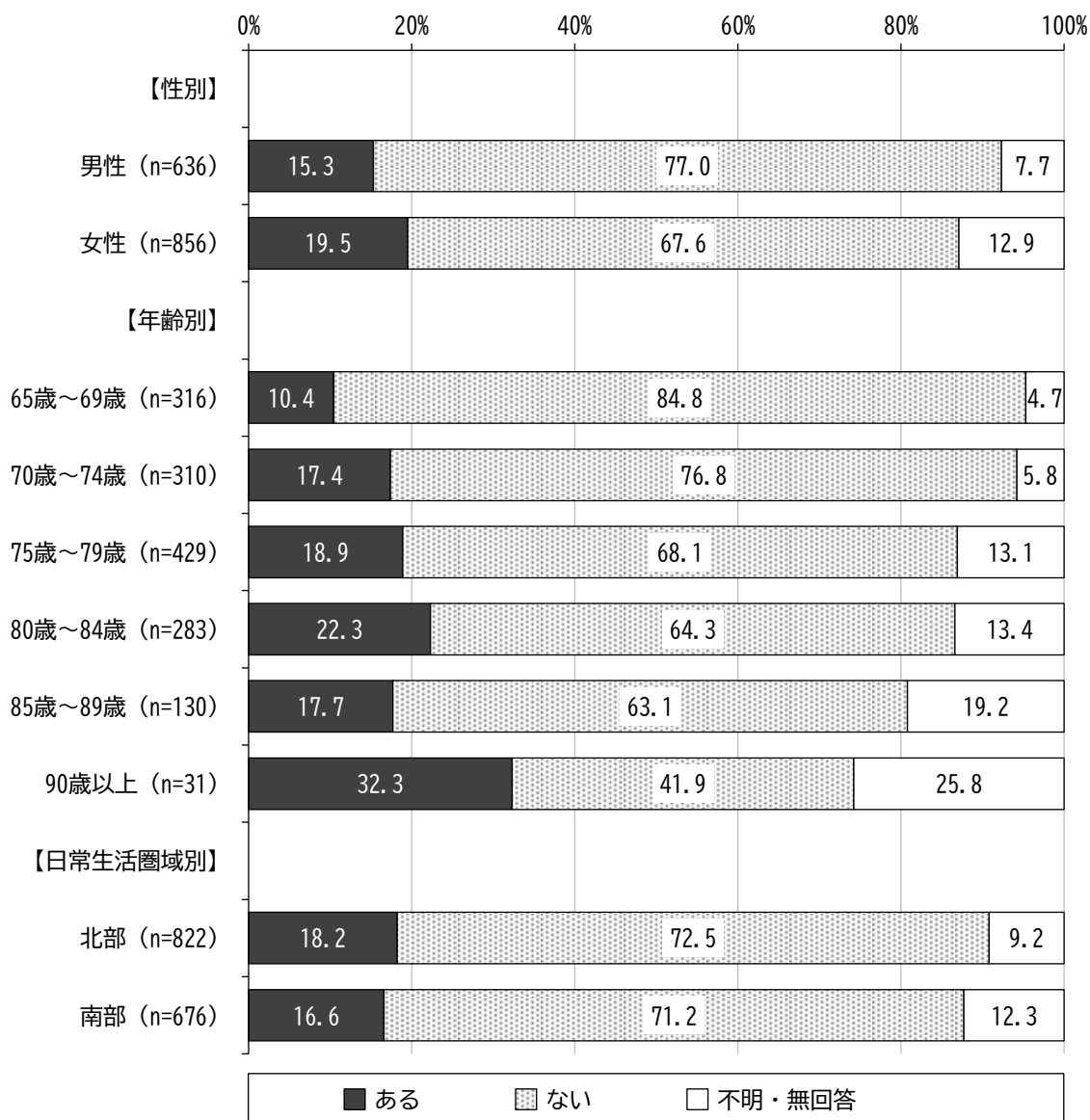
「ある」が17.8%、「ない」が71.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



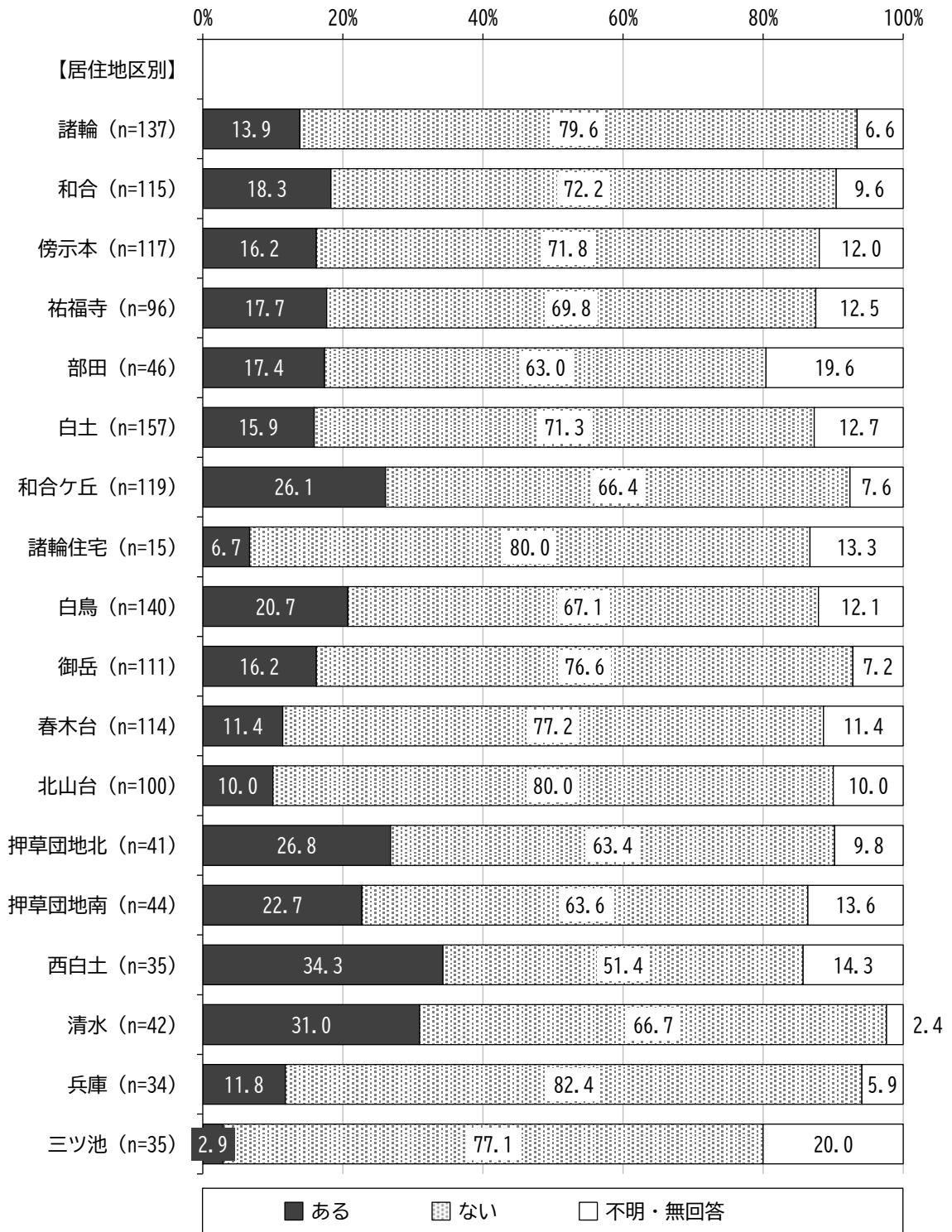
性別でみると、男女ともに「ない」が高くなっています。

年齢でみると、いずれの年齢も「ない」が高くなっています。

日常生活圏域別でみると、北部・南部ともに「ない」が高くなっています。



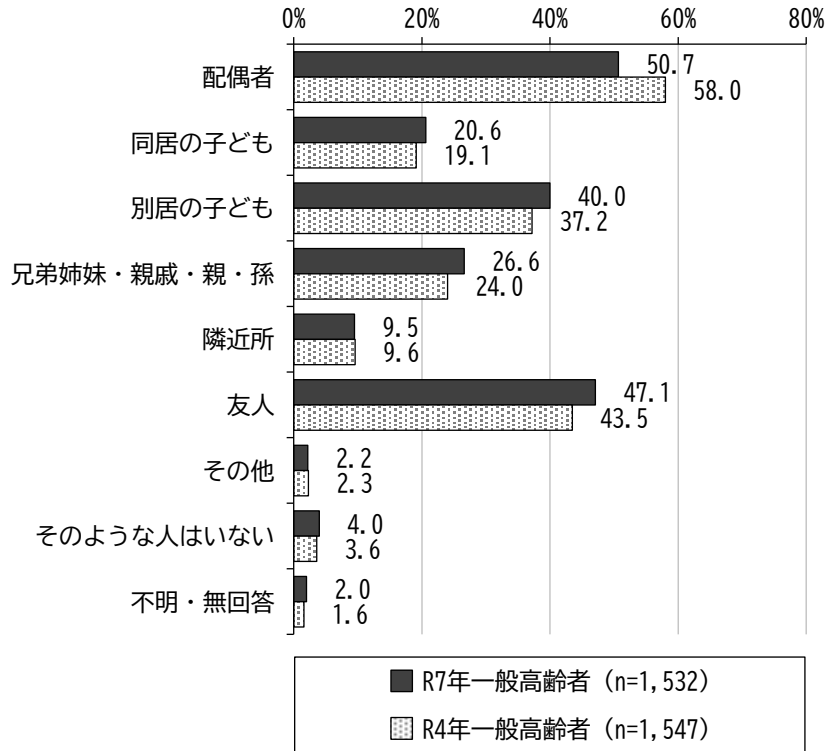
居住地区別でみると、いずれの地区も「ない」が高くなっています。



7. 回答者とまわりの人の「助け合い」について

問 36 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人はどなたですか。(複数回答)

「配偶者」が50.7%と最も高く、次いで「友人」が47.1%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「配偶者」が7.3ポイント低くなっています。



その他回答記載例
ケアマネージャー (妻の)。
サークル仲間
職場同僚
パートナー
言わない。

性別でみると、男性では「配偶者」、女性では「友人」が最も高くなっています。

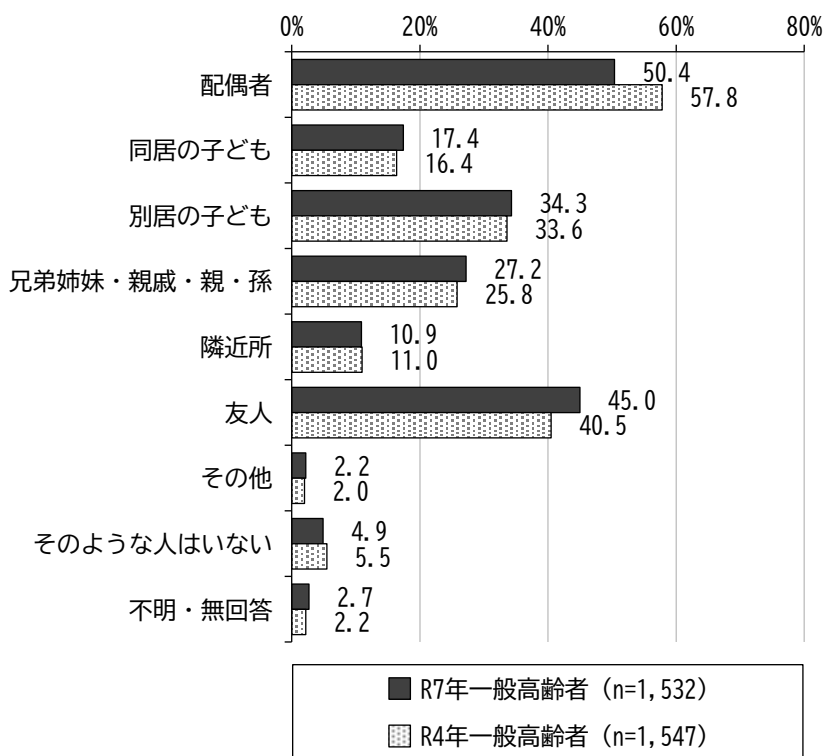
年齢別でみると、65歳～69歳・80歳～84歳では「配偶者」、70歳～79歳では「友人」、85歳以上では「別居の子ども」が最も高くなっています。

家族構成別でみると、1人暮らしでは「友人」、息子・娘との2世帯では「同居の子ども」、その他の家族構成では「配偶者」最も高くなっています。

単位：%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟・親・姉・妹・孫・親	隣近所	友人	その他	いそのような人は	不明・無回答
性別	男性 (n=636)	68.6	14.3	28.0	20.0	3.6	33.5	2.5	7.4	2.0
	女性 (n=856)	37.6	25.1	49.4	31.8	13.9	57.1	1.8	1.5	1.9
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	61.7	17.7	34.5	24.1	3.5	43.7	3.5	5.7	1.3
	70歳～74歳 (n=310)	53.2	15.8	42.3	24.8	10.6	54.2	2.9	3.2	1.9
	75歳～79歳 (n=429)	52.0	19.8	38.9	30.1	9.6	53.1	1.2	2.6	1.6
	80歳～84歳 (n=283)	45.9	26.5	43.8	27.6	14.1	45.6	1.4	4.2	1.4
	85歳～89歳 (n=130)	31.5	26.2	46.9	26.9	11.5	29.2	1.5	6.2	3.1
	90歳以上 (n=31)	22.6	29.0	35.5	22.6	9.7	19.4	0.0	6.5	12.9
家族構成別	1人暮らし (n=306)	1.3	1.3	50.7	32.0	13.4	58.2	3.9	9.8	2.3
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) (n=561)	77.7	3.0	48.8	23.0	10.3	45.3	1.2	2.7	1.4
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) (n=81)	81.5	4.9	22.2	16.0	2.5	33.3	1.2	4.9	2.5
	息子・娘との2世帯 (n=325)	46.8	59.4	30.8	30.8	8.0	45.8	1.5	1.5	2.5
	その他 (n=228)	45.6	39.9	25.0	26.8	7.0	43.9	2.2	3.1	1.3

問 37 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人はどなたですか。(複数回答)

「配偶者」が50.4%と最も高く、次いで「友人」が45.0%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「配偶者」が7.4ポイント低くなっています。



その他回答記載例
サークル仲間
職場同僚
パートナー
色々。

性別でみると、男性では「配偶者」、女性では「友人」が最も高くなっています。

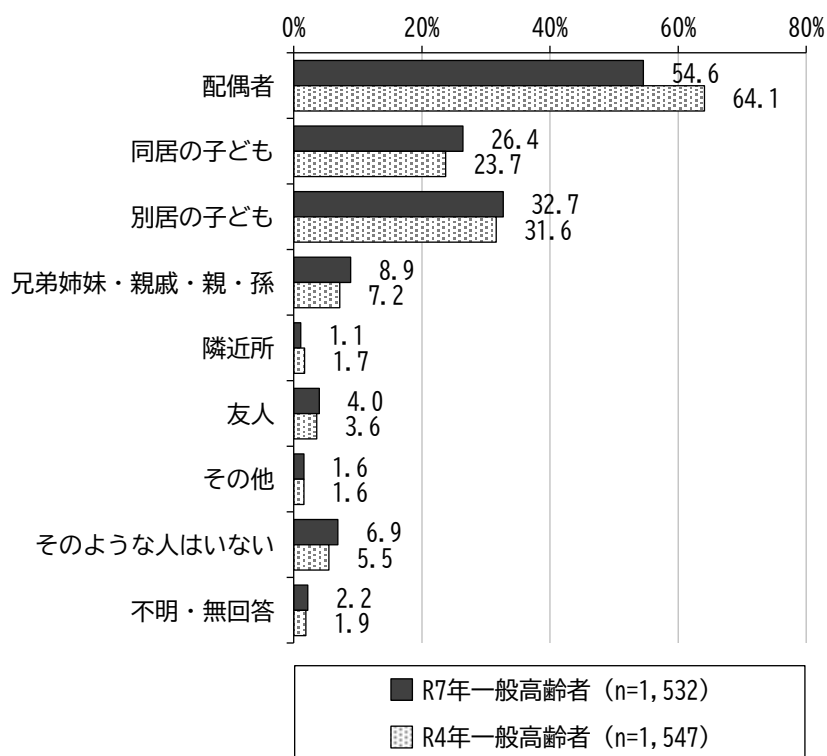
年齢別でみると、70歳～74歳・85歳～89歳では「配偶者」「友人」、90歳以上では「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、その他の年齢では「配偶者」が最も高くなっています。

家族構成別でみると、1人暮らしでは「友人」、その他の家族構成では「配偶者」最も高くなっています。

単位：%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・孫・親	隣近所	友人	その他	いそのような人は	不明・無回答
性別	男性 (n=636)	68.7	14.2	26.4	20.4	3.8	31.9	2.2	7.4	2.5
	女性 (n=856)	37.0	19.6	41.0	32.5	15.8	55.3	2.3	2.9	2.7
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	62.3	18.4	34.5	28.5	4.7	42.4	5.4	3.8	0.9
	70歳～74歳 (n=310)	51.3	14.2	41.9	25.8	12.9	51.3	2.6	3.5	1.6
	75歳～79歳 (n=429)	51.7	17.7	35.9	30.5	10.7	49.4	0.9	2.8	2.8
	80歳～84歳 (n=283)	46.6	18.0	30.0	24.7	13.1	44.2	1.1	6.4	2.5
	85歳～89歳 (n=130)	31.5	21.5	28.5	24.6	13.8	31.5	1.5	10.8	5.4
	90歳以上 (n=31)	16.1	12.9	16.1	25.8	9.7	16.1	0.0	22.6	16.1
家族構成別	1人暮らし (n=306)	0.7	0.3	36.9	26.1	14.4	56.5	4.2	12.4	4.2
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) (n=561)	76.1	2.7	42.1	24.2	11.2	42.4	1.1	2.3	2.1
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) (n=81)	80.2	3.7	22.2	21.0	3.7	28.4	4.9	3.7	1.2
	息子・娘との2世帯 (n=325)	47.7	47.4	28.9	32.0	9.5	44.9	2.5	3.7	2.5
	その他 (n=228)	47.8	39.0	26.3	32.0	8.3	42.5	1.3	3.1	1.8

問38 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人はどなたですか。
(複数回答)

「配偶者」が54.6%と最も高く、次いで「別居の子ども」が32.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「配偶者」が9.5ポイント低くなっています。



その他回答記載例
寝込んだ事ない。
パートナー
別居の子ども・嫁。
ヘルパー
息子
特定者なし。

性別でみると、男性では「配偶者」、女性では「別居の子ども」が最も高くなっています。

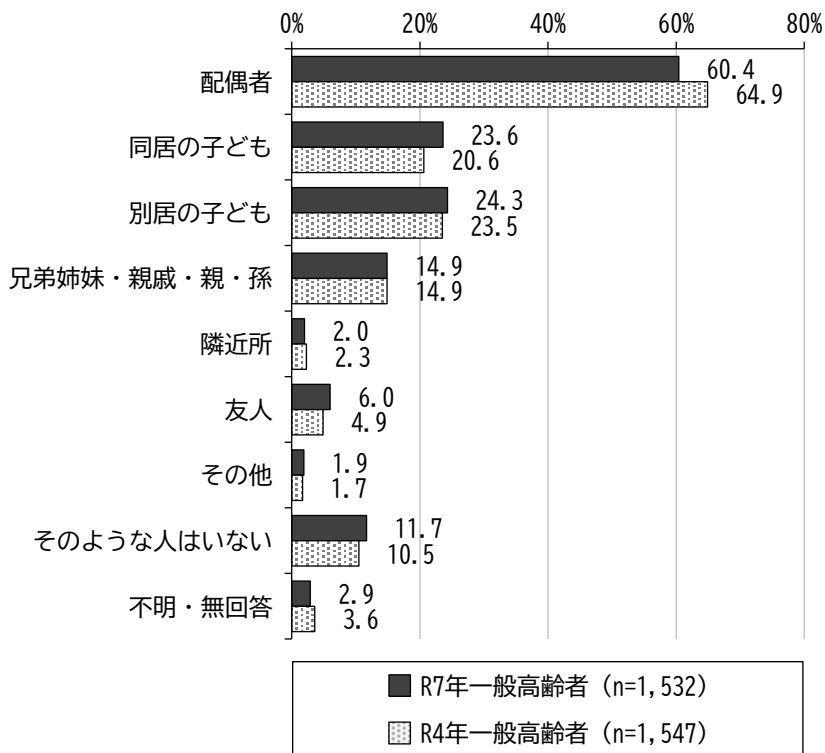
年齢別でみると、65歳～84歳では「配偶者」、85歳以上では「別居の子ども」が最も高くなっています。

家族構成別でみると、1人暮らしでは「別居の子ども」、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上・配偶者64歳以下）では「配偶者」、息子・娘との2世帯・その他では「同居の子ども」が最も高くなっています。

単位：%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	戚兄弟・親・姉妹・孫・親	隣近所	友人	その他	いそのような人は	不明・無回答
性別	男性 (n=636)	72.6	18.6	21.2	8.2	0.2	2.7	1.9	6.9	1.6
	女性 (n=856)	41.4	31.9	41.6	9.5	1.5	4.9	1.4	7.1	2.5
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	67.7	24.1	18.4	9.5	0.3	3.8	1.6	7.6	1.3
	70歳～74歳 (n=310)	61.3	20.0	31.9	7.1	0.3	3.5	1.6	7.7	1.6
	75歳～79歳 (n=429)	54.8	27.0	34.7	9.8	0.9	4.9	1.2	5.8	1.9
	80歳～84歳 (n=283)	45.2	31.1	41.0	8.1	2.5	3.2	1.4	7.1	2.5
	85歳～89歳 (n=130)	36.9	32.3	44.6	10.8	0.8	3.8	3.1	8.5	2.3
	90歳以上 (n=31)	19.4	35.5	41.9	6.5	0.0	6.5	3.2	3.2	9.7
家族構成別	1人暮らし (n=306)	1.3	1.6	52.3	13.7	2.9	11.8	2.9	24.2	3.9
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) (n=561)	85.6	2.9	38.5	6.1	0.7	2.1	1.1	2.9	1.4
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) (n=81)	91.4	7.4	8.6	2.5	0.0	1.2	1.2	2.5	0.0
	息子・娘との2世帯 (n=325)	46.2	75.1	20.9	8.0	0.3	1.5	1.2	1.2	1.8
	その他 (n=228)	50.0	54.8	19.3	13.2	0.0	2.6	1.8	3.5	1.3

問 39 反対に、看病や世話をしあける人はどなたですか。(複数回答)

「配偶者」が60.4%と最も高く、次いで「別居の子ども」が24.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



その他回答記載例
看護したくとも体力的に無理。
その場にならないとわからない。
できない。
パートナー
母
同居の親族。

性別でみると、男女ともに「配偶者」が最も高くなっています。

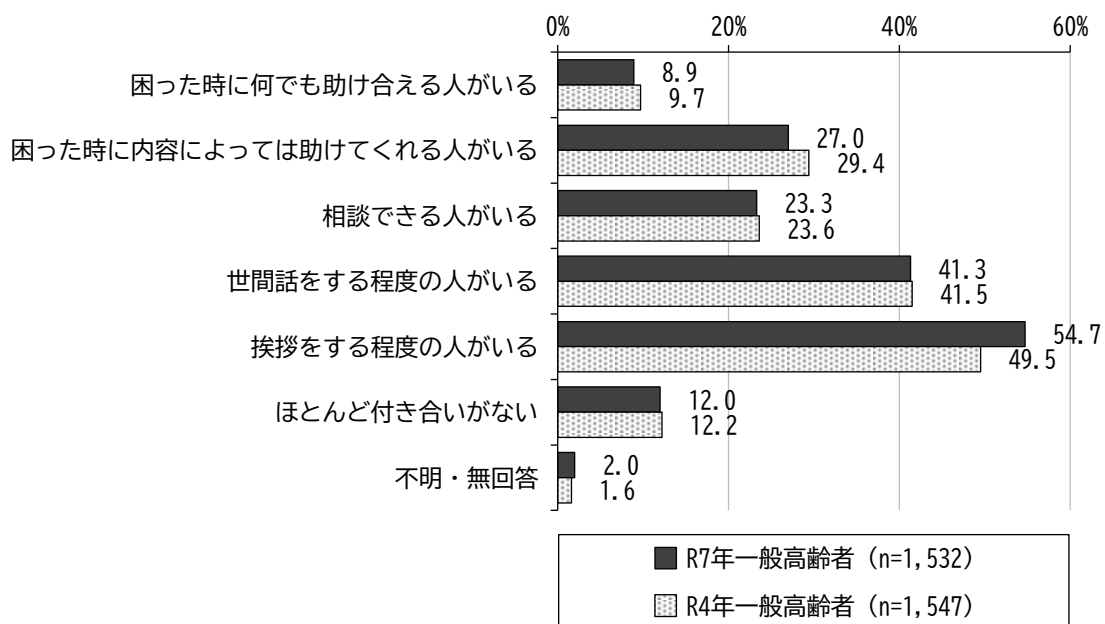
年齢別でみると、いずれの年齢も「配偶者」が最も高くなっています。

家族構成別でみると、1人暮らしでは「そのような人はいない」、息子・娘との2世帯では「同居の子ども」、その他の家族構成では「配偶者」が最も高くなっています。

単位：%		配偶者	同居の子ども	別居の子ども	戚兄弟・親・姉・妹・孫・親	隣近所	友人	その他	いそなような人は	不明・無回答
性別	男性 (n=636)	73.4	18.1	17.0	12.6	0.8	3.6	1.3	11.9	2.0
	女性 (n=856)	51.2	27.2	30.4	16.9	2.6	7.7	2.3	11.3	3.2
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	71.5	23.4	21.2	23.1	0.3	3.8	3.2	9.5	0.6
	70歳～74歳 (n=310)	66.8	20.0	27.1	14.2	1.6	6.1	0.6	12.3	1.9
	75歳～79歳 (n=429)	61.8	26.3	23.5	14.9	2.3	6.8	0.2	10.3	2.6
	80歳～84歳 (n=283)	53.4	23.0	26.5	11.3	3.2	8.1	3.2	12.7	2.8
	85歳～89歳 (n=130)	37.7	25.4	27.7	6.9	1.5	5.4	4.6	14.6	7.7
	90歳以上 (n=31)	32.3	16.1	12.9	9.7	0.0	0.0	0.0	29.0	12.9
家族構成別	1人暮らし (n=306)	2.0	1.0	34.6	17.6	3.9	13.7	2.6	39.5	5.2
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上) (n=561)	93.8	2.0	28.9	11.6	1.1	3.9	0.7	3.2	1.4
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下) (n=81)	90.1	7.4	9.9	12.3	1.2	0.0	1.2	4.9	0.0
	息子・娘との2世帯 (n=325)	56.0	64.0	19.1	14.5	2.2	4.0	1.5	5.8	4.0
	その他 (n=228)	53.9	53.5	13.2	21.9	0.4	5.7	4.4	6.1	1.8

問 40 地域の人との付き合いは、どのようですか。(複数回答)

「挨拶をする程度の人がある」が54.7%と最も高く、次いで「世間話をする程度の人がある」が41.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「挨拶をする程度の人がある」が5.2ポイント高くなっています。



性別でみると、男女ともに「挨拶をする程度の人がいる」が最も高くなっています。

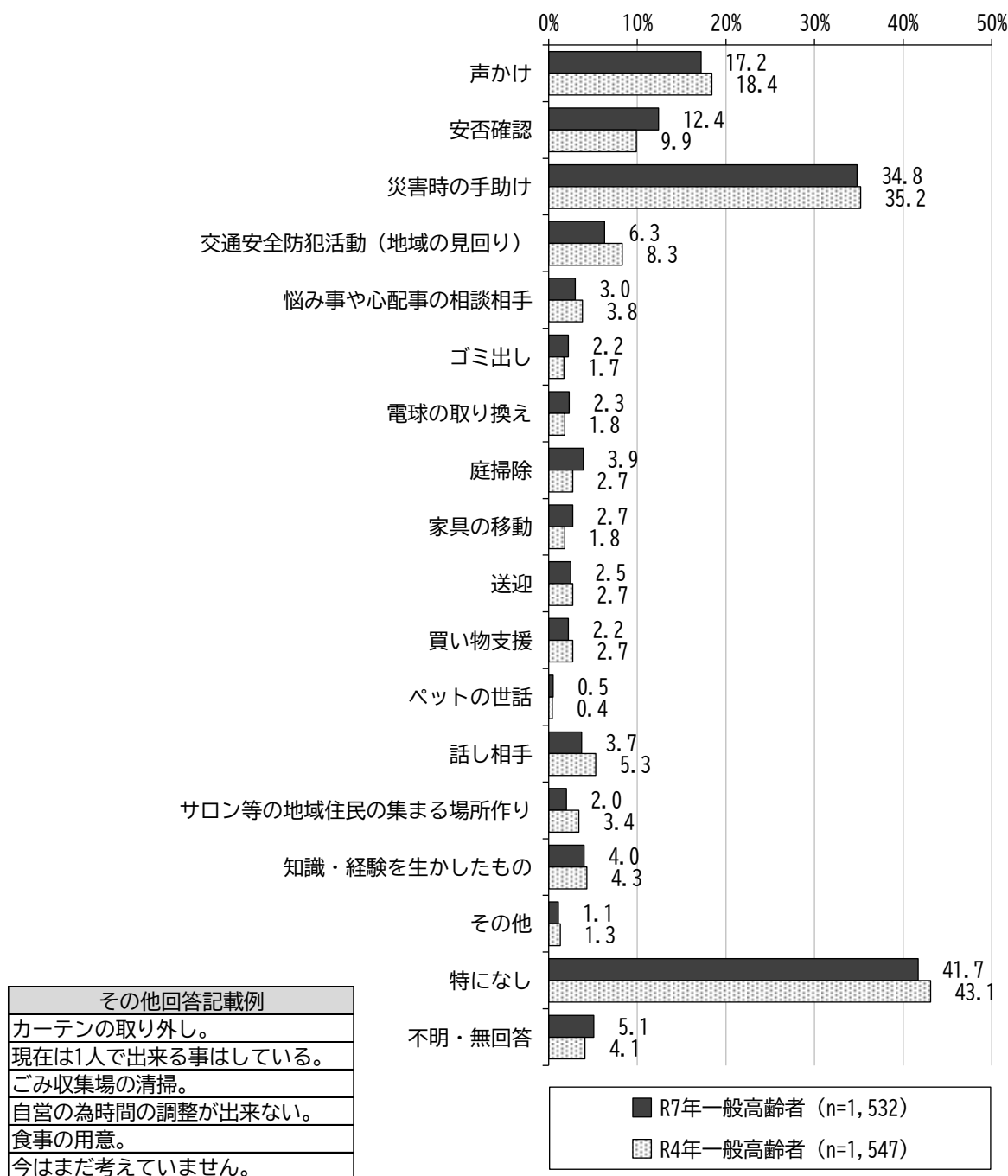
年齢別でみると、いずれの年齢も「挨拶をする程度の人がいる」が最も高くなっています。

居住地区別でみると、傍示本では「世間話をする程度の人がいる」、諸輪住宅では「相談できる人がある」、その他の地区では「挨拶をする程度の人がいる」が最も高くなっています。

単位：%		る助けられた人への何人か	困った人がいる	よつた人は助けてくれる	相談できる人がある	世間話をする程度の人がある	挨拶をする程度の人がいる	ほとんど付き合い	不明・無回答
性別	男性 (n=636)	5.3	18.7	16.4	32.2	53.5	17.1	1.9	
	女性 (n=856)	11.3	32.9	28.3	47.9	55.8	8.1	1.9	
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	3.8	16.5	15.5	32.0	55.4	20.3	0.9	
	70歳～74歳 (n=310)	6.8	26.8	23.9	40.6	54.5	14.5	1.6	
	75歳～79歳 (n=429)	10.5	29.8	24.9	41.3	55.2	8.6	1.6	
	80歳～84歳 (n=283)	12.0	36.4	27.9	51.6	56.5	5.3	2.5	
	85歳～89歳 (n=130)	10.8	26.9	26.2	44.6	53.8	10.0	1.5	
	90歳以上 (n=31)	16.1	12.9	12.9	29.0	35.5	16.1	12.9	
居住地区別	諸輪 (n=137)	12.4	20.4	19.0	43.8	48.9	13.1	1.5	
	和合 (n=115)	11.3	31.3	27.8	40.9	53.9	11.3	1.7	
	傍示本 (n=117)	7.7	27.4	30.8	53.0	50.4	6.8	3.4	
	祐福寺 (n=96)	9.4	34.4	31.3	40.6	50.0	10.4	1.0	
	部田 (n=46)	4.3	41.3	30.4	43.5	47.8	2.2	6.5	
	白土 (n=157)	10.2	22.3	22.3	41.4	51.6	15.3	2.5	
	和合ヶ丘 (n=119)	10.1	37.0	18.5	41.2	51.3	6.7	3.4	
	諸輪住宅 (n=15)	26.7	20.0	46.7	6.7	40.0	13.3	0.0	
	白鳥 (n=140)	5.7	20.7	20.0	38.6	62.1	12.1	0.7	
	御岳 (n=111)	7.2	27.0	25.2	44.1	64.0	9.0	0.0	
	春木台 (n=114)	6.1	24.6	14.9	39.5	64.9	17.5	0.0	
	北山台 (n=100)	15.0	30.0	21.0	42.0	54.0	14.0	4.0	
	押草団地北 (n=41)	2.4	26.8	24.4	31.7	58.5	12.2	2.4	
	押草団地南 (n=44)	9.1	40.9	27.3	40.9	47.7	9.1	0.0	
	西白土 (n=35)	8.6	28.6	28.6	54.3	65.7	0.0	0.0	
	清水 (n=42)	2.4	14.3	23.8	31.0	57.1	16.7	0.0	
兵庫 (n=34)	0.0	20.6	14.7	26.5	55.9	32.4	0.0		
三ツ池 (n=35)	2.9	11.4	11.4	28.6	54.3	22.9	5.7		

問 41 あなたが地域の人に手助けや協力をしてほしいことは何ですか。(複数回答)

「特になし」が41.7%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が34.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



※R7年度調査の選択肢「電球の取り換え」は、R4年度調査では「電球換え」となっています。

性別で見ると、男性では「特になし」、女性では「災害時の手助け」が最も高くなっています。

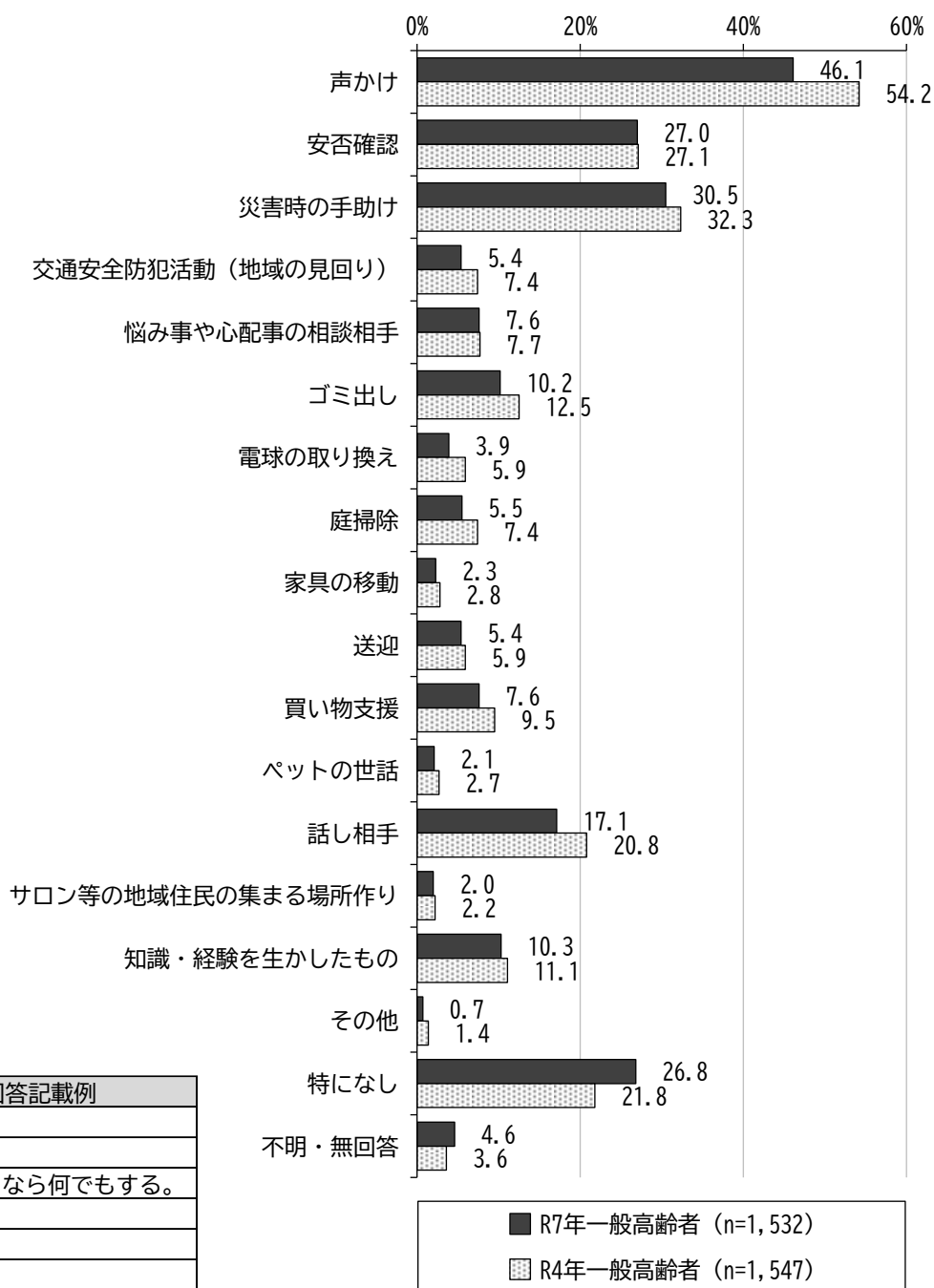
年齢別で見ると、65歳～79歳では「特になし」、80歳以上では「災害時の手助け」が最も高くなっています。

単位：%		声かけ	安否確認	災害時の手助け	(交通安全防犯活動 地域の見回り)	悩み事や心配事の 相談相手	ゴミ出し	電球の取り換え	庭掃除	家具の移動	送迎	買い物支援	ペットの世話	話し相手
性別	男性 (n=636)	16.0	12.6	31.3	5.2	2.0	2.4	1.3	3.9	1.9	1.1	1.7	0.6	3.6
	女性 (n=856)	18.3	12.4	37.5	7.2	3.9	2.2	3.2	3.9	3.4	3.6	2.6	0.5	3.6
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	9.8	10.8	32.6	8.5	2.2	0.9	0.3	3.2	1.9	0.6	0.3	0.3	1.3
	70歳～74歳 (n=310)	14.2	10.6	33.2	5.2	2.3	2.6	1.3	3.2	3.5	0.6	1.3	0.6	2.3
	75歳～79歳 (n=429)	16.3	11.4	35.0	5.1	2.1	2.6	3.0	2.6	1.2	3.5	1.4	0.7	3.3
	80歳～84歳 (n=283)	23.0	16.3	37.5	7.1	6.0	3.5	3.9	4.9	4.9	4.9	4.6	0.7	5.7
	85歳～89歳 (n=130)	28.5	14.6	38.5	6.9	3.8	1.5	3.8	7.7	3.1	4.6	6.2	0.0	9.2
	90歳以上 (n=31)	32.3	12.9	35.5	3.2	3.2	0.0	3.2	9.7	3.2	0.0	3.2	0.0	9.7

単位：%		り民サ の口ン 集ま る等 の場 所作 住	し知 た識 もの の ・経 験 を生 か	そ の 他	特 に な し	不 明 ・ 無 回 答
性別	男性 (n=636)	1.4	4.7	0.9	47.6	2.8
	女性 (n=856)	2.2	3.5	1.3	37.3	6.8
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	0.3	4.7	1.3	51.6	0.6
	70歳～74歳 (n=310)	2.3	4.2	1.3	48.1	3.5
	75歳～79歳 (n=429)	2.1	3.5	1.2	42.9	5.4
	80歳～84歳 (n=283)	2.8	3.5	1.4	31.8	9.5
	85歳～89歳 (n=130)	1.5	5.4	0.0	27.7	6.2
	90歳以上 (n=31)	3.2	3.2	0.0	19.4	9.7

問 42 反対に、あなた自身が地域の人に対して手助けや協力できることは何ですか。
(複数回答)

「声かけ」が46.1%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が30.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「特になし」が5.0ポイント高く、「声かけ」が8.1ポイント低くなっています。



その他回答記載例
今の体では無理。
いろいろ。
自分ができることなら何でもする。
状況次第
調理補助
できない。
隣が遠いので難しい。

※R7 年度調査の選択肢「電球の取り換え」は、R4 年度調査では「電球換え」となっています。

性別でみると、男女ともに「声かけ」が最も高くなっています。

年齢別でみると、65歳～89歳では「声かけ」、90歳以上では「特になし」が最も高くなっています。

単位：%		声かけ	安否確認	災害時の手助け	交通安全防犯活動 (地域の見回り)	悩み事や心配事の 相談相手	ゴミ出し	電球の取り換え	庭掃除	家具の移動	送迎	買い物支援	ペットの世話	話し相手
性別	男性 (n=636)	38.2	23.1	35.2	7.2	3.5	7.2	8.5	6.3	4.7	6.3	4.1	1.9	9.3
	女性 (n=856)	52.1	29.7	27.2	3.9	10.3	12.1	0.4	5.0	0.2	4.6	10.3	2.1	22.4
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	38.6	25.0	37.3	6.6	6.6	9.5	6.6	5.4	3.2	5.4	9.2	2.2	9.2
	70歳～74歳 (n=310)	46.8	27.1	35.5	6.1	8.4	11.6	3.2	7.4	1.9	5.8	9.7	2.9	18.7
	75歳～79歳 (n=429)	47.3	28.7	33.1	5.1	7.0	11.0	3.7	6.8	2.3	6.1	7.5	2.3	20.5
	80歳～84歳 (n=283)	53.7	30.0	21.6	5.3	10.2	11.0	3.2	4.2	2.5	4.6	7.1	0.7	19.4
	85歳～89歳 (n=130)	46.9	21.5	20.0	1.5	3.1	6.2	1.5	2.3	0.0	4.6	2.3	1.5	16.2
	90歳以上 (n=31)	32.3	19.4	9.7	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5

単位：%		民の集まる場所 サロンの地域 り	知識・経験を生か したも	その他	特になし	不明・無回答
性別	男性 (n=636)	1.7	15.7	0.6	30.2	3.0
	女性 (n=856)	2.0	6.2	0.7	24.3	5.7
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	0.9	13.0	0.3	30.7	0.9
	70歳～74歳 (n=310)	3.5	11.6	0.6	27.4	3.2
	75歳～79歳 (n=429)	2.6	11.0	0.5	24.2	4.2
	80歳～84歳 (n=283)	0.7	6.7	1.1	24.7	7.4
	85歳～89歳 (n=130)	1.5	6.2	1.5	27.7	7.7
	90歳以上 (n=31)	0.0	6.5	0.0	38.7	12.9

8. 健康について

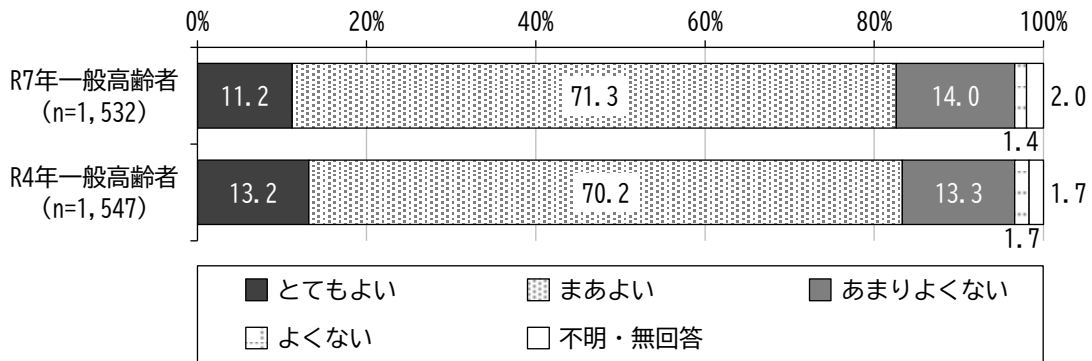
問 43 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『よい』 … 「とてもよい」と「まあよい」の合算

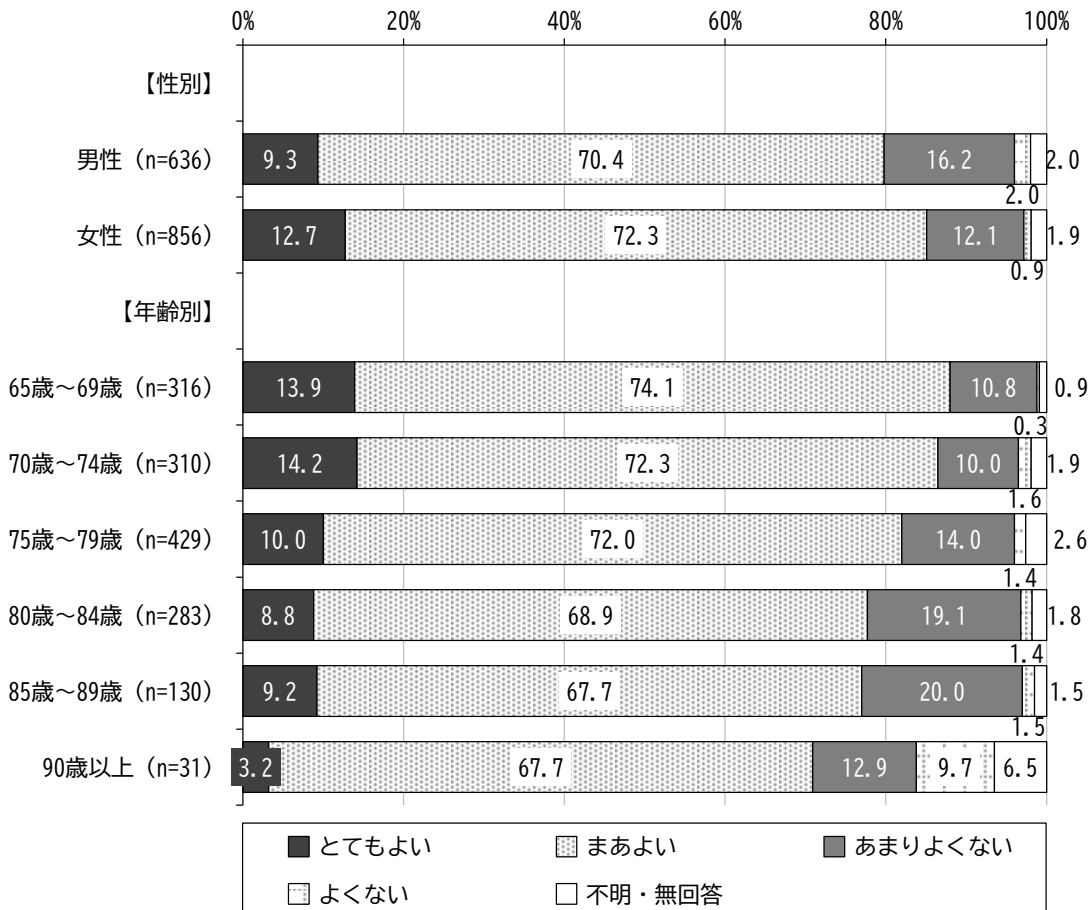
『よくない』 … 「あまりよくない」と「よくない」の合算

『よい』が82.5%、『よくない』が15.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



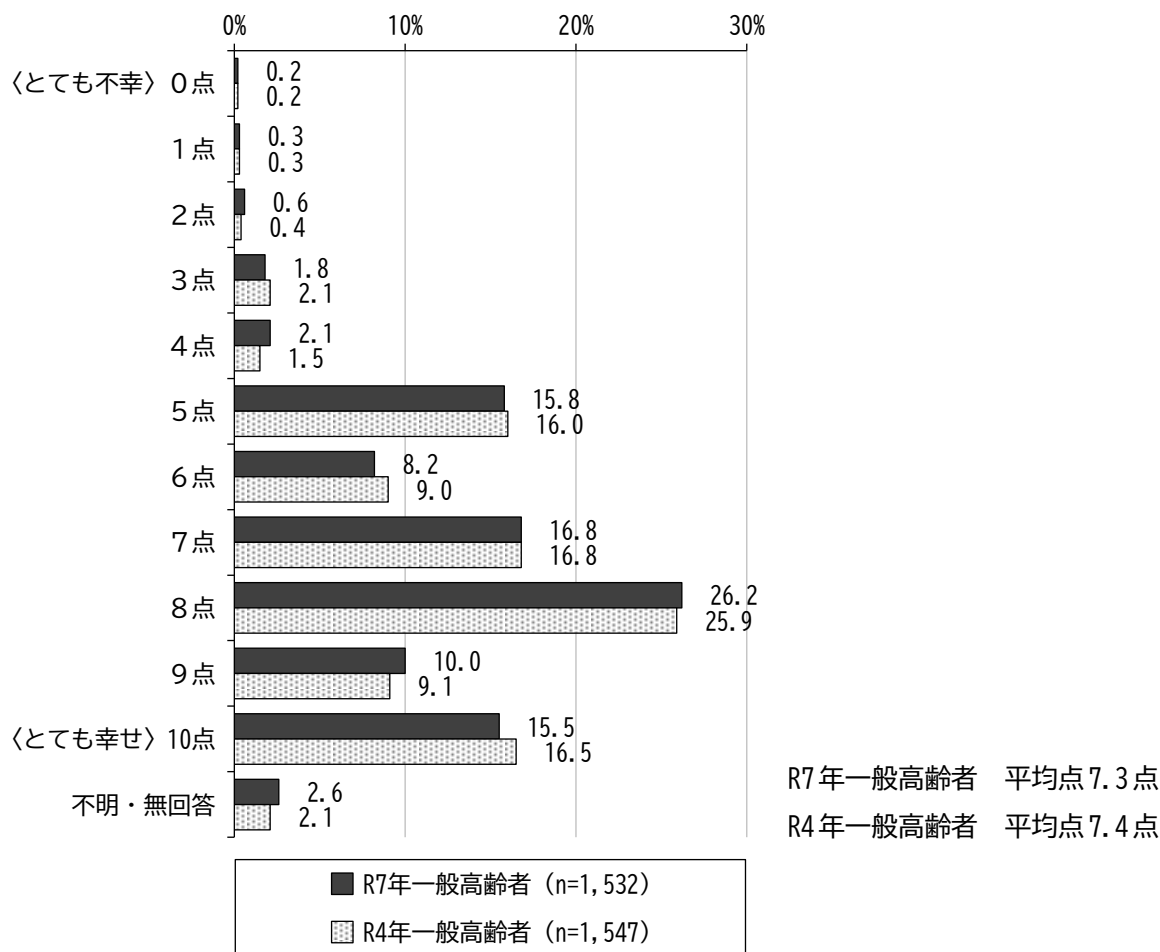
性別でみると、男女ともに「まあよい」が最も高くなっています。

年齢別でみると、いずれの年齢も「まあよい」が最も高くなっています。また、年齢が上がるにつれて『よい』が低くなっています。



問 44 あなたは、現在どの程度幸せですか。(単数回答)

「8点」が26.2%と最も高く、次いで「7点」が16.8%、平均点は7.3点となっています。なお、令和4年度調査の平均点7.4点と比較すると、0.1ポイント低くなっています。



※R7年度調査の平均点7.3点は、「不明・無回答」を除いたn=1,492の平均値です。

※R4年度調査の平均点7.4点は、「不明・無回答」を除いたn=1,515の平均値です。

性別でみると、男女ともに「8点」が最も高くなっています。

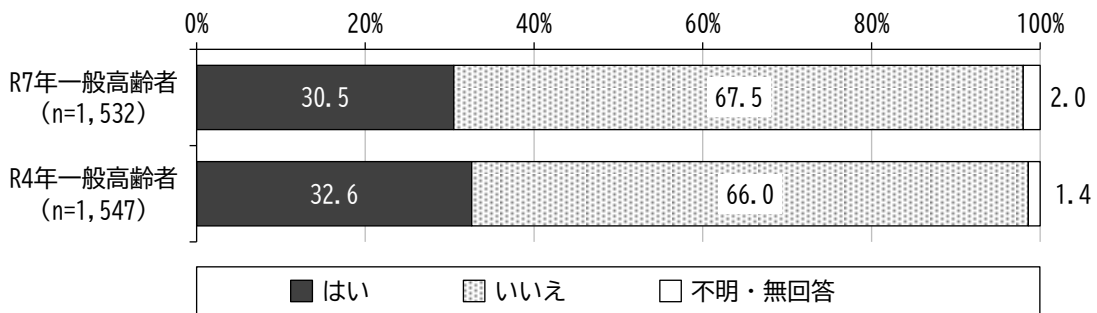
年齢別でみると、65歳～84歳では「8点」、85歳～89歳では「10点」、90歳以上では「7点」が最も高くなっています。

単位：%		〈とても不幸〉	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	〈とても幸せ〉 10点	不明・無回答	平均点
性別	男性 (n=636)		0.0	0.3	0.5	3.0	2.2	19.0	8.6	14.9	27.8	7.4	14.2	2.0	7.2
	女性 (n=856)		0.4	0.2	0.6	0.9	2.1	13.6	7.9	18.3	24.5	12.4	16.1	2.9	7.5
年齢別	65歳～69歳 (n=316)		0.0	0.3	0.9	1.3	2.2	13.0	8.5	15.5	29.7	10.4	17.4	0.6	7.5
	70歳～74歳 (n=310)		0.6	0.3	0.3	1.9	2.3	16.8	10.0	17.7	29.0	8.1	11.0	1.9	7.1
	75歳～79歳 (n=429)		0.0	0.2	0.7	2.1	2.1	17.2	7.2	17.0	24.2	11.0	15.2	3.0	7.3
	80歳～84歳 (n=283)		0.4	0.0	0.4	2.1	1.4	15.9	9.9	16.6	24.0	11.7	13.8	3.9	7.3
	85歳～89歳 (n=130)		0.0	0.8	0.0	0.8	2.3	16.9	4.6	16.2	21.5	9.2	24.6	3.1	7.6
	90歳以上 (n=31)		0.0	0.0	0.0	3.2	3.2	12.9	6.5	22.6	19.4	9.7	16.1	6.5	7.3

※平均値は、各々「不明・無回答」を除いた値です。

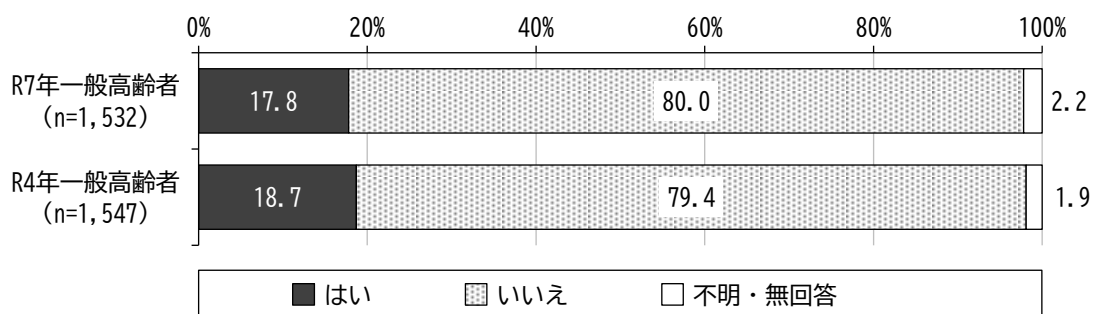
問45 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(単数回答)

「はい」が30.5%、「いいえ」が67.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



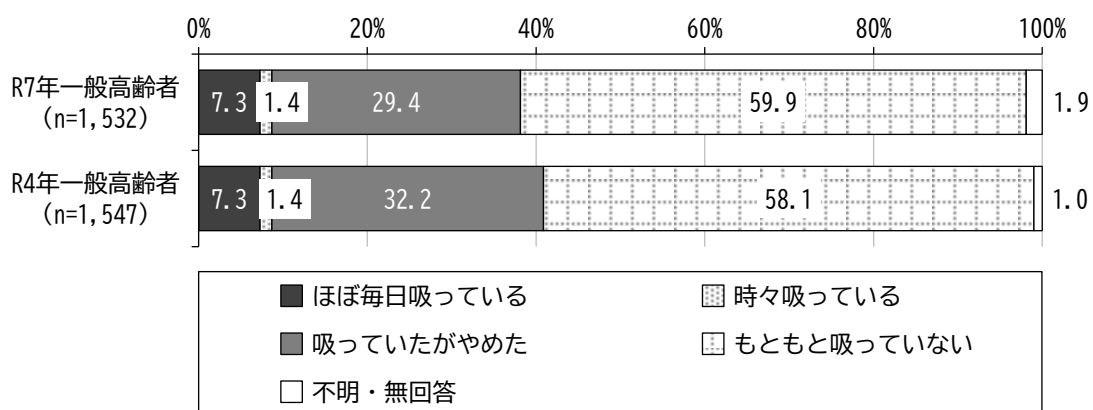
問 46 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(単数回答)

「はい」が17.8%、「いいえ」が80.0%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



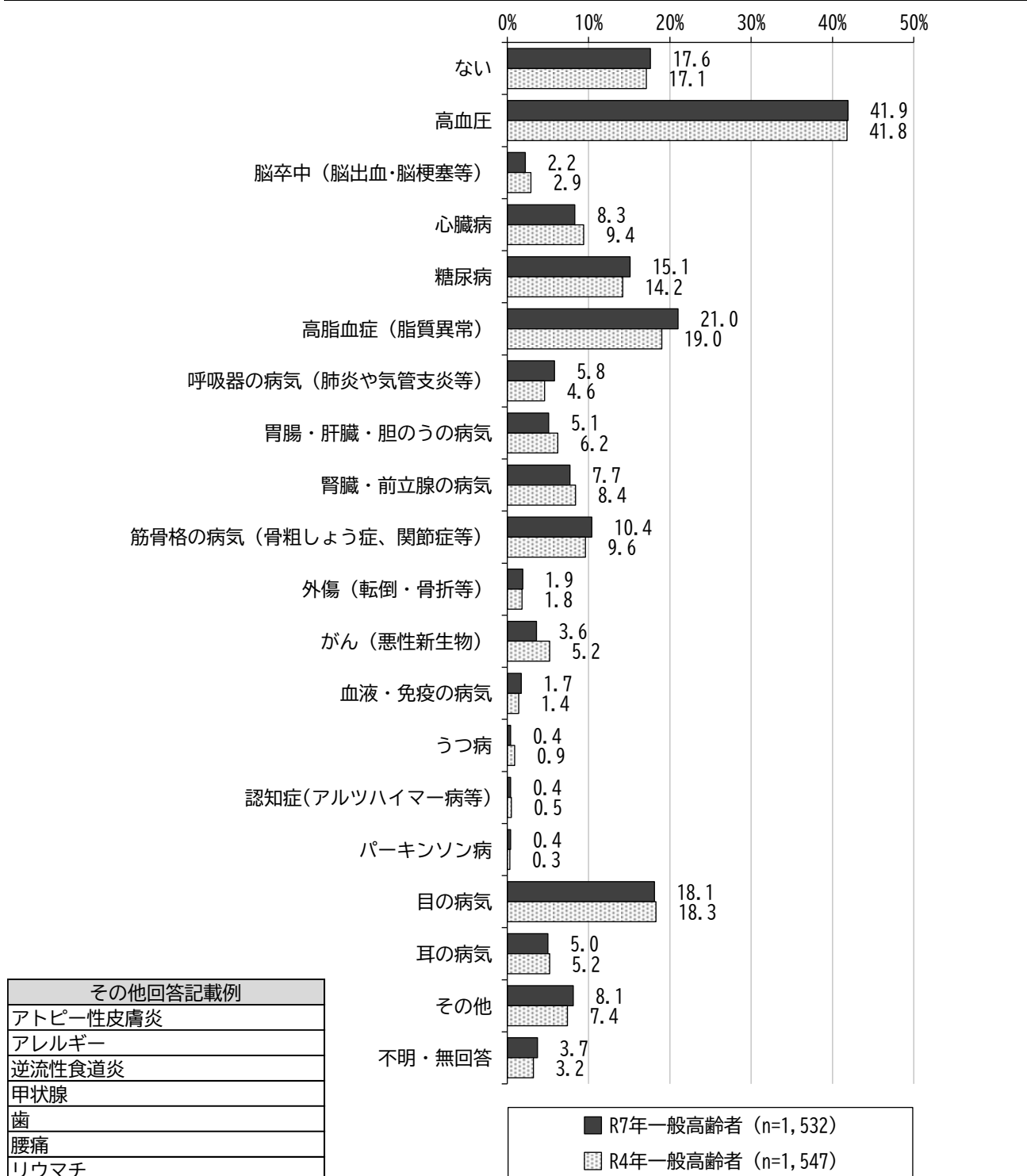
問 47 タバコは吸っていますか。(単数回答)

「もともと吸っていない」が59.9%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が29.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



問 48 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数回答)

「高血圧」が41.9%と最も高く、次いで「高脂血症(脂質異常)」が21.0%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



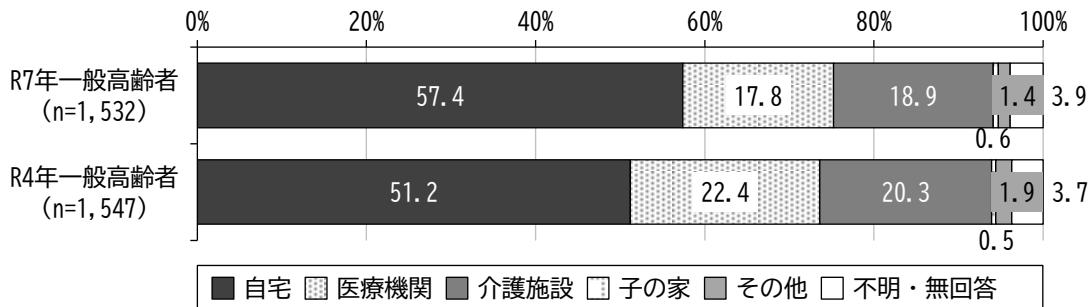
性別でみると、男女ともに「高血圧」が最も高くなっています。

単位：％		ない	高血圧	脳卒中（脳出血・脳梗塞等）	心臓病	糖尿病	高脂血症（脂質異常）	呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等）	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）	外傷（転倒・骨折等）	がん（悪性新生物）	血液・免疫の病気
性別	男性（n=636）	17.0	44.5	3.5	11.8	22.2	15.4	7.4	6.1	14.8	4.2	2.4	3.9	1.9
	女性（n=856）	18.0	40.4	1.3	6.0	9.5	25.2	4.7	4.3	2.2	15.3	1.5	3.4	1.6

単位：％		うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	不明・無回答
性別	男性（n=636）	0.2	0.6	0.3	17.1	7.1	7.1	3.6
	女性（n=856）	0.6	0.2	0.5	18.9	3.7	8.9	3.5

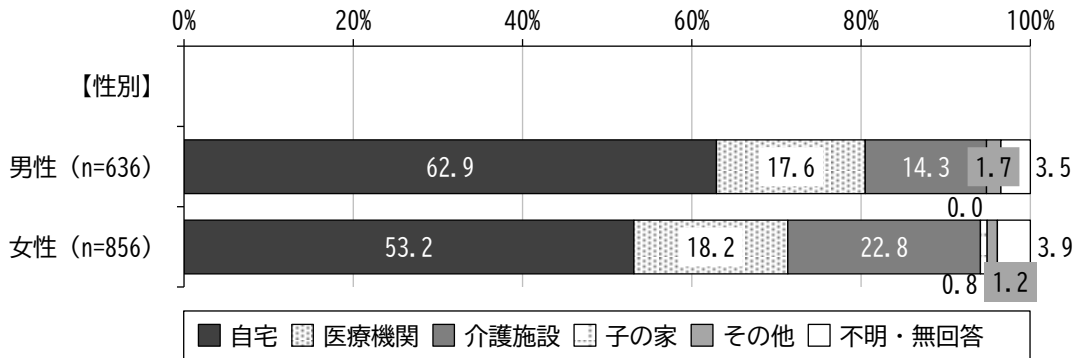
問49 あなたは、医療や介護が必要になったときに、最も過ごしたいところはどこですか。（単数回答）

「自宅」が57.4%と最も高く、次いで「介護施設」が18.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「自宅」が6.2ポイント高くなっています。



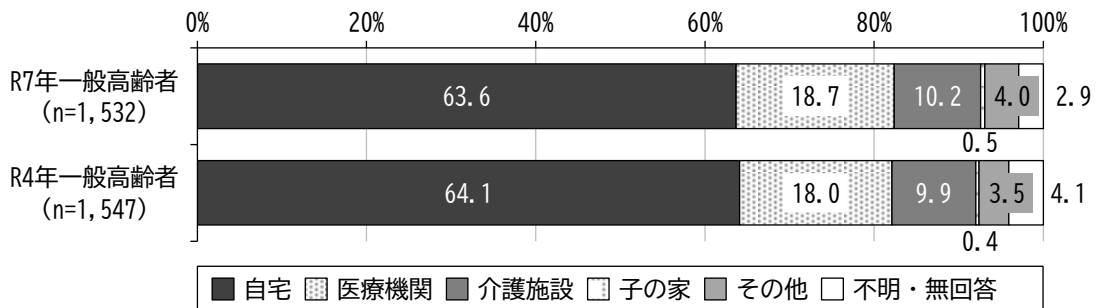
その他回答記載例
事情による。
自分で出来るうちは自宅。できなくなったら施設がよい。
その時の都合に合わせるしかない。
どこでもよい。
まだ考えていない。

性別で見ると、男女ともに「自宅」が最も高くなっています。



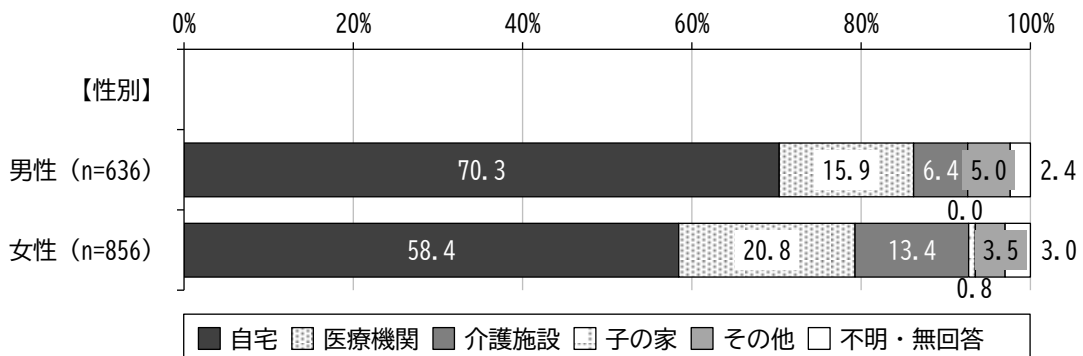
問 50 あなたは、人生の最期をどこで迎えたいですか。(単数回答)

「自宅」が63.6%と最も高く、次いで「医療機関」が18.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



その他回答記載例
考えていない。その時の状況で。
健康状態によるのでわからない。どこでも良いと思う。
特に気にしていない。
どのような最期になるか分からないから決められない。
考えた事がない。

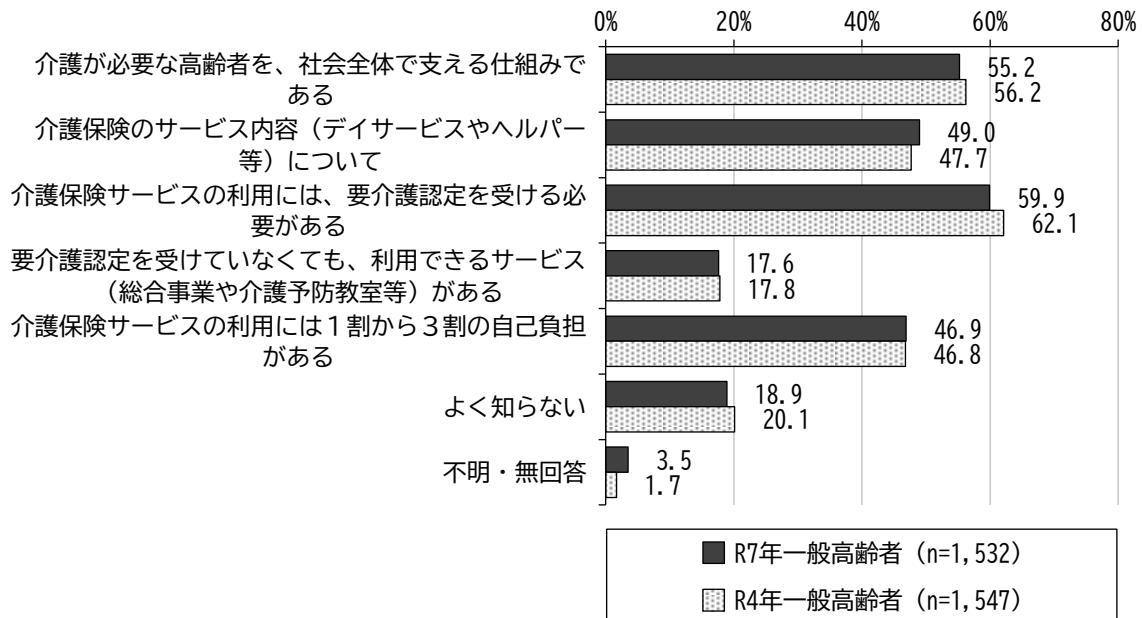
性別で見ると、男女ともに「自宅」が最も高くなっています。



9. 介護保険制度について

問 51 介護保険制度について、あなたが知っているものはどれですか。(複数回答)

「介護保険サービスの利用には、要介護認定を受ける必要がある」が59.9%と最も高く、次いで「介護が必要な高齢者を、社会全体で支える仕組みである」が55.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



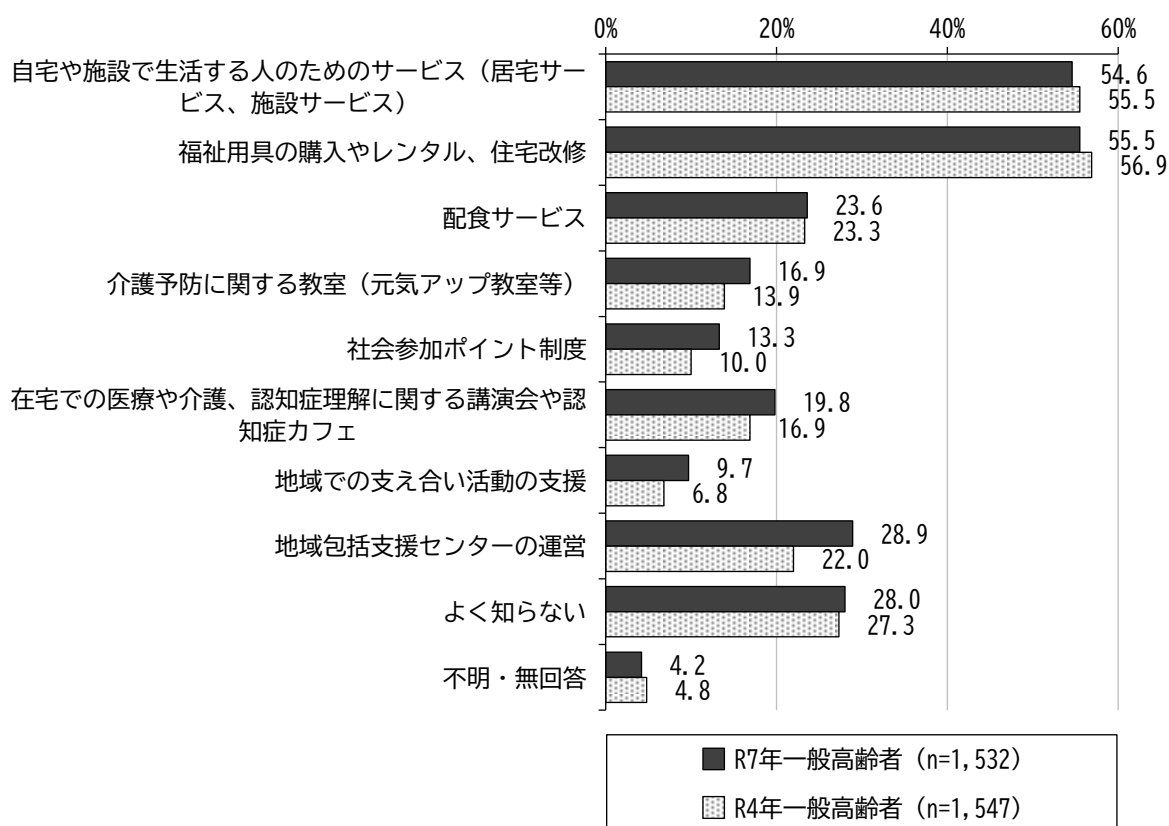
性別でみると、男性では「介護が必要な高齢者を、社会全体で支える仕組みである」、女性では「介護保険サービスの利用には、要介護認定を受ける必要がある」が最も高くなっています。

年齢別でみると、65歳～89歳では「介護保険サービスの利用には、要介護認定を受ける必要がある」、90歳以上では「介護が必要な高齢者を、社会全体で支える仕組みである」「介護保険サービスの利用には1割から3割の自己負担がある」が最も高くなっています。

単位：%		介護が必要な高齢者を、社会全体で支える仕組みである	介護保険のサービス内容（デイサービスやヘルパー等）について	介護認定を受ける必要がある	も、介護認定を受けていない（総合事業や介護予防教室等）がある	介護保険サービスの自己負担には1割から3割	よく知らない	不明・無回答
性別	男性 (n=636)	54.9	40.4	51.6	12.7	40.9	23.7	3.0
	女性 (n=856)	56.1	56.0	66.8	21.5	51.8	15.0	3.3
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	57.3	51.3	64.9	18.4	46.2	21.8	1.6
	70歳～74歳 (n=310)	57.4	55.5	65.5	23.5	48.4	16.5	1.9
	75歳～79歳 (n=429)	55.7	49.0	58.7	15.9	42.4	18.2	3.7
	80歳～84歳 (n=283)	55.1	47.3	59.4	18.4	54.8	16.6	4.9
	85歳～89歳 (n=130)	47.7	36.2	48.5	6.9	42.3	23.8	3.8
	90歳以上 (n=31)	48.4	35.5	32.3	16.1	48.4	22.6	6.5

問 52 介護保険料の使われ方で、あなたが知っているものはどれですか。(複数回答)

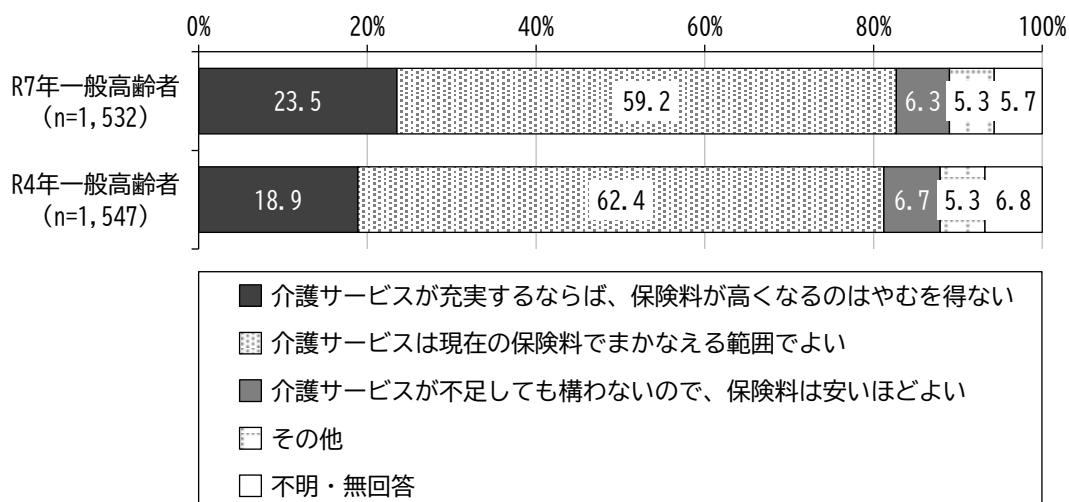
「福祉用具の購入やレンタル、住宅改修」が55.5%と最も高く、次いで「自宅や施設で生活する人のためのサービス（居宅サービス、施設サービス）」が54.6%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「地域包括支援センターの運営」が6.9ポイント高くなっています。



※R7年度調査の選択肢「福祉用具の購入やレンタル、住宅改修」は、R4年度調査では「福祉用具の購入やレンタル、住宅改修、介護用品助成」となっています。

問 53 今後の介護保険料のあり方について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。
(単数回答)

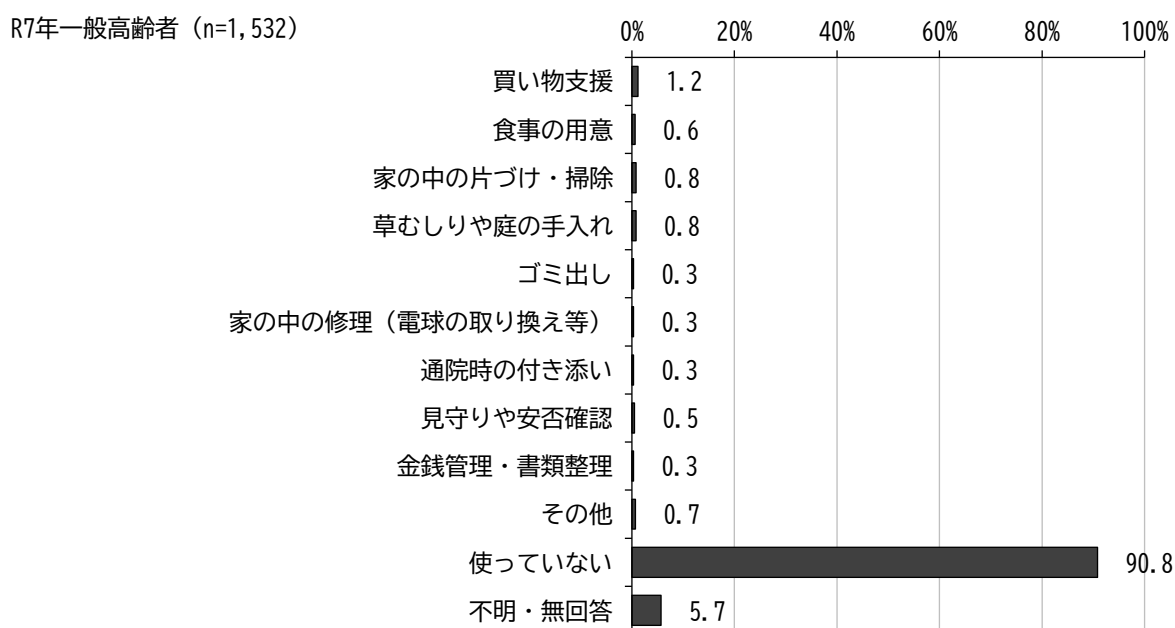
「介護サービスは現在の保険料でまかなえる範囲でよい」が59.2%と最も高く、次いで「介護サービスが充実するならば、保険料が高くなるのはやむを得ない」が23.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



その他回答記載例	
介護サービス充実で保険料アップでは困る人が多いと思う。	
介護サービスの充実はしてほしいが、年金生活で保険料が高くなると生活が苦しい。	
介護サービスは充実し、保険料は安いほどよい。	
介護保険料の使われ方を知らなかった！	
詳しく知らないのでわからない。	
現在の保険料でいかに介護サービスを充実させるかの努力。	

問54 あなたが日常生活で使っている支援(サービス)はどれですか。(3つまで複数回答)

「使っていない」が90.8%と最も高く、次いで「買い物支援」が1.2%となっています。

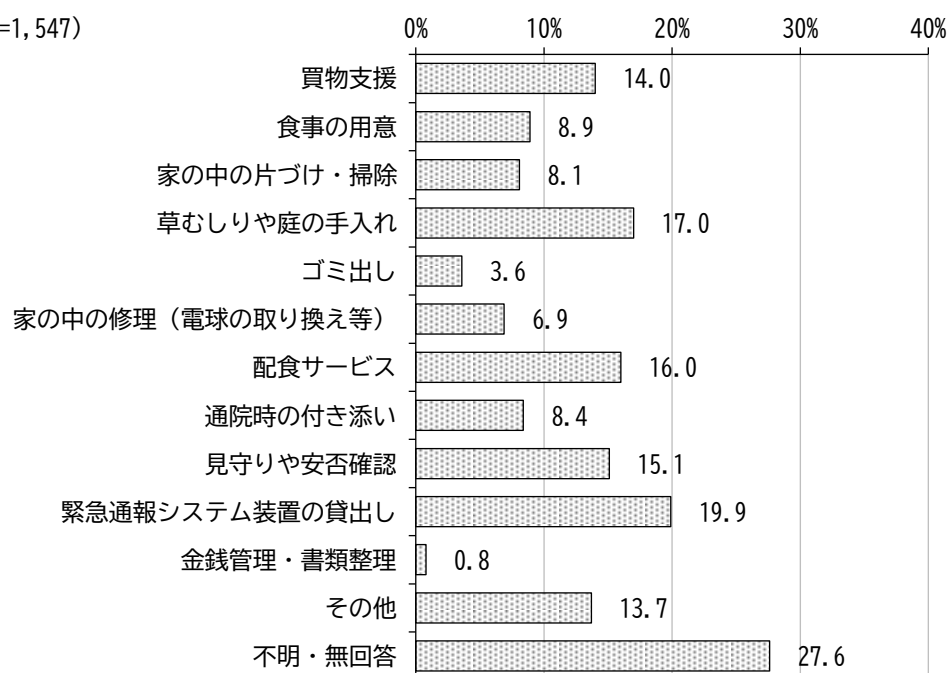


日常生活圏域別で見ると、北部・南部ともに「使っていない」が最も高くなっています。

単位：%		買い物支援	食事の用意	家の中の片づけ・掃除	草むしりや庭の手入れ	ゴミ出し	家の中の修理（電球の取り換え等）	通院時の付き添い	見守りや安否確認	金銭管理・書類整理	その他	使っていない	不明・無回答
日常生活圏域別	北部 (n=822)	1.3	1.0	1.2	1.2	0.5	0.4	0.5	0.6	0.5	1.0	89.7	5.8
	南部 (n=676)	1.0	0.1	0.4	0.4	0.1	0.1	0.1	0.4	0.1	0.3	92.5	5.0

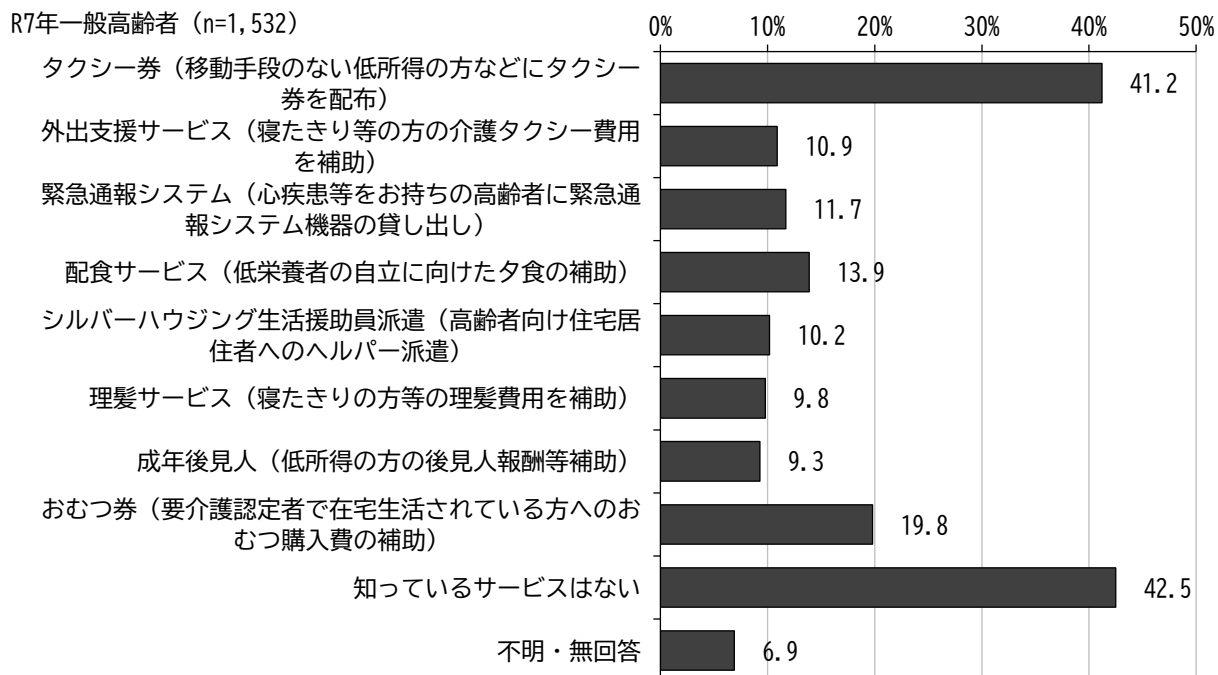
□参考値：設問 あなたが日常で使っている（使いたい）支援（サービス）はどれですか。（複数回答）

R4年一般高齢者 (n=1,547)



問 55 町が実施している高齢者福祉サービスを知っていますか。(複数回答)

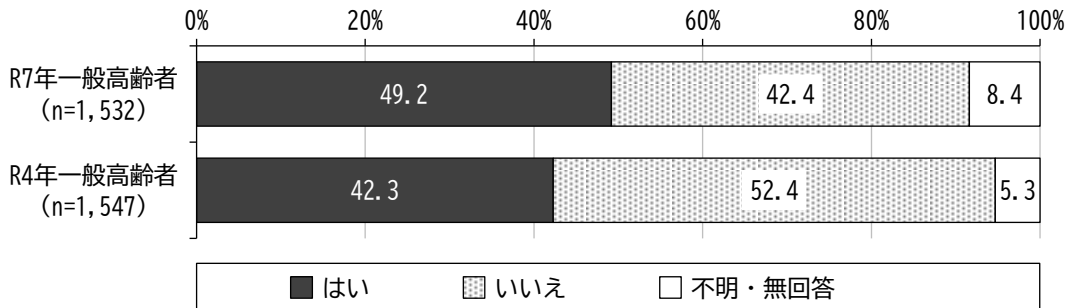
「知っているサービスはない」が42.5%と最も高く、次いで「タクシー券（移動手段のない低所得の方などにタクシー券を配布）」が41.2%となっています。



10. 地域包括支援センターについて

問 56 あなたは、地域包括支援センターを知っていますか。(単数回答)

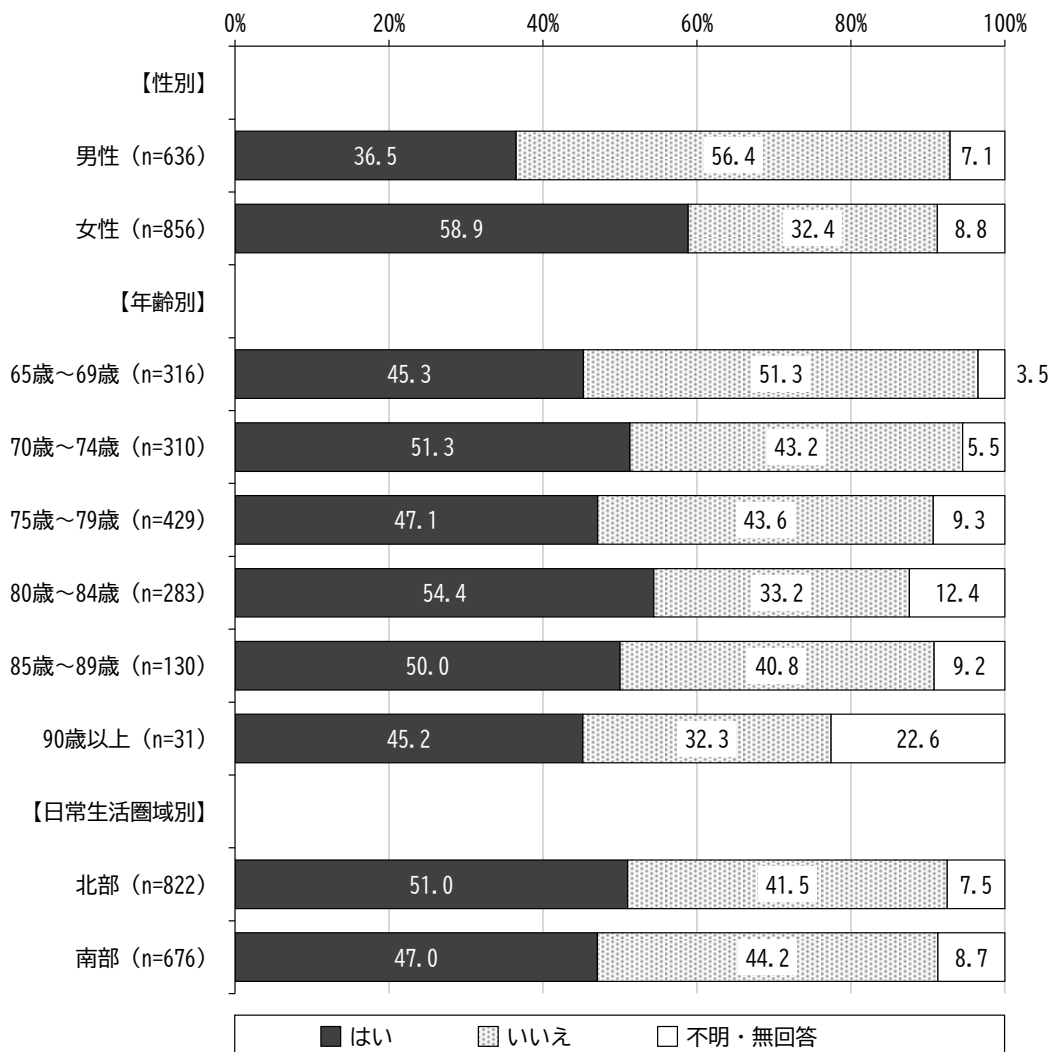
「はい」が49.2%、「いいえ」が42.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「はい」が6.9ポイント高く、「いいえ」が10.0ポイント低くなっています。



性別でみると、男性では「いいえ」、女性では「はい」が高くなっています。

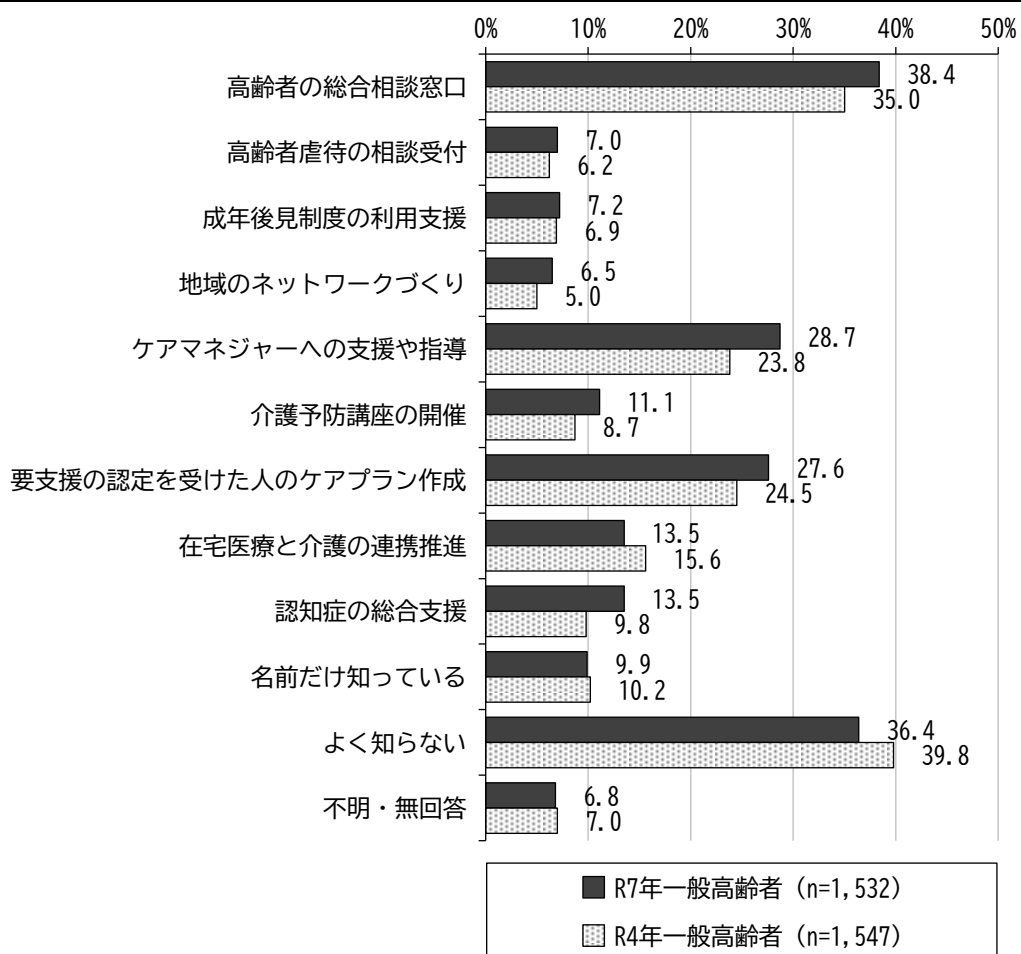
年齢別でみると、65歳～69歳では「いいえ」、70歳以上では「はい」が高くなっています。

日常生活圏域別でみると、北部・南部ともに「はい」が高くなっています。



問 57 あなたが、地域包括支援センターの役割として知っているものはどれですか。
(複数回答)

「高齢者の総合相談窓口」が38.4%と最も高く、次いで「よく知らない」が36.4%となっています。
なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別でみると、男性では「よく知らない」、女性では「高齢者の総合相談窓口」が最も高くなっています。

年齢別でみると、65歳～74歳では「よく知らない」、75歳以上では「高齢者の総合相談窓口」が最も高くなっています。

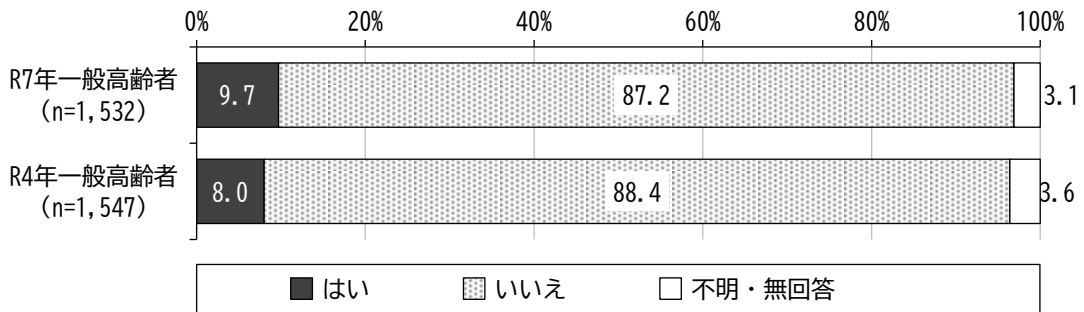
日常生活圏域別でみると、北部では「高齢者の総合相談窓口」、南部では「よく知らない」が最も高くなっています。

単位：%		高齢者の総合相談窓口	高齢者虐待の相談受付	成年後見制度の利用支援	地域のネットワークづくり	ケアマネジャーへの支援や指導	介護予防講座の開催	要支援のケアプランを作成した人の割合	在宅医療と介護の連携推進	認知症の総合支援	名前だけ知っている	よく知らない	不明・無回答
性別	男性 (n=636)	27.0	4.7	5.2	4.1	21.2	6.8	17.1	9.3	8.6	8.5	51.4	6.8
	女性 (n=856)	47.1	8.9	8.8	8.3	34.1	14.1	35.5	16.6	17.1	10.9	25.4	6.3
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	33.2	7.6	5.7	7.3	32.3	9.5	30.1	14.6	11.7	6.6	46.5	5.1
	70歳～74歳 (n=310)	36.5	7.1	5.8	6.8	28.7	11.9	29.7	14.5	14.8	10.0	38.1	4.8
	75歳～79歳 (n=429)	38.2	5.6	9.1	6.3	26.1	10.7	26.8	11.7	12.4	11.7	34.5	7.7
	80歳～84歳 (n=283)	46.3	9.5	8.8	6.7	31.1	14.1	27.2	15.5	16.6	11.7	29.7	6.0
	85歳～89歳 (n=130)	35.4	5.4	4.6	3.8	23.8	6.9	21.5	7.7	13.1	10.0	34.6	8.5
	90歳以上 (n=31)	51.6	9.7	9.7	6.5	19.4	9.7	19.4	19.4	12.9	3.2	22.6	22.6
日常生活圏域別	北部 (n=822)	41.4	6.3	7.3	6.6	28.3	11.3	29.0	14.1	14.5	8.9	35.5	6.6
	南部 (n=676)	34.8	8.1	7.2	6.4	28.7	10.8	26.0	12.6	12.6	11.4	37.6	6.7

11. 認知症について

問 58 あなたは、認知症の症状がありますか。または、家族に認知症の症状がある人がいますか。(単数回答)

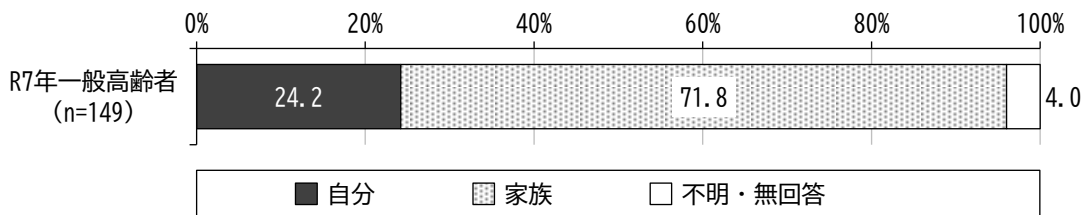
「はい」が9.7%、「いいえ」が87.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【問 58 で「はい」と回答した方のみ】

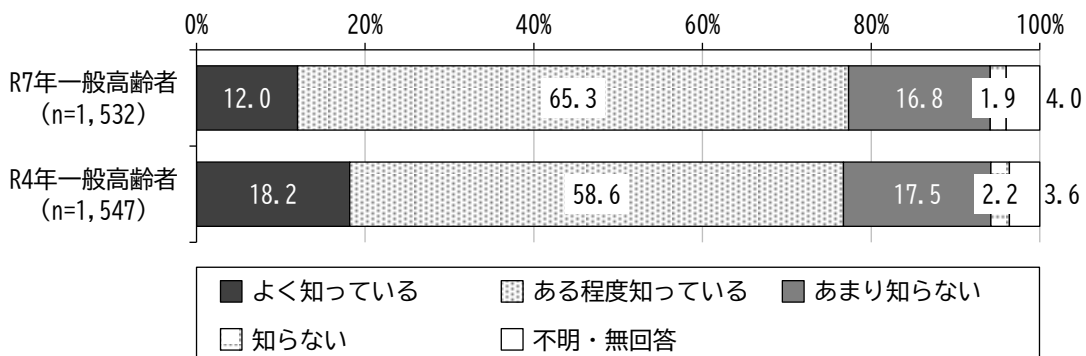
問 58-1 認知症の症状があるのはどなたですか。(単数回答)

「自分」が24.2%、「家族」が71.8%となっています。



問 59 あなたは、認知症について知っていますか。(単数回答)

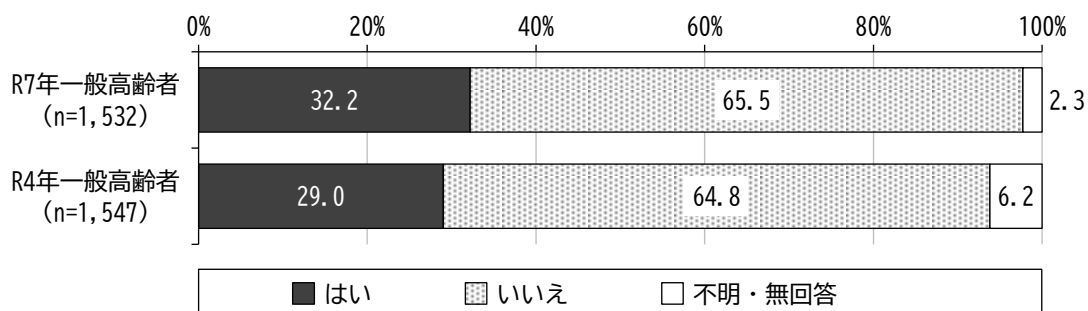
「ある程度知っている」が65.3%と最も高く、次いで「あまり知らない」が16.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「ある程度知っている」が6.7ポイント高く、「よく知っている」が6.2ポイント低くなっています。



※R7年度調査の選択肢「よく知っている」「ある程度知っている」「あまり知らない」は、R4年度調査では「どのような症状がよく知っている」「どのような症状がある程度知っている」「言葉ぐらいは知っている」となっています。

問 60 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(単数回答)

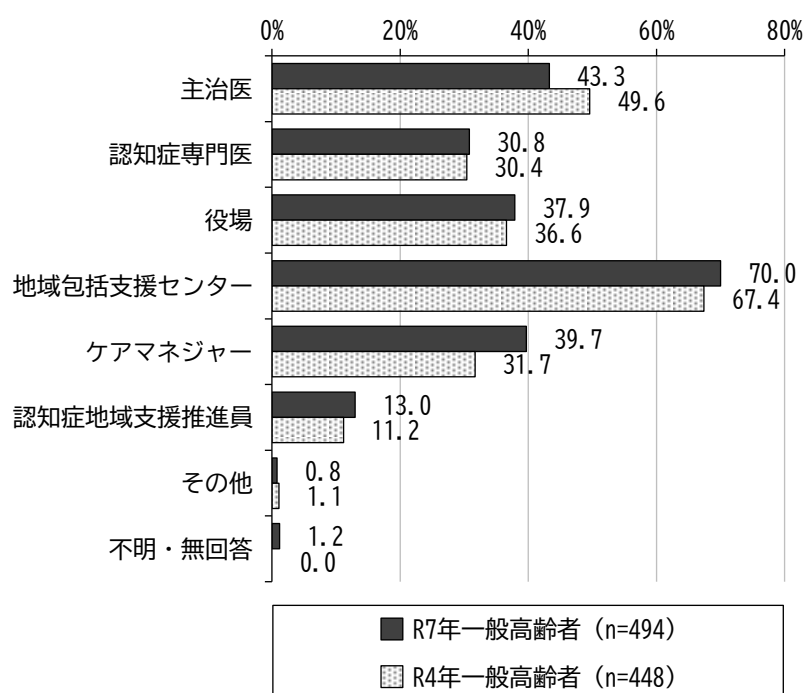
「はい」が32.2%、「いいえ」が65.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【問 60 で「はい」と回答した方のみ】

問 60-1 認知症に関する相談窓口として知っているものはどれですか。(複数回答)

「地域包括支援センター」が70.0%と最も高く、次いで「主治医」が43.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「ケアマネジャー」が8.0ポイント高く、「主治医」が6.3ポイント低くなっています。

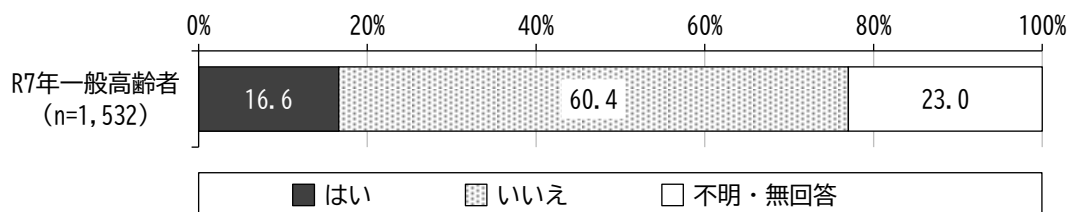


その他回答記載例

家族・老人会の友達といつも話し合うから。
知らない。
知っているが詳しくない。

問 61 地域生活の様々な場面において、認知症の人が尊重され、本人が望む生活が継続できていると考えますか。(単数回答)

「はい」が16.6%、「いいえ」が60.4%となっています。



問 61-1 問 61 でそう考えるのはなぜですか。(記述回答)

問 61 で「はい」を選んだ方の記述回答者数は127名、「いいえ」を選んだ方の記述回答者数は364名で、内容は以下のとおりとなっています。

■問61で「はい」を選んだ方

カテゴリ	件数
地域の支援体制	34
認知症への理解	20
近隣住民の協力	10
本人の意思尊重	10
デイサービス利用	9
家族の支援	7
介護施設の活用	7
わからない	6
その他	27
計	130

■問61で「いいえ」を選んだ方

カテゴリ	件数
認知症の実態が不明、理解不足	67
支援制度の不十分	43
身近に認知症の人がいない	42
本人の意思尊重の困難さ	39
家族・介護者の負担	36
社会的差別・偏見	20
対応の難しさ	17
わからない	38
その他	62
計	364

※カテゴリが複数に該当の場合があります。

【問 61 で「はい」を選んだ方】

■地域の支援体制

そう考える具体的な理由	記載例
地域の北部、南部の包括支援センターに相談できる。	
対応する人・サービスがある。	
現実に認知症の人が様々なサポートを受けている例を知っている。	
相談窓口が充実している。そこに相談に行けば、必要な支援を一緒に考えてもらえる。	

■認知症への理解

そう考える具体的な理由	記載例
オレンジリーダーを育てている。	
老人会に参加する時認知症の方にやさしく説明されている。	
認知症という病気を知っているから。	
認知症への理解が進んできているから。痴呆という名称が使われなくなり、誰もが発症するリスクがあることも皆が認識するようになった。	

■近隣住民の協力

そう考える具体的な理由	記載例
皆、本人に対して協力的である。	
グラウンドゴルフを行っていますが、皆が協力して支えている。	

そう考える具体的な理由 記載例
妻が発症時に自宅両隣の人に助けられた。スーパーでの買い物時も理解ある人に助けられた。
近隣の人がそれなりに対応してくれている。

■本人の意思尊重

そう考える具体的な理由 記載例
生活スタイルを変えたくない。
本人の意思を聞いてくれる人がいるので。
我が家では、尊重し、本人が望む生活をしています。
本人の考え方による。

■デイサービス利用

そう考える具体的な理由 記載例
デイサービスに行くことで認知症が進むことが遅らせられ今の生活を楽しめているから。
近くに認知症の人がいるが、デイサービス等も行かれているから。
デイサービスなどが整っている。
福祉施設でのデイサービス、ショートステイなど支援してくれている。家族での介助しているから、まあ望む生活かどうか分からないが、何とか成り立っていると思う。

■家族の支援

そう考える具体的な理由 記載例
他は知らないが自分は娘が介護の仕事をしていたので認知症になっても不安なく自宅で生活できると思う。
認知症の人を家族や関係者でサポートする事に皆が協力しているから。
家族の負担の軽減。
家族と同居しているので助けられている。

■介護施設の活用

そう考える具体的な理由 記載例
介護施設の利用やケアマネジャーの協力など社会全体で支えることができる。
義母が亡くなる前の何年か、ケアマネジャーはじめ介護施設の方々のお世話になってありがたいことだと感じていた。
認知症になられた方が介護施設に入りお世話になり家族も普段の生活が続けられていると思います。
町内に専門の介護施設がある。

■わからない

そう考える具体的な理由 記載例
回りに対象の人がいないので、よく分かりません。
わからないのではいと記入しました。きっと関係者で考えて実施しているのでしょうからベストに向かっていっていると信じて！
自分の家のことしか分かりません。
よくわからないからそうではないかと思えます。

■その他

そう考える具体的な理由 記載例
テレビ等で報道されるのを見てケアされていると思う。
将来自分の現状を改善すれば全て良好だと思われる。
理想だから。
助けを借りてそうなれば良いと考えます。

【問 61 で「いいえ」を選んだ方】

■認知症の実態が不明、理解不足

そう考える具体的な理由 記載例
実態や内容を把握していないので判断が難しい。
認知の程度が他人に理解できるとは思えない。
具体的に理解していない。
認知症サポートの実情をよく知らない。

■支援制度の不十分

そう考える具体的な理由 記載例
認知症に対する支援サービスが充実していると思えない。知らないだけかもしれないけど。
人材不足や経済的な事。
支援制度をもっと充実するべき。
低所得生活に安価な施設がない。

■身近に認知症の人がいない

そう考える具体的な理由 記載例
実感が持てない（周りにそういった患者がいない為）。
今の所、目に見えない。自分の近くにその環境が無い。
認知症の方を見かけない。
認知症の人と出会うことがないのでそういう方がどれ位おられるのか？実際はどれくらいおられているのでしょうか。

■本人の意思尊重の困難さ

そう考える具体的な理由 記載例
認知症になったら本人も分からなくなるから望む生活が無理かなと思います。
家族の事情であったり、環境面で本人の意思が通らない事があると思います。
本人が自宅で生活したいと思っても、どうしても無理で施設に入っている人を知っているから…自宅での生活が無理なので仕方ないですが…。
本人が望む生活がどういうものが周りの人が理解しにくいのでは。

■家族・介護者の負担

そう考える具体的な理由 記載例
家族が全ての面倒が見切れないと感じる時があるから。
認知症にも色々あり、家の事が何も出来ない主人の事を考えると私が倒れた時心配な事が多い。
私のマンションの不自由な方を2~3人見かけるが、その人の子供達が時間をやりくりして見ている様に見える。
家族の手におえなくなるとやはり施設に入れるという話をよく聞くから。

■社会的差別・偏見

そう考える具体的な理由 記載例
認知症の人が尊重されているという話を聞いた事が無い。
「認知症」の一言で病人扱い・差別の対象になっていると感じている。大体厄介者扱いを受けている様子。
全国的に見て認知症や障害者が大切にされているとは考えられない。就職など人として差別されているのが現状。
認知症に対する偏見や誤解など、社会全体での受け入れ態勢が不十分だと感じるから。

■対応の難しさ

そう考える具体的な理由	記載例
	自分自身が認知症の理解ができず対応ができない（自分がイライラしたりおこったりしてしまう）のでそう思う。
	他社との意見疎通が難しくなり、摩擦が生じる事によって継続は出来ない。予防と初期段階で治療が必要。
	認知症対応は介護士でも難しいと思う。
	本人や家族が認知症である事を公言していなければ、声かけや手助けはしづらい。

■わからない

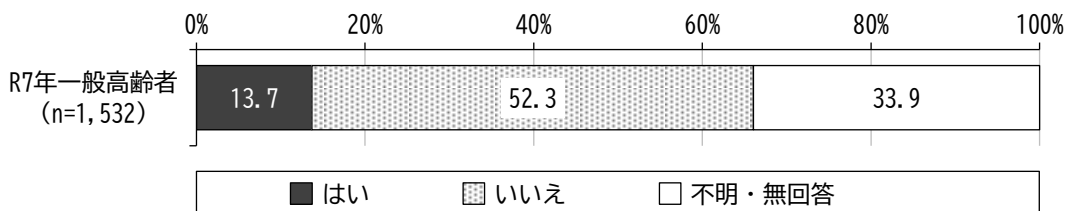
そう考える具体的な理由	記載例
	経験が無いので、参加してないので、分からない。
	認知症には人それぞれ違うと言われても何がどうだか分からない。
	わからない(町の対応)。
	具体的にわかりません。

■その他

そう考える具体的な理由	記載例
	進行していくから。
	やはりある程度の不便は有ると思う。
	選択の余地がない。
	1人暮らしなので、認知症になった時の生活が想像できない。

問 62 東郷町は、認知症の人が自分らしく暮らせるまちになっていると思いますか。
(単数回答)

「はい」が13.7%、「いいえ」が52.3%となっています。



問 62-1 問 62 でそう思うのはなぜですか。(記述回答)

問 62 で「はい」を選んだ方の記述回答者数は 89 名、「いいえ」を選んだ方の記述回答者数は 309 名で、内容は以下のとおりとなっています。

■問62で「はい」を選んだ方

カテゴリ	件数
地域の支援体制	29
事例について	14
家族・近隣のサポート	7
認知症への理解・啓発	6
わからない	10
その他	23
計	89

■問62で「いいえ」を選んだ方

カテゴリ	件数
地域の支援体制	41
事例について	35
認知症への理解・啓発	25
行政サービスへの不満	23
家族・近隣のサポート	12
外出・交通の不便	11
わからない	79
その他	83
計	309

【問 62 で「はい」を選んだ方】

■地域の支援体制

そう思う具体的な理由 記載例
デイサービスが充実していると思う。
町を社教が地域活動に目を向けて色々勉強会を町民に声かけ等普及してるからです。
町役場が導いていただける。包括センターの方々が一生涯懸命やってくれる。
相談窓口が充実していると思うため。

■事例について

そう思う具体的な理由 記載例
今は亡き主人が色々なサービスを受けて感謝してますので、色々と知りました。
近くの人が認知症でそのケアを見ているから。
入所した母が楽しそうに過ごしていたからです。
友達から聞いて。

■家族・近隣のサポート

そう思う具体的な理由 記載例
老人会の時認知症の方がいつも笑顔で会話に入っているから。
東郷町は家族やご近所仲間の結びつきが強い地域だから。
東郷町民は初対面の人でも気軽の声掛けをしている場面をよく見るから。
認知症の人、その家族が集まって、話し合える場所が多い。

■認知症への理解・啓発

そう思う具体的な理由 記載例
いろんな講習会で皆が参加しているのである程度知識がある。
以前より、認知症に関心がある人が増えているし、勉強する機会が多いから。
充分と思いますが、もっと認知症の知識のPRが必要と思う。
認知症の人のサポートがよくできている。

■わからない

そう思う具体的な理由 記載例
よく分からない。
体験していないので分からない。
自分の家のことしか分かりません。
よくわからないからそうではないかと思います。

■その他

そう思う具体的な理由 記載例
今のところ困っていることがないので。
希望的な判断で答えました。
近所で行方不明のままという方がいないから。
なってきたらあると思う。

【問 62 で「いいえ」を選んだ方】

■地域の支援体制

そう思う具体的な理由	記載例
認知症の受け入れ先施設が少ない。	
認知症の人が自分らしく暮らせる制度がない。	
認知症の方への支援が少ないから。	
相談窓口があってもその後のフォローがない。	

■事例について

そう思う具体的な理由	記載例
前述の知人の様子で限界を感じる。	
身近に認知症の人がいないから、現状がどうか見当つかない。	
介護施設の実態がわかっていない。本人でなく、家族の意見が尊重されている。	
身近にいる独居生活の老人を見ていて思う。	

■認知症への理解・啓発

そう思う具体的な理由	記載例
認知症がそれ程理解できていると思えない。	
どこまでが認知症なのか分からない。	
家族が世間の偏見を気にする為、家の中へ閉じ込めてしまいその様な病に苦しんでいる人が顕在化しない。	
地域が認知症について理解されるよう深める発信や活動は行われているものの、当事者が真に暮らしやすい環境づくりには未だ至っていない。	

■行政サービスへの不満

そう思う具体的な理由	記載例
東郷町だけでなく、日本中どこでもだと思いますが、お互いがこの件で優良な自治体から学ばないといけないのではないのでしょうか。	
町に限らず国（政府）や社会の考え方並びに不十分な支援・社会保障の不十分。予算の使い方の大きな変更。	
役場は実務を住民頼りの仕事になっているケースが多いように思う。	
近隣の市町村に比べて、あらゆる点において予算不足。方針に工夫が不足しており何も前進しない、やってくれない町との印象が強い。	

■家族・近隣のサポート

そう思う具体的な理由	記載例
まだまだ使用する人が少ないと思う。昔からの風習で家族が面倒を見る。人に知られたくないと思われる。	
認知症の人を家族ばかりでなし他人でも介護を助ける必要がある。介護者がほっとする時間は絶対必要である。でも現実には難しいと思う。	
家庭の中に認知症の家族がいると、自分らしく生活を求めるより、日常のお世話で精いっぱい余裕がなく、支える側の支援が必要である。	
若年層の認知症の集まる場がない為、行き場がなく家族と家でずっと一緒にいないといけない。サロンの様な集まる場所がない。	

■外出・交通の不便

そう思う具体的な理由	記載例
もし自分がそうになったら、安全な歩行やバスの乗車・役所のサイン・バリアフリー等、全く生きて行くのは不可能だろう。	
公民館・いこまい館・病院（東郷町）に行く機会がありますが、他市より優しくない気がします。少し時間がかかるかも。	

そう思う具体的な理由 記載例
東郷町の大きな問題点は交通機関である。巡回くんの本数が少なすぎて使えない。
買い物をするにしても車がないと生活することが難しいのではないかと思います。

■わからない

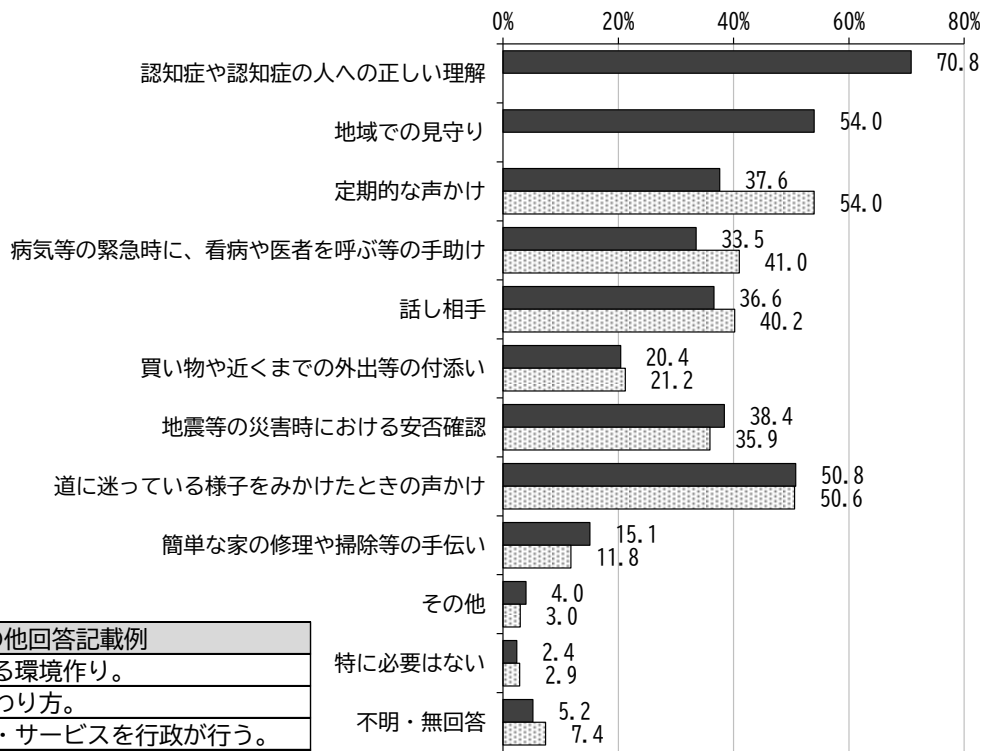
そう思う具体的な理由 記載例
どういう暮らしが出来れば自分らしく暮らしているとするのか、よく分からない。
分からない。考えた事がないし、調べる事もないから。
何を必要としているのか詳しく情報を得ていないので分からない（まだ今は元気であるため）。
自分自身、身内・近所に対象者がいないので全く実情が分かっていないので「いいえ」とした。

■その他

そう思う具体的な理由 記載例
問いの意味を理解できない。自分らしく生きたいと思ったら認知症になったらアウトだと思うのに。
暮らせる町になっているとは何かあるのですか？
未だ道半ばだと思う。
この町全体がその様な雰囲気になってない様に思う。

問 63 あなたは認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくためには、どのような地域住民の協力があるとよいと思いますか。（複数回答）

「認知症や認知症の人への正しい理解」が70.8%と最も高く、次いで「地域での見守り」が54.0%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「定期的な声かけ」が16.4ポイント、「病気等の緊急時に、看病や医者を呼ぶ等の手助け」が7.5ポイント低くなっています。



その他回答記載例
「失敗」を許容する環境作り。
家族の人とのかかわり方。
行政手続の簡素化・サービスを行政が行う。
協力できる限度があると思う。
認知症の人がいる家族へのフォロー。
難しく、良い方法がわかりません。

※選択肢：「認知症や認知症の人への正しい理解」「地域での見守り」はR7年度調査のみとなっています。

年齢別でみると、いずれの年齢も「認知症や認知症の人への正しい理解」が最も高くなっています。
 日常生活圏域別でみると、北部・南部ともに「認知症や認知症の人への正しい理解」が最も高くなっています。

単位：%		正しい認知症や認知症の人への理解	地域での見守り	定期的な声かけ	や病気等の緊急時に、看病や医師を呼ぶ等の手助け	話し相手	買い物の付添いや近くまでの外出	地震等の災害時における安否確認	道に迷っている様子を見かけたときの声かけ	簡単な家の修理や掃除等の手伝い	その他	特に必要はない	不明・無回答
年齢別	65歳～69歳 (n=316)	71.2	59.5	38.3	36.4	35.1	23.7	43.4	50.6	18.0	3.2	4.1	1.9
	70歳～74歳 (n=310)	73.2	55.5	40.6	35.8	36.1	22.6	41.9	50.6	19.0	3.9	2.3	2.6
	75歳～79歳 (n=429)	71.1	52.4	35.2	29.6	35.7	18.6	36.6	52.2	12.4	5.1	2.1	5.4
	80歳～84歳 (n=283)	70.7	55.8	38.2	35.3	42.0	20.5	36.0	52.7	12.4	3.9	0.7	8.1
	85歳～89歳 (n=130)	63.8	40.8	30.8	28.5	31.5	15.4	32.3	49.2	11.5	4.6	2.3	9.2
	90歳以上 (n=31)	64.5	45.2	32.3	25.8	32.3	6.5	19.4	25.8	6.5	0.0	9.7	16.1
日常生活圏域別	北部 (n=822)	71.5	56.3	39.1	34.7	36.1	20.8	40.6	50.4	15.8	4.3	1.9	5.1
	南部 (n=676)	70.1	51.3	34.8	31.5	36.5	19.5	35.5	51.5	13.2	3.8	3.1	5.2

12. 調査結果からみる調査対象者の評価

一般高齢者調査結果を活用し、「運動器機能の低下」「転倒リスク」「閉じこもり傾向」「低栄養状態」「口腔機能の低下」「認知機能の低下」「うつ傾向」「手段的自立度（IADL）」の7項目について機能判定の評価を行いました。

(1) 運動器機能の低下

■評価方法

以下の5つの設問中3問以上、該当する選択肢（問8～10で「できない」、問11で「何度もある」または「1度ある」、問12で「とても不安である」または「やや不安である」）が回答された場合、該当者（運動器機能の低下している高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,532）】

単位：%

設問番号	設問	できるし、している	できるけど、していない	できない	不明・無回答
8	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	65.5	22.3	10.0	2.2
9	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	80.3	11.9	5.6	2.2
10	続けて15分位歩いていますか。	74.9	19.6	3.6	2.0

設問番号	設問	何度もある	1度ある	ない	不明・無回答
11	過去1年間に転んだ経験がありますか。	6.8	21.9	69.4	2.0

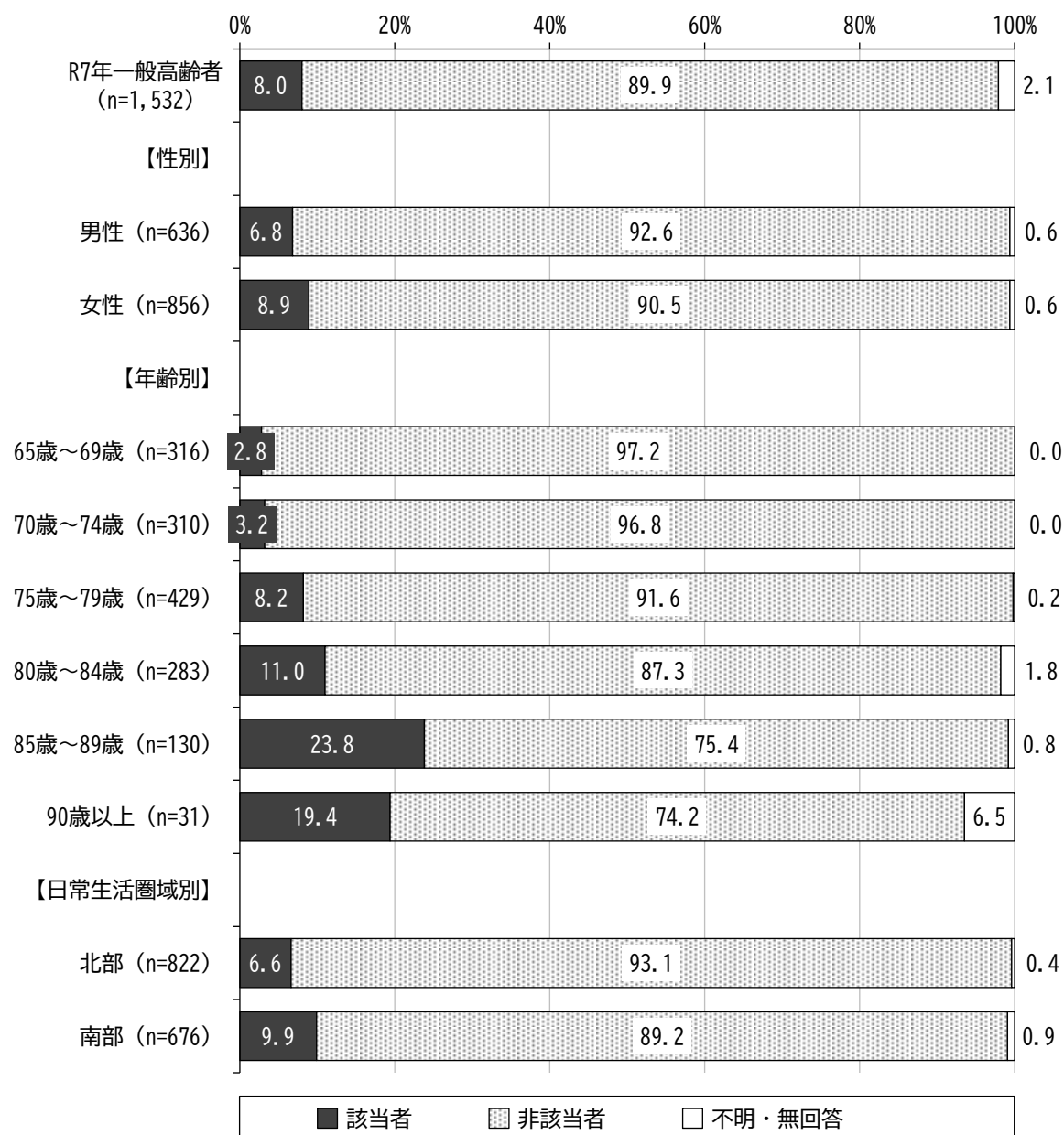
設問番号	設問	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	不明・無回答
12	転倒に対する不安はありますか。	7.6	41.0	29.2	20.4	1.8

「該当者」は8.0%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性で6.8%、女性で8.9%となっています。

年齢別でみると、「該当者」は89歳までは年齢が上がるにつれて高くなっており、90歳以上で19.4%となっています。

日常生活圏域別でみると、「該当者」は北部で6.6%、南部で9.9%となっています。



(2) 転倒リスク

■評価方法

以下の設問で該当する選択肢（「何でもある」または「1度ある」）が回答された場合、該当者（転倒リスクのある高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,532）】

単位：%

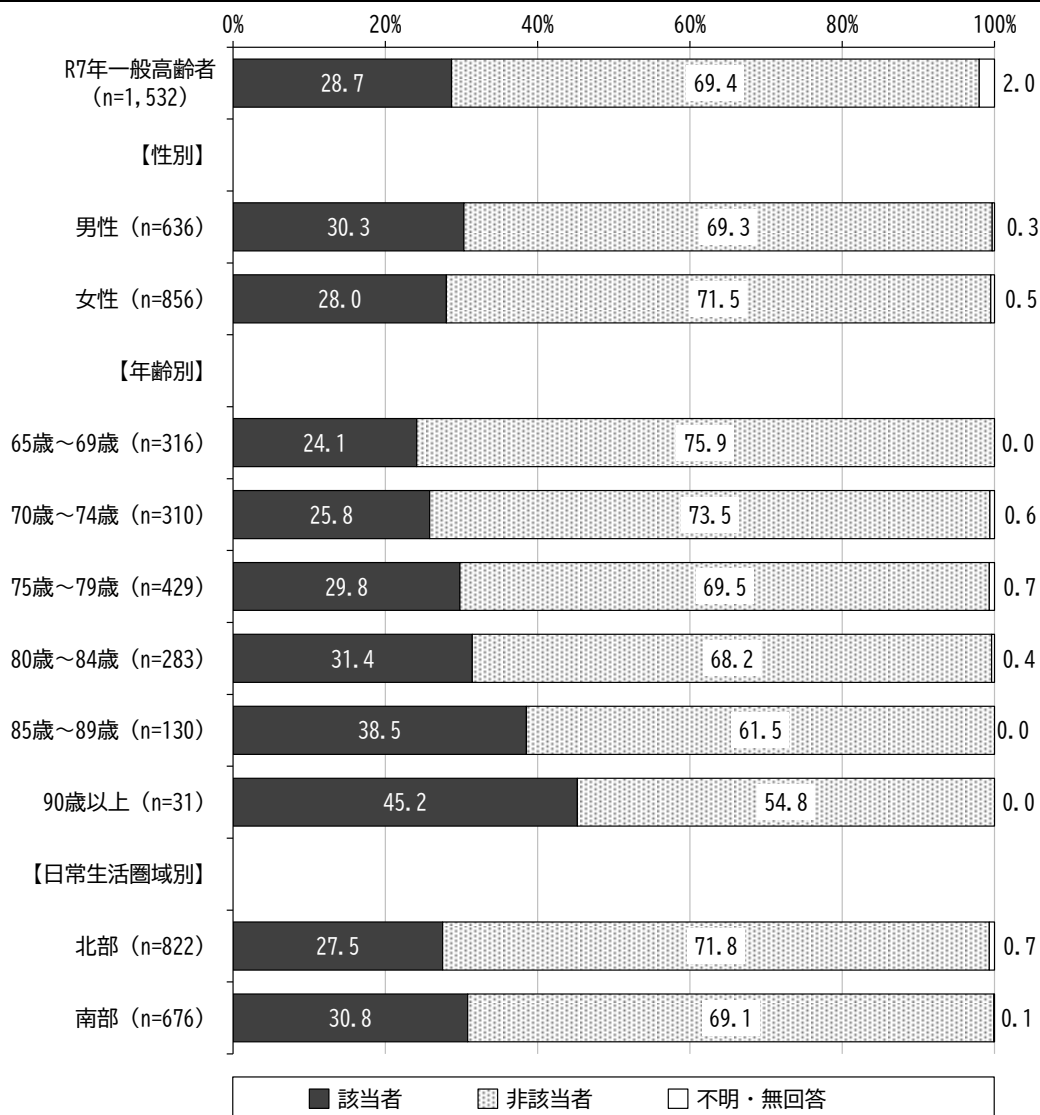
設問番号	設問	何でもある	1度ある	ない	不明・無回答
11	過去1年間に転んだ経験がありますか。	6.8	21.9	69.4	2.0

「該当者」は28.7%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性で30.3%、女性で28.0%となっています。

年齢別でみると、「該当者」は年齢が上がるにつれて高くなっており、90歳以上で45.2%と高くなっています。

日常生活圏域別でみると、「該当者」は北部で27.5%、南部で30.8%となっています。



(3) 閉じこもり傾向

■評価方法

以下の設問で該当する選択肢（「ほとんど外出しない」または「週1回」）が回答された場合、該当者（閉じこもり傾向のある高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,532）】

単位：%

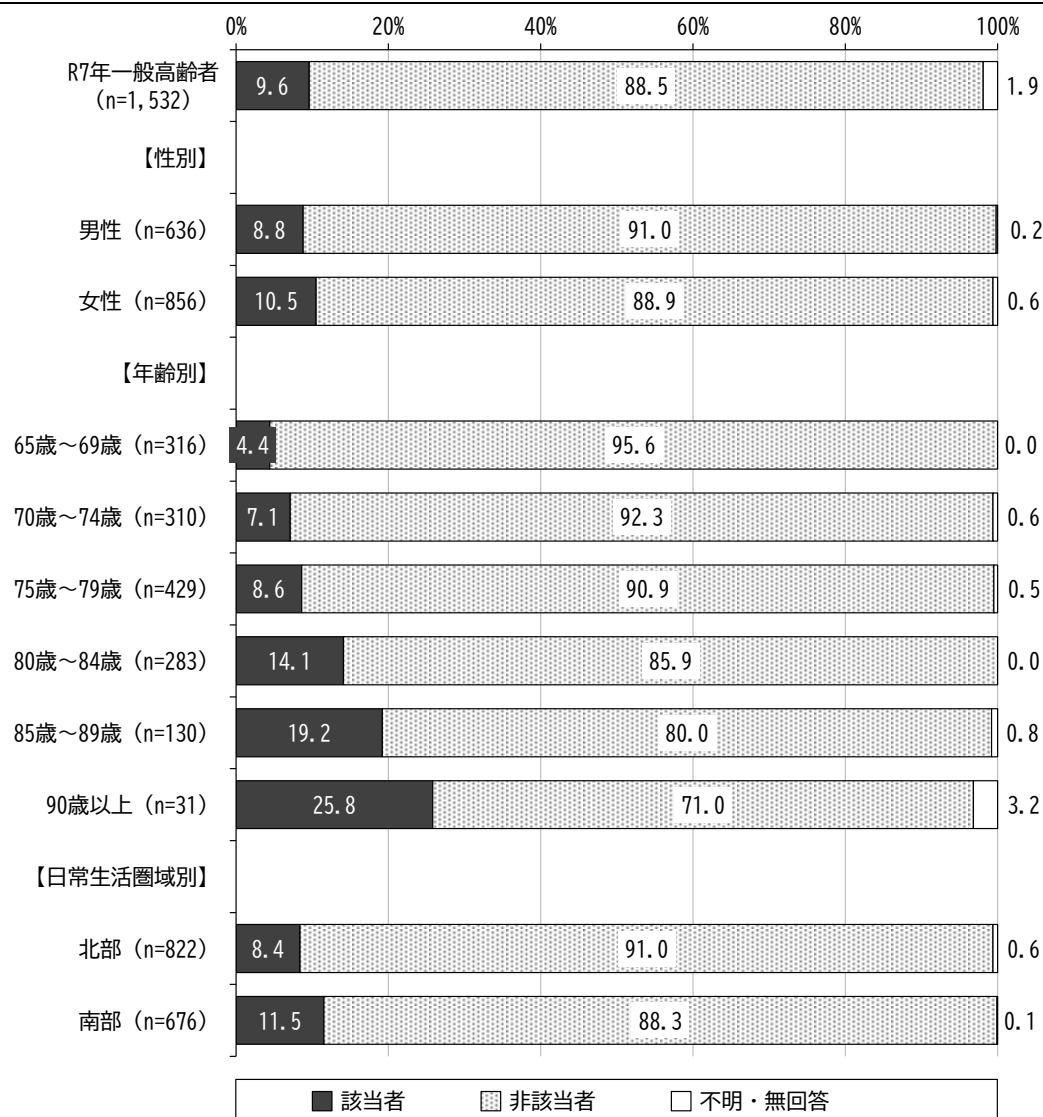
設問番号	設問	ほとんど外出しない	週1回	週2~4回	週5回以上	不明・無回答
13	週にどの程度外出していますか。	2.9	6.7	43.4	45.1	1.9

「該当者」は9.6%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性で8.8%、女性で10.5%となっています。

年齢別でみると、「該当者」は年齢が上がるにつれて高くなっており、90歳以上で25.8%と高くなっています。

日常生活圏域別でみると、「該当者」は北部で8.4%、南部で11.5%となっています。



(4) 低栄養状態

■評価方法

以下の2つの設問のうち、問16の結果から算出したBMIが18.5未満かつ、問17で「はい」と回答された場合、該当者（低栄養状態にある高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,532）】

単位：%

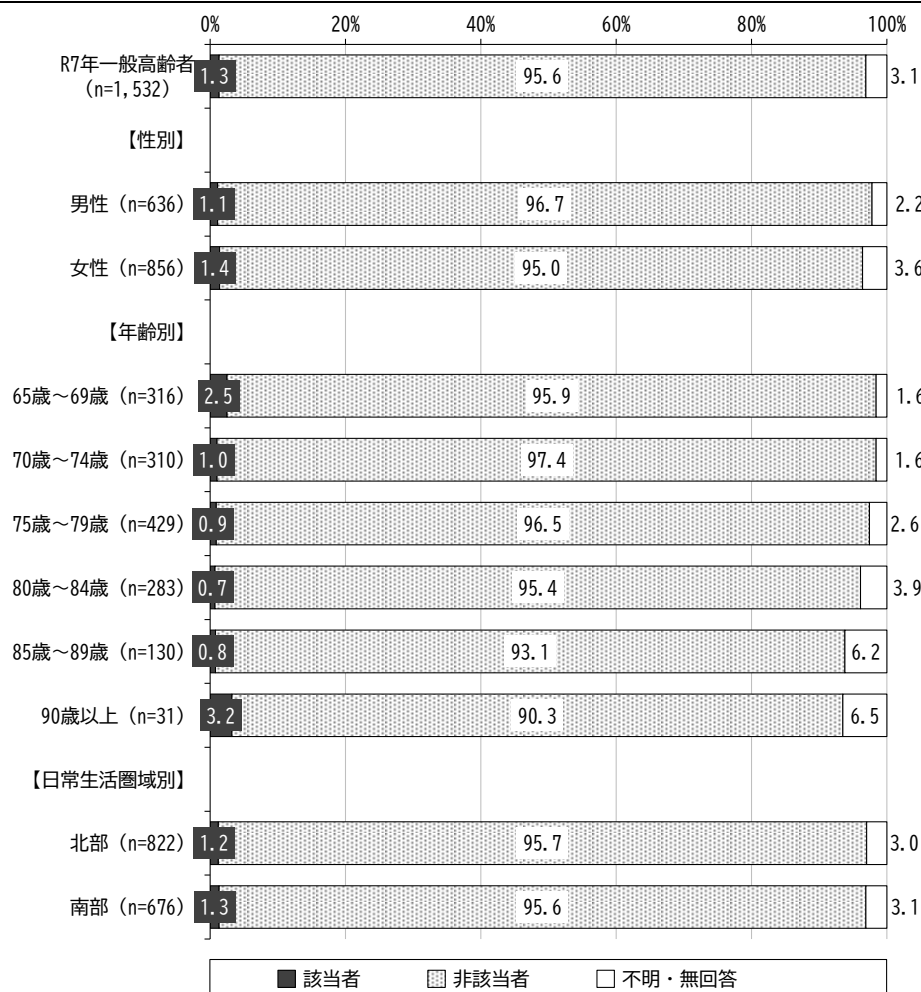
設問番号	設問	BMI 18.5 未満	BMI 18.5 以上	不明・無回答
16	身長・体重をご記入ください。	8.7	88.2	3.1
設問番号	設問	はい	いいえ	不明・無回答
17	この半年間で、2～3kg以上の体重減少がありましたか。	14.3	84.5	1.2

「該当者」は1.3%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性で1.1%、女性で1.4%となっています。

年齢別でみると、「該当者」はいずれの年齢も1割未満となっています。

日常生活圏域別でみると、「該当者」は北部で1.2%、南部で1.3%となっています。



(5) 口腔機能の低下

■評価方法

以下の3つの設問のうち、選択肢（「はい」）が2つ以上回答された場合、該当者（口腔機能の低下している高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,532）】

単位：％

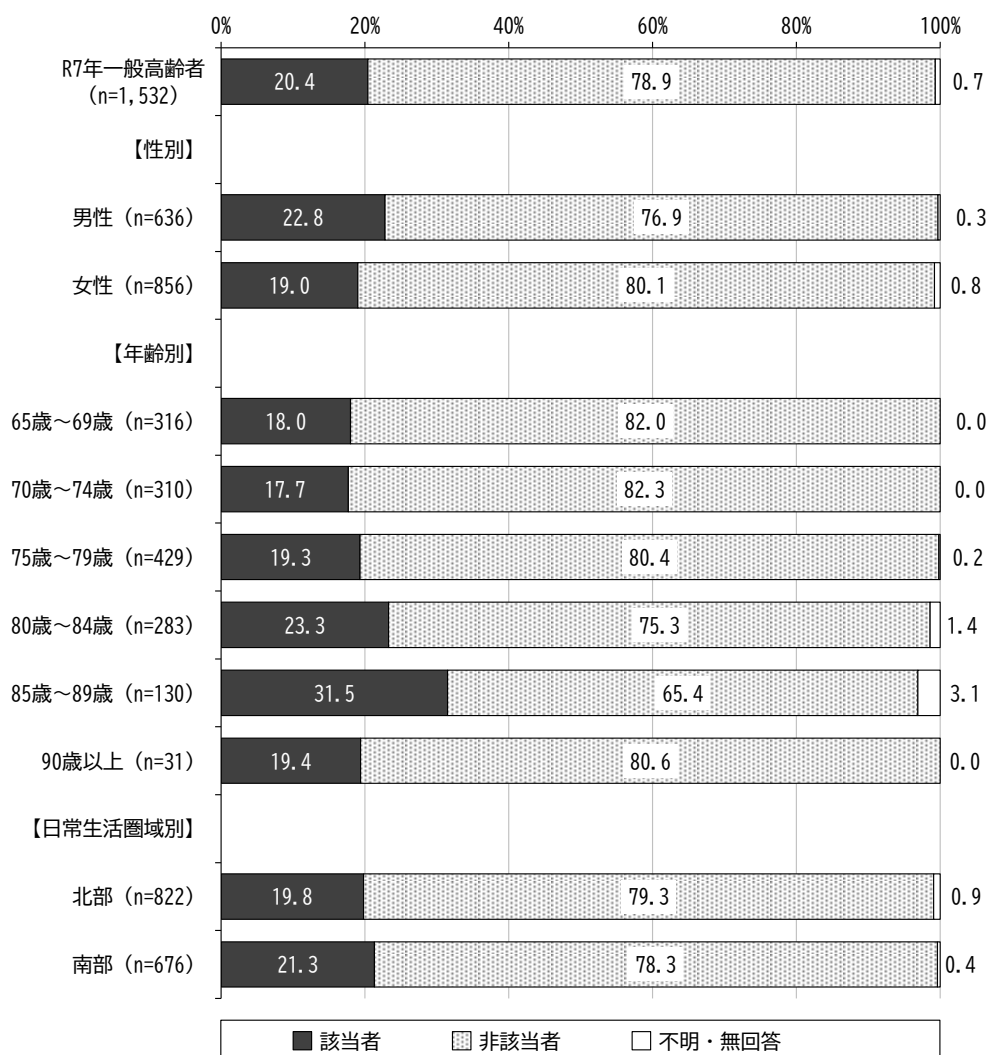
設問番号	設問	はい	いいえ	不明・無回答
18	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	21.3	78.1	0.6
19	この半年間で、お茶や汁物等でむせることができましたか。	26.6	72.7	0.8
20	口の渇きが気になりますか。	26.4	72.2	1.4

「該当者」は20.4%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性で22.8%、女性で19.0%となっています。

年齢別でみると、「該当者」は85～89歳で31.5%と、他の年齢と比べて高くなっています。

日常生活圏域別でみると、「該当者」は北部で19.8%、南部で21.3%となっています。



(6) 認知機能の低下

■評価方法

以下の設問で該当する選択肢（「はい」）が回答された場合、該当者（認知機能の低下がみられる高齢者）とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者（n=1,532）】

単位：％

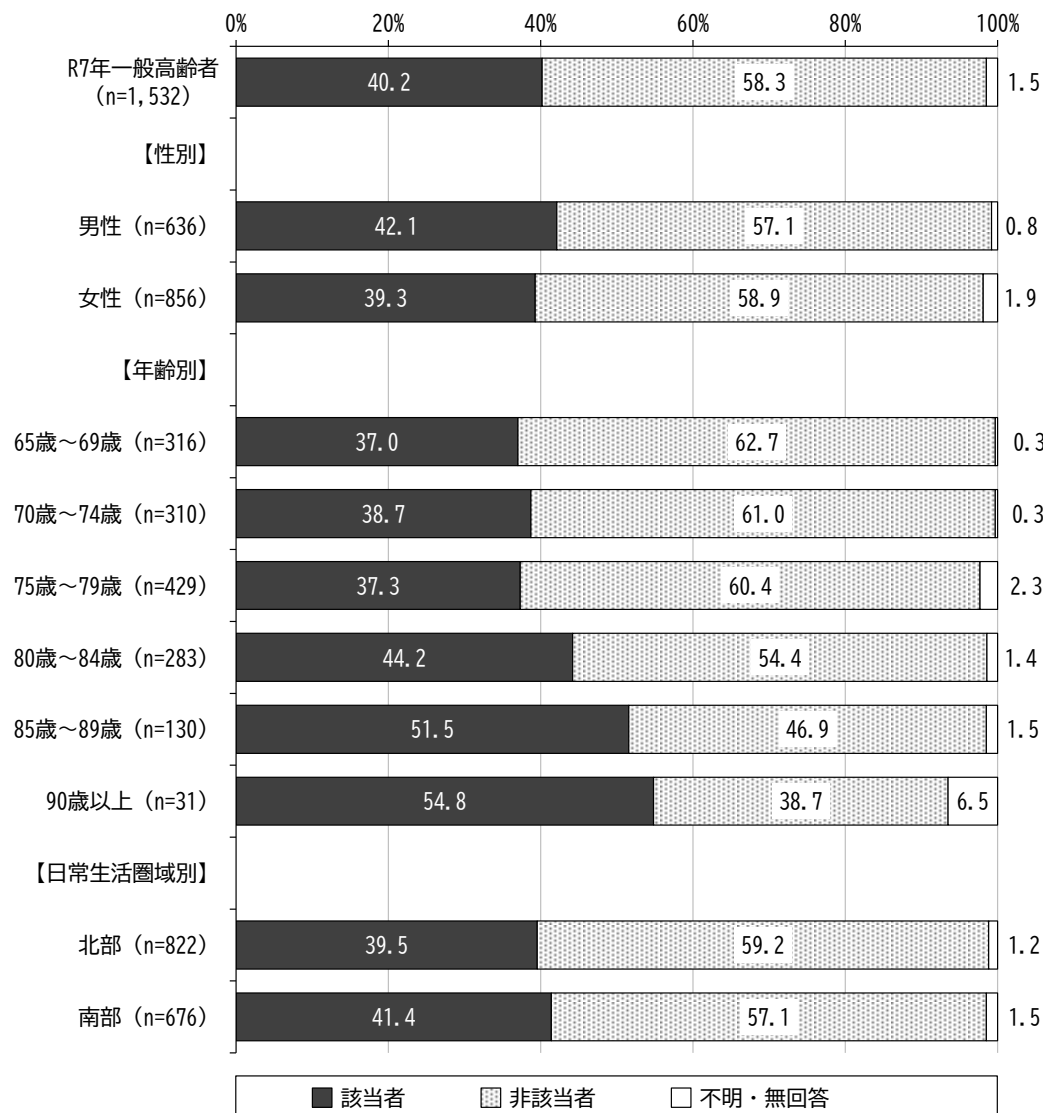
設問番号	設問	はい	いいえ	不明・無回答
23	物忘れが多いと感じますか。	40.2	58.3	1.5

「該当者」は40.2%となっています。

性別でみると、「該当者」は男性で42.1%、女性で39.3%となっています。

年齢別でみると、「該当者」は年齢が上がるにつれて概ね高くなっており、90歳以上で54.8%となっています。

日常生活圏域別でみると、「該当者」は北部で39.5%、南部で41.4%となっています。



(7) うつ傾向

■評価方法

以下の2つの設問中いずれか1つでも該当する選択肢(「はい」)が回答された場合、該当者(うつ傾向の高齢者)とした。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者 (n=1,532)】

単位：%

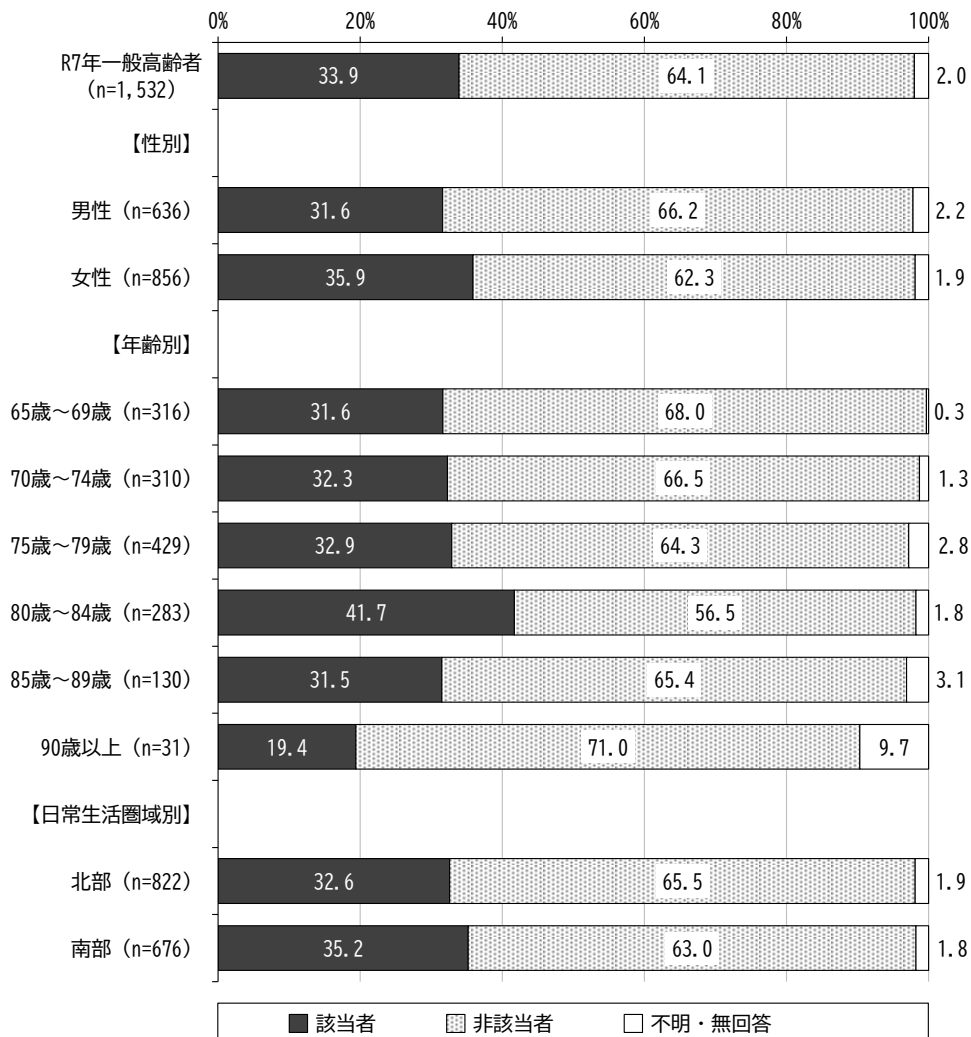
設問番号	設問	はい	いいえ	不明・無回答
45	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	30.5	67.5	2.0
46	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	17.8	80.0	2.2

「該当者」は33.9%となっています。

性別で見ると、「該当者」は男性で31.6%、女性で35.9%となっています。

年齢別で見ると、「該当者」は80～84歳で41.7%と、他の年齢と比べて高くなっています。

日常生活圏域別で見ると、「該当者」は北部で32.6%、南部で35.2%となっています。



(8) 手段的自立度 (IADL)

IADLとは、日常生活を送る上で必要な動作のうち、ADL（日常生活動作：食事、排せつ、入浴などの基本的な行動）より複雑で高次の動作のことを言います。（例：買い物や洗濯・掃除などの家事全般、金銭や服薬の管理、外出時に乗り物に乗ることなど）

■評価方法

以下の5つの設問について、「できるし、している」または「できるけど、していない」と回答した方を1点とし、5点満点で評価した。5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」として評価した。

■評価に使用した調査設問結果【一般高齢者 (n=1,532)】

単位：%

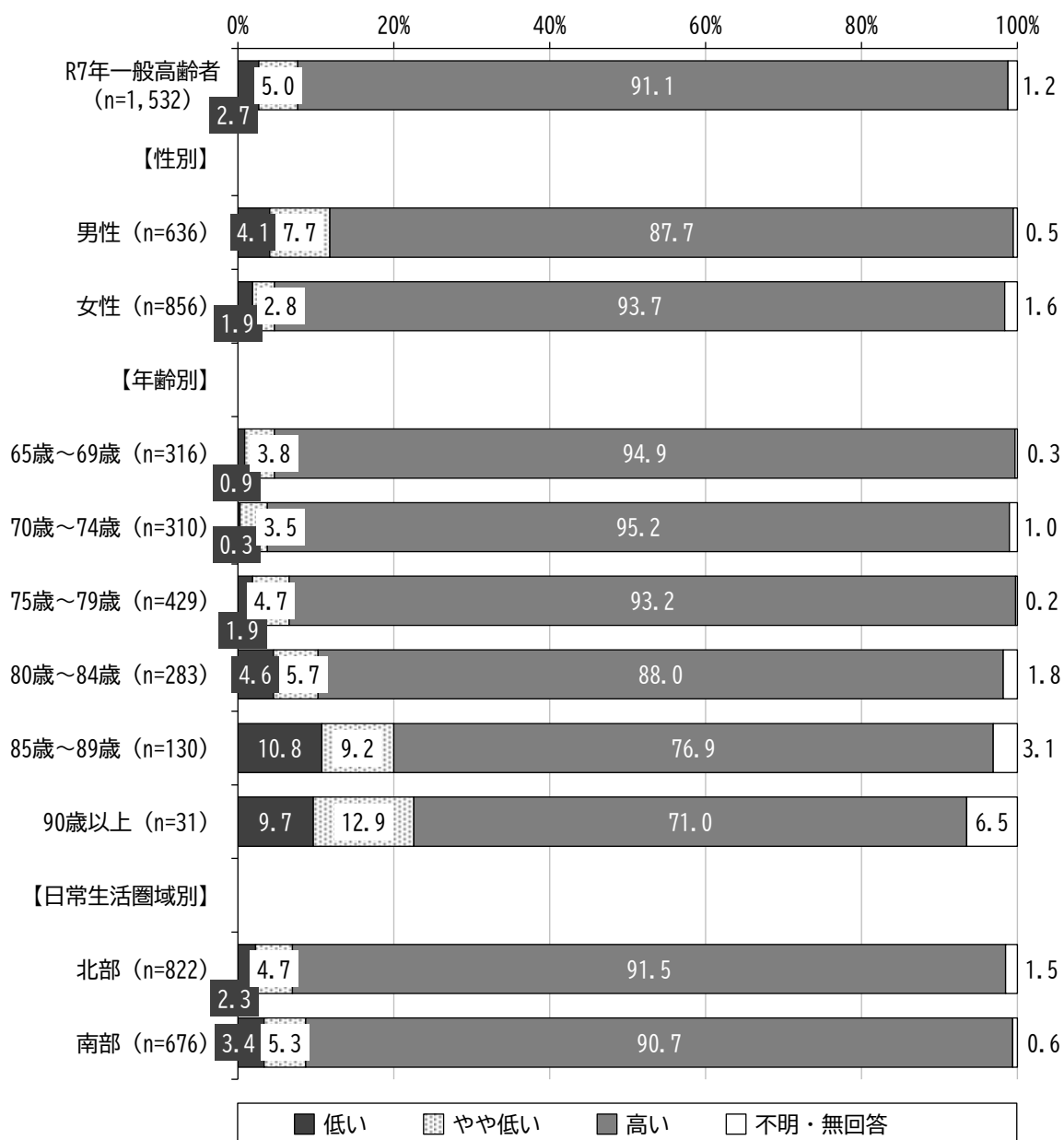
設問番号	設問	できるし、している	できるけど、していない	できない	不明・無回答
24	バスや電車等（自家用車を含む）を使って1人で外出していますか。	77.5	18.3	3.7	0.5
25	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	87.0	10.8	1.8	0.4
26	自分で食事の用意をしていますか。	76.6	18.9	4.2	0.4
27	自分で請求書の支払いをしていますか。	86.9	10.7	1.8	0.7
28	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	86.2	11.6	1.6	0.7

「低い」は2.7%となっています。

性別でみると、「低い」は男性で4.1%、女性で1.9%であり、男性でやや高くなっています。

年齢別でみると、「低い」は85～89歳で10.8%、90歳以上で9.7%と高くなっています。

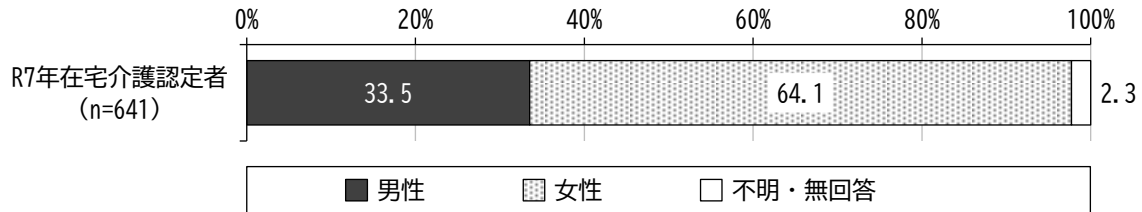
日常生活圏域別でみると、「低い」は北部で2.3%、南部で3.4%となっています。



Ⅲ 在宅介護実態調査の結果

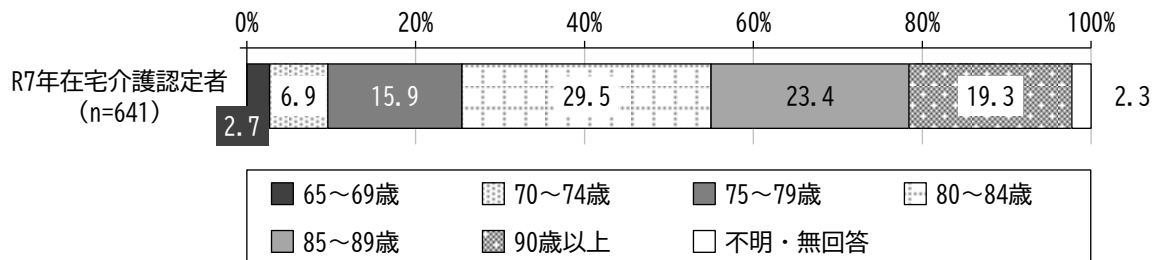
a. 性別

「男性」が33.5%、「女性」が64.1%となっています。



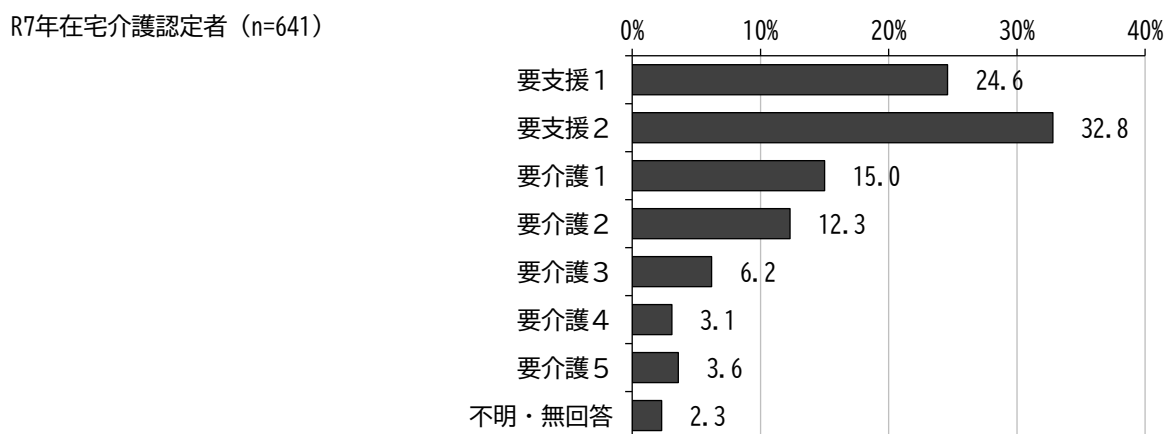
b. 年齢

「80歳～84歳」が29.5%と最も高く、次いで「85歳～89歳」が23.4%となっています。



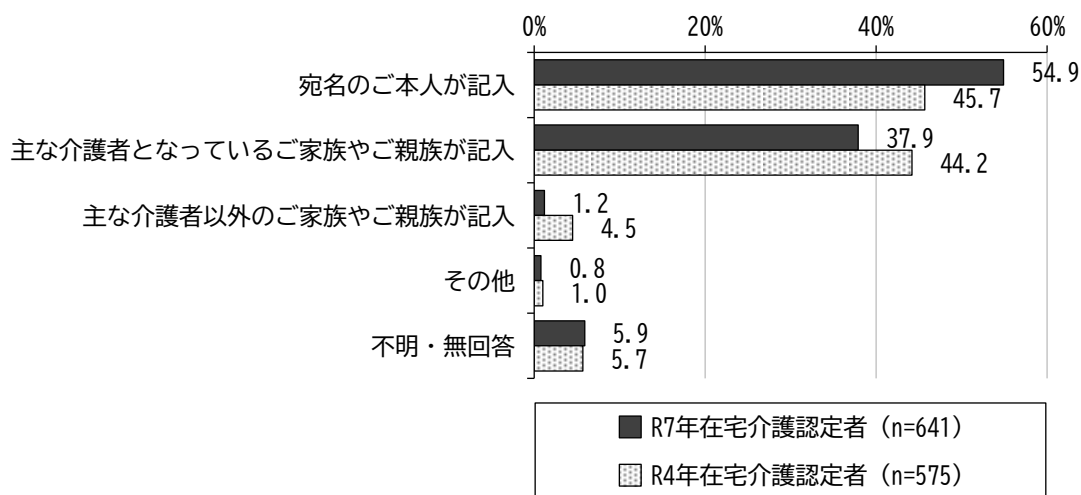
c. 要介護度

「要支援2」が32.8%と最も高く、次いで「要支援1」が24.6%となっています。



調査票を記入されたのはどなたですか。(複数回答)

「宛名のご本人が記入」が54.9%と最も高く、次いで「主な介護者となっているご家族やご親族が記入」が37.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「宛名のご本人が記入」が9.2ポイント高く、「主な介護者となっているご家族やご親族が記入」が6.3ポイント低くなっています。



要介護度別でみると、要支援1・要支援2では「宛名のご本人が記入」、要介護1から要介護5では「主な介護者となっているご家族やご親族が記入」が最も高くなっています。

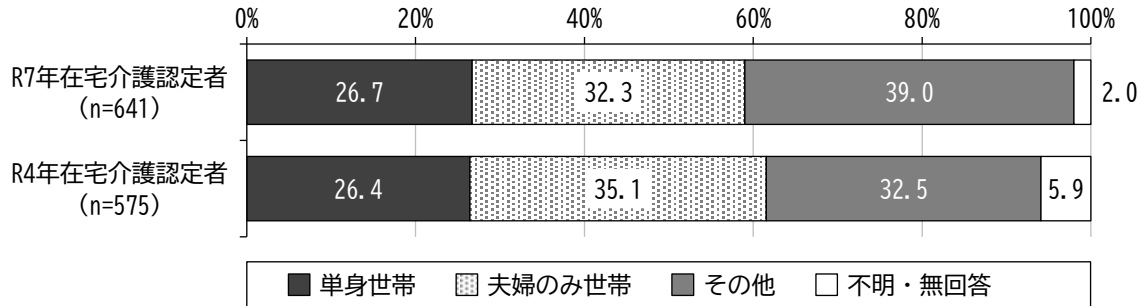
単位：%		宛名のご本人が記入	主な介護者となっているご家族やご親族が記入	主な介護者やご親族以外記入	その他	不明・無回答
要介護度別	要支援1 (n=158)	80.4	12.7	1.9	0.0	5.7
	要支援2 (n=210)	69.5	23.8	0.0	0.5	6.7
	要介護1 (n=96)	37.5	52.1	2.1	2.1	7.3
	要介護2 (n=79)	30.4	63.3	1.3	1.3	5.1
	要介護3 (n=40)	12.5	82.5	0.0	0.0	5.0
	要介護4 (n=20)	5.0	80.0	5.0	0.0	10.0
	要介護5 (n=23)	4.3	91.3	4.3	0.0	0.0

【A票】調査対象者本人について

1. 調査対象者自身のことについて

問1 世帯類型について、ご回答ください。(単数回答)

「夫婦のみ世帯」が32.3%と最も高く、次いで「単身世帯」が26.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

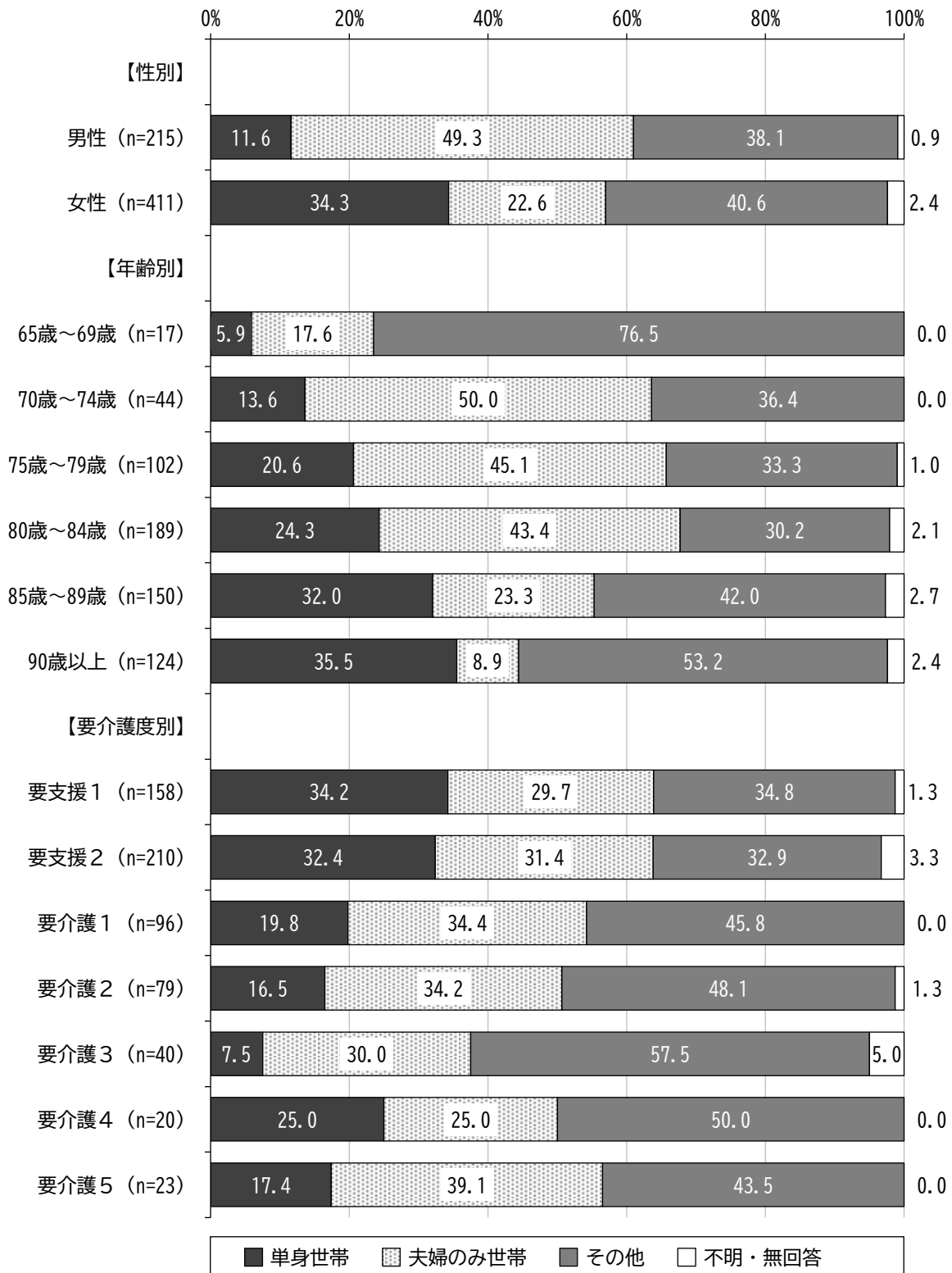


その他回答記載例	
子供と同居	
二世帯	
夫婦と子供	
息子夫婦と同居	
娘夫婦と同居	

性別でみると、男性では「夫婦のみ世帯」、女性では「単身世帯」が高くなっています。

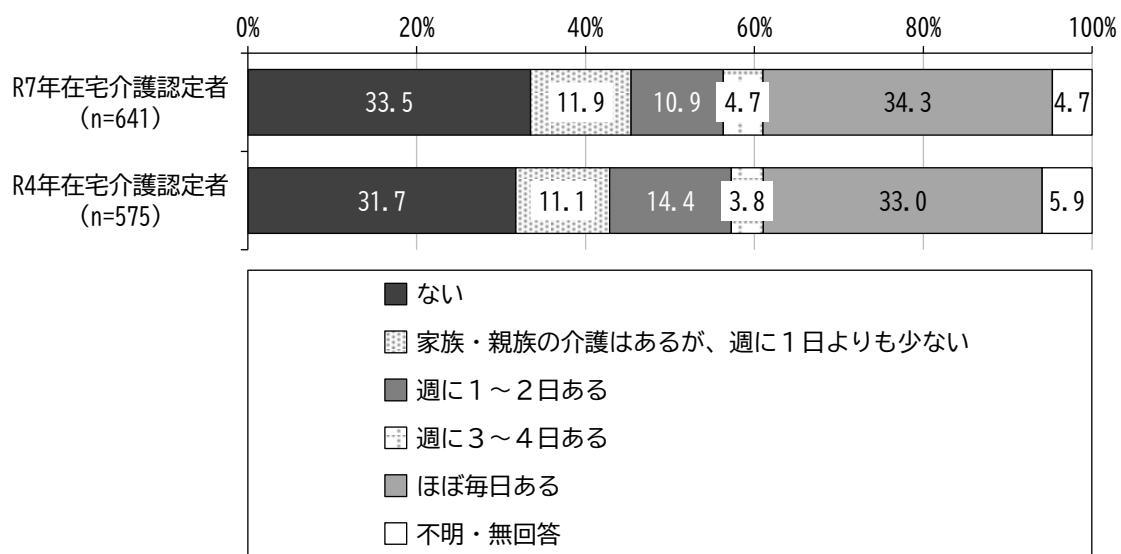
年齢別でみると、65歳～84歳では「夫婦のみ世帯」、85歳以上では「単身世帯」が高くなっています。

要介護度別でみると、要介護4では「単身世帯」「夫婦のみ世帯」が同率、要支援1・要支援2では「単身世帯」、その他の要介護度では「夫婦のみ世帯」が高くなっています。

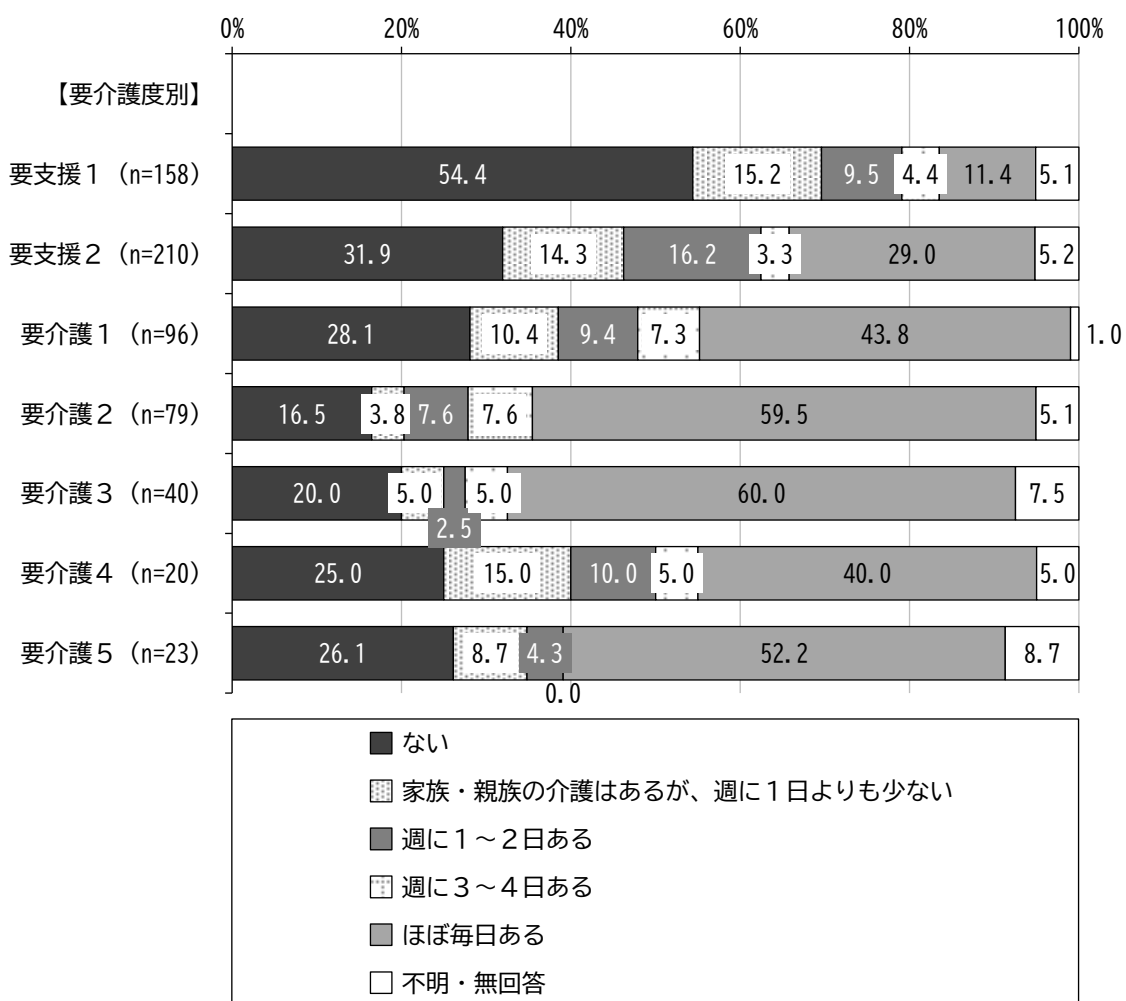


問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。(同居していない子どもや親族等からの介護を含む) (単数回答)

「ほぼ毎日ある」が34.3%と最も高く、次いで「ない」が33.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



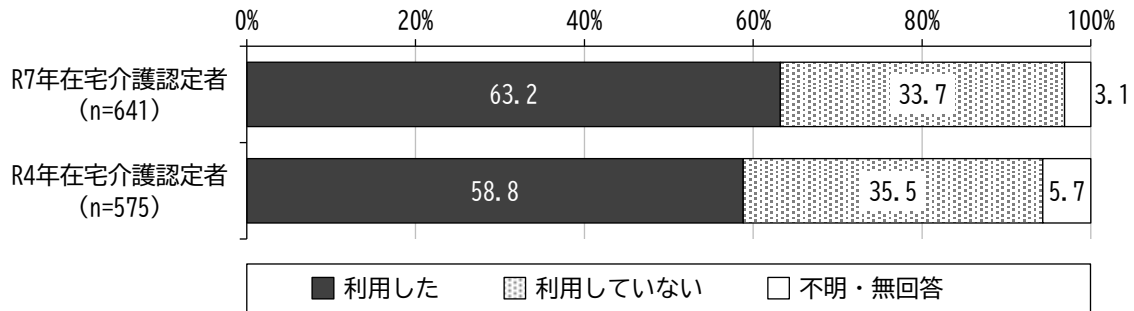
要介護度別でみると、要支援1・要支援2では「ない」、要介護1から要介護5では「ほぼ毎日ある」が最も高くなっています。



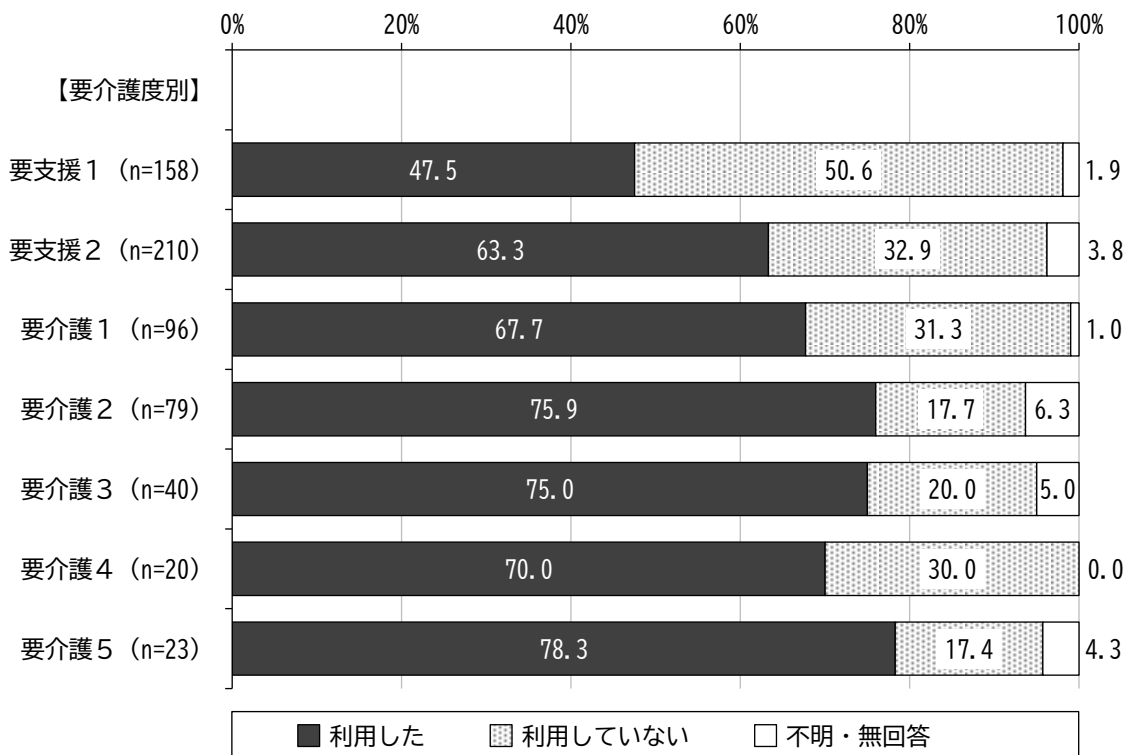
2. サービスや支援について

問3 令和7年11月の1か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用しましたか。(単数回答)

「利用した」が63.2%、「利用していない」が33.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



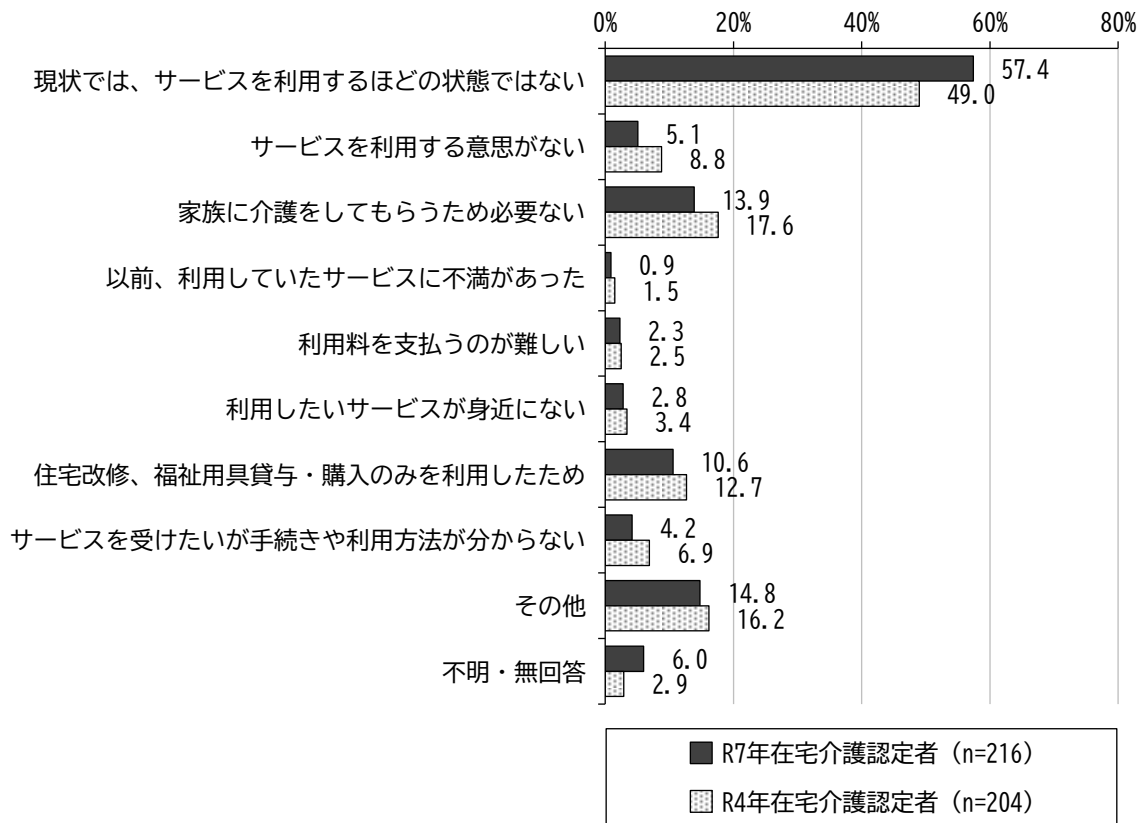
要介護度別でみると、要支援1では「利用していない」、要支援2から要介護5では「利用した」が高くなっています。



【問3で「利用していない」と回答した方のみ】

問4 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(複数回答)

「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が57.4%と最も高く、次いで「家族に介護をしてもらうため必要ない」が13.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が8.4ポイント高くなっています。



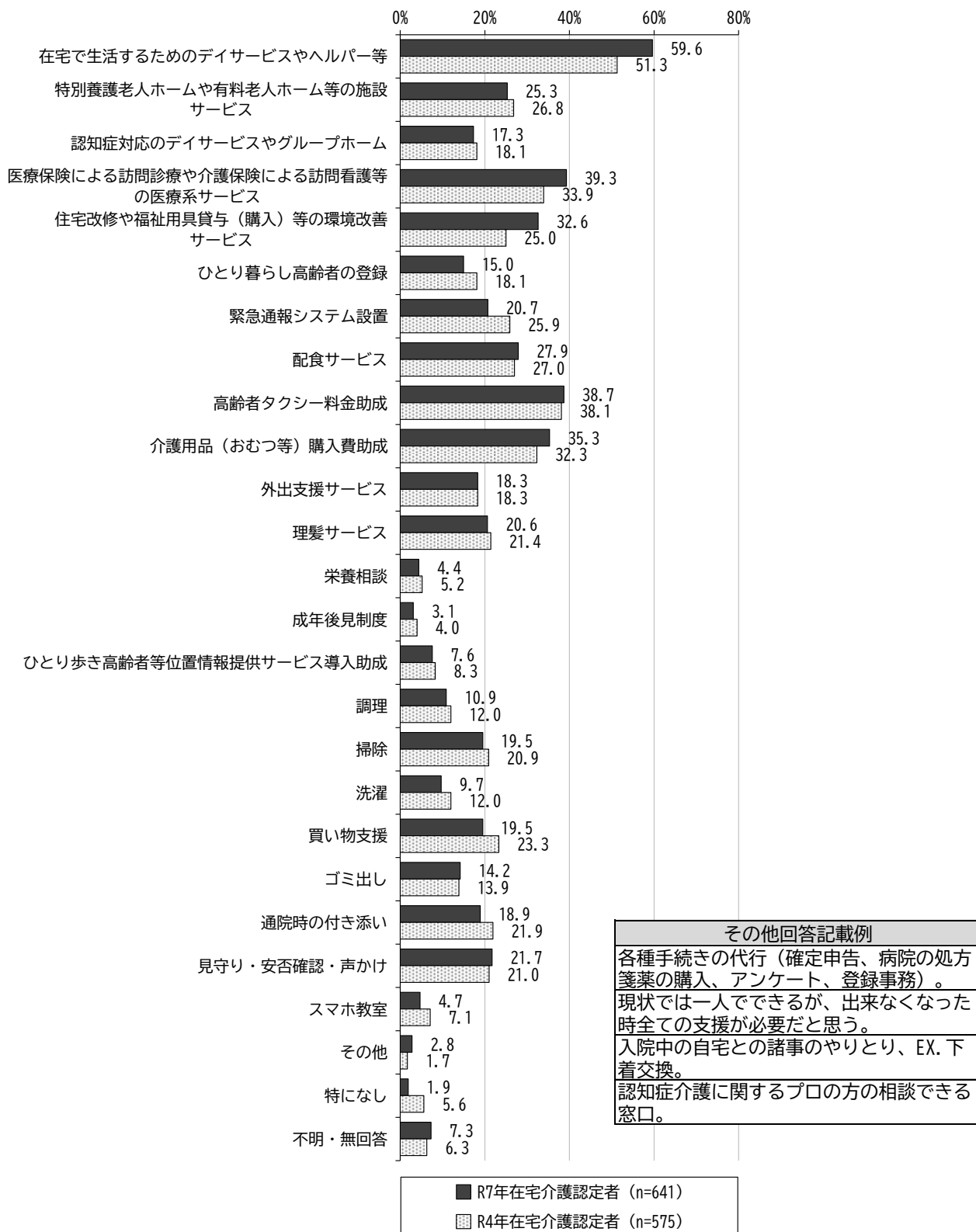
その他回答記載例
今の所は出来てるから。
介護施設に入っている為。
手続きが面倒。
入院中

要介護度別でみると、要支援1から要介護2では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が最も高くなっています。

単位：%		現状では、サービスを利用しない	サービスを利用する意思がない	家族に介護をしてもらった必要ない	以前、利用があつたが不満があつた	利用料を支払うのが難しい	利用したいサービスが身近にない	住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用したため	サービスを受けたいが手続きが分からない	その他	不明・無回答
要介護度別	要支援1 (n=80)	68.8	5.0	15.0	0.0	1.3	3.8	7.5	2.5	12.5	6.3
	要支援2 (n=69)	65.2	2.9	7.2	0.0	4.3	2.9	14.5	5.8	8.7	4.3
	要介護1 (n=30)	53.3	13.3	20.0	3.3	0.0	3.3	10.0	3.3	16.7	3.3
	要介護2 (n=14)	21.4	0.0	14.3	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1	35.7	14.3
	要介護3 (n=8)	37.5	0.0	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5
	要介護4 (n=6)	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	50.0	0.0
	要介護5 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0

問5 今後も利用したい、または今後必要だと思われる支援・サービス・制度は何ですか。
(複数回答)

「在宅で生活するためのデイサービスやヘルパー等」が59.6%と最も高く、次いで「医療保険による訪問診療や介護保険による訪問看護等の医療系サービス」が39.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「在宅で生活するためのデイサービスやヘルパー等」が8.3ポイント、「住宅改修や福祉用具貸与（購入）等の環境改善サービス」が7.6ポイント高くなっています。



要介護度別でみると、要支援1から要介護2では「在宅で生活するためのデイサービスやヘルパー等」、要介護3では「在宅で生活するためのデイサービスやヘルパー等」「介護用品（おむつ等）購入費助成」、要介護4では「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の施設サービス」「医療保険による訪問診療や介護保険による訪問看護等の医療系サービス」、要介護5では「介護用品（おむつ等）購入費助成」が最も高くなっています。

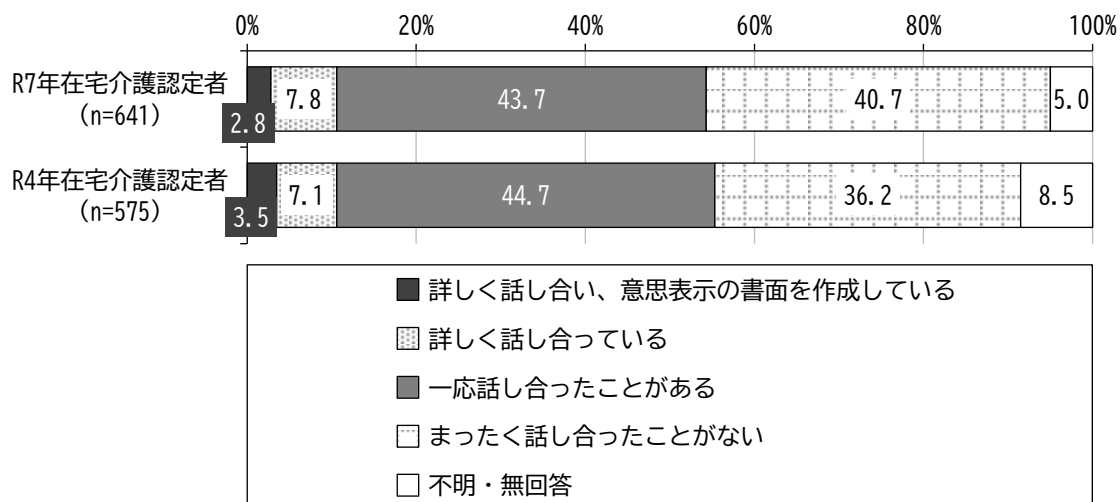
単位：%		在宅で生活するためのデイサービスやヘルパー等	特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の施設サービス	認知症対応のデイサービスやグループホーム	医療保険による訪問診療や介護系サービス	医療保険による訪問診療や介護系サービス	住宅改修や福祉用具貸与（購入）等の環境改善サービス	ひとり暮らし高齢者の登録	緊急通報システム設置	配食サービス	高齢者タクシー料金助成	介護用品（おむつ等）購入費助成	外出支援サービス	理髪サービス	栄養相談
要介護度別	要支援1 (n=158)	55.7	15.2	12.7	31.0	21.5	18.4	19.6	29.7	43.7	16.5	15.8	7.6	3.8	
	要支援2 (n=210)	64.8	21.0	9.5	37.6	37.6	15.7	19.5	29.5	40.5	29.5	21.0	22.4	4.3	
	要介護1 (n=96)	64.6	29.2	31.3	45.8	27.1	11.5	20.8	26.0	37.5	49.0	21.9	31.3	6.3	
	要介護2 (n=79)	62.0	32.9	22.8	41.8	43.0	13.9	26.6	31.6	30.4	51.9	15.2	15.2	5.1	
	要介護3 (n=40)	57.5	45.0	30.0	42.5	37.5	17.5	20.0	25.0	32.5	57.5	22.5	35.0	5.0	
	要介護4 (n=20)	50.0	60.0	30.0	60.0	40.0	15.0	30.0	20.0	40.0	35.0	15.0	25.0	0.0	
	要介護5 (n=23)	30.4	43.5	17.4	65.2	52.2	4.3	17.4	8.7	47.8	73.9	4.3	39.1	0.0	

単位：%		成年後見制度	ひとり歩き高齢者等位置情報提供サービス導入助成	調理	掃除	洗濯	買い物支援	ゴミ出し	通院時の付き添い	見守り・安否確認・声かけ	スマホ教室	その他	特になし	不明・無回答
要介護度別	要支援1 (n=158)	1.3	4.4	8.9	18.4	5.1	20.9	8.9	12.7	21.5	8.9	1.9	2.5	12.7
	要支援2 (n=210)	3.8	8.6	12.9	24.8	10.0	22.4	18.6	24.3	20.5	4.8	4.3	2.9	7.1
	要介護1 (n=96)	2.1	13.5	13.5	17.7	13.5	17.7	13.5	18.8	24.0	5.2	0.0	1.0	5.2
	要介護2 (n=79)	2.5	5.1	7.6	20.3	12.7	17.7	16.5	20.3	22.8	1.3	2.5	0.0	2.5
	要介護3 (n=40)	5.0	12.5	15.0	15.0	12.5	22.5	12.5	22.5	25.0	0.0	2.5	0.0	5.0
	要介護4 (n=20)	10.0	10.0	5.0	5.0	5.0	15.0	10.0	15.0	15.0	0.0	10.0	0.0	0.0
	要介護5 (n=23)	8.7	0.0	4.3	4.3	8.7	4.3	8.7	8.7	26.1	0.0	0.0	4.3	0.0

3. 今後の生活の場所について

問6 あなたは、人生の最期をどのように迎えたいか家族と話し合ったことがありますか。
(単数回答)

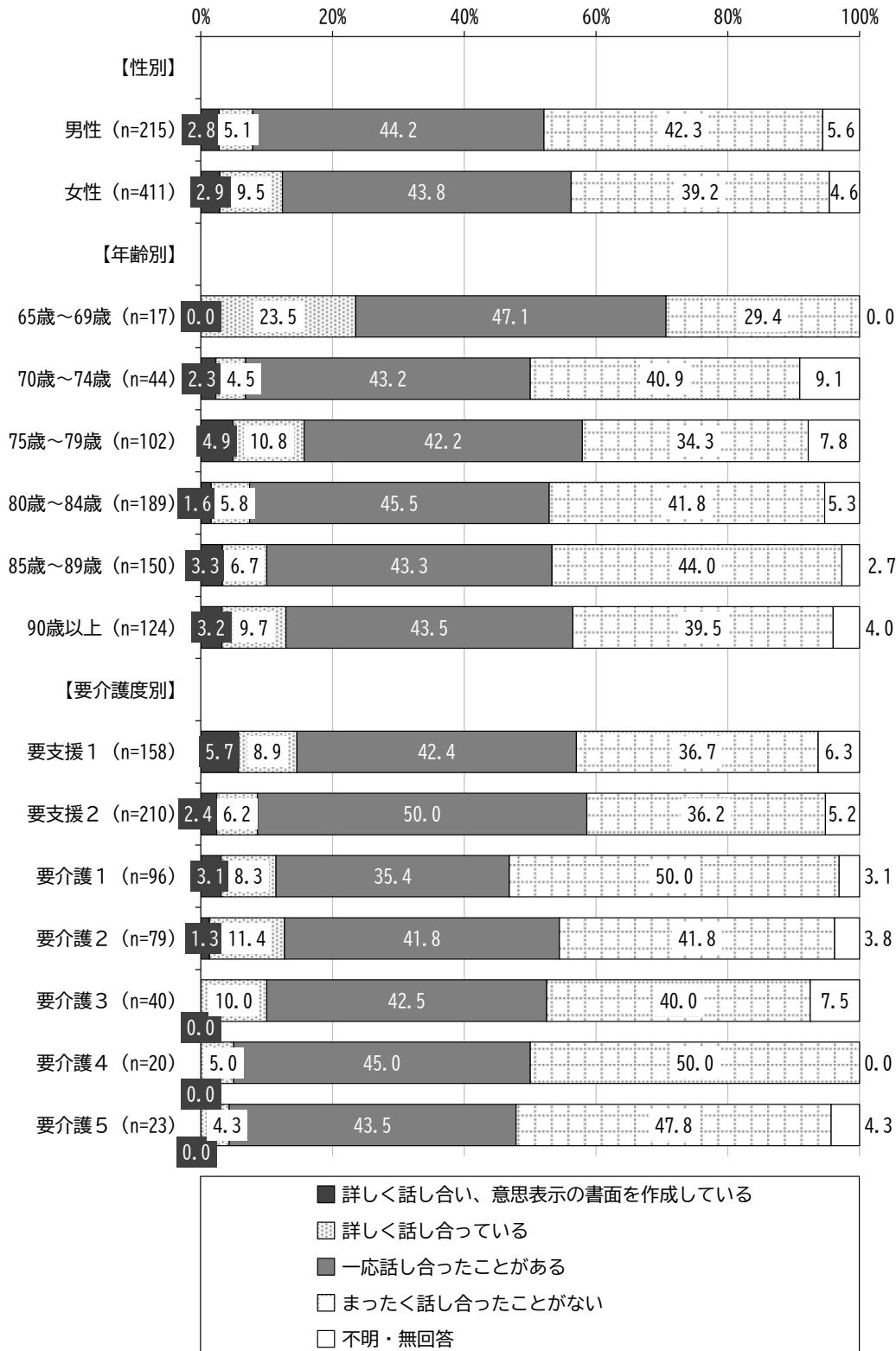
「一応話し合ったことがある」が43.7%と最も高く、次いで「まったく話し合ったことがない」が40.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別でみると、男女ともに「一応話し合ったことがある」が最も高くなっています。

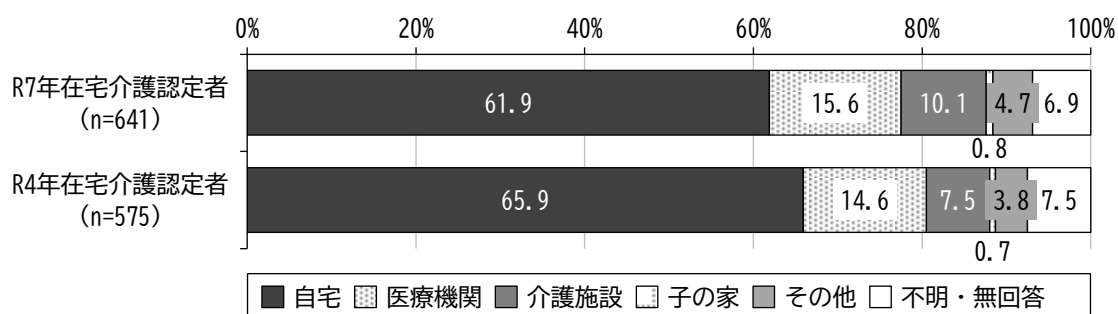
年齢別でみると、85～89歳では「まったく話し合ったことがない」、その他の年齢では「一応話し合ったことがある」が最も高くなっています。

要介護度別でみると、要支援1・要支援2・要介護3では「一応話し合ったことがある」、要介護1・要介護4・要介護5では「まったく話し合ったことがない」、要介護2では「一応話し合ったことがある」「まったく話し合ったことがない」が最も高くなっています。



問7 あなたは、人生の最期をどこで迎えたいですか。(単数回答)

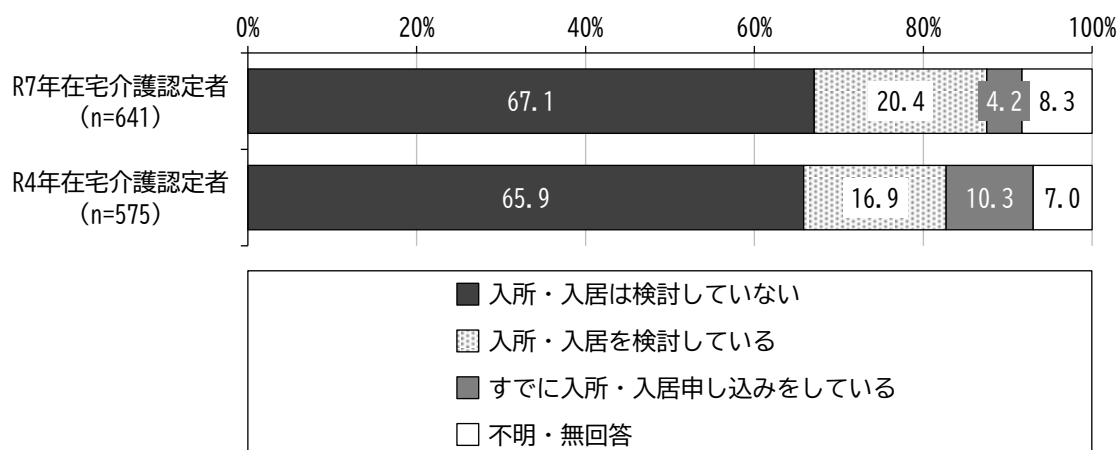
「自宅」が61.9%と最も高く、次いで「医療機関」が15.6%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



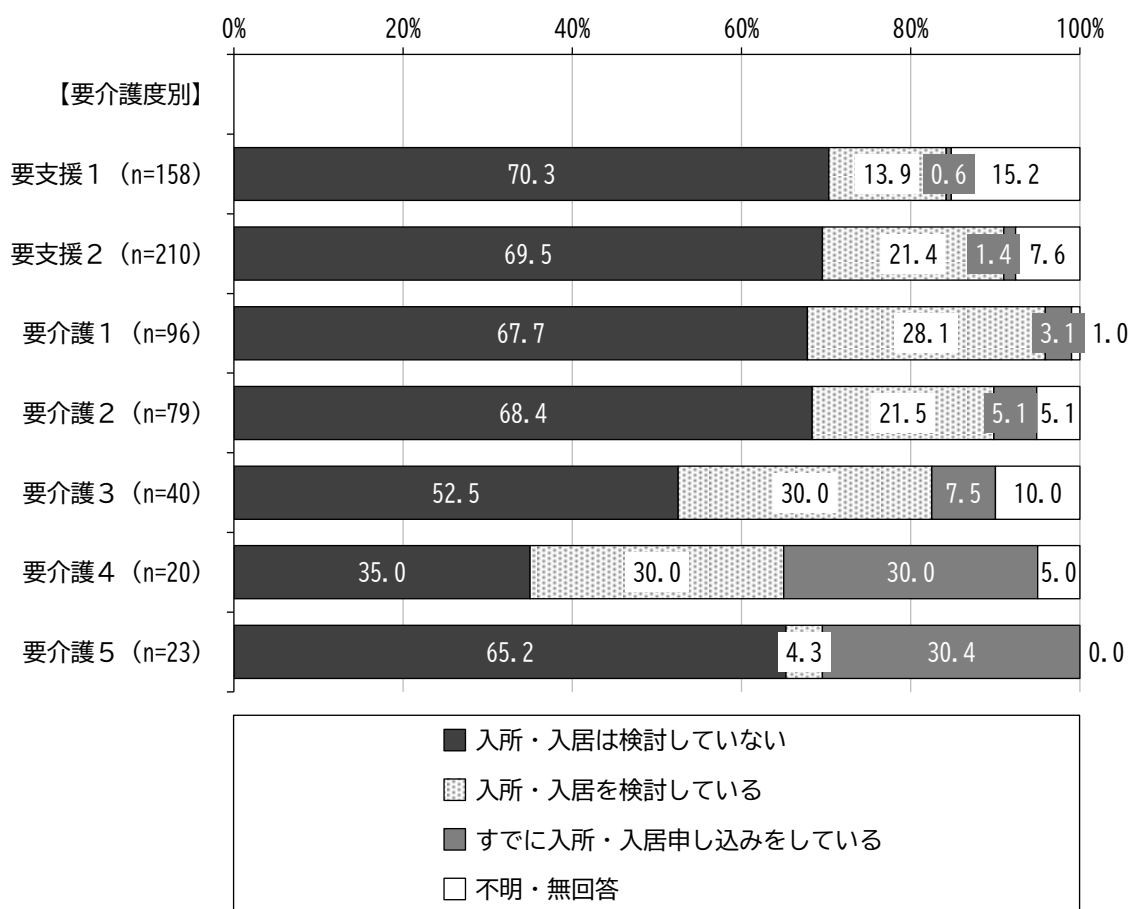
その他回答記載例
子供に迷惑にならない所で。
その時の状態によるので不明。
まだ考えていない。
分からない。

問8 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。(単数回答)

「入所・入居は検討していない」が67.1%と最も高く、次いで「入所・入居を検討している」が20.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「すでに入所・入居申し込みをしている」が6.1ポイント低くなっています。



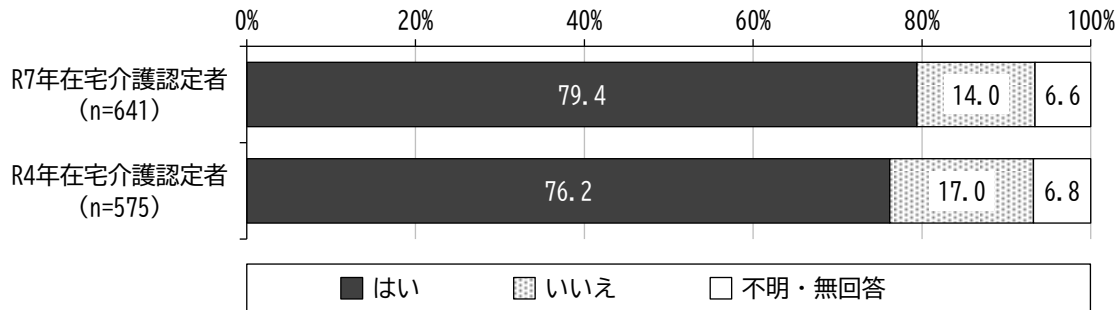
要介護度別でみると、いずれの要介護度も「入所・入居は検討していない」が最も高くなっています。



4. 地域包括支援センターについて

問9 あなたは、地域包括支援センターを知っていますか。(単数回答)

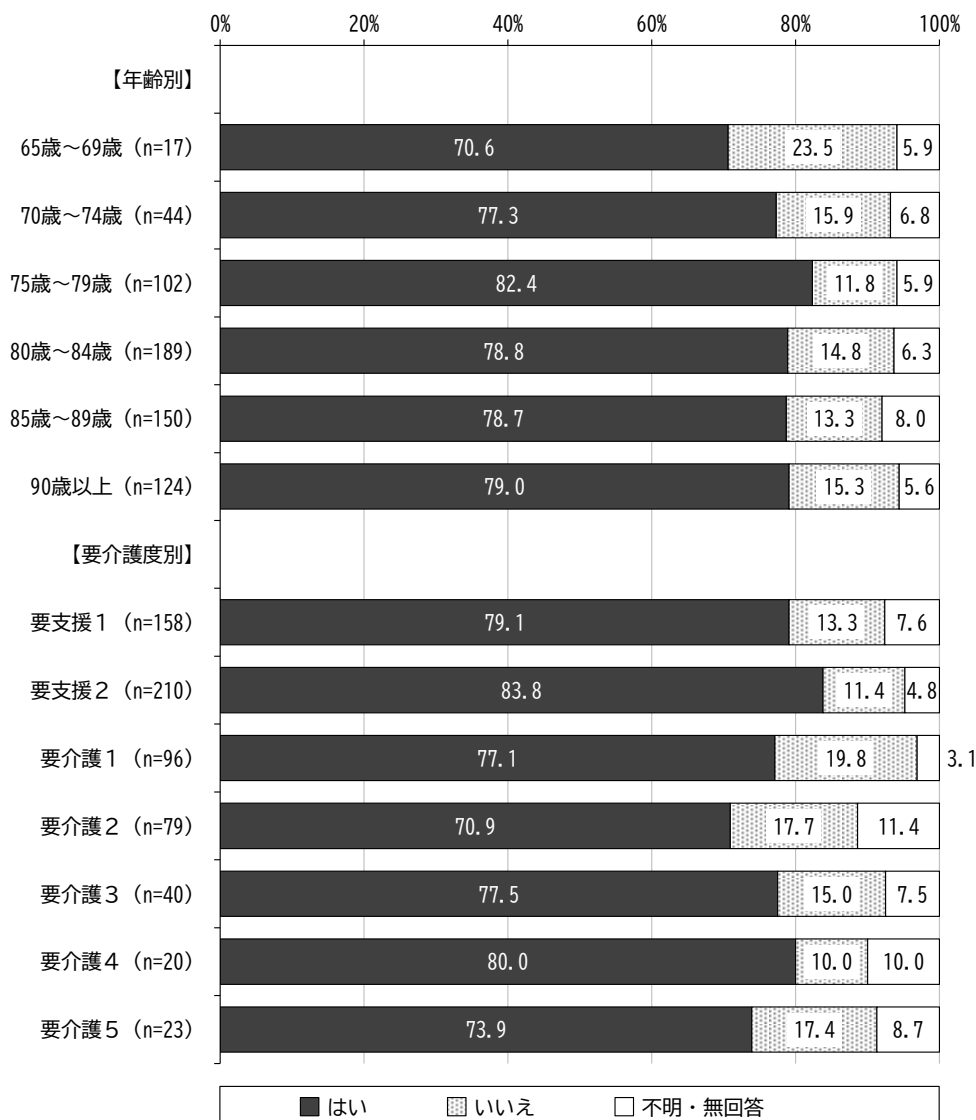
「はい」が79.4%、「いいえ」が14.0%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



※R7年度調査の選択肢「はい」「いいえ」は、R4年度調査では「知っている」「知らない」となっています。

年齢別でみると、いずれの年齢も「はい」が高くなっています。

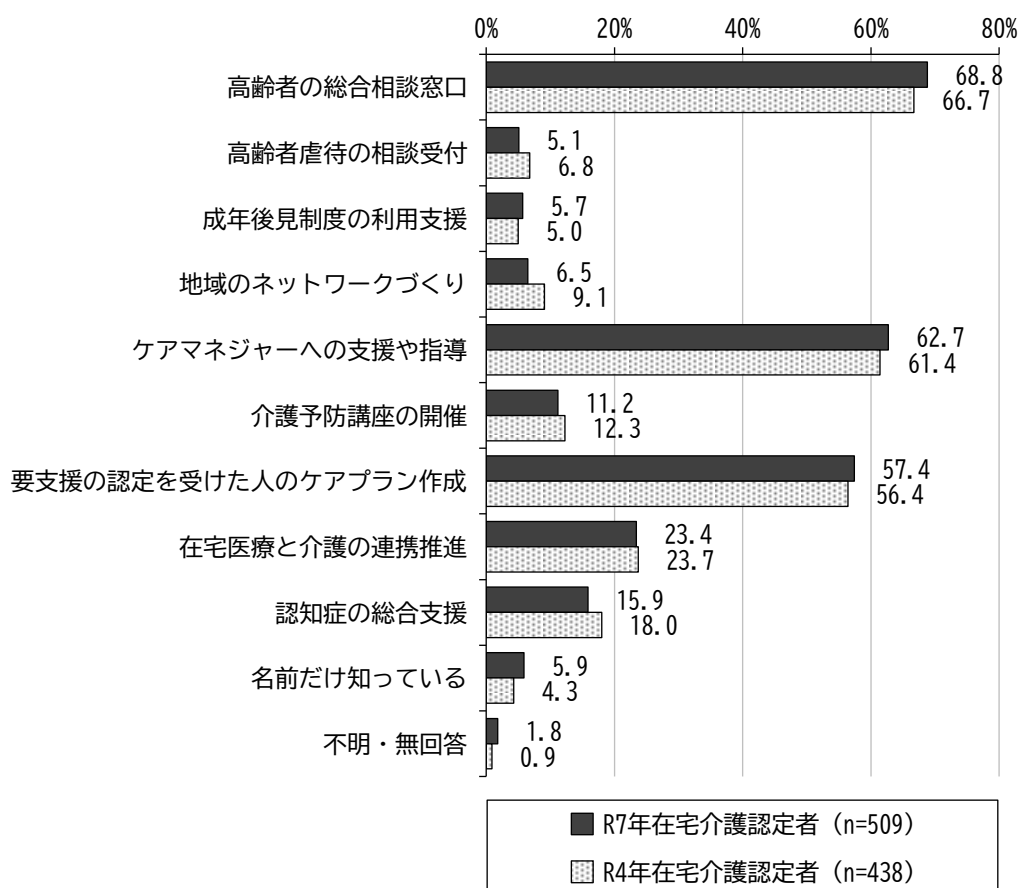
要介護度別でみると、いずれの要介護度も「はい」が高くなっています。



【問9で「はい」と回答した方のみ】

問10 あなたが、地域包括支援センターの役割として知っているものはどれですか。
(複数回答)

「高齢者の総合相談窓口」が68.8%と最も高く、次いで「ケアマネジャーへの支援や指導」が62.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



年齢別でみると、70歳～74歳・85歳～89歳では「ケアマネジャーへの支援や指導」、その他の年齢では「高齢者の総合相談窓口」が最も高くなっています。

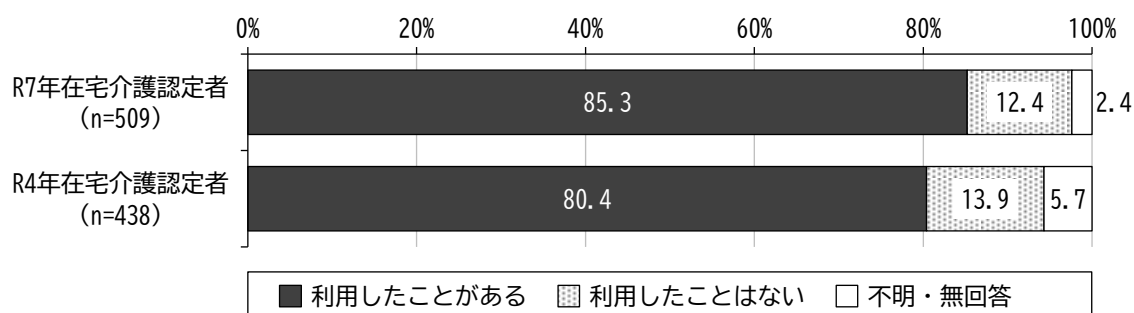
要介護度別でみると、要介護2・要介護5では「ケアマネジャーへの支援や指導」、その他の要介護度では「高齢者の総合相談窓口」が最も高くなっています。

単位：%		高齢者の総合相談窓口	高齢者虐待の相談受付	成年後見制度の利用支援	地域のネットワークづくり	ケアマネジャーへの支援や指導	介護予防講座の開催	要支援の認定を受けた人のケアプラン作成	在宅医療と介護の連携推進	認知症の総合支援	名前だけ知っている	不明・無回答
年齢別	65歳～69歳 (n=12)	83.3	16.7	25.0	16.7	75.0	25.0	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	70歳～74歳 (n=34)	52.9	2.9	5.9	8.8	67.6	5.9	55.9	23.5	11.8	2.9	0.0
	75歳～79歳 (n=84)	70.2	6.0	4.8	4.8	57.1	4.8	59.5	20.2	9.5	6.0	2.4
	80歳～84歳 (n=149)	75.8	4.0	6.0	7.4	64.4	17.4	55.7	25.5	16.1	5.4	2.7
	85歳～89歳 (n=118)	59.3	3.4	3.4	5.1	61.9	7.6	54.2	19.5	12.7	5.1	0.8
	90歳以上 (n=98)	72.4	7.1	6.1	6.1	60.2	11.2	59.2	23.5	23.5	9.2	2.0
要介護度別	要支援1 (n=125)	74.4	6.4	8.8	8.0	59.2	13.6	54.4	27.2	17.6	4.0	1.6
	要支援2 (n=176)	68.8	5.1	3.4	2.8	60.8	9.1	61.9	19.3	14.2	5.7	2.8
	要介護1 (n=74)	63.5	4.1	5.4	12.2	62.2	16.2	50.0	23.0	16.2	9.5	1.4
	要介護2 (n=56)	60.7	5.4	3.6	5.4	69.6	7.1	51.8	19.6	12.5	5.4	1.8
	要介護3 (n=31)	71.0	6.5	12.9	12.9	58.1	12.9	67.7	32.3	25.8	6.5	0.0
	要介護4 (n=16)	87.5	0.0	0.0	6.3	68.8	6.3	62.5	43.8	6.3	0.0	0.0
	要介護5 (n=17)	58.8	0.0	5.9	0.0	76.5	5.9	52.9	11.8	11.8	11.8	0.0

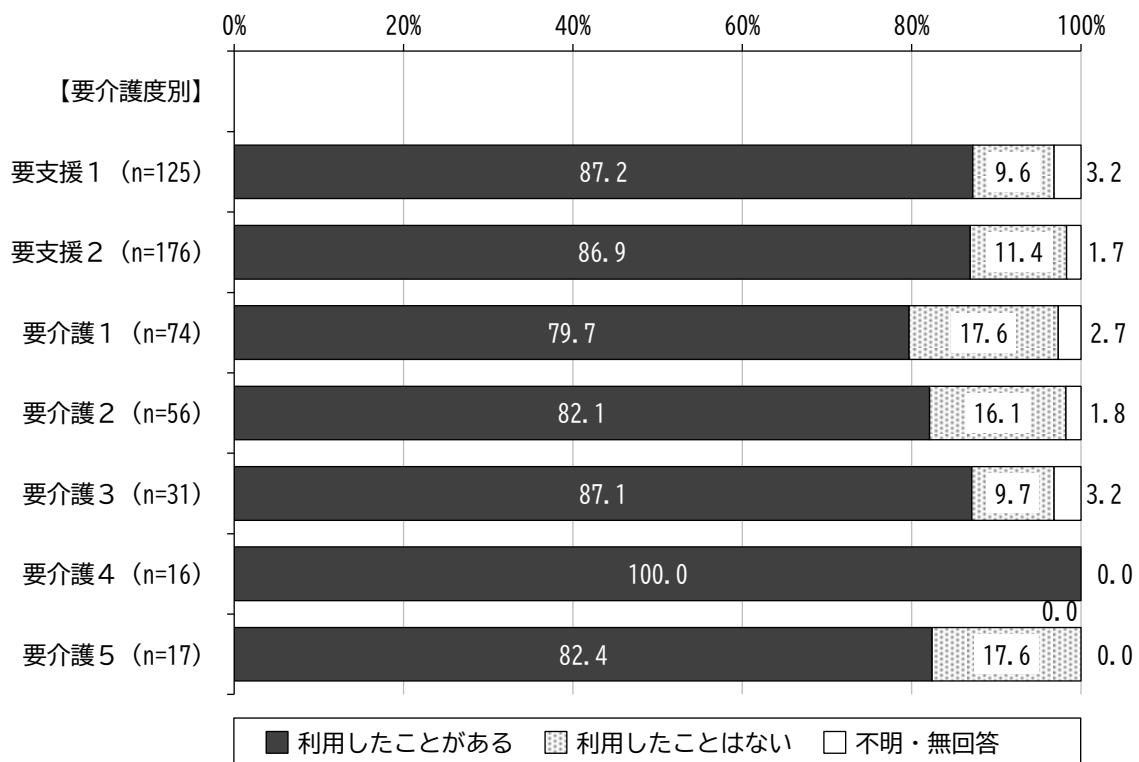
【問9で「はい」と回答した方のみ】

問11 あなたは、地域包括支援センターを利用したことがありますか。(単数回答)

「利用したことがある」が85.3%、「利用したことはない」が12.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

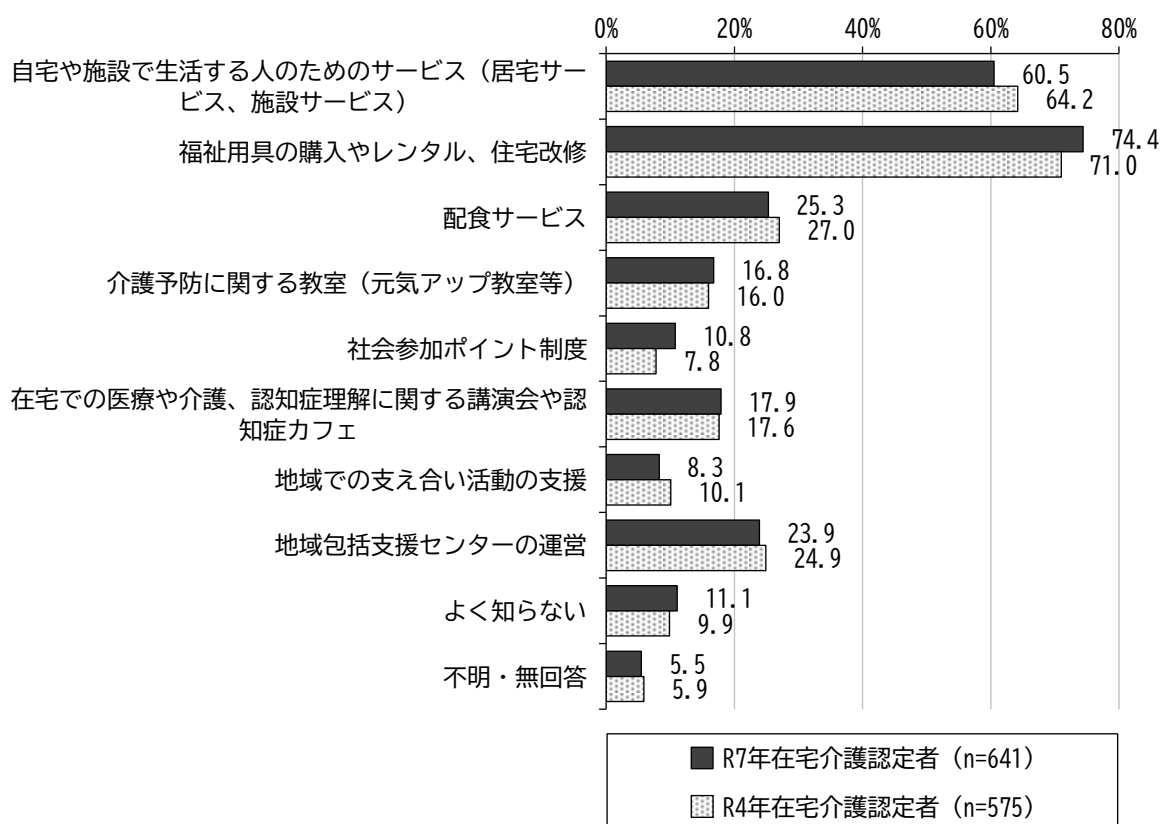


要介護度別でみると、いずれの要介護度も「利用したことがある」が高くなっています。



問 12 介護保険料の使われ方で、あなたが知っているものはどれですか。(複数回答)

「福祉用具の購入やレンタル、住宅改修」が74.4%と最も高く、次いで「自宅や施設で生活する人のためのサービス（居宅サービス、施設サービス）」が60.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



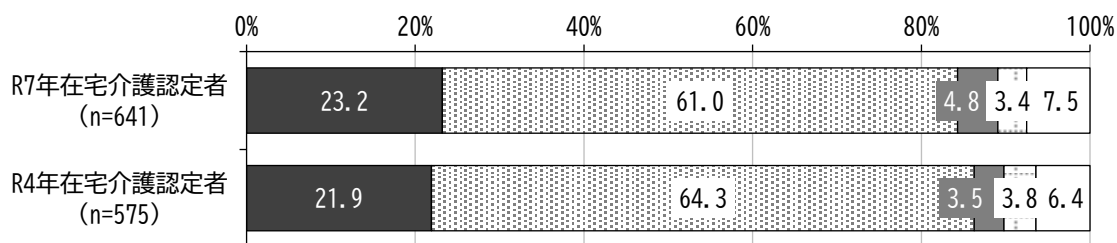
※R7 年度調査の選択肢「福祉用具の購入やレンタル、住宅改修」「よく知らない」は、R4 年度調査では「福祉用具の購入やレンタル、住宅改修、介護用品助成」「知らない」となっています。

要介護度別で見ると、要介護4では「自宅や施設で生活する人のためのサービス（居宅サービス、施設サービス）」、その他の要介護度では「福祉用具の購入やレンタル、住宅改修」が最も高くなっています。

単位：%		自宅や施設で生活する人のためのサービス（居宅サービス、施設サービス）	福祉用具の購入やレンタル、住宅改修	配食サービス	介護予防に関する教室（元氣アップ教室等）	社会参加ポイント制度	在宅での医療や介護、認知症理解に関する講演会や認知症カフェ	地域での支え合い活動の支援	地域包括支援センターの運営	よく知らない	不明・無回答
要介護度別	要支援1 (n=158)	53.8	67.7	26.6	23.4	12.7	19.0	11.4	24.7	11.4	7.6
	要支援2 (n=210)	60.0	75.2	22.9	14.3	12.4	14.8	6.2	23.3	10.5	4.3
	要介護1 (n=96)	62.5	72.9	31.3	18.8	9.4	21.9	9.4	24.0	17.7	2.1
	要介護2 (n=79)	59.5	79.7	22.8	15.2	10.1	21.5	10.1	22.8	11.4	5.1
	要介護3 (n=40)	80.0	85.0	22.5	15.0	10.0	20.0	7.5	32.5	2.5	7.5
	要介護4 (n=20)	85.0	75.0	15.0	5.0	0.0	10.0	0.0	20.0	5.0	10.0
	要介護5 (n=23)	65.2	82.6	21.7	4.3	0.0	13.0	8.7	13.0	13.0	4.3

問 13 今後の介護保険料のあり方について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。
(単数回答)

「介護サービスは現在の保険料でまかなえる範囲でよい」が61.0%と最も高く、次いで「介護サービスが充実するならば、保険料が高くなるのはやむを得ない」が23.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



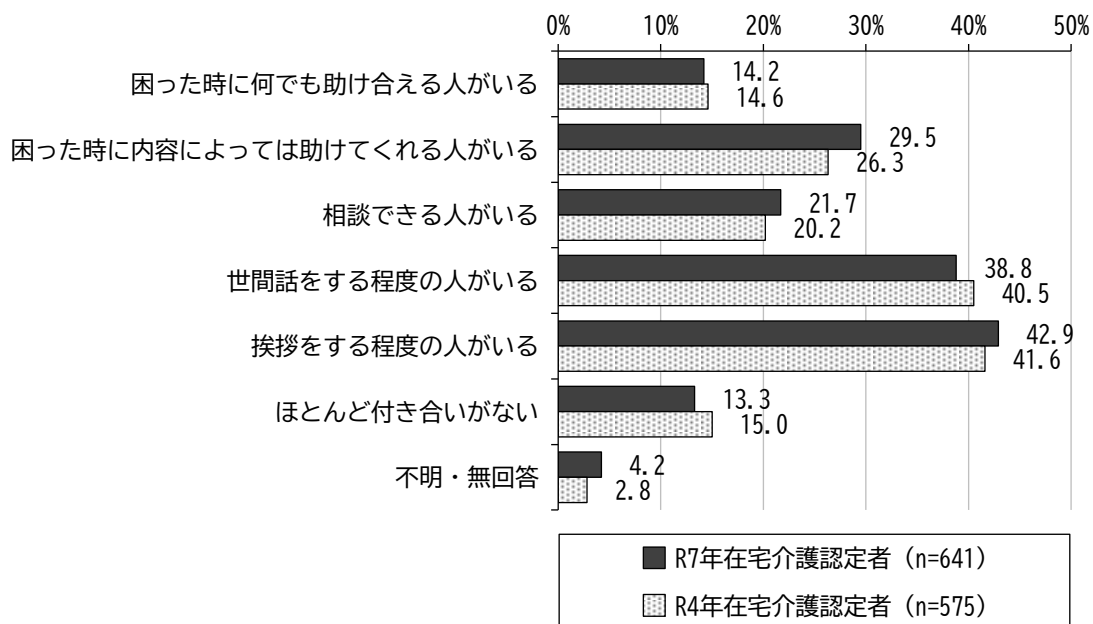
- 介護サービスが充実するならば、保険料が高くなるのはやむを得ない
- ▨ 介護サービスは現在の保険料でまかなえる範囲でよい
- 介護サービスが不足しても構わないので、保険料は安いほどよい
- その他
- 不明・無回答

その他回答記載例
国の予算を増やすべきである。
年金生活が出来る範囲が良いが、サービスは受けたい。
保険料は高いと感じますが、サービスが今より不足するのは困ります。
保険料を使わせて頂けてとてもありがたく、そのおかげで今の私も生活できています。異常に高くなるのは不安を持ちます。程々だと思います。
分らない。

5. 地域での支え合いや地域活動について

問 14 地域の人との付き合いは、どのようですか。(複数回答)

「挨拶をする程度の人がいる」が42.9%と最も高く、次いで「世間話をする程度の人がいる」が38.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



性別でみると、男性では「挨拶をする程度の人がある」、女性では「世間話をする程度の人がある」が最も高くなっています。

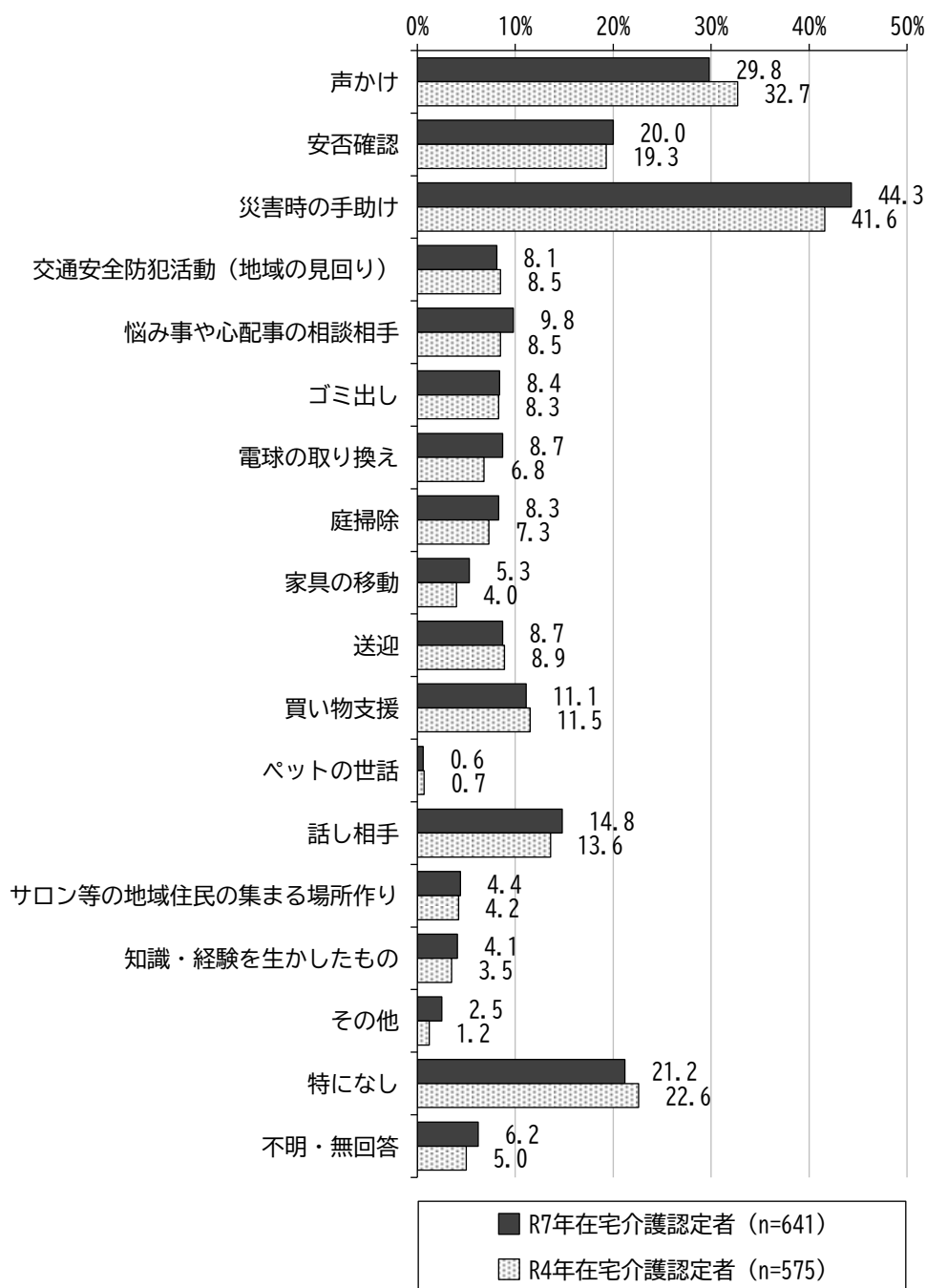
年齢別でみると、いずれの年齢も「挨拶をする程度の人がある」が最も高くなっています。

要介護度別でみると、要支援2では「世間話をする程度の人がある」、要介護4では「困った時に内容によっては助けてくれる人がある」「ほとんど付き合いがない」、その他の要介護度では「挨拶をする程度の人がある」が最も高くなっています。

単位：%		え困 つた 人が 時に 何で も助 け合 え	は困 つた 時に 内容 によ って	相 談 で き る 人 が い る	い る 世 間 話 を す る 程 度 の 人 が	る あ い さ つ を す る 程 度 の 人 が	ほ と ん ど 付 き 合 い が な い	不 明 ・ 無 回 答
性 別	男性 (n=215)	12.1	23.3	17.2	31.6	46.5	15.3	3.3
	女性 (n=411)	15.6	32.8	24.6	42.8	41.4	11.9	4.9
年 齢 別	65歳～69歳 (n=17)	5.9	17.6	23.5	29.4	64.7	11.8	0.0
	70歳～74歳 (n=44)	11.4	31.8	18.2	31.8	47.7	13.6	4.5
	75歳～79歳 (n=102)	20.6	32.4	26.5	48.0	51.0	9.8	2.9
	80歳～84歳 (n=189)	15.9	31.2	25.9	40.7	41.3	12.7	5.3
	85歳～89歳 (n=150)	14.0	32.0	21.3	35.3	38.7	12.0	4.0
	90歳以上 (n=124)	9.7	22.6	14.5	37.1	40.3	17.7	4.8
要 介 護 度 別	要支援1 (n=158)	19.6	30.4	26.6	39.9	41.1	12.7	3.2
	要支援2 (n=210)	15.2	29.0	21.4	49.0	42.4	9.0	4.8
	要介護1 (n=96)	9.4	36.5	22.9	36.5	49.0	13.5	1.0
	要介護2 (n=79)	10.1	26.6	19.0	30.4	49.4	13.9	6.3
	要介護3 (n=40)	12.5	25.0	25.0	27.5	42.5	20.0	7.5
	要介護4 (n=20)	10.0	30.0	10.0	25.0	20.0	30.0	10.0
	要介護5 (n=23)	13.0	17.4	8.7	13.0	39.1	21.7	4.3

問 15 あなたが地域の人に手助けや協力をしてほしいことは何ですか。(複数回答)

「災害時の手助け」が44.3%と最も高く、次いで「声かけ」が29.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



※R7年度調査の選択肢「電球の取り換え」は、R4年度調査では「電球換え」となっています。

その他回答記載例
あまり人と関わりたく無い。
今の所必要ない。
体調不良の時の際に相談出来たら…。
地域を限定しない。どの地域の人で気軽に集まれる場所、サロン等。

性別でみると、男女ともに「災害時の手助け」が最も高くなっています。

年齢別でみると、いずれの年齢も「災害時の手助け」が最も高くなっています。

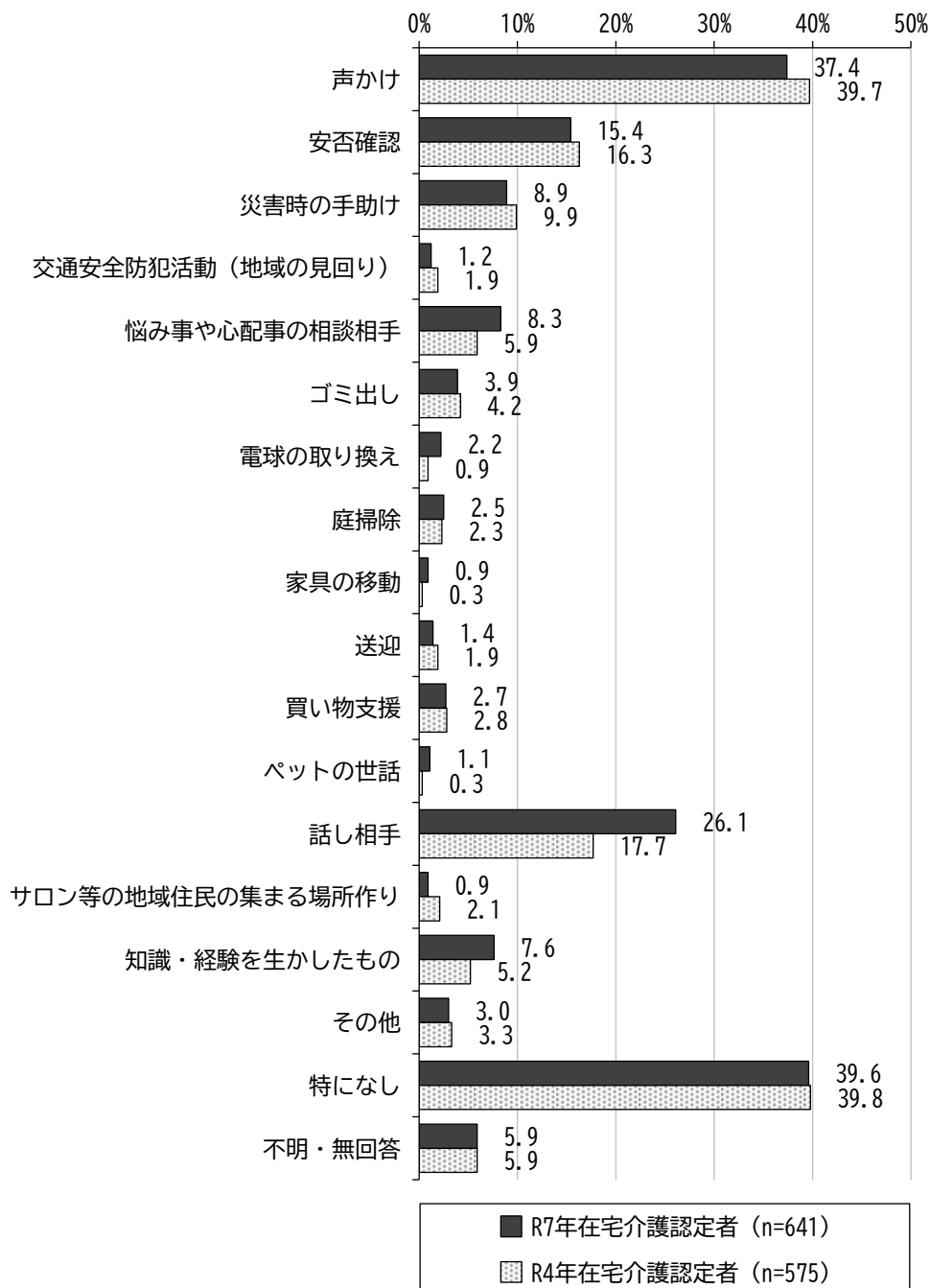
要介護度別でみると、要介護4では「声かけ」「災害時の手助け」、要介護5では「特になし」、その他の要介護度では「災害時の手助け」が最も高くなっています。

単位：%		声かけ	安否確認	災害時の手助け	交通安全見回り活動 (地域安全防犯活動)	悩み事や心配事の相談相手	ゴミ出し	電球の取り換え	庭掃除	家具の移動	送迎	買い物支援	ペットの世話	話し相手
性別	男性 (n=215)	28.4	20.9	44.7	9.8	11.6	7.0	10.2	7.0	6.0	9.3	8.8	0.5	11.2
	女性 (n=411)	30.4	19.7	44.8	7.5	9.0	9.5	7.8	9.0	4.9	8.8	12.4	0.5	16.5
年齢別	65歳～69歳 (n=17)	5.9	29.4	41.2	5.9	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	5.9	17.6	0.0	0.0
	70歳～74歳 (n=44)	27.3	15.9	52.3	2.3	4.5	6.8	9.1	6.8	4.5	9.1	11.4	0.0	11.4
	75歳～79歳 (n=102)	25.5	15.7	49.0	12.7	8.8	8.8	9.8	11.8	6.9	13.7	12.7	1.0	12.7
	80歳～84歳 (n=189)	28.0	21.7	47.6	9.0	12.7	11.1	12.2	9.0	8.5	9.0	13.2	1.1	12.2
	85歳～89歳 (n=150)	36.7	21.3	38.7	8.0	12.7	8.0	4.7	6.0	2.7	6.7	8.7	0.0	22.0
	90歳以上 (n=124)	31.5	20.2	41.9	6.5	5.6	6.5	7.3	8.9	3.2	8.1	8.9	0.0	14.5
要介護度別	要支援1 (n=158)	35.4	20.9	45.6	10.1	7.6	7.6	10.8	9.5	5.1	8.2	13.3	0.0	14.6
	要支援2 (n=210)	32.4	23.3	49.5	7.6	12.9	12.4	9.0	10.5	6.7	9.0	13.3	1.0	17.6
	要介護1 (n=96)	24.0	16.7	44.8	8.3	12.5	8.3	9.4	8.3	6.3	10.4	11.5	0.0	13.5
	要介護2 (n=79)	20.3	20.3	36.7	5.1	6.3	6.3	6.3	3.8	2.5	8.9	3.8	0.0	15.2
	要介護3 (n=40)	25.0	12.5	37.5	10.0	7.5	5.0	5.0	5.0	5.0	10.0	7.5	0.0	7.5
	要介護4 (n=20)	40.0	20.0	40.0	10.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	15.0	0.0	15.0
	要介護5 (n=23)	21.7	13.0	39.1	8.7	8.7	0.0	4.3	4.3	0.0	8.7	4.3	4.3	4.3

単位：%		のサロン等集まる場所の地域住民	た知も識の・経験を生かし	その他	特になし	不明・無回答
性別	男性 (n=215)	3.7	6.5	1.4	20.0	6.5
	女性 (n=411)	4.9	2.9	3.2	21.2	6.1
年齢別	65歳～69歳 (n=17)	5.9	0.0	11.8	17.6	5.9
	70歳～74歳 (n=44)	4.5	4.5	2.3	22.7	4.5
	75歳～79歳 (n=102)	8.8	5.9	2.0	18.6	5.9
	80歳～84歳 (n=189)	4.2	6.9	3.7	19.6	5.8
	85歳～89歳 (n=150)	0.7	1.3	2.0	18.0	6.7
	90歳以上 (n=124)	5.6	2.4	0.8	27.4	7.3
要介護度別	要支援1 (n=158)	3.8	2.5	3.2	13.9	5.1
	要支援2 (n=210)	6.2	4.8	3.3	17.6	5.7
	要介護1 (n=96)	5.2	8.3	0.0	26.0	3.1
	要介護2 (n=79)	2.5	5.1	1.3	31.6	7.6
	要介護3 (n=40)	2.5	0.0	5.0	17.5	10.0
	要介護4 (n=20)	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0
	要介護5 (n=23)	4.3	0.0	4.3	43.5	8.7

問 16 あなた自身が、地域の人に対して手助けや協力できることは何ですか。
(複数回答)

「特になし」が39.6%と最も高く、次いで「声かけ」が37.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「話し相手」が8.4ポイント高くなっています。



※R7 年度調査の選択肢「電球の取り換え」は、R4 年度調査では「電球換え」となっています。

その他回答記載例
体が動けないので気持ちはあっても出来ない事ばかり。
傾聴グループ立ち上げ。
病気の為出来ない。
やれる事があればやってあげたいが、自分の家の事だけで手いっぱいです。

性別でみると、男性では「声かけ」、女性では「特になし」が最も高くなっています。

年齢別でみると、80歳～89歳では「声かけ」、その他の年齢では「特になし」が最も高くなっています。

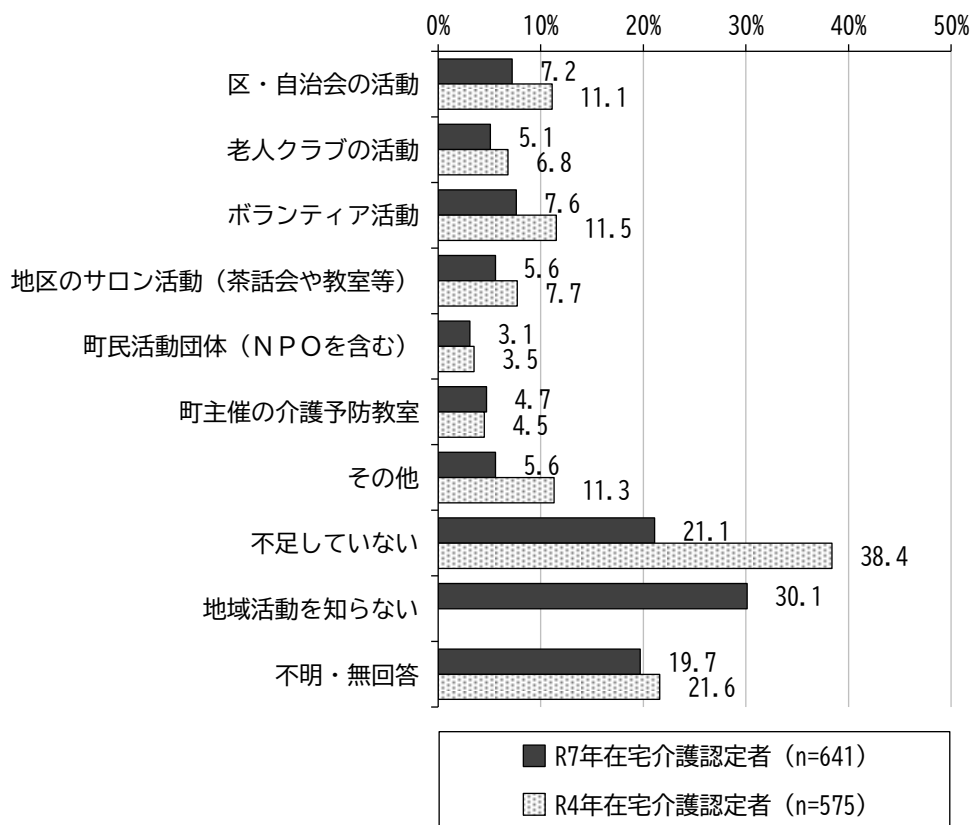
要介護度別でみると、要支援1・要支援2では「声かけ」、要介護1から要介護5では「特になし」が最も高くなっています。

単位：%		声かけ	安否確認	災害時の手助け	交通安全防犯活動 (地域の見回り)	悩み事や心配事の相談相手	ゴミ出し	電球の取り換え	庭掃除	家具の移動	送迎	買い物支援	ペットの世話	話し相手
性別	男性 (n=215)	40.5	17.7	14.0	0.9	8.8	6.0	6.0	3.7	2.8	1.4	3.3	1.4	18.6
	女性 (n=411)	35.5	14.1	6.3	1.5	8.0	2.9	0.2	1.9	0.0	1.5	2.4	0.7	29.9
年齢別	65歳～69歳 (n=17)	23.5	17.6	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.5
	70歳～74歳 (n=44)	40.9	20.5	13.6	0.0	13.6	6.8	0.0	2.3	0.0	0.0	2.3	0.0	27.3
	75歳～79歳 (n=102)	29.4	15.7	5.9	1.0	8.8	2.9	1.0	2.0	0.0	1.0	3.9	0.0	29.4
	80歳～84歳 (n=189)	44.4	16.9	11.6	1.6	9.5	7.9	3.7	5.3	1.1	4.2	3.7	2.6	30.7
	85歳～89歳 (n=150)	42.0	16.7	8.0	1.3	9.3	1.3	1.3	0.7	0.7	0.0	0.7	0.7	28.0
	90歳以上 (n=124)	27.4	8.9	6.5	1.6	4.0	1.6	3.2	1.6	2.4	0.0	3.2	0.0	13.7
要介護度別	要支援1 (n=158)	51.9	22.8	8.9	2.5	10.8	3.8	1.3	3.2	0.0	1.9	3.2	0.6	36.1
	要支援2 (n=210)	36.7	13.3	7.6	1.4	11.4	3.3	2.4	2.4	1.0	1.9	1.4	0.0	31.0
	要介護1 (n=96)	36.5	17.7	8.3	1.0	6.3	7.3	4.2	4.2	2.1	1.0	5.2	4.2	24.0
	要介護2 (n=79)	22.8	11.4	8.9	0.0	3.8	3.8	1.3	2.5	1.3	0.0	2.5	1.3	10.1
	要介護3 (n=40)	27.5	5.0	10.0	0.0	2.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	12.5
	要介護4 (n=20)	20.0	5.0	5.0	0.0	0.0	5.0	5.0	0.0	5.0	5.0	5.0	0.0	15.0
	要介護5 (n=23)	26.1	13.0	26.1	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7

単位：%		のサロン等 集まる場所 地域住民	たも 知識・ 経験 を生かし	その他	特になし	不明・ 無回答
性別	男性 (n=215)	0.9	11.6	2.8	36.3	4.7
	女性 (n=411)	1.0	5.8	2.9	41.4	6.8
年齢別	65歳～69歳 (n=17)	0.0	11.8	0.0	41.2	5.9
	70歳～74歳 (n=44)	0.0	15.9	0.0	45.5	0.0
	75歳～79歳 (n=102)	2.0	8.8	7.8	39.2	8.8
	80歳～84歳 (n=189)	0.5	7.9	2.6	27.5	6.9
	85歳～89歳 (n=150)	0.7	7.3	2.0	40.0	5.3
	90歳以上 (n=124)	1.6	4.0	1.6	55.6	5.6
要介護度別	要支援1 (n=158)	0.6	8.9	2.5	27.8	5.7
	要支援2 (n=210)	1.4	7.6	3.3	33.3	7.6
	要介護1 (n=96)	1.0	9.4	0.0	43.8	4.2
	要介護2 (n=79)	1.3	6.3	0.0	64.6	3.8
	要介護3 (n=40)	0.0	5.0	7.5	42.5	10.0
	要介護4 (n=20)	0.0	10.0	15.0	50.0	5.0
	要介護5 (n=23)	0.0	4.3	4.3	60.9	4.3

問 17 あなたの住む地域には、どのような地域活動が不足していると思いますか。
(複数回答)

「地域活動を知らない」が30.1%と最も高く、次いで「不足していない」が21.1%となっています。
なお、令和4年度調査と比較すると、「不足していない」が17.3ポイント低くなっています。



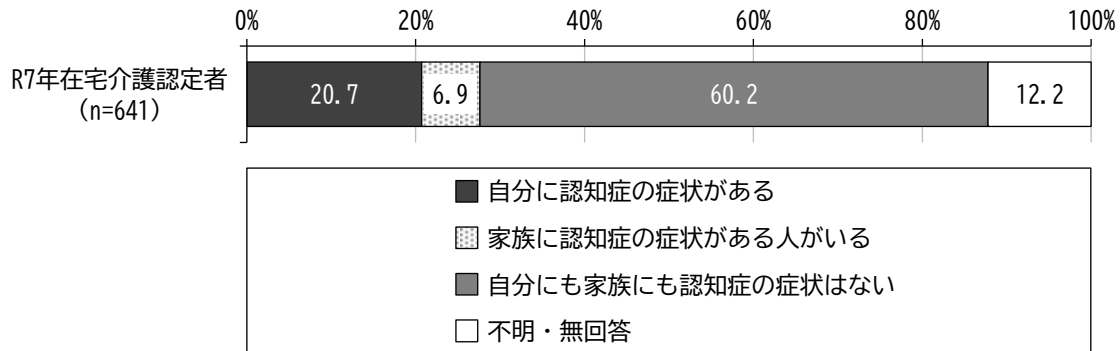
※選択肢：「地域活動を知らない」はR7年度調査のみとなっています。

その他回答記載例
興味が無い。
災害発生時対応行動。
参加していないので、わかりません。
寝たきりの高齢者がいる世帯への支援活動。
防犯対策、防犯カメラ。
要介助者の早期確認。

6. 認知症施策について

問 18 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(単数回答)

「自分にも家族にも認知症の症状はない」が 60.2%と最も高く、次いで「自分に認知症の症状がある」が 20.7%となっています。



【問 18 で「自分に認知症の症状がある」「家族に認知症の症状がある人がいる」と回答した方のみ】

問 19 あなたもしくは、認知症の症状があるご家族の生きがいややりたいこと、困っていることを教えてください。(記述回答)

■ 「自分に認知症の症状がある」を選んだ方の意見内容

生きがいややりたいこと	困っていること	その他
-	-	今は家族が守ってくれているので問題はない。
本人(母)が98歳で高齢なのでよく分かりません。	生活全般について手助けが必要で同居しているので毎日続いています。	-
喫茶店に行く事。	物忘れがひどい。下の漏れがある。	-
家の内外の掃除、整理整頓。	-	-
-	自分が今後どうして生きていけばいいのか。	-
-	生きる事。全て面倒。	-
-	物忘れがひどい。怒りっぽい。	-
友人とおしゃべりがしたい。	日時が分かりにくくなっている事(介護者)。	何度も同じ事を聞いても介護者も余裕が無ければ優しく対応できかねていくから。
-	本人が認知症である事が認知してない事。	どこから認知症なのかははっきりしていない。
生きがいもやりたいこともない。	何でもすぐに忘れてしまう。	分らない。
-	会話が成立しない。文章で一行以上の話をすると「何を言っているのかわからん」と言われてしまう。	急に葬式等の用事が入ると「ショートステイ」の申し込み、出来るか?から始まる。定員オーバーだと預けられない。土曜、日曜日は社協は休みなので誰に、どこに電話すれば?よいか。
美味しいものを食べる。	家で暮らしたいが介護が必要。誰かの助けが必要でショートステイを利用せざるを得ない。ショートステイでは淋しいので生きがいを全く感じられない。	本人の希望レベルとは異なっても一応対応してくれる人、サービスはある。
本人の話をよく聞き入れてあげる事。	今のところないです。	寄り添う事。

生きがいややりたいこと	困っていること	その他
自宅の小さな庭や公園等に花を植えたい。	物忘れがすごいので、行動が鈍ってしまう。	自分もそうだけど近所の皆さんが普通人として接してくれているから。
頭がウロウロ、物忘れ。	-	-
膝（足）が痛くなる。	膝が悪いので困っている。	物忘れが少しある。
りんりん体操に行くこと。庭の手入れ。	忘れっぽい事、同じ事を話す。	ご近所の方に親切にしてもらい喜んでます。
-	リハビリ、治療（はなの木）に行く日をよく忘れる。	-
家族の手伝いをしたい。	やらせてもらえない。	-
-	出来事をなかなか思い出せない。	-
新聞を読む。	人の言っていることが分からない。	-
生きている意味があまり感じられない毎日です。	もっと外に出て活動したいのですが元気というか気力が出ない。	認知になると、どうしても話が通じないので結局「そうですか」とかで話は終わってしまう。
週に三回ケアサービスに行っているがまんねりがある。	時々行くのが嫌になるとケアマネージャーが大げさに騒いで困る。	家でのんびりしている時が良い。
-	-	重度（身体も含め）の為、本人の望む事はない。
-	物忘れが多い。	-
毎日の喫茶店通い。	-	-
-	いろいろわからない事が多くなった。	-
-	-	元気に生活する事。
なくなった。	歩行が難しくなってきたこと。	-
-	施設のスタッフの方々が良くして下さっているので特にはないです。	-
みんなで旅行がしたいです。	-	-
？	？	-
通所に出掛けて皆で色々出来ることや人と話が出来ることはうれしい。	夫がいなくなると困る。	-
日々を生きる事。	-	-
元気である事、ひ孫たちの活躍を聞く事。	老化の症状と区別がつかず分からない。	-
-	旅行に行けなくなった。一人にしておけない。	-
-	意思の確認ができない。	-
-	マンションを売りたい。	-
-	1.物忘れがある。2.書くことが困難ある。3.人と話をしている時に途中で詰まる。	-
どんな状況でもやれることは自分でやること。	上記に対して理解せず、手助けが必要としてしまうこと（介助者の自己満足）。	特に介護支援センター・ケアマネージャーの方々に考えてほしい。
仕事、子供や孫の行く末を見守る事。	-	-
孫の成長。	-	-
散歩	現在は少ない。	-
-	本人名義の銀行の通帳や印鑑の場所がわからない。	-
-	仕方のない事とわかっているが何度も同じことを話して（家族と）ケンカになってしまうことが多い。	-
-	-	主人が倒れた時、年歳と病气持ち。
思う様に歩けないので生きがいについてはない。	はっきり言って何もわかりませんので、包括センターのケアマネさんが頼りです。	-
-	ごみを捨てる所がない。ほうじもと山。	-
何も無い。	尿漏れ、おむつをしていてもトイレに行き下着が濡れる。	お風呂場で時々、便が出てしまう。
-	買い物。	-

生きがいややりたいこと	困っていること	その他
認知症が始まったらせめて健康でしょう。体力作り。	記憶力の衰え。	探し物ばかりしています。
生きがいを思いつかない。	困っているという意識がない。	-
-	美容院に行けない。食事の用意ができない。	近所との声掛けがある。
地域活動グラウンドゴルフ。	自家用車がドクターストップで何かと不自由している。	-
-	-	時々、認知症があるのかな？物忘れなのかな？と暮らしています。
-	トイレの事で大変です。	-
おしゃべりする事。	意思疎通ができない事。	-
車に乗せてもらい出かける。	-	-
花壇とミシンがけとトールペイント。	-	-
そばにいて見るだけで自分の生きがいで希望になる。	意思疎通があまりできない。	-
平穏に暮らしたい。	-	-
編み物	車をあまり運転しなくなったので、思った時に思った所に自分で行けないこと。	-
-	忘れっぽくなりました。	-
畑と花。	産直が遠くなり自由に行けなくなった。	-
料理の手伝い。	すぐ忘れる事。	-
-	セニアカートの点検の事で話していた時、同じこと何度も言う事。	-
自分で出来ると思ってする事。食器の片付けと花瓶の水替えなど。	家のトイレで少し汚れていると大騒ぎ。それ、こぼした、付いた、洗濯物にさわること等、一日一回以上言われる。	-
一人で外出してみたい。	-	-
-	言われた事を理解できない。忘れてしまう事多数。	-
-	重度な認知症ではないが、ガスを使用して切り忘れていたので困る。デイサービス等利用を提案しても拒絶されてしまう。	-
父がしたい事をさせたい。	父は目が悪く人の介護が必要。	-
少しでも人の役に立つ力になりたい。	-	-
-	本人が認知症で耳が聞こえなくて、目も見えてない状態でかいわが出来ない。	-
ピアノの演奏。	行動の制限。	-
家族との通常の生活。	-	-
健康で自宅で暮らしたい。	記憶力や認知力の低下、膝関節症による歩行困難。	-
ケガをせず元気に過ごして欲しいです。	排尿、排便が思うようにできない。	代筆の為、希望を書きました。
-	パーキンソンで認知能力が徐々に落ちてきているので、仕方がないと思いつつ、できるだけ今のコミュニティを維持したいと考えて生活していますが、1人暮らしがどこまでできるか不安です。施設などに入所する事になり、環境が変わってしまったら、認知症の症状が一気に進んでしまうのではないかとも思います。	-
-	物忘れ。	-
-	食事した事、入浴した事を忘れてしまう。忘れてしまうので、また湯はりをしてしまう。	-
-	-	分かりません。

生きがいややりたいこと	困っていること	その他
-	これから先、認知症が進んでも経済的に厳しい場合の受け入れ先が、どうなるのが心配です。	現在朝から1時間ウォーキングに行くのですが、もし自宅が分からなくなった時の事を考えると心配です。
うまいものが食べたい。	車椅子が自宅で使えない。	-

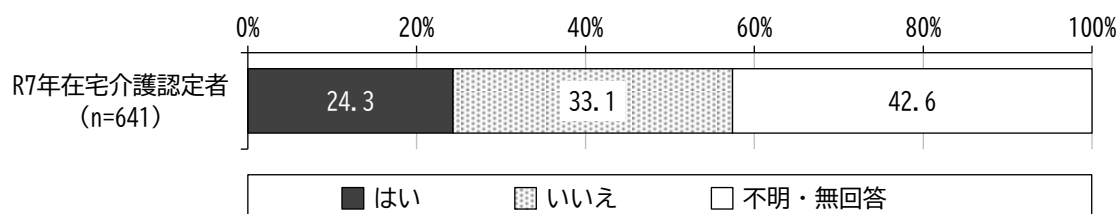
■「家族に認知症の症状がある人がいる」を選んだ方の意見内容

生きがいややりたいこと	困っていること	その他
-	本人が視覚障害者で義母に認知症の状況があるので同時の介助が困難だったり、精神的にきつい時が多くなりつつあります。	周囲の方々の理解がある。
普通の生活。	-	-
現状のまま穏やかに過ごせること。できる範囲で外出など家族の時間を持てる事。	-	-
-	今は良いが年と共に出来なくなるばかりの事が多くなることばかりになるから。	-
-	パーキンソン病 13 年目で安定しているが病気に伴う認知症状が少しは発生しつつある。	分らない。
-	いろいろやる事を進めてもやる気が無い。やりたくないという。	-
最後を迎えるのは本当は自宅が良い。	一戸建てだが住居スペースが2、3階で階段の昇降が高齢にともない生活するのが難しい（難しくなっている）。	認知があれば要介護になる(?)と思うが比較的しっかりしている場合、身体的には、介助が必要なことが多くあっても要支援になる?受けるサービスが必要なサービスと異なる?
生きがいを見失っている事。	今後どちらかが認知症がひどい状態になった時の対応。	-
-	-	本人が入院していてわからないと思う。認知症もあるから。
認知症になり車での移動が難しくなったので歩いて行ける近場のサロン等があると行きたい。	行動範囲が歩きなので(車の運転はしなくなった)買い物等は多く買うことが出来なくなった。大きな物など。	-
-	1度言った事を何度も言わなければならない。本人はその気がないが私は時々言葉をあらげてしまう。	-
-	体(身体)が不自由。	-
-	-	お婆の為、自分でかかわったことがない。
-	勝手に物を頼む。	-
-	食事の件、好き嫌いが多く。機嫌が悪い日が多い。	-
自分で出来る事で人の役に立てばいいと思う。	足が悪い。	-
夫婦二人共腰痛がありいざという時には何もできない。最悪でも今の状態を継続したい。	車を手放したので公共の乗り物の場所まで行くのが困難。	-
-	これからどうなるかわからないので不安。	-
-	徘徊	現在は入院中で治まっている。
-	どこの病院へ行ったらいいかわからない。	-
-	現時点、記憶が飛んでしまう。	-

生きがいややりたいこと	困っていること	その他
デイサービスでのおしゃべり。	ゴミ出しと薬の服用。	いろいろな物の位置が変わってそれを覚えていない。
-	-	行動、言動について認めきれないところ。元気だった事を知っている。
体力がなくなって自由に歩きまわれないのでつまらない。	-	-
自分の学んだ事や経験を通じて、小さな傾聴の輪を広げていきたい。	主人を一人家において、私が出掛ける事が難しい。	-
自分の足で動ける間は旅行に行ったりしたい。	耳が遠く同じことを何回も言わなければいけない。聞こえても理解力がないので話す事が減る。	-
施設での人との会話。(介護者。)	話す言葉、排便の片付け。(介護者。)	-
仕事や自分の好きな事をする時間。	施設への入所を考える程、重度な認知症ではないが、日常生活で出来ない事が増えている為、短い時間ではあるが週3、4日実家に行くのが負担ではある。自分に家にも高齢者が居る自分の将来のお金の不安もあり、もっと仕事がしたいと思ってしまう。	-

問 20 地域生活の様々な場面において、認知症の人が尊重され、本人が望む生活が継続できていると考えますか。(単数回答)

「はい」が24.3%、「いいえ」が33.1%となっています。



問 20-1 問 20 でそう考えるのはなぜですか。(記述回答)

問 20 で「はい」を選んだ方の記述回答者数は 69 名、「いいえ」を選んだ方の記述回答者数は 94 名で、内容は以下のとおりとなっています。

■問20で「はい」を選んだ方

カテゴリ	件数
地域の支援体制	11
家族の支え	9
本人の自由な生活	9
デイサービス利用	5
認知症への理解	5
近隣住民の交流	4
施設での生活	4
よくわからない・知らない	10
その他	14
計	71

■問20で「いいえ」を選んだ方

カテゴリ	件数
認知症の実態が不明、理解不足	28
支援体制の不十分	15
地域交流の希薄化	11
家族・介護者の負担	9
本人の意思が不明確	6
認知症の隠蔽傾向	6
その他	19
計	94

※カテゴリが複数に該当の場合があります。

【問 20 で「はい」を選んだ方】

■地域の支援体制

そう考える具体的な理由 記載例
地区の老人クラブの会員であり、交流の場がある。民生委員もいて支援の体制はあると思うが 98 歳の老人への支援は包括センターに相談するしかないのでは。
行政のやり方が他の所と違い、老人にやさしい活動をしていると思います。
今は地域包括支援センターしか分からないが連絡するとすぐ来てもらえる。
それなりの支援がなされていると思うから。

■家族の支え

そう考える具体的な理由 記載例
地域ではなく家族で解決。
家族の支えがある為。
家の方に相談する。
家族がその人を大事にされているからです。

■本人の自由な生活

そう考える具体的な理由 記載例
本人が気ままに生活している。
自由に生活出来るから。
本人が何を望んでいるかわかりませんが毎日生活できている。
生活がすべて本人の思うようにしてもらい、それにこちらの生活を極力合わせているから。

■デイサービス利用

そう考える具体的な理由 記載例
地域包括支援センターへの相談によりケアマネージャーさんが決まりデイサービス、訪問看護のサービスを受けられる事になったから。
デイサービスに通えている。
夫は認知症でしたが、週 2 のデイサービス、少しのショートステイで出来ました、本人の性格だと思う。
現在はデイサービスに毎日通っているの。

■認知症への理解

そう考える具体的な理由 記載例
友達との会話で認知症の方の待遇がよくなっていることを知ることがある。
よくよく話し合いをすると分かったような気になるので案外話し合いをする時がある。よくよく普通の話をするとうかかなあと思います。
周りで認知症の方がいらっしやらないけれど、様々な場面で尊重されているのではないかと思った。
大多数の人が満足してはいないと思いますが、認知症そのものに対する理解は進んでいると思います。

■近隣住民の交流

そう考える具体的な理由 記載例
ご近所の方々に親切にしてもらってる。
隣近所で皆同じように話し合いが出来る。
皆様いい人ばかりだから。
自治会内でグループ活動が積極的。

■施設での生活

そう考える具体的な理由 記載例
施設で楽しく生活しているので。
介護施設の方達に親切にしている。
家族と同居、または施設の入居。
近所の人で施設に入った人とデイサービスへ週3で行ってる人がいます。施設に入った人、デイサービスに入った人二人共楽しく生活してるようです。

■よくわからない・知らない

そう考える具体的な理由 記載例
困っている人を知らない。
認知症となった人に中々会う機会がなくてよく分からない。
認知症かどうか見た目で見えない。
まわりにいない。

■その他

そう考える具体的な理由 記載例
多くの方は知らないが、見回しても近所では本人が最高齢だと思うから本人として気を付けて行動している。
現在までの所知人の「人」は明るく笑って生きているからこの町は素晴らしいと思います。
今現在の高齢者はそれ以前に或いは今後の人々より恵まれた状態だと思います。今のままの状態を維持し続けるだけで十分です。
同じと思う。

【問20で「いいえ」を選んだ方】

■認知症の実態が不明、理解不足

そう考える具体的な理由 記載例
自分の周りで認知症の人が居ないので、詳しいことが分からない為。
認知症の人がおかれている状況を知らない為。
認知症の進み方によって違うから。
認知症で不自由している人を見たことも会ったこともないです。

■支援体制の不十分

そう考える具体的な理由 記載例
家から出られない症状では支援が受けられない。
知人で心配の方がみえたので自分のケアマネさんに相談したら家族がすることですと…家族とうまくいってない方もいられるのでもう少し協力してほしかったです。
相談出来る場が少なくあっても平日の限られた時間になるので。
認知症専門のショートステイや施設が無い。

■地域交流の希薄化

そう考える具体的な理由 記載例
地域の状況を知らない。
認知症でなくても声掛けほとんどない。
長年住んでいますがその様な状態の人は知らないし、知人同士でも話題にしない。
地区の人々との交流がほとんどない。

■家族・介護者の負担

そう考える具体的な理由	記載例
進行していくものなので、程度によっては自宅で生活は難しいと思うから。状況によって一緒に暮らせない場合もあるから。	
認知症の介護が大変なので介護者の忍耐が必要。	
介護の人が足りなくロボット AI の時代に変化。	
家族でもできない。	

■本人の意思が不明確

そう考える具体的な理由	記載例
本人がわかっていないので。	
意思が伝わらないので周りが何がしたいのか理解できない。	
本人しか解らない。	
認知症の人が望む生活がよくわからない。	

■認知症の隠蔽傾向

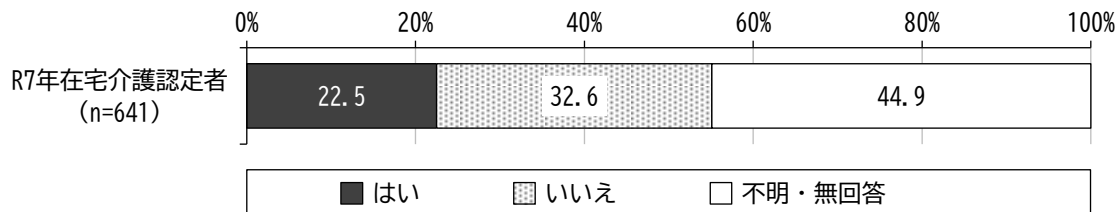
そう考える具体的な理由	記載例
地域に広く知られない。	
認知症になると外に出ない。隠す。	
認知症の人はそれを隠そうとされるのか、声掛けすると嫌がる人が多いような気がします。	
誰かが認知症なのか、他人に知ってもらおうとしない。隠す様にしている。	

■その他

そう考える具体的な理由	記載例
今は施設に入所しているが家に戻りたい。	
症状の軽いうちはともかく、認知症が重くなると地域での生活は無理となるのではないのでしょうか。	
外に出ないから、一人で動けないから。	
経済的な理由が多い。	

問 21 東郷町は、認知症の人が自分らしく暮らせるまちになっていると思いますか。
(単数回答)

「はい」が22.5%、「いいえ」が32.6%となっています。



問 21-1 問 21 でそう思うのはなぜですか。(記述回答)

問 21 で「はい」を選んだ方の記述回答者数は 54 名、「いいえ」を選んだ方の記述回答者数は 82 名で、内容は以下のとおりとなっています。

■問21で「はい」を選んだ方

カテゴリ	件数
生活の満足感	13
情報不足・わからない	12
行政・役場の支援	8
介護サービス利用	7
家族・親族の支え	5
近所・地域の助け合い	5
地域活動	3
その他	5
計	58

■問21で「いいえ」を選んだ方

カテゴリ	件数
情報・知識不足	26
家族・介護者の負担	11
認知症支援施設不足	6
行政サービスへの不満	5
外出・交通の不便	5
経済的負担・費用問題	4
医療機関・診療所問題	3
その他	25
計	85

※カテゴリが複数に該当の場合があります。

【問 21 で「はい」を選んだ方】

■生活の満足感

そう思う具体的な理由	記載例
自由を大切にしてくれているから。	
自由に生活出来るから。	
普段の生活の中で町に対する不満が出る事が無い為。	
実態はよく知りません。暮らし易い町と思います。	

■情報不足・わからない

そう思う具体的な理由	記載例
そうあって欲しいと思うが身近に認知症の人がいない(わからない)。年相応だと思っているから。	
判断材料がない。	
周りにあまりいないので。	
良く知らないしわからない。	

■行政・役場の支援

そう思う具体的な理由	記載例
認知症になった時、娘が東郷町役場へ相談しに行き、介護サービスなどのサービスを教えてもらい安心した。	
地域包括センター、民生委員さんのお世話になっているので今のところは不自由を感じず、生活が出来るので感謝です。	
それなりの支援がなされていると思うから。	
役場の高齢者支援の役割が充実しているから。	

■介護サービス利用

そう思う具体的な理由	記載例
デイサービスを利用している。	
介護保険の範囲内でケアマネージャーをはじめ介護職の方々はかなり助けられたと思っています。	
デイサービスに通えている。	
介護サービスが充実している。	

■家族・親族の支え

そう思う具体的な理由 記載例
家族の人に相談する。
子供、孫と生活しているので安心です。
認知症の人には必ず寄り添っている人がいると思う。
娘が元気でやってくれている。

■近所・地域の助け合い

そう思う具体的な理由 記載例
認知症の人を大事にして面倒を見ているからです。
今、私の地区の民生委員さんをしていらっしゃる方がいろいろ気遣いのある方で相談事にも熱心に聞いていただけるので安心かなと思っています。
近所づきあい。
声かけとか話を聞いてくれたり、してもらえる地域だと思います。

■地域活動

そう思う具体的な理由 記載例
地域活動等支援している。
同居家族が居たり近くに親族が多く、皆で支え合っているのを感じる。地域活動にも参加されている。周りのフォローがあるのが良い。
元気アップ教室と朝のラジオ体操に参加(40名)。

■その他

そう思う具体的な理由 記載例
のどかな町だから。
本人の言動に向き合って下さっている。
自分も83歳になり認知症になるかもと不安です。
静かで落ち着く。

【問21で「いいえ」を選んだ方】

■情報・知識不足

そう思う具体的な理由 記載例
どういう取り組みをしているのかを具体的に知らない。
東郷町で行っている認知症の人に対する取り組みがよく分からない為。
本人ももう少し知識を持って生活して欲しいです。予防法等を勉強して欲しいです。
町の活動がいまいち知らない。

■家族・介護者の負担

そう思う具体的な理由 記載例
認知症の人を相手にしていたら、自分たちの生活が成り立たない。
眠れない。夜間せん妄で家族に迷惑がかかるので家に戻れない。
かつて認知症の親を介護した経験があり、進むと(症状が)つききりで目を離せないようになるので最後まで自分らしくあるのは難しいと思います。
世話する人がまだ少ないと思う。

■認知症支援施設不足

そう思う具体的な理由 記載例
症状のある人の利用する場所が無い。他の地域では大人の学校なるものがあるそうで…。

そう思う具体的な理由 記載例
認知症専門のデイサービスはあるが、ショートステイや老人ホームのような施設が無い。
施設が少ない。
認知症の人が生活するのに困らない環境が整っていないと感じます。

■行政サービスへの不満

そう思う具体的な理由 記載例
診療所を廃止したり高齢者に対して冷たい町政だと思います。町民全体が住みやすい町政を行って欲しいです。診療所の廃止に伴いかかりつけを探すのに困っています。クリニックが増えたからとて、どこでもいいと言う訳にはいきません！
やはり、詳しい状態説明がしにくい対応があり、窓口のオープン化は時間をかけつつ実施方法を検討する事。
老人のサービスが少ない。
もう少しサービスを充実させて欲しい。ごみ出し等。

■外出・交通の不便

そう思う具体的な理由 記載例
外に出ないから。
外出がままならないと認知症の元になってしまう。(ひざ、腰が悪く歩行が出来ず)交通手段も悪く思う様な行動できない。
歩道の整備が不十分→介護者がいても歩きにくい→(本人)出たくない(介護者)あぶない。
商業施設があまり充実していない。

■経済的負担・費用問題

そう思う具体的な理由 記載例
何をしてもらうにはお金が必要で介護サービスも受けにくいから。
認知症の人が自分らしく暮らすというのがどういう生活なのか分かりません。もし施設の世話になりたいと思っても何10、何百の待つ人、遺族年金だけではとても足りないこと。
デイサービスがあり助かりますが、本人が朝になると休みたいと言います。この場合食べなくても食事代金を支払わなくてはなりません。これは仕方ないですが休む場合、3日前に電話しなくてはならない、これはうちの場合無理です。
収入面

■医療機関・診療所問題

そう思う具体的な理由 記載例
介護と医療の連携が不十分。
病院が1つしかない。
診療所を廃止したり高齢者に対して冷たい町政だと思います。町民全体が住みやすい町政を行って欲しいです。診療所の廃止に伴いかかりつけを探すのに困っています。クリニックが増えたからとて、どこでもいいと言う訳にはいきません！【再掲】

■その他

そう思う具体的な理由 記載例
認知症に関心のある人が少なそう。
近所の方が認知症になりすぐに施設に入られました。それは自分らしく暮らせるという事？結局介護する側を守らないと共倒れになるし何が正しい事か私には？です。
あまりそのような方をお見掛けしないが引きこもりがちにならないか心配になるので。
周りの人々があまり関心を持ってくれない雰囲気を感じる。

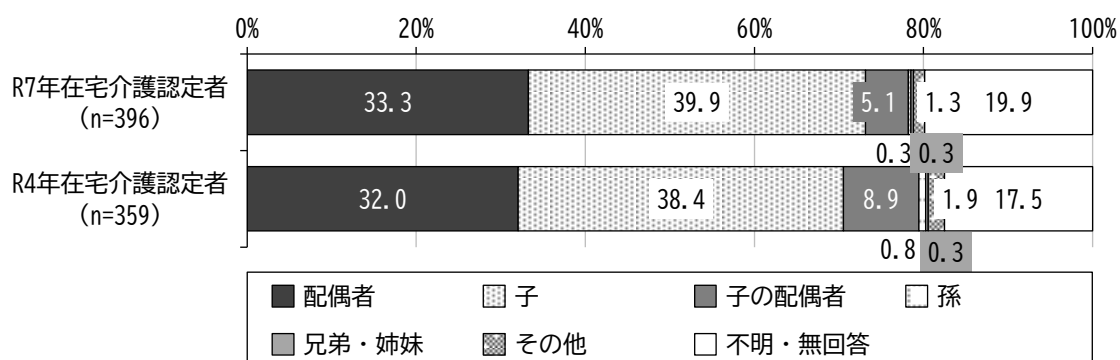
【B票】主な介護者の方について

※B票は「主な介護者」への質問のため、A票の問2（家族・親族からの介護の頻度）において「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」「週に1～2日ある」「週に3～4日ある」「ほぼ毎日ある」のいずれかに回答した方を対象とした。

7. 主な介護者自身のことについて

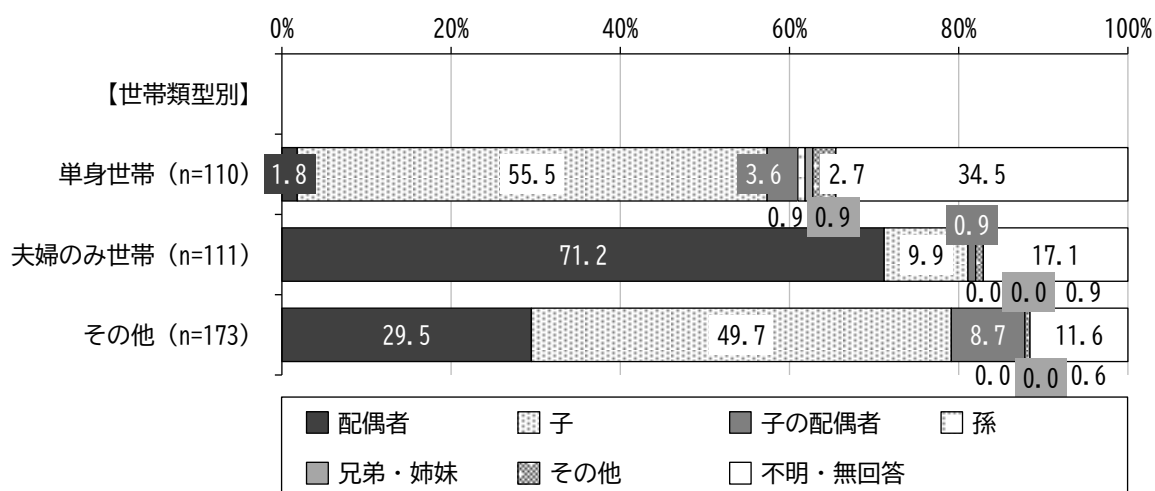
問1 主な介護者の方は、どなたですか。（単数回答）

「子」が39.9%と最も高く、次いで「配偶者」が33.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



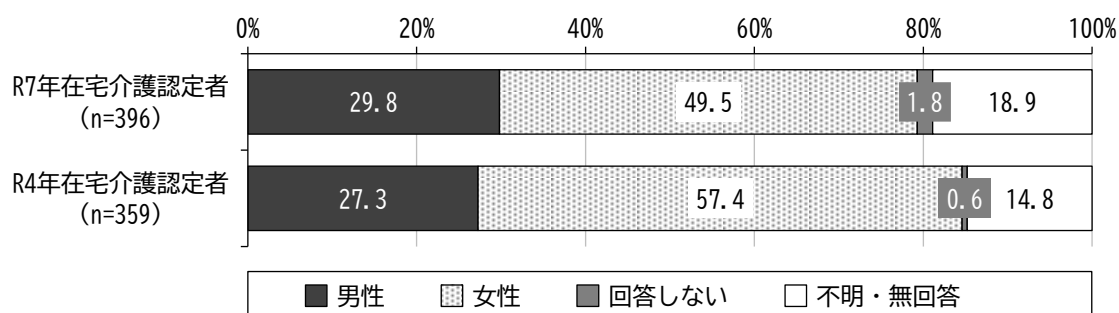
その他回答記載例
ヘルパー
施設職員
親

世帯類型別でみると、夫婦のみ世帯では「配偶者」、その他の世帯類型では「子」が最も高くなっています。



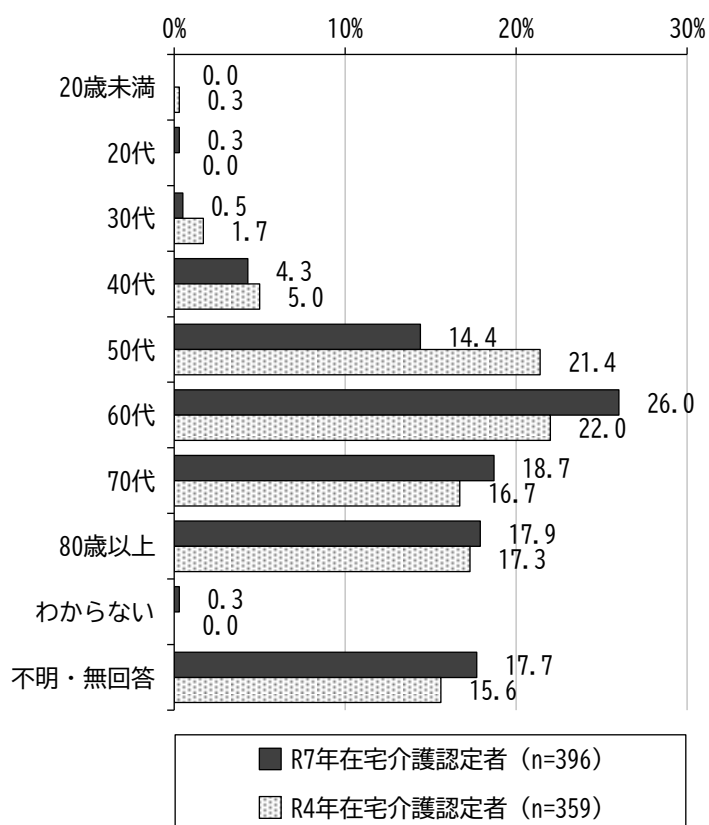
問2 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(単数回答)

「男性」が29.8%、「女性」が49.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「女性」が7.9ポイント低くなっています。



問3 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(単数回答)

「60代」が26.0%と最も高く、次いで「70代」が18.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「50代」が7.0ポイント低くなっています。



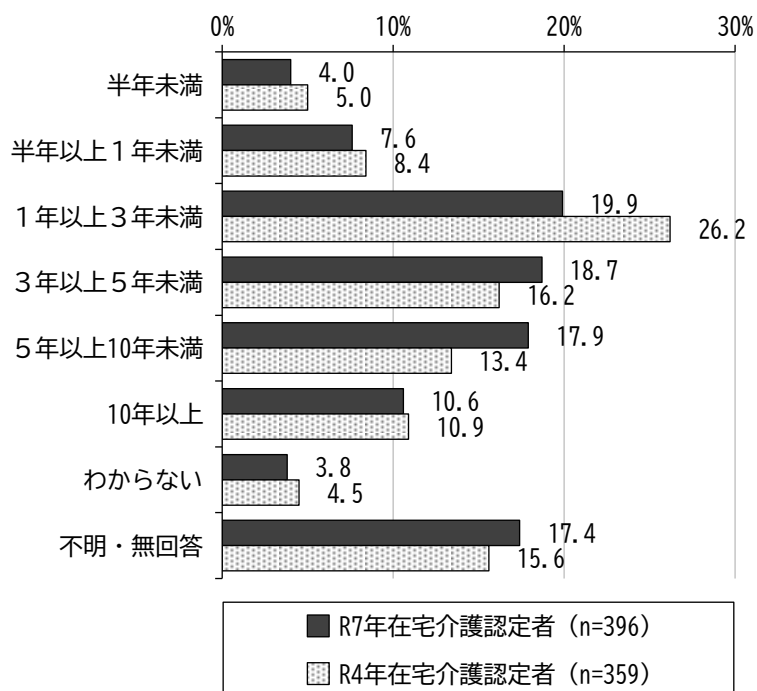
「20歳未満」(n=0)、「20代」(n=1)のため、本設問以降、20代以下の主な介護者の年齢は30代と合わせて「30代以下」と表記します。

主な介護者の年齢別に要介護者の年齢をみると、40代・70代では「75歳～79歳」、50代・80歳以上では「80歳～84歳」、60代では「90歳以上」が最も高くなっています。

単位：%		65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～89歳	90歳以上	不明・無回答
主な介護者の年齢別	30代以下 (n=3)	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0
	40代 (n=17)	11.8	23.5	41.2	17.6	5.9	0.0	0.0
	50代 (n=57)	0.0	0.0	17.5	40.4	29.8	8.8	3.5
	60代 (n=103)	2.9	5.8	1.9	5.8	29.1	53.4	1.0
	70代 (n=74)	4.1	17.6	32.4	18.9	4.1	18.9	4.1
	80歳以上 (n=71)	0.0	1.4	11.3	42.3	35.2	7.0	2.8

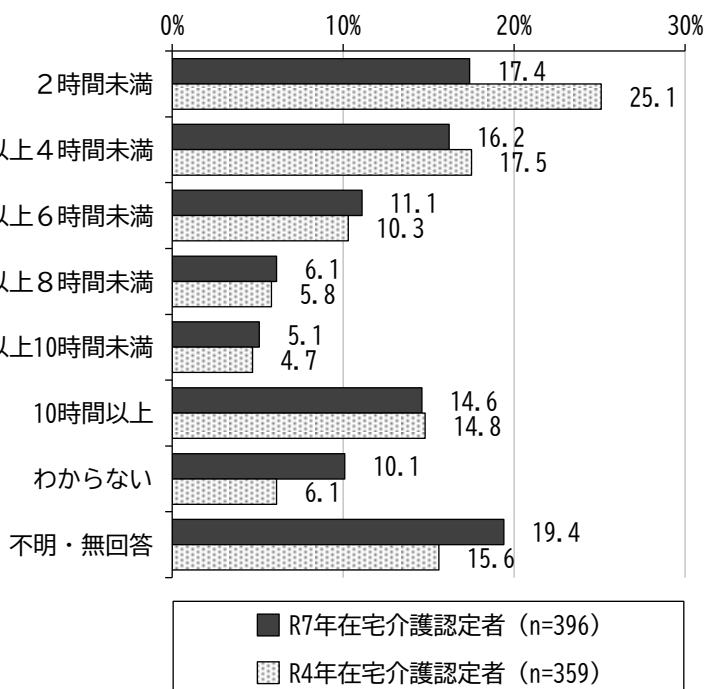
問4 ご本人に対しては、どのくらい介護を続けていますか。(単数回答)

「1年以上3年未満」が19.9%と最も高く、次いで「3年以上5年未満」が18.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「1年以上3年未満」が6.3ポイント低くなっています。



問5 主な介護者の方の、一日の平均的な介護時間はどのくらいですか。(身体介護だけでなく、家事等の見守りも含めてお答えください) (単数回答)

「2時間未満」が17.4%と最も高く、次いで「2時間以上4時間未満」が16.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「2時間未満」が7.7ポイント低くなっています。



要介護度別でみると、要支援1では「2時間以上4時間未満」、要支援2・要介護1では「2時間未満」、要介護2では「4時間以上6時間未満」、要介護3・要介護4では「10時間以上」、要介護5では「6時間以上8時間未満」が最も高くなっています。

単位：%		2時間未満	2時間未満以上4時間未満	4時間未満以上6時間未満	6時間未満以上8時間未満	8時間以上10時間未満	10時間以上	わからない	不明・無回答
要介護度別	要支援1 (n=64)	10.9	12.5	6.3	4.7	6.3	6.3	7.8	45.3
	要支援2 (n=132)	21.2	12.9	8.3	3.8	3.8	9.8	14.4	25.8
	要介護1 (n=68)	23.5	20.6	11.8	5.9	4.4	13.2	14.7	5.9
	要介護2 (n=62)	12.9	16.1	22.6	8.1	11.3	19.4	6.5	3.2
	要介護3 (n=29)	10.3	27.6	10.3	10.3	0.0	34.5	3.4	3.4
	要介護4 (n=14)	28.6	21.4	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	要介護5 (n=15)	13.3	20.0	13.3	26.7	6.7	13.3	0.0	6.7

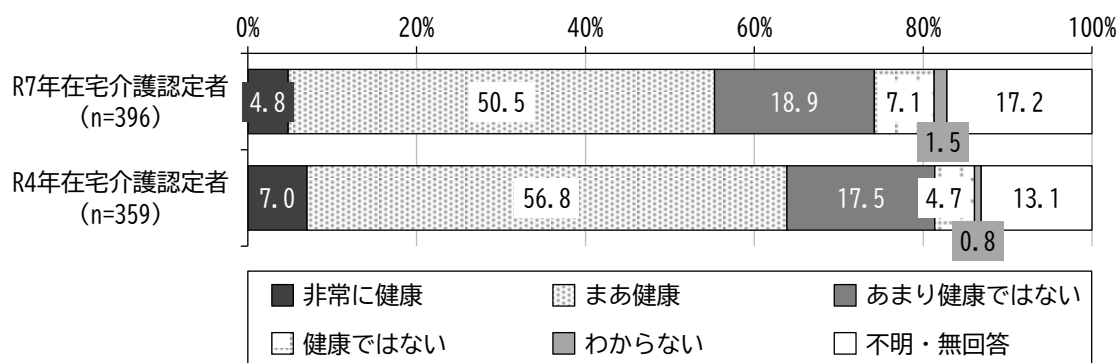
問6 主な介護者の方の、健康状態はいかがですか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

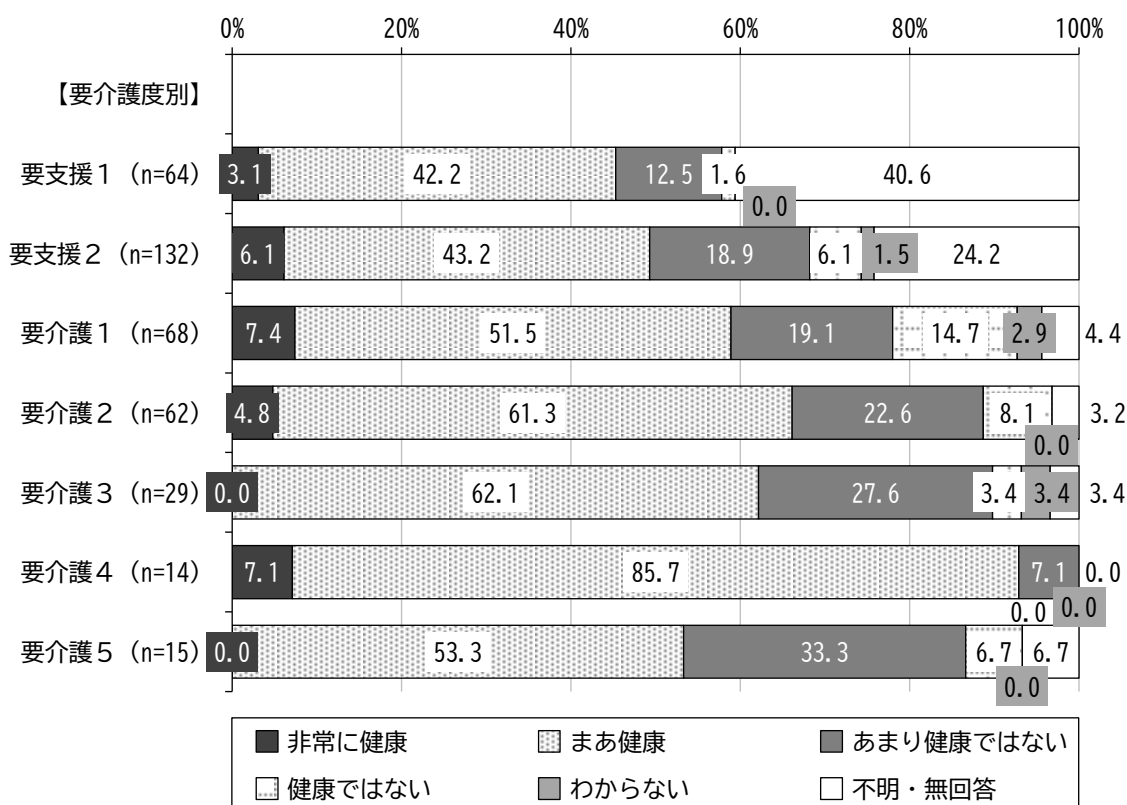
『健康』 … 「非常に健康」と「まあ健康」の合算

『健康ではない』 … 「あまり健康ではない」と「健康ではない」の合算

『健康』が55.3%、『健康ではない』が26.0%、「わからない」が1.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、『健康』が8.5ポイント低くなっています。

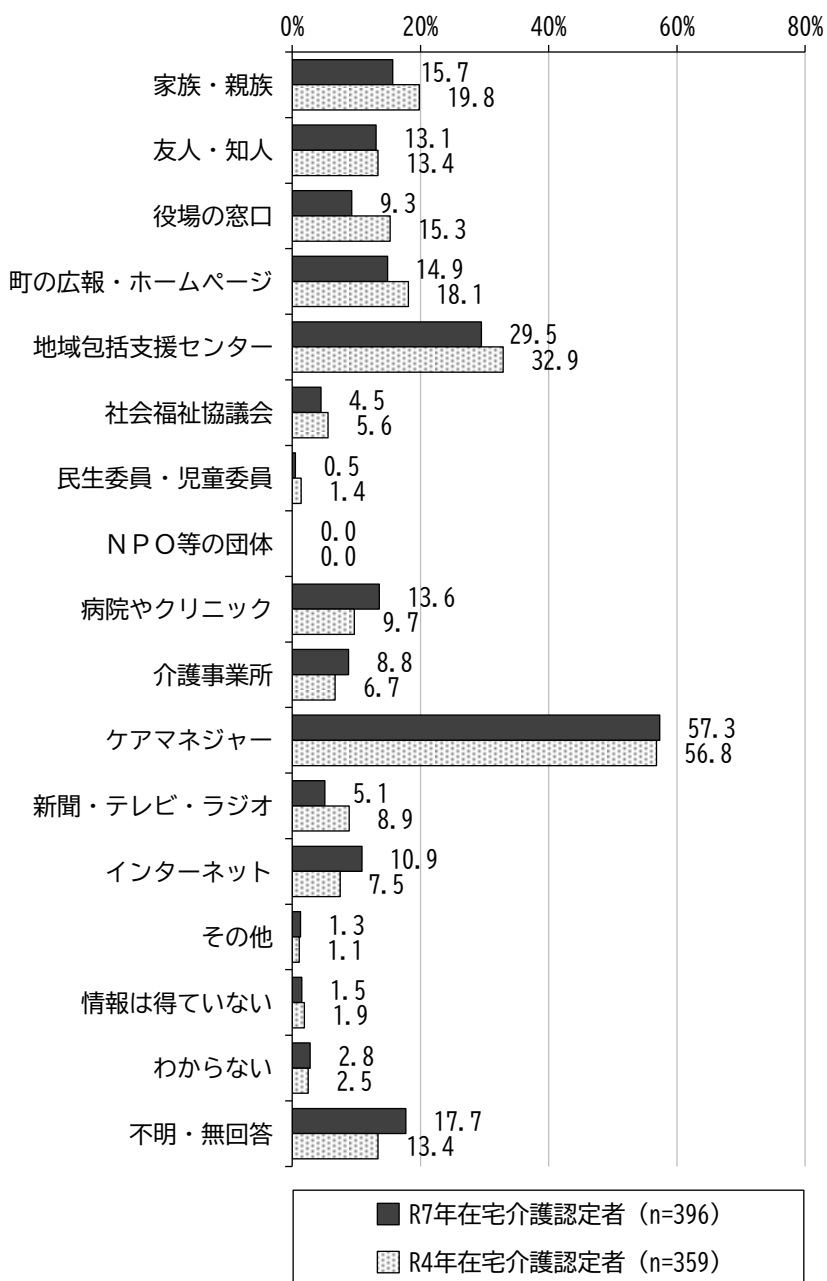


要介護度別でみると、いずれの要介護度も「まあ健康」が最も高くなっています。また、『健康ではない』が要介護1から要介護3では3割台、要介護5では4割となっています。



問7 主な介護者の方は、介護保険の情報や高齢者サービスの情報を主にどこ（誰）から得ていますか。（複数回答）

「ケアマネジャー」が57.3%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が29.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「役場の窓口」が6.0ポイント低くなっています。



その他回答記載例
学校
SNS
訪問看護

要介護度別でみると、いずれの要介護度も「ケアマネジャー」が最も高くなっています。

主な介護者の年齢別でみると、いずれの年齢も「ケアマネジャー」が最も高くなっています。

単位：%		家族・親族	友人・知人	役場の窓口	町の広報・ホームページ	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	NPO等の団体	病院やクリニック	介護事業所	ケアマネジャー	新聞・テレビ・ラジオ	インターネット
要介護度別	要支援1 (n=64)	14.1	12.5	6.3	17.2	25.0	4.7	0.0	0.0	10.9	1.6	31.3	3.1	6.3
	要支援2 (n=132)	16.7	12.1	4.5	10.6	36.4	4.5	0.0	0.0	10.6	5.3	49.2	6.1	7.6
	要介護1 (n=68)	19.1	14.7	13.2	20.6	33.8	4.4	2.9	0.0	7.4	10.3	72.1	4.4	11.8
	要介護2 (n=62)	16.1	19.4	14.5	14.5	24.2	6.5	0.0	0.0	17.7	14.5	80.6	3.2	19.4
	要介護3 (n=29)	17.2	6.9	13.8	13.8	31.0	3.4	0.0	0.0	17.2	24.1	75.9	3.4	6.9
	要介護4 (n=14)	7.1	7.1	7.1	14.3	21.4	0.0	0.0	0.0	14.3	21.4	64.3	14.3	7.1
	要介護5 (n=15)	6.7	13.3	20.0	26.7	6.7	0.0	0.0	0.0	40.0	6.7	53.3	6.7	26.7
主な介護者の年齢別	30代以下 (n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	100.0	0.0	33.3
	40代 (n=17)	29.4	11.8	5.9	17.6	41.2	11.8	0.0	0.0	11.8	11.8	64.7	5.9	23.5
	50代 (n=57)	19.3	5.3	3.5	8.8	29.8	0.0	1.8	0.0	22.8	5.3	68.4	5.3	17.5
	60代 (n=103)	17.5	21.4	14.6	20.4	30.1	5.8	1.0	0.0	13.6	14.6	70.9	6.8	19.4
	70代 (n=74)	10.8	16.2	16.2	20.3	41.9	5.4	0.0	0.0	14.9	12.2	74.3	4.1	9.5
	80歳以上 (n=71)	25.4	15.5	8.5	18.3	36.6	8.5	0.0	0.0	18.3	5.6	56.3	7.0	1.4

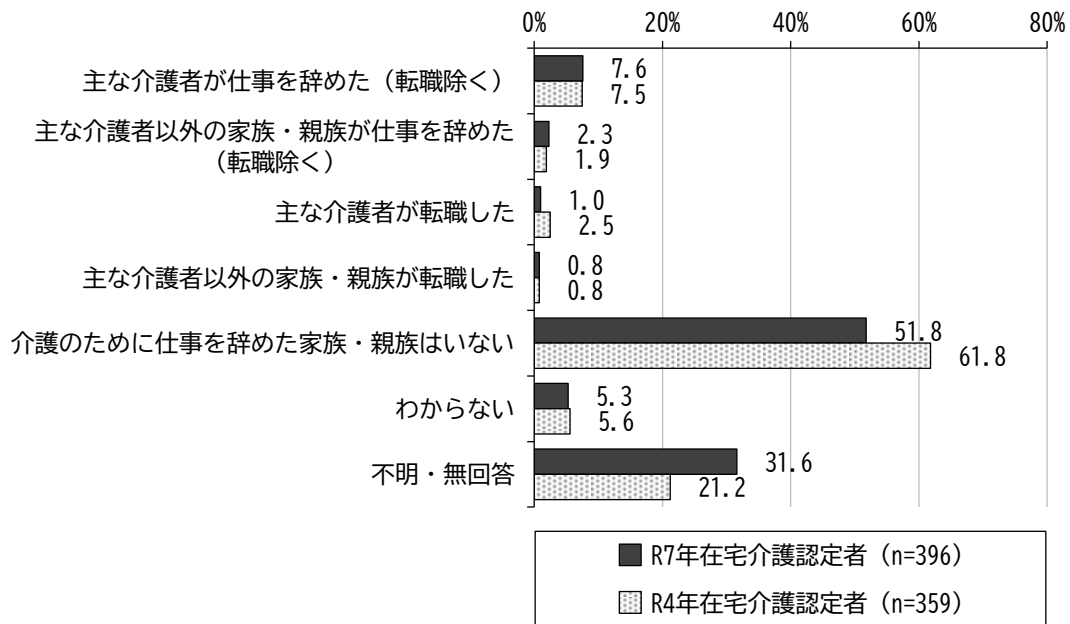
単位：%		その他	情報は得ていない	わからない	不明・無回答
要介護度別	要支援1 (n=64)	0.0	0.0	1.6	40.6
	要支援2 (n=132)	0.8	3.0	2.3	25.0
	要介護1 (n=68)	0.0	2.9	4.4	4.4
	要介護2 (n=62)	4.8	0.0	1.6	3.2
	要介護3 (n=29)	3.4	0.0	3.4	3.4
	要介護4 (n=14)	0.0	0.0	0.0	7.1
	要介護5 (n=15)	0.0	0.0	6.7	6.7
主な介護者の年齢別	30代以下 (n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0
	40代 (n=17)	0.0	0.0	0.0	0.0
	50代 (n=57)	3.5	1.8	5.3	1.8
	60代 (n=103)	0.0	3.9	2.9	1.9
	70代 (n=74)	0.0	1.4	1.4	1.4
	80歳以上 (n=71)	1.4	0.0	4.2	7.0

8. 仕事と介護の両立について

問8 ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)

※自営業や農業等の仕事を辞めた方を含みます。(複数回答)

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が51.8%と最も高く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が7.6%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が10.0ポイント低くなっています。



要介護度別でみると、いずれの要介護度も「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が最も高くなっています。

主な介護者の年齢別でみると、いずれの年齢も「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が最も高くなっています。

単位：％		（主な介護者が仕事を辞めた （転職除く）	が主な介護者以外の家族・親族 が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者が転職した	が主な介護者以外の家族・親族 が転職した	介護のために仕事を辞めた家 族・親族はいない	わからない	不明・無回答
要介護度別	要支援1 (n=64)	10.9	1.6	3.1	0.0	28.1	3.1	53.1
	要支援2 (n=132)	6.8	0.0	0.0	0.8	50.8	4.5	37.1
	要介護1 (n=68)	2.9	4.4	0.0	2.9	52.9	11.8	25.0
	要介護2 (n=62)	8.1	6.5	1.6	0.0	67.7	1.6	16.1
	要介護3 (n=29)	6.9	0.0	3.4	0.0	62.1	10.3	17.2
	要介護4 (n=14)	7.1	7.1	0.0	0.0	64.3	7.1	14.3
	要介護5 (n=15)	26.7	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	6.7
主な介護者の年齢別	30代以下 (n=3)	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0
	40代 (n=17)	11.8	0.0	0.0	0.0	82.4	5.9	0.0
	50代 (n=57)	10.5	0.0	3.5	0.0	68.4	5.3	12.3
	60代 (n=103)	13.6	4.9	1.0	1.9	56.3	10.7	12.6
	70代 (n=74)	5.4	1.4	1.4	1.4	64.9	4.1	21.6
	80歳以上 (n=71)	2.8	1.4	0.0	0.0	59.2	2.8	33.8

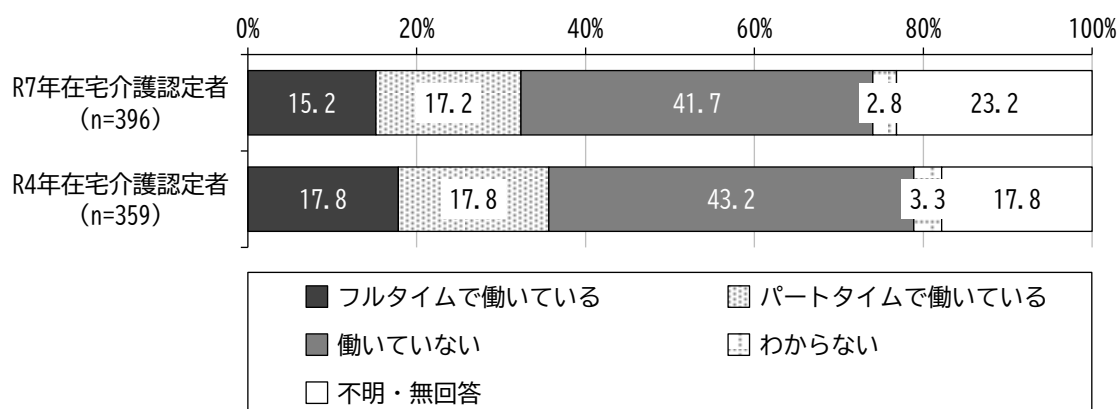
問9 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(単数回答)

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

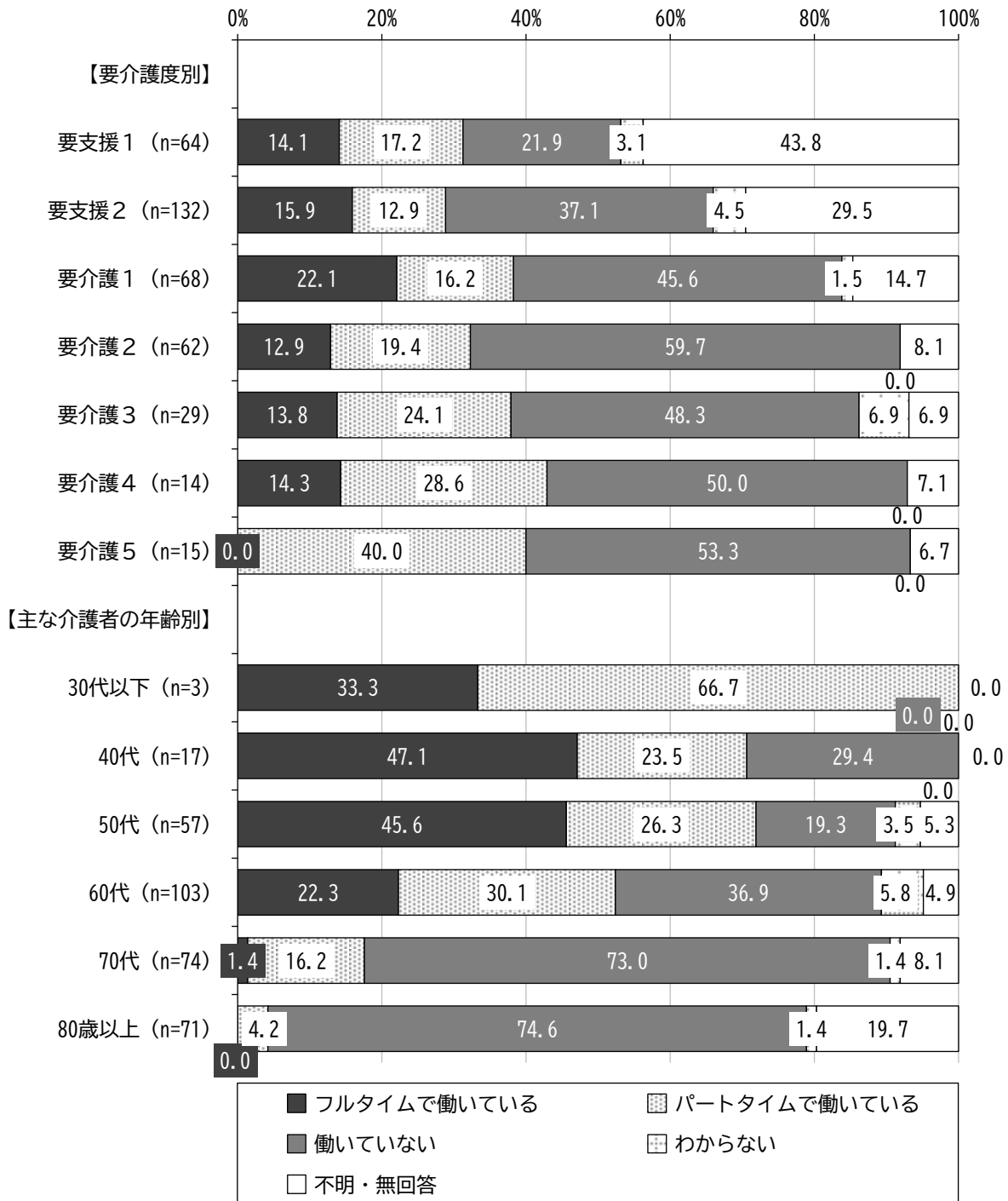
『働いている』…「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」の合算

「働いていない」が41.7%と最も高く、次いで「パートタイムで働いている」が17.2%となっており、『働いている』主な介護者は、32.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



要介護度別で見ると、いずれの要介護度も「働いていない」が最も高くなっています。

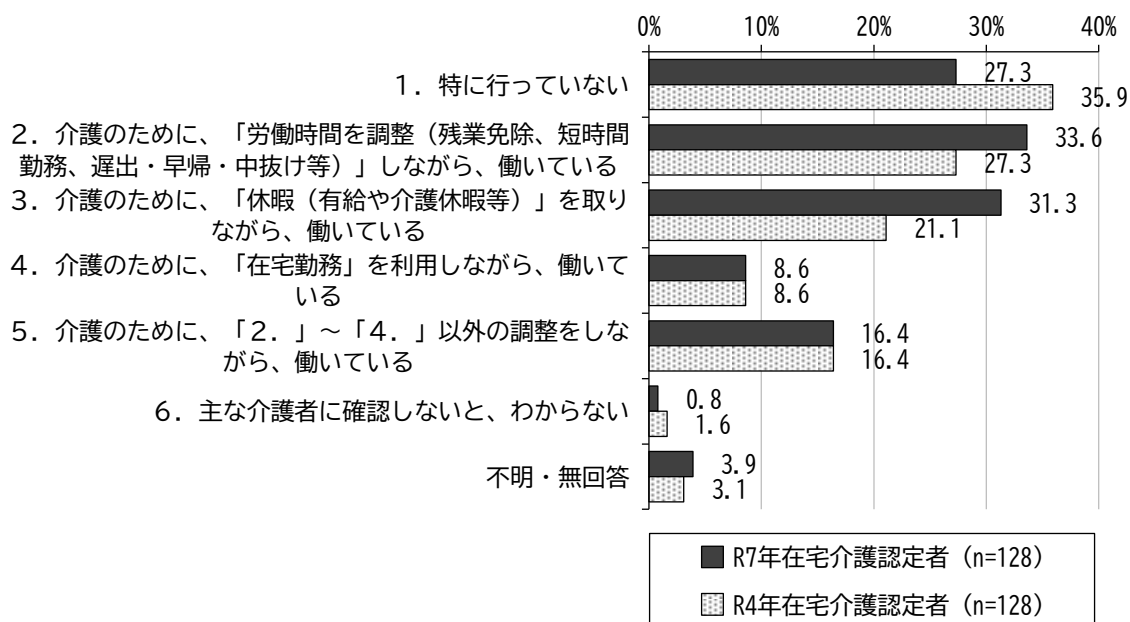
主な介護者の年齢別で見ると、40代・50代では「フルタイムで働いている」、60代以上では「働いていない」が最も高くなっています。



【問9で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方のみ】

問10 主な介護者の方は、介護をするに当たって、何か働き方についての調整等をしていますか。(複数回答)

「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」が33.6%と最も高く、次いで「介護のために、『休暇（有給や介護休暇等）』を取りながら、働いている」が31.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「介護のために、『休暇（有給や介護休暇等）』を取りながら、働いている」が10.2ポイント高く、「特に行っていない」が8.6ポイント低くなっています。



要介護度別でみると、要支援1では「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」、要支援2・要介護1では「介護のために、『休暇（有給や介護休暇等）』を取りながら、働いている」、要介護2では「特に行っていない」「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」、要介護3では「特に行っていない」が最も高くなっています。

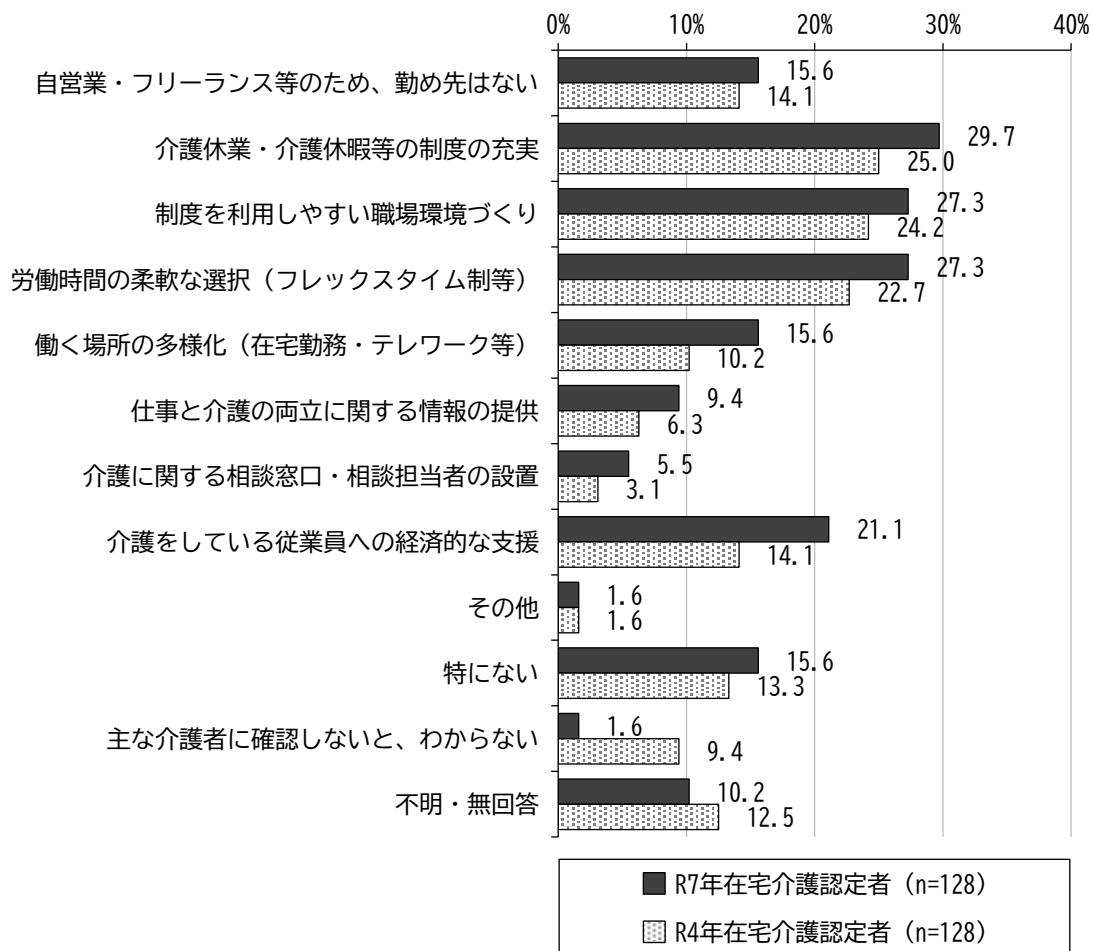
主な介護者の年齢別でみると、40代・50代では「介護のために、『休暇（有給や介護休暇等）』を取りながら、働いている」、60代では「特に行っていない」、70代では「特に行っていない」「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」が最も高くなっています。

単位：％		1	2	3	4	5	6	不明・無回答
		特に行っていない	中（残・2 抜業・介 け除護の 等）ため 」に、 」し「短 ながら時 ら、間、 働勤務、 いて遅 る出・ 早帰・ 」	休3 暇・介 等護の 」ため 」に、 」に「休 ながら暇 ら、（有 働給や いて介 る護	し4 な・介 が護の ら、ため 働に、 いて「在 る宅勤 務」を 利用	以5 外・介 の護の 調ため 整に、 を「2 しな「 がら、働 いて」 る4 」	な6 い・主 な介 護者 に確 認し ない と、 わか ら	
要介護度別	要支援1 (n=20)	10.0	40.0	25.0	10.0	25.0	5.0	5.0
	要支援2 (n=38)	34.2	23.7	39.5	5.3	13.2	0.0	5.3
	要介護1 (n=26)	15.4	42.3	46.2	19.2	11.5	0.0	3.8
	要介護2 (n=20)	40.0	40.0	10.0	5.0	25.0	0.0	0.0
	要介護3 (n=11)	45.5	36.4	18.2	9.1	9.1	0.0	0.0
	要介護4 (n=6)	33.3	16.7	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
	要介護5 (n=6)	16.7	33.3	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0
主な介護者の年齢別	30代以下 (n=3)	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
	40代 (n=12)	16.7	41.7	58.3	8.3	8.3	0.0	0.0
	50代 (n=41)	19.5	34.1	39.0	12.2	14.6	0.0	4.9
	60代 (n=54)	33.3	29.6	20.4	5.6	24.1	0.0	3.7
	70代 (n=13)	38.5	38.5	30.8	0.0	0.0	7.7	0.0
	80歳以上 (n=3)	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

【問9で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方のみ】

問11 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（3つまで複数回答）

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が29.7%と最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場環境づくり」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制等）」が27.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「介護をしている従業員への経済的な支援」が7.0ポイント高く、「主な介護者に確認しないと、わからない」が7.8ポイント低くなっています。



※R7年度調査の選択肢「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」「制度を利用しやすい職場環境づくり」「主な介護者に確認しないと、わからない」は、R4年度調査では「自営業等のため、勤め先からの支援はない」「制度を利用しやすい職場環境」「わからない」となっています。

要介護度別で見ると、要支援1から要介護1では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、要介護2では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制等）」「介護をしている従業員への経済的な支援」、要介護3では「特にない」が最も高くなっています。

主な介護者の年齢別で見ると、40代では「制度を利用しやすい職場環境づくり」、50代では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、60代では「制度を利用しやすい職場環境づくり」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制等）」、70代では「特にない」が最も高くなっています。

単位：%		ため、営業・勤め先はフリーランス等の	度介護休業・介護休暇等の制	境制度を利用しやすい職場環	レ労働時間の柔軟な選択（フ	務働く場所の多様化（在宅勤	情仕事と介護の両立に関する	談介護に関する相談窓口・相	経介護をしている従業員への	その他	特にない	と、わかからない	主な介護者に確認しない	不明・無回答
要介護度別	要支援1 (n=20)	15.0	35.0	30.0	20.0	15.0	0.0	5.0	10.0	0.0	5.0	5.0	20.0	
	要支援2 (n=38)	18.4	39.5	36.8	21.1	10.5	7.9	5.3	21.1	0.0	7.9	0.0	13.2	
	要介護1 (n=26)	19.2	34.6	26.9	26.9	15.4	15.4	7.7	15.4	3.8	23.1	3.8	3.8	
	要介護2 (n=20)	10.0	15.0	30.0	40.0	15.0	15.0	10.0	40.0	0.0	15.0	0.0	0.0	
	要介護3 (n=11)	18.2	9.1	9.1	27.3	18.2	9.1	0.0	27.3	0.0	36.4	0.0	0.0	
	要介護4 (n=6)	0.0	33.3	16.7	50.0	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	33.3	0.0	16.7	
	要介護5 (n=6)	16.7	16.7	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	
主な介護者の年齢別	30代以下 (n=3)	0.0	33.3	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	40代 (n=12)	8.3	33.3	50.0	25.0	8.3	0.0	8.3	41.7	0.0	0.0	0.0	16.7	
	50代 (n=41)	17.1	41.5	29.3	29.3	19.5	9.8	4.9	22.0	2.4	7.3	0.0	12.2	
	60代 (n=54)	18.5	24.1	27.8	27.8	16.7	13.0	7.4	22.2	1.9	18.5	0.0	9.3	
	70代 (n=13)	7.7	15.4	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	46.2	7.7	7.7	
	80歳以上 (n=3)	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	

【問9で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方のみ】

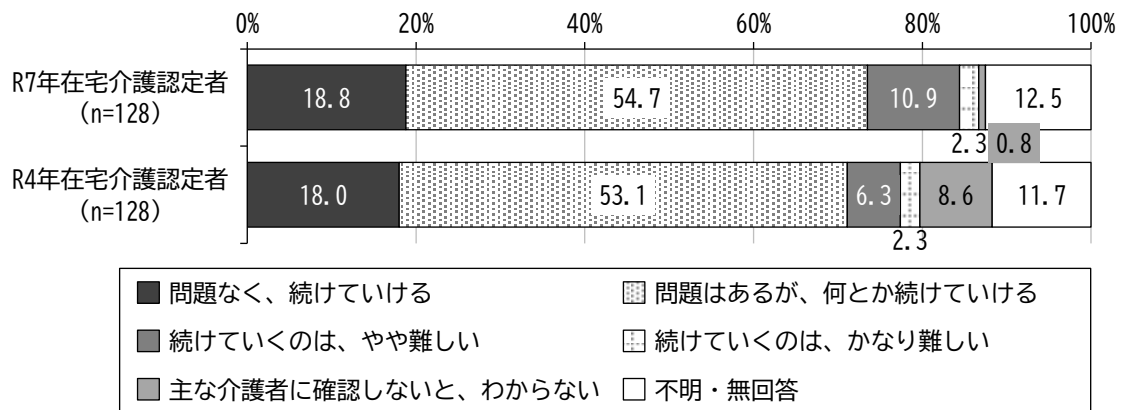
問12 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『続けていける』 … 「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の合算

『続けていくのは難しい』 … 「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」の合算

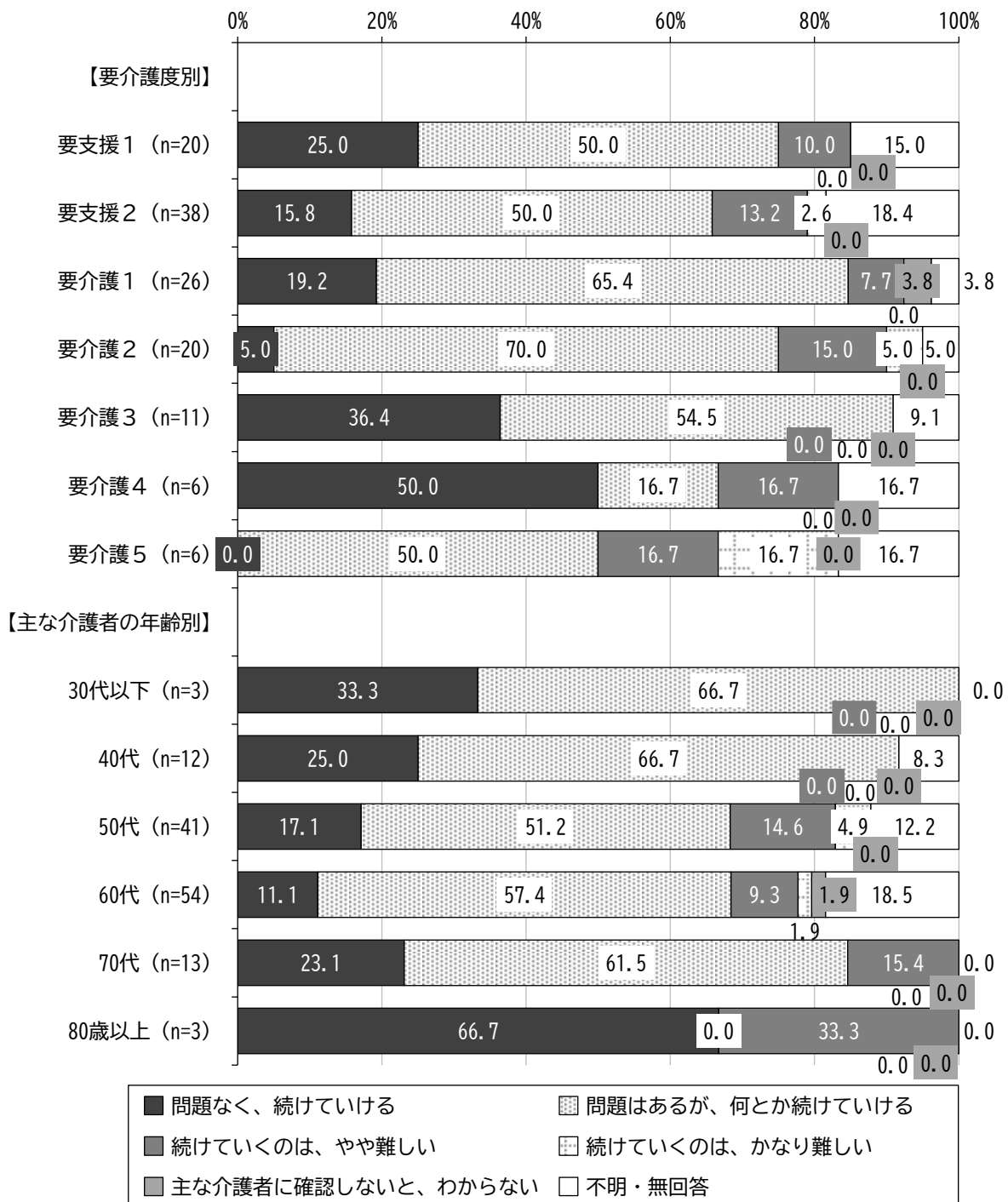
『続けていける』が73.5%、『続けていくのは難しい』が13.2%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が0.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「主な介護者に確認しないと、わからない」が7.8ポイント低くなっています。



※R7年度調査の選択肢「主な介護者に確認しないと、わからない」は、R4年度調査では「わからない」となっています。

要介護度別でみると、要支援1から要介護3では「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高くなっています。また、『続けていくのは難しい』では要介護2で2割となっています。

主な介護者の年齢別でみると、40代から70代では「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高くなっています。



9. 介護する上での不安について

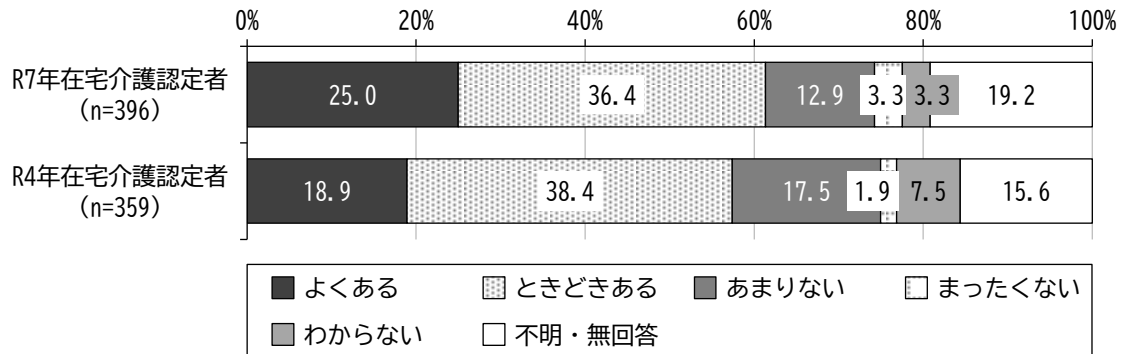
問 13 介護をしているとき、不安に感じることはありますか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『ある』…「よくある」と「ときどきある」の合算

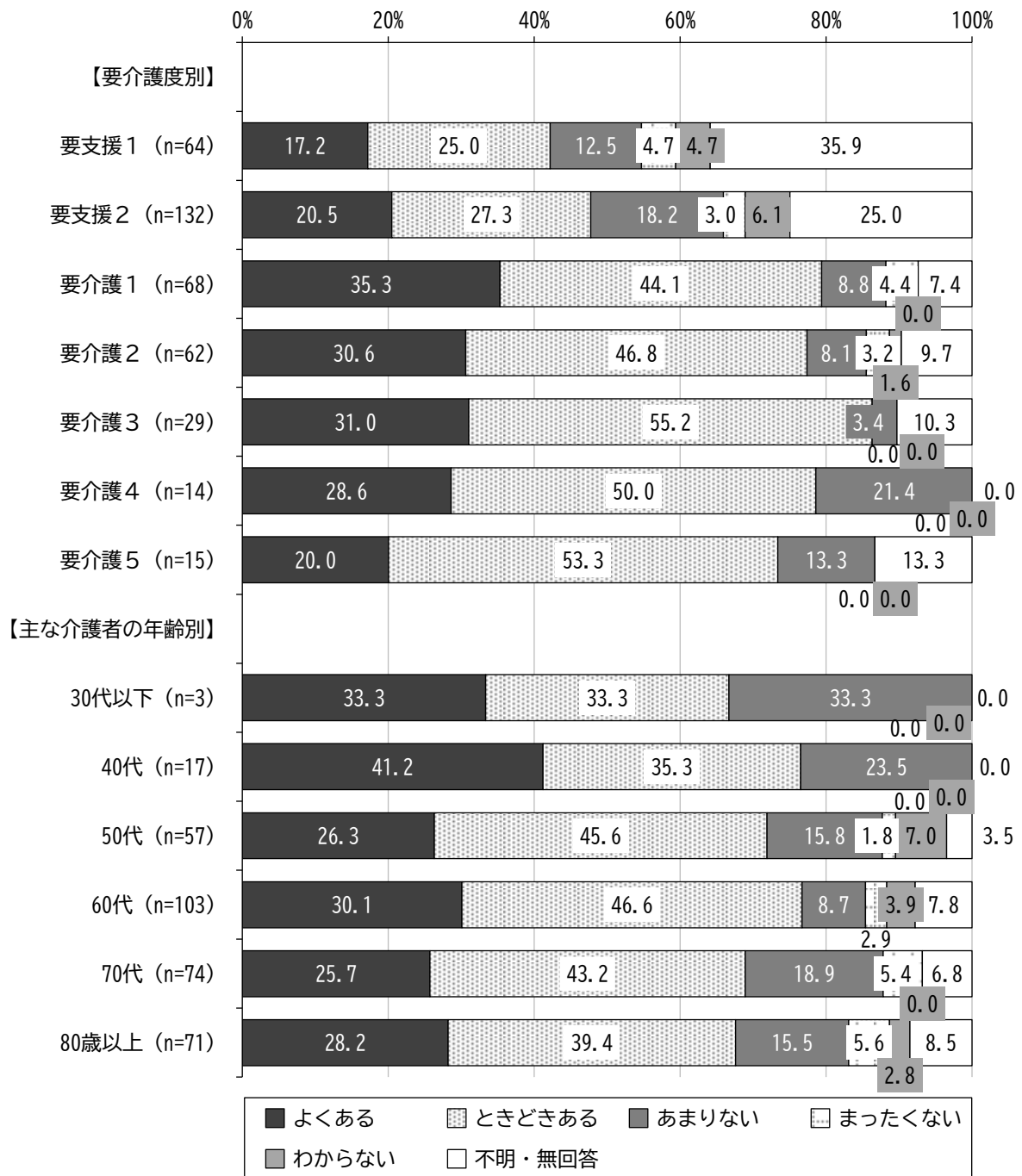
『ない』…「あまりない」と「まったくない」の合算

『ある』が61.4%、『ない』が16.2%、「わからない」が3.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「よくある」が6.1ポイント高くなっています。



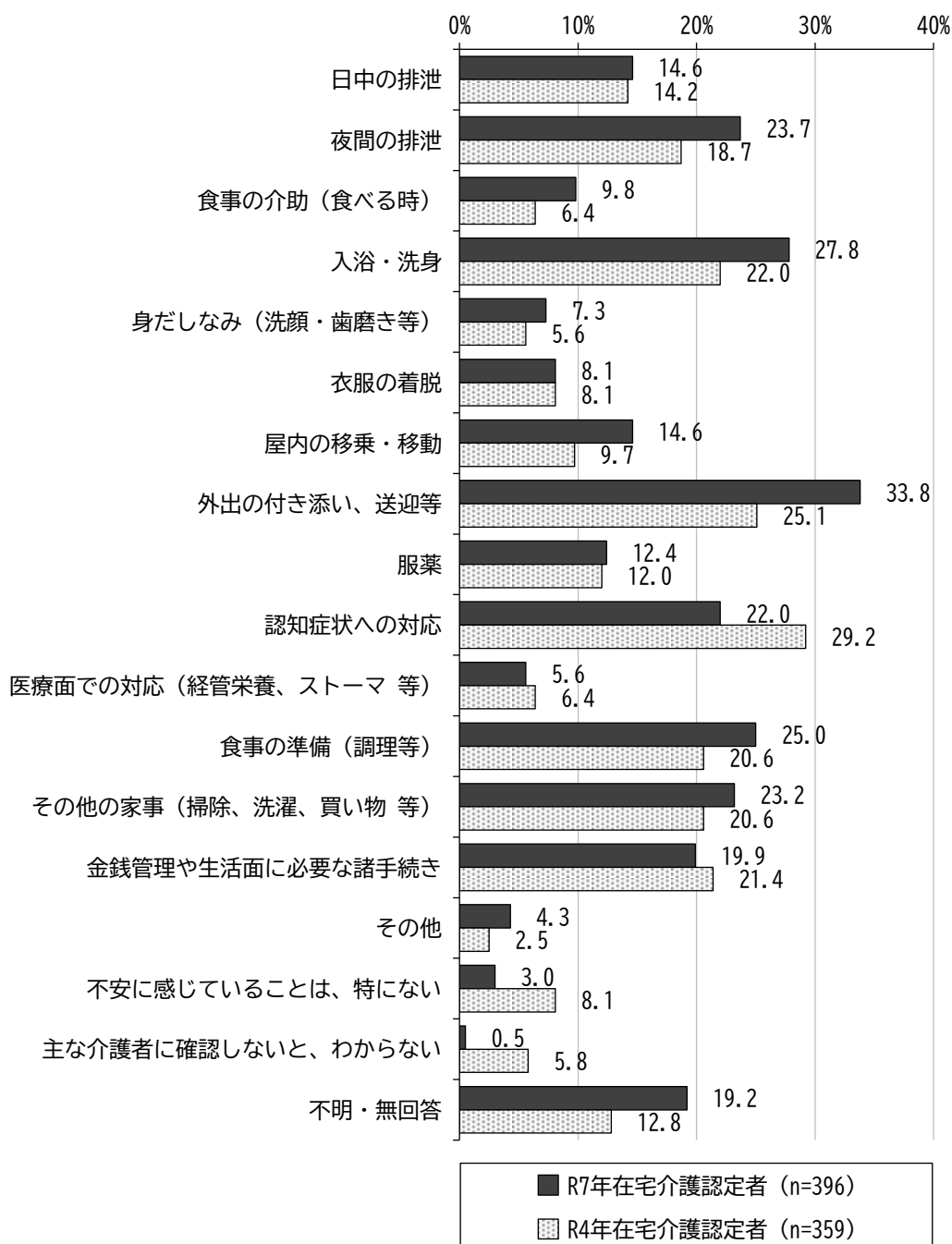
要介護度別でみると、いずれの要介護度も「ときどきある」が最も高くなっています。また、『ある』では要介護1から要介護5で7割以上となっています。

主な介護者の年齢別でみると、40代では「よくある」、50代以上では「ときどきある」が最も高くなっています。



問14 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください。(現状で行っているか否かは問いません)
(3つまで複数回答)

「外出の付き添い、送迎等」が33.8%と最も高く、次いで「入浴・洗身」が27.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「外出の付き添い、送迎等」が8.7ポイント高く、「認知症状への対応」が7.2ポイント低くなっています。



※R7年度調査の選択肢「主な介護者に確認しないと、わからない」は、R4年度調査では「わからない」となっています。

要介護度別でみると、要支援1では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、要介護1では「認知症状への対応」、要介護3では「夜間の排泄」、要介護5では「外出の付き添い、送迎等」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、その他の要介護度では「外出の付き添い、送迎等」が最も高くなっています。

主な介護者の性別でみると、男女ともに「外出の付き添い、送迎等」が最も高くなっています。

主な介護者の年齢別でみると、70代では「入浴・洗身」「外出の付き添い、送迎等」、その他の年齢では「外出の付き添い、送迎等」が最も高くなっています。

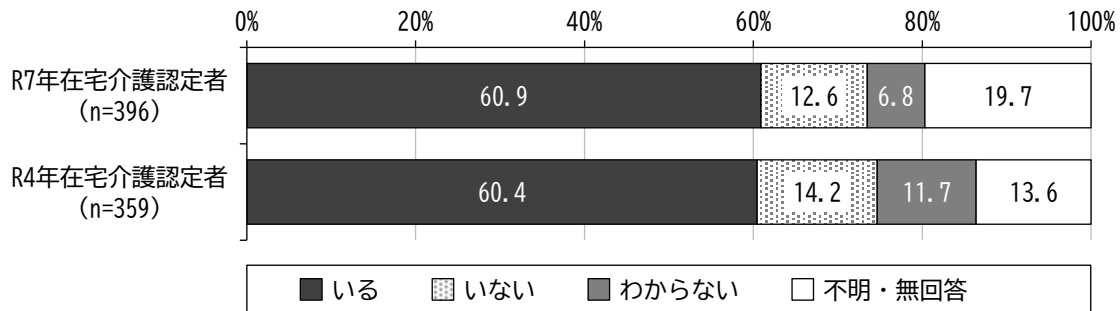
単位：%		日中の排泄	夜間の排泄	食事の介助（食べる時）	入浴・洗身	身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	衣服の着脱	屋内の移乗・移動	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応	栄養・ストーマ等（経管医療面での対応）	食事の準備（調理等）	洗濯・買い物等（掃除、その他の家事等）
要介護度別	要支援1 (n=64)	6.3	9.4	6.3	17.2	4.7	6.3	7.8	23.4	9.4	18.8	6.3	25.0	26.6
	要支援2 (n=132)	9.1	16.7	4.5	25.0	3.0	4.5	12.1	39.4	5.3	9.1	2.3	22.0	24.2
	要介護1 (n=68)	14.7	27.9	10.3	33.8	14.7	10.3	13.2	32.4	23.5	38.2	4.4	20.6	17.6
	要介護2 (n=62)	25.8	37.1	16.1	38.7	11.3	14.5	19.4	40.3	21.0	30.6	8.1	38.7	32.3
	要介護3 (n=29)	34.5	48.3	24.1	34.5	10.3	13.8	34.5	24.1	10.3	37.9	10.3	27.6	20.7
	要介護4 (n=14)	21.4	28.6	14.3	21.4	0.0	0.0	28.6	42.9	7.1	35.7	7.1	14.3	14.3
	要介護5 (n=15)	13.3	20.0	13.3	26.7	13.3	6.7	13.3	33.3	13.3	13.3	13.3	20.0	6.7
主な介護者の性別	男性 (n=118)	17.8	23.7	13.6	29.7	5.1	9.3	14.4	41.5	17.8	21.2	14.4	37.3	33.9
	女性 (n=196)	16.8	31.6	10.7	34.7	10.7	8.7	20.4	37.8	13.3	28.1	2.6	25.0	23.0
主な介護者の年齢別	30代以下 (n=3)	33.3	0.0	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
	40代 (n=17)	5.9	23.5	11.8	29.4	5.9	0.0	11.8	70.6	17.6	11.8	5.9	17.6	35.3
	50代 (n=57)	17.5	28.1	10.5	26.3	7.0	5.3	22.8	40.4	14.0	29.8	5.3	22.8	26.3
	60代 (n=103)	13.6	26.2	14.6	33.0	9.7	2.9	23.3	39.8	15.5	31.1	4.9	31.1	22.3
	70代 (n=74)	20.3	31.1	9.5	36.5	8.1	13.5	13.5	36.5	13.5	17.6	8.1	31.1	31.1
	80歳以上 (n=71)	18.3	26.8	9.9	32.4	5.6	14.1	11.3	38.0	12.7	22.5	9.9	29.6	29.6

単位：%		金銭管理や生活面に必要な諸手続き	その他	不安、特に感じていること	主な介護者に確認しない	不明・無回答
要介護度別	要支援1 (n=64)	21.9	3.1	4.7	0.0	35.9
	要支援2 (n=132)	14.4	3.0	5.3	0.8	25.8
	要介護1 (n=68)	26.5	5.9	0.0	0.0	5.9
	要介護2 (n=62)	22.6	3.2	1.6	0.0	6.5
	要介護3 (n=29)	17.2	6.9	0.0	0.0	6.9
	要介護4 (n=14)	28.6	14.3	0.0	0.0	7.1
	要介護5 (n=15)	33.3	0.0	0.0	0.0	20.0
主な介護者の性別	男性 (n=118)	25.4	4.2	2.5	0.0	5.9
	女性 (n=196)	21.9	6.1	2.6	0.5	6.6
主な介護者の年齢別	30代以下 (n=3)	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	40代 (n=17)	41.2	0.0	5.9	0.0	0.0
	50代 (n=57)	19.3	5.3	1.8	1.8	5.3
	60代 (n=103)	22.3	4.9	2.9	1.0	5.8
	70代 (n=74)	23.0	5.4	2.7	0.0	9.5
	80歳以上 (n=71)	21.1	5.6	1.4	0.0	9.9

10. 介護者への支援について

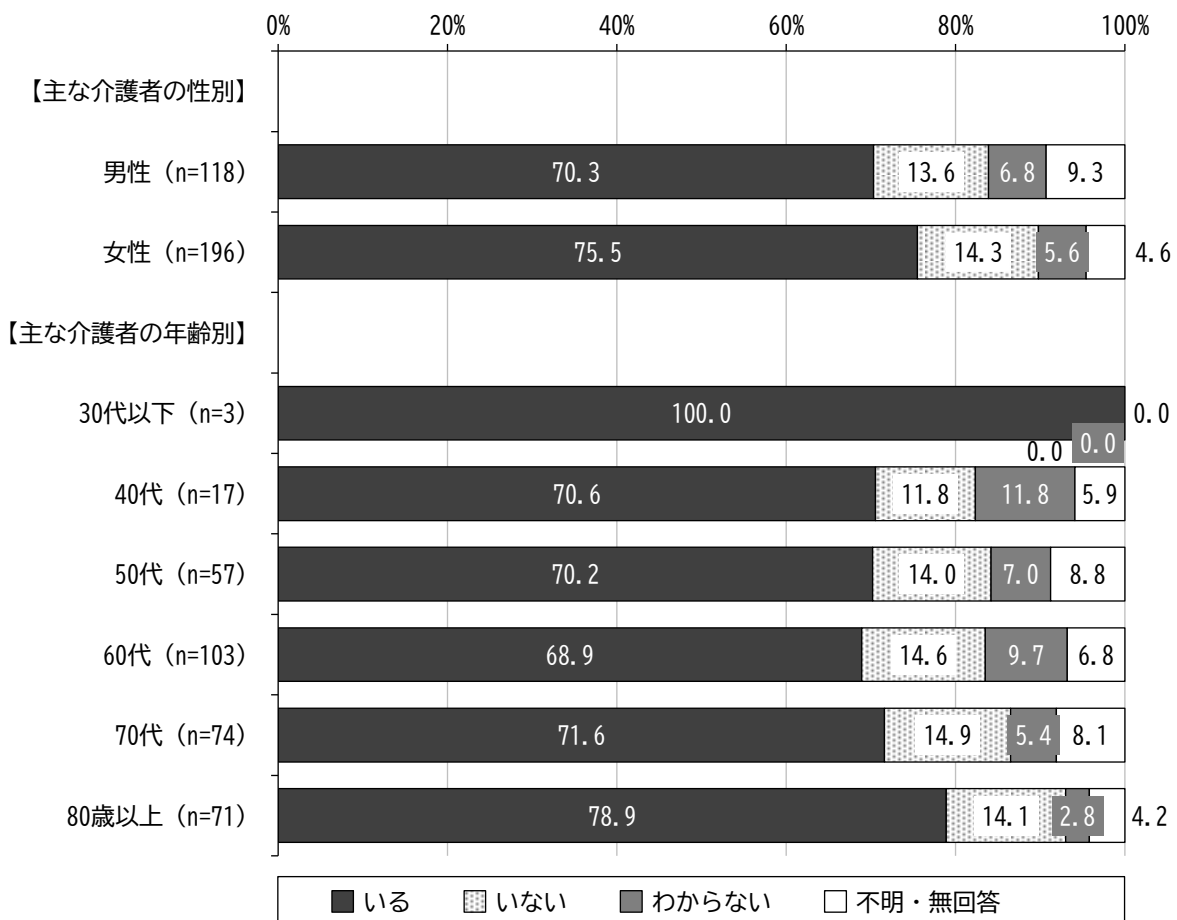
問15 主な介護者の方には、介護の手助けや介護に関する悩みを相談できる人がいますか。
(単数回答)

「いる」が60.9%と最も高く、次いで「いない」が12.6%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



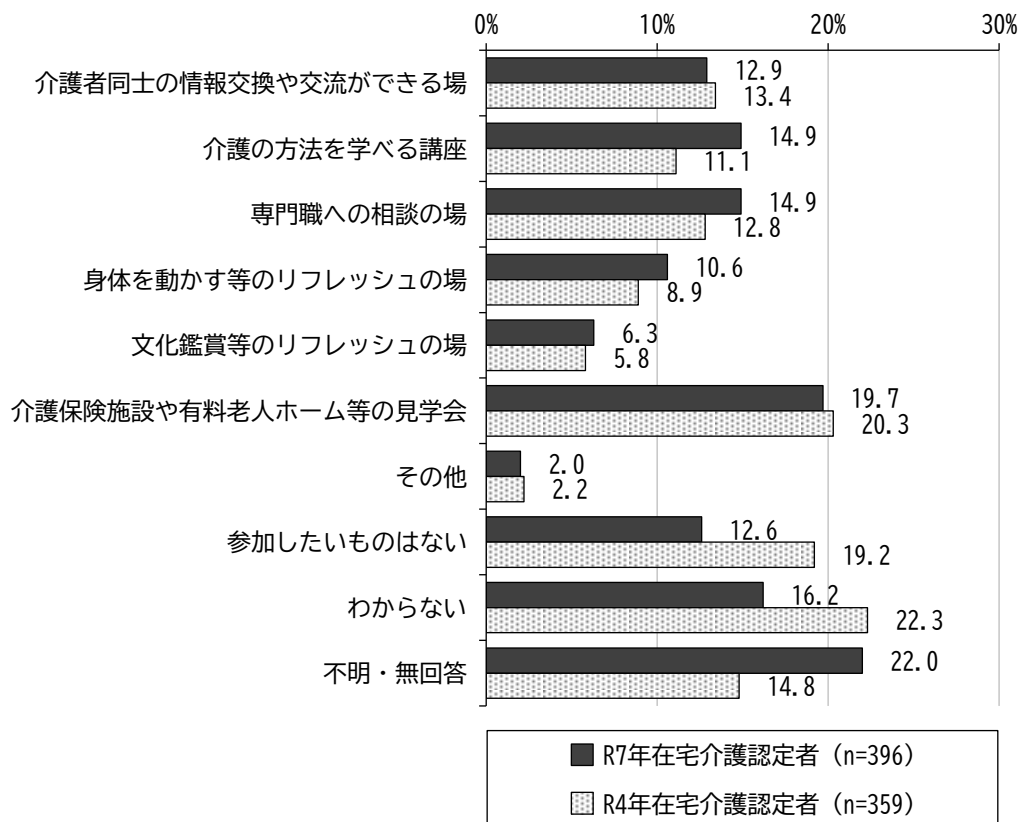
主な介護者の性別で見ると、男女ともに「いる」が最も高くなっています。

主な介護者の年齢別で見ると、いずれの年齢も「いる」が最も高くなっています。



問 16 介護者の支援としてあると良いもの（参加したいもの）はどれですか。（複数回答）

「介護保険施設や有料老人ホーム等の見学会」が19.7%と最も高く、次いで「わからない」が16.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「参加したいものはない」が6.6ポイント、「わからない」が6.1ポイント低くなっています。



その他回答記載例
相続、贈与の税金対策手続、各種補助金の説明、医療体制。
介護情報の共有（どこにいても出来る）。
どんな状態、状況だとどういう施設が適切なのかとか悩みに対してそれを解決するにはどうしたらよいか相談できる場、薬とか医療に関しても病院チョイスとかも。
ショートステイの充実。介護者に息抜きの時間が欲しい。

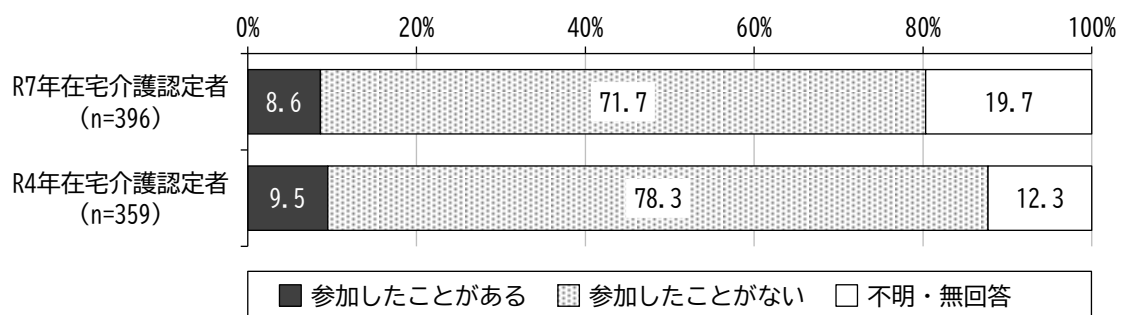
主な介護者の性別で見ると、男性では「わからない」、女性では「介護保険施設や有料老人ホーム等の見学会」が最も高くなっています。

主な介護者の年齢別で見ると、50代・70代では「わからない」、その他の年齢では「介護保険施設や有料老人ホーム等の見学会」が最も高くなっています。

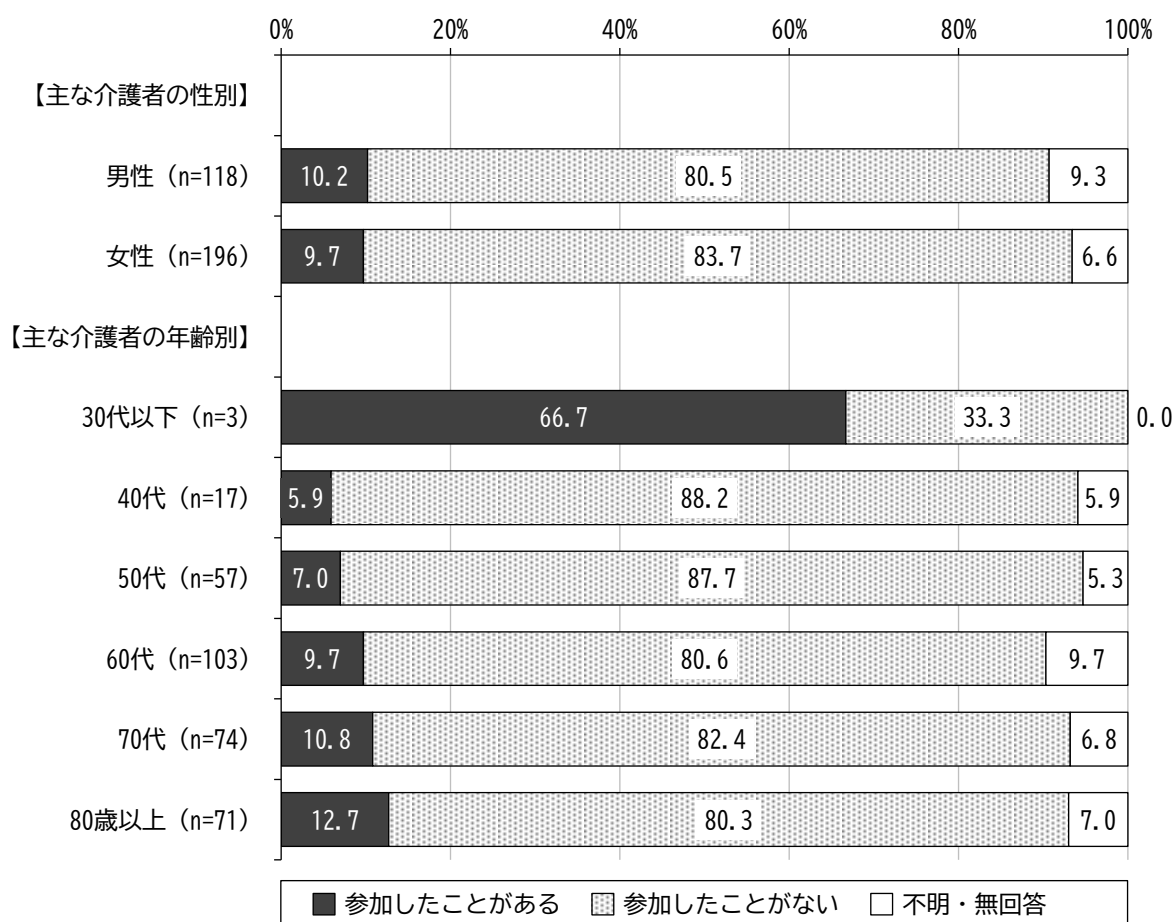
単位：％		介護者同士の情報交換	介護の方法を学べる講座	専門職への相談の場	身体を動かす等のリフレッシュの場	文化鑑賞等のリフレックスの場	介護保険施設や有料老人ホーム等の見学会	その他	参加したいものはない	わからない	不明・無回答
主な介護者の性別	男性 (n=118)	11.0	15.3	20.3	14.4	5.1	18.6	0.8	14.4	22.0	11.0
	女性 (n=196)	17.3	17.9	17.9	11.2	9.7	25.0	3.6	14.3	15.3	10.2
主な介護者の年齢別	30代以下 (n=3)	0.0	0.0	33.3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	40代 (n=17)	11.8	17.6	29.4	17.6	11.8	35.3	0.0	11.8	11.8	11.8
	50代 (n=57)	7.0	14.0	22.8	8.8	3.5	22.8	3.5	12.3	26.3	7.0
	60代 (n=103)	18.4	17.5	16.5	9.7	9.7	21.4	2.9	17.5	15.5	8.7
	70代 (n=74)	16.2	20.3	14.9	14.9	8.1	17.6	4.1	12.2	21.6	10.8
	80歳以上 (n=71)	14.1	14.1	15.5	14.1	5.6	26.8	0.0	12.7	14.1	15.5

問 17 これまでに介護者の支援事業に参加したことはありますか。(単数回答)

「参加したことがある」が8.6%、「参加したことがない」が71.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「参加したことがない」が6.6ポイント低くなっています。



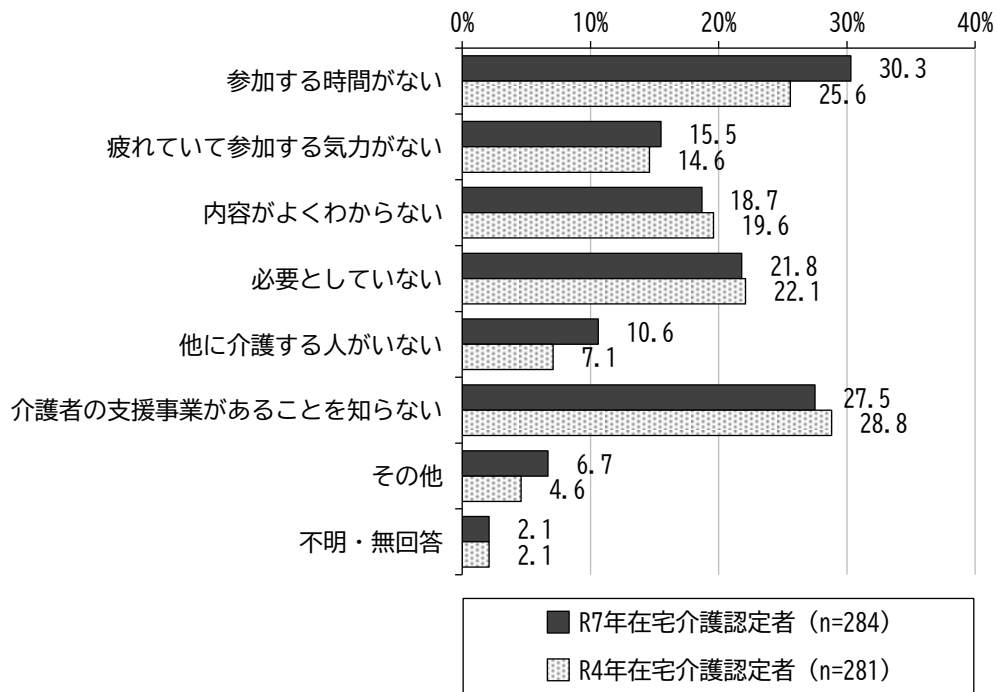
主な介護者の性別でみると、男女ともに「参加したことがない」が高くなっています。年齢別でみると、いずれの年齢も「参加したことがない」が高くなっています。



【問17で「参加したことがない」と回答した方のみ】

問18 その理由は次のどれですか。(複数回答)

「参加する時間がない」が30.3%と最も高く、次いで「介護者の支援事業があることを知らない」が27.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



その他回答記載例
今の所必要性を感じない。
希望するものが無い。
支援事業があるのを知ってる人少ないと思います。
仕事との両立で手いっぱい。

要介護度別でみると、要支援2では「必要としていない」「介護者の支援事業があることを知らない」、要介護2・要介護3では「参加する時間がない」、要介護4では「必要としていない」、その他の要介護度では「介護者の支援事業があることを知らない」が最も高くなっています。

主な介護者の性別でみると、男性では「介護者の支援事業があることを知らない」、女性では「参加する時間がない」が最も高くなっています。

主な介護者の年齢別でみると、40代では「参加する時間がない」「介護者の支援事業があることを知らない」、50代から70代では「参加する時間がない」、80歳以上では「介護者の支援事業があることを知らない」が最も高くなっています。

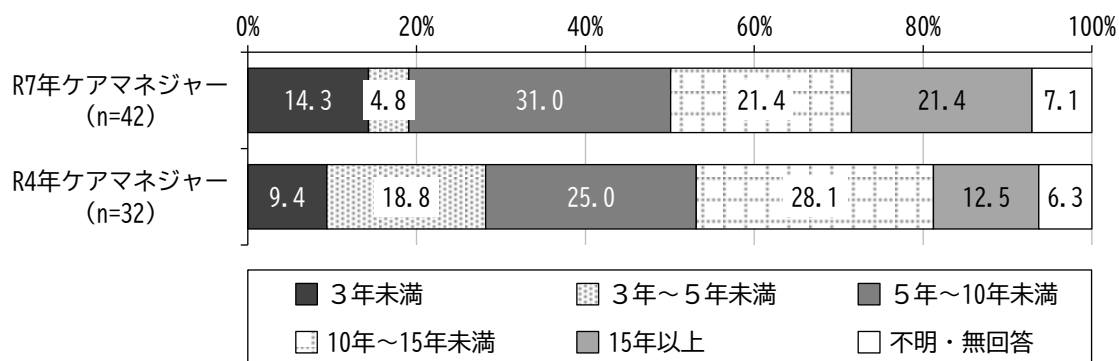
単位：%		参加する時間がない	気力がなくて参加する	内容がよくわからない	必要としていない	他に介護する人がいない	介護者の支援事業があることを知らない	その他	不明・無回答
要介護度別	要支援1 (n=35)	28.6	5.7	20.0	20.0	11.4	31.4	2.9	2.9
	要支援2 (n=85)	23.5	16.5	17.6	24.7	10.6	24.7	10.6	2.4
	要介護1 (n=59)	23.7	10.2	23.7	23.7	8.5	30.5	6.8	3.4
	要介護2 (n=49)	46.9	26.5	16.3	16.3	14.3	26.5	6.1	0.0
	要介護3 (n=22)	36.4	27.3	22.7	13.6	4.5	22.7	0.0	4.5
	要介護4 (n=13)	30.8	0.0	15.4	38.5	15.4	30.8	0.0	0.0
	要介護5 (n=11)	27.3	18.2	9.1	18.2	9.1	36.4	18.2	0.0
主な介護者の性別	男性 (n=95)	18.9	10.5	20.0	18.9	12.6	31.6	8.4	2.1
	女性 (n=164)	40.2	20.1	17.7	23.2	9.1	25.0	5.5	1.8
主な介護者の年齢別	30代以下 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	40代 (n=15)	40.0	20.0	33.3	20.0	13.3	40.0	0.0	0.0
	50代 (n=50)	44.0	18.0	10.0	14.0	4.0	36.0	2.0	2.0
	60代 (n=83)	38.6	22.9	20.5	27.7	3.6	15.7	8.4	0.0
	70代 (n=61)	31.1	13.1	19.7	19.7	18.0	27.9	6.6	3.3
	80歳以上 (n=57)	10.5	8.8	17.5	21.1	15.8	36.8	10.5	1.8

IV ケアマネジャー調査の結果

問1 あなたのそれぞれの経過年数を記入してください。(数量回答)

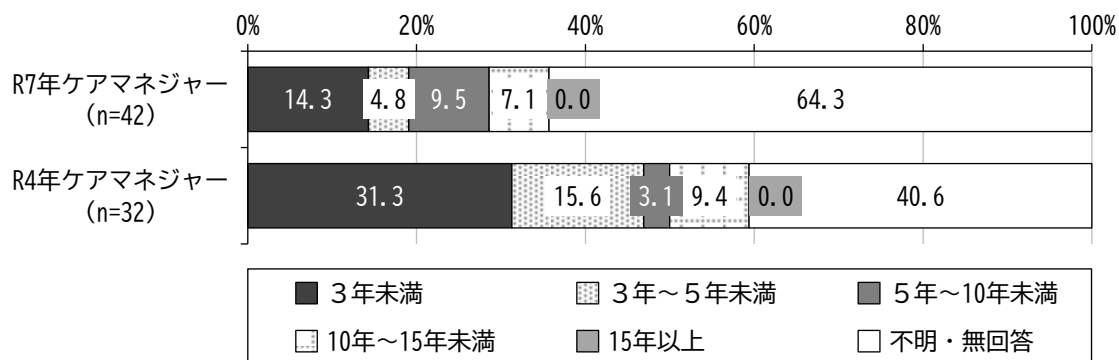
①ケアマネジャー歴

「5年～10年未満」が31.0%と最も高く、次いで「10年～15年未満」「15年以上」が21.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「15年以上」が8.9ポイント、「5年～10年未満」が6.0ポイント高く、「3年～5年未満」が14.0ポイント、「10年～15年未満」が6.7ポイント低くなっています。



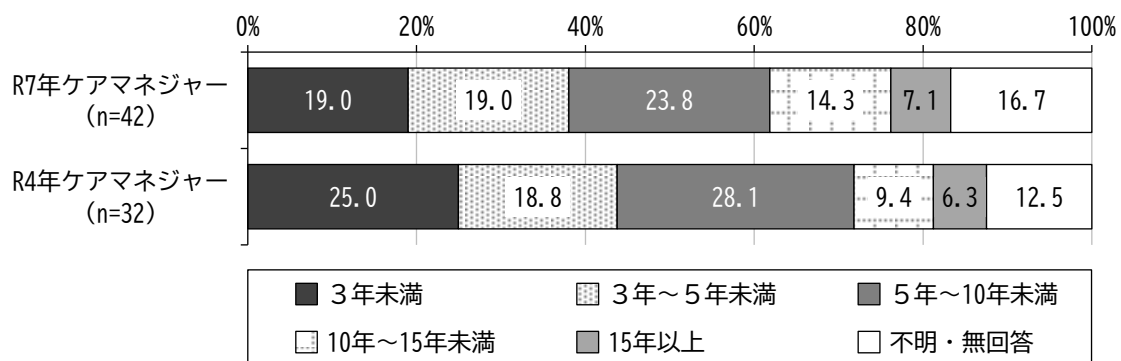
②主任ケアマネジャー歴

「3年未満」が14.3%と最も高く、次いで「5年～10年未満」が9.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「5年～10年未満」が6.4ポイント高く、「3年未満」が17.0ポイント、「3年～5年未満」が10.8ポイント低くなっています。



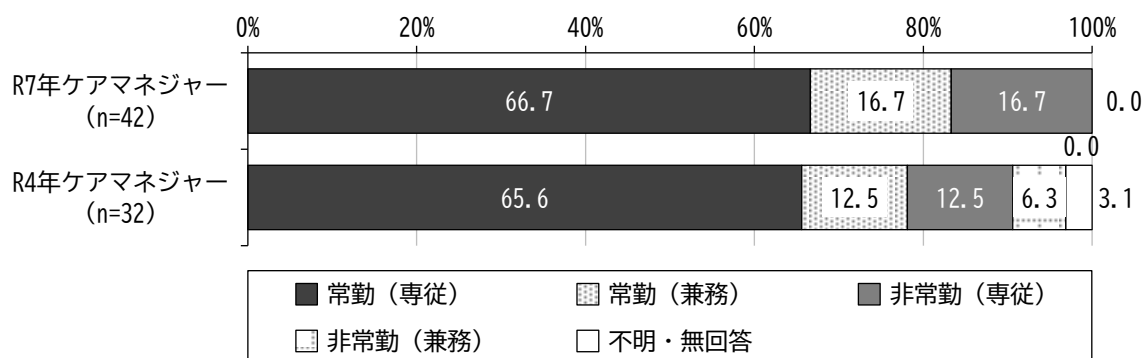
③現在の勤務地での勤務歴

「5年～10年未満」が23.8%と最も高く、次いで「3年未満」「3年～5年未満」が19.0%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「3年未満」が6.0ポイント低くなっています。



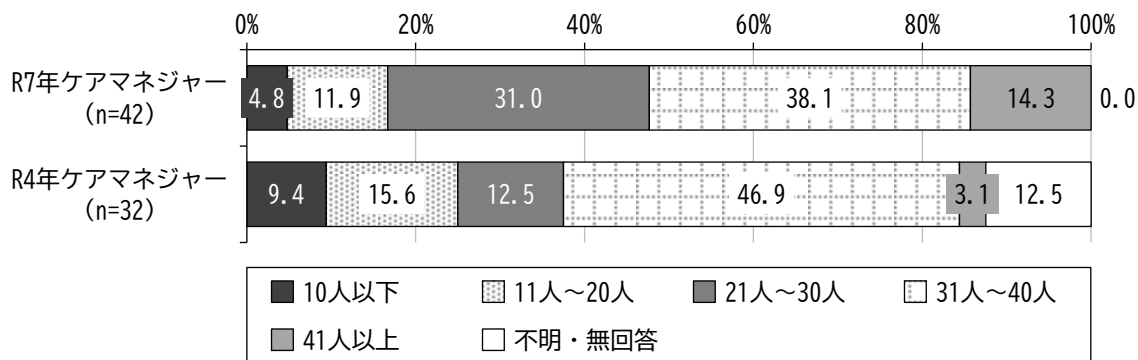
問2 あなたの勤務形態はどれに該当しますか。(単数回答)

「常勤（専従）」が66.7%と最も高く、次いで「常勤（兼務）」「非常勤（専従）」が16.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「非常勤（兼務）」が6.3ポイント低くなっています。



問3 令和7年12月1日現在、あなたは何人のケアプランを担当していますか。
(数量回答)

「31人～40人」が38.1%と最も高く、次いで「21人～30人」が31.0%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「21人～30人」が18.5ポイント、「41人以上」が11.2ポイント高く、「31人～40人」が8.8ポイント低くなっています。



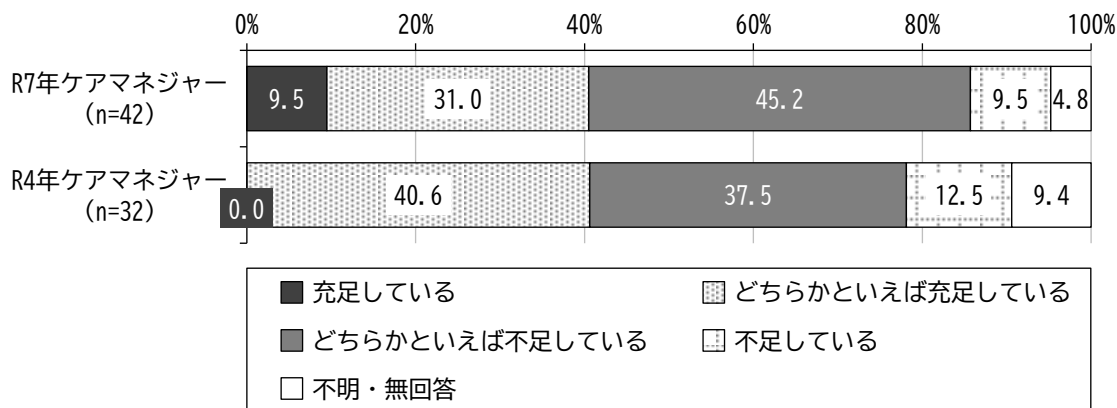
問4 あなたは、町内における介護保険対象の居宅サービスの充足度について、どのようにお考えですか。(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『充足している』…「充足している」と「どちらかといえば充足している」の合算

『不足している』…「どちらかといえば不足している」と「不足している」の合算

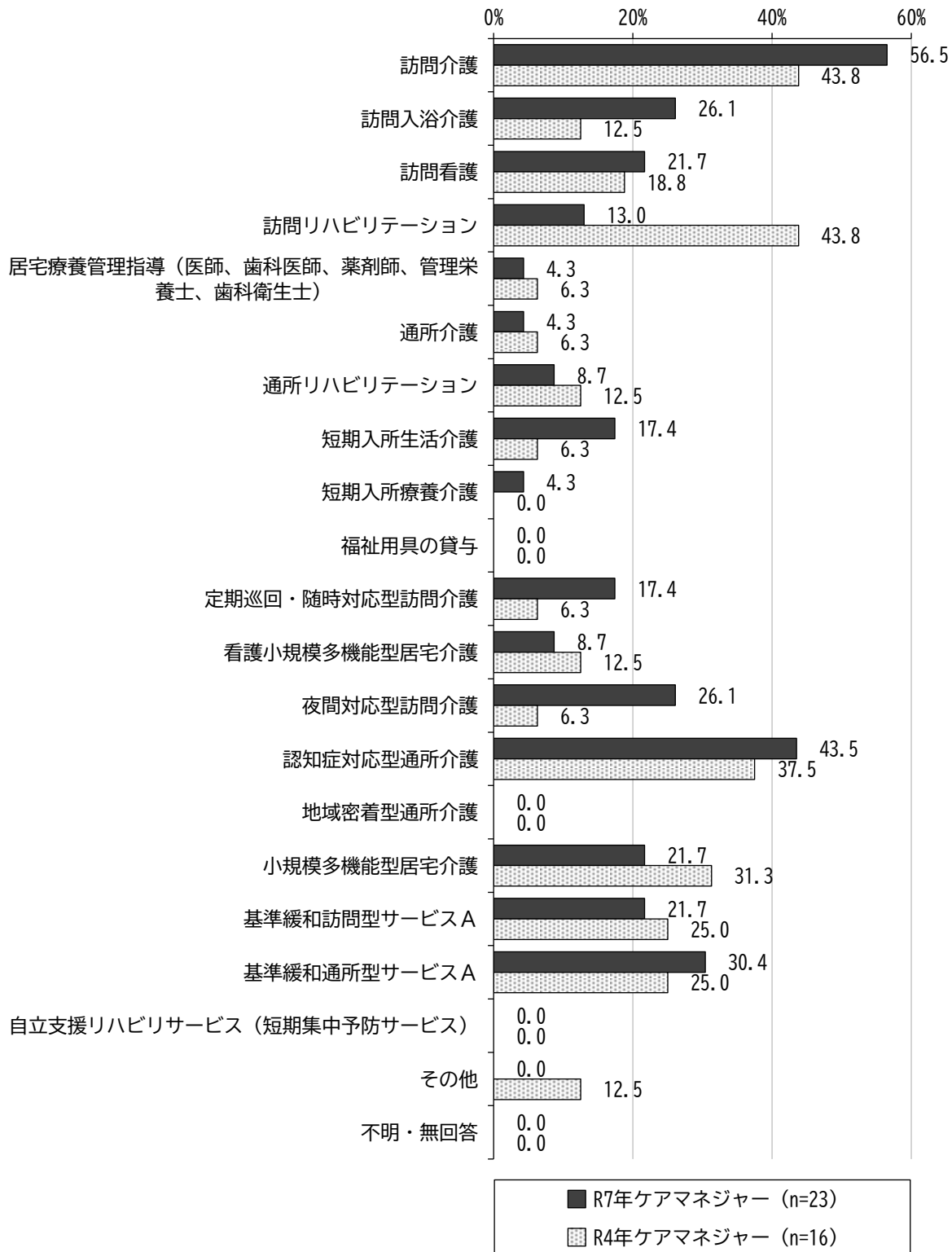
『充足している』が40.5%、『不足している』が54.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【問4で「どちらかといえば不足している」「不足している」のいずれかに回答した方のみ】

問4-1 介護保険対象の居宅サービスの中で、供給が不足していると感じているサービスは何ですか。(複数回答)

「訪問介護」が56.5%と最も高く、次いで「認知症対応型通所介護」が43.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「夜間対応型訪問介護」が19.8ポイント高く、「訪問リハビリテーション」が30.8ポイント低くなっています。



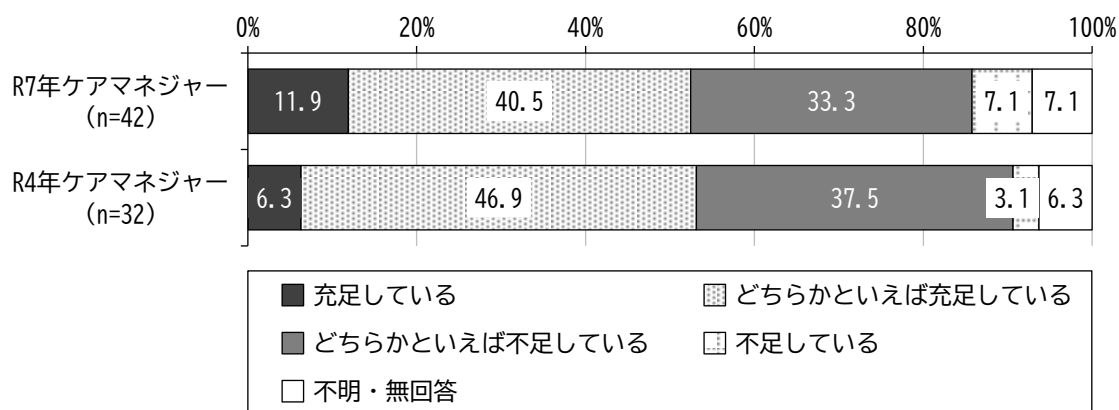
問5 町内における施設や居住系サービスの充足度について、どのようにお考えですか。
(単数回答)

本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『充足している』…「充足している」と「どちらかといえば充足している」の合算

『不足している』…「どちらかといえば不足している」と「不足している」の合算

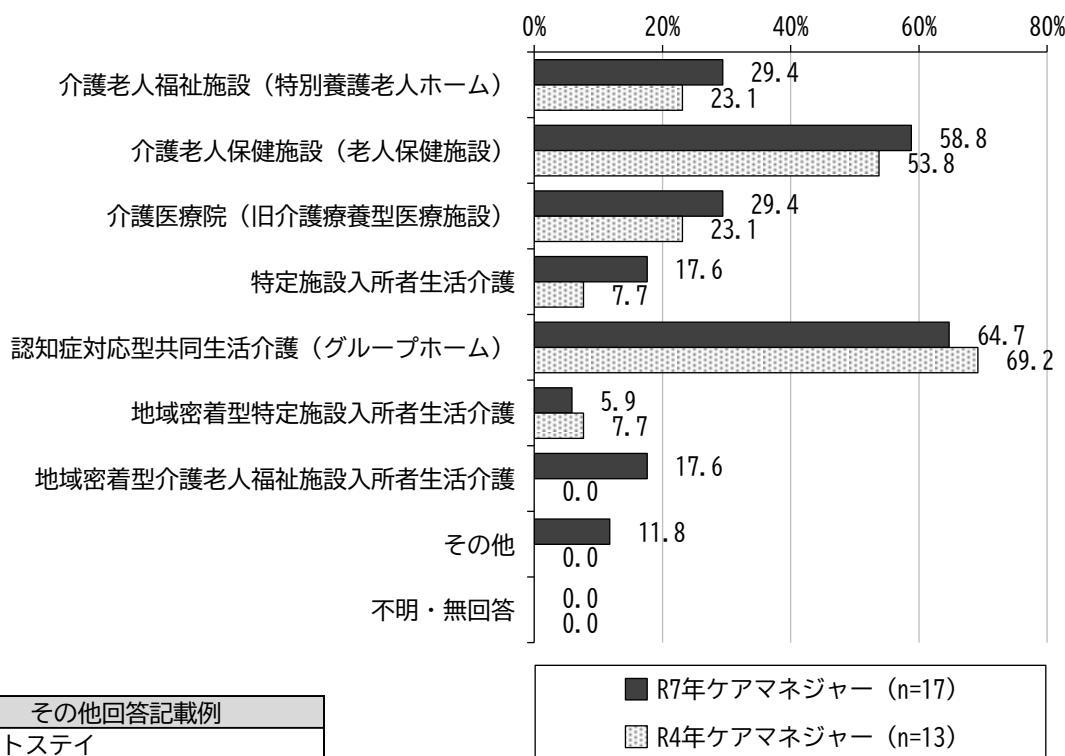
『充足している』が52.4%、『不足している』が40.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【問5で「どちらかといえば不足している」「不足している」のいずれかに回答した方のみ】

問5-1 不足していると考えているのはどんなサービスですか。(複数回答)

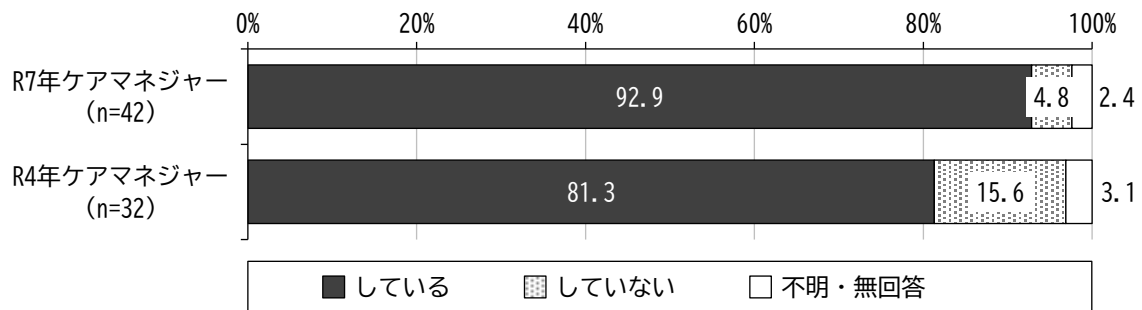
「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」が64.7%と最も高く、次いで「介護老人保健施設（老人保健施設）」が58.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」が17.6ポイント、「特定施設入所者生活介護」が9.9ポイント高くなっています。



その他回答記載例
ショートステイ

問6 介護保険サービス以外のサービス（生活支援サービスや町が単独で行っているサービス等）も含めて、居宅サービス計画の作成を行っていますか。（単数回答）

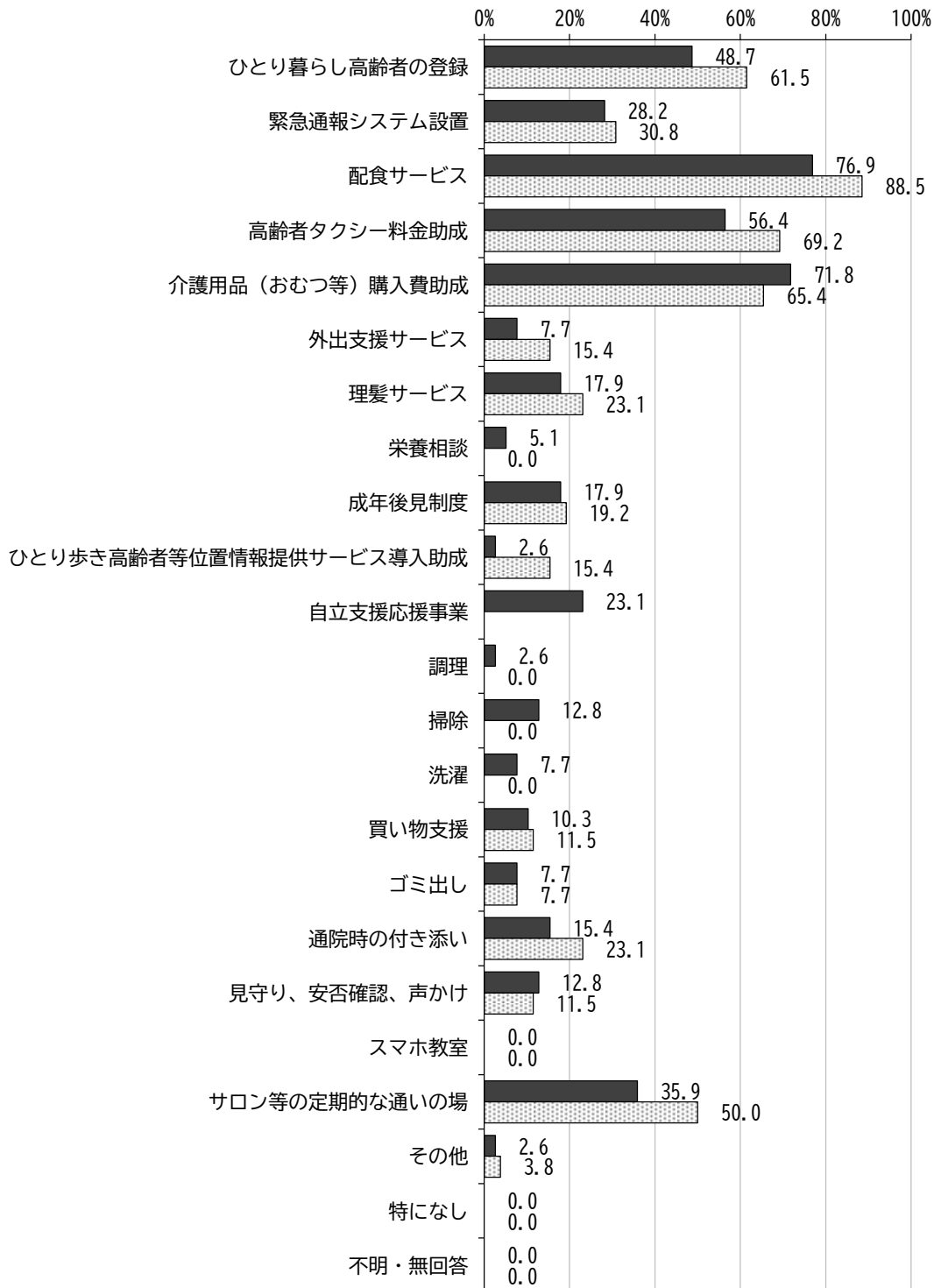
「している」が92.9%、「していない」が4.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「している」が11.6ポイント高く、「していない」が10.8ポイント低くなっています。



【問6で「している」と回答した方のみ】

問6-1 どのようなサービスを導入していますか。(複数回答)

「配食サービス」が76.9%と最も高く、次いで「介護用品（おむつ等）購入費助成」が71.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「掃除」が12.8ポイント高く、「サロン等の定期的な通いの場」が14.1ポイント低くなっています。



その他回答記載例
傾聴ボランティア

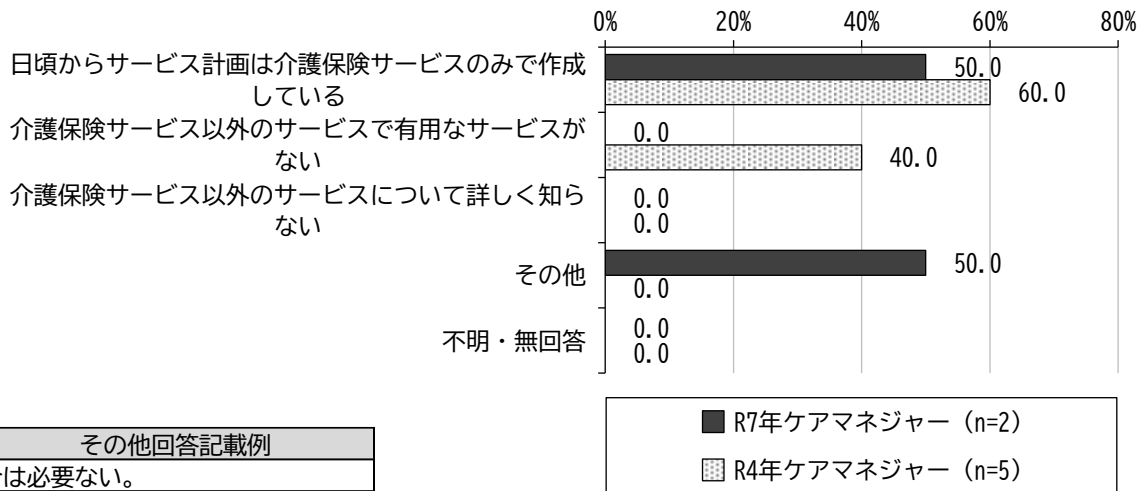
■ R7年ケアマネジャー (n=39)
▨ R4年ケアマネジャー (n=26)

※選択肢：「自立支援応援事業」はR7年度調査のみとなっています。

【問6で「していない」と回答した方のみ】

問6-2 その理由は何ですか。(複数回答)

「日頃からサービス計画は介護保険サービスのみで作成している」が1件(50.0%)となっています。



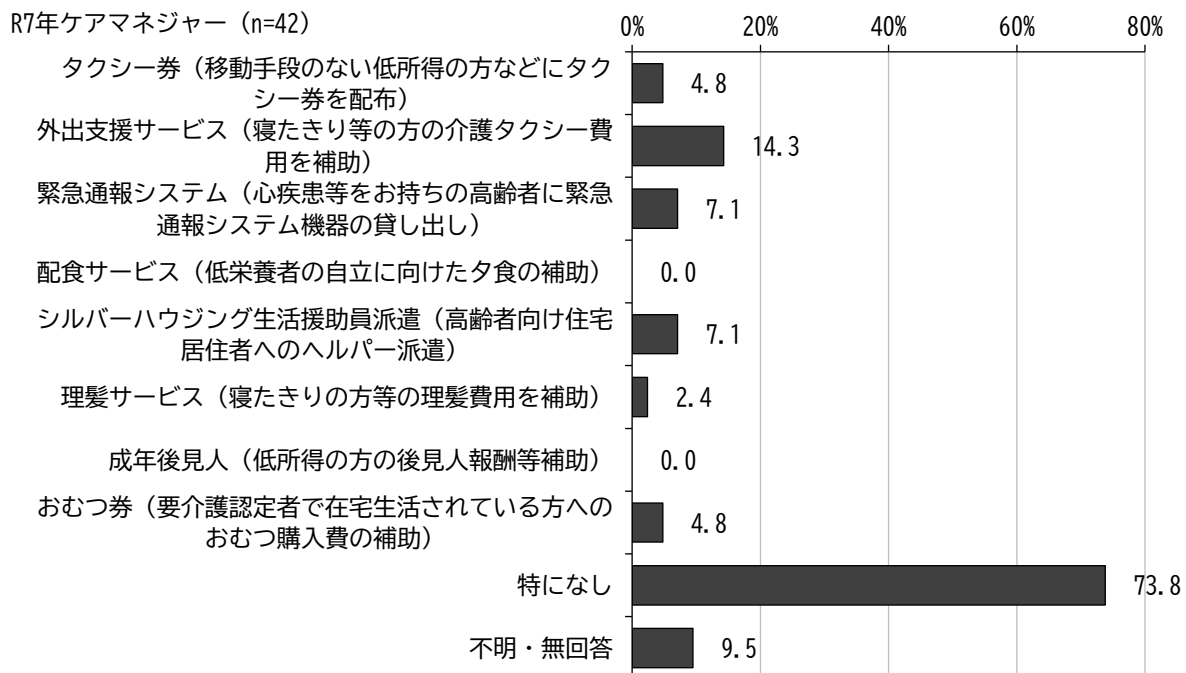
その他回答記載例
今は必要ない。

問7 こんなサービスがあると良いと思うサービスはどのようなサービスですか。(記述回答)

こんなサービスがあると良いと思うサービス
移動サービス
喫茶店での男性向け集いの場。
公的で信用できる、身元保証サービス。
ゴミ個別回収。生活支援ボラ。
ゴミ出し。サロン等の送迎。
ゴミ出し。通院介助。安否確認。
サロン等までの外出支援。話し相手(訪問サービス)。
独居の方、ゴミ出しサービス。
独居の方などで、ゴミ出しに行く事ができない世帯の回収サービス。
一人暮らしの方や、高齢世帯の方の安否確認を含めたゴミ回収。低栄養の方と限定せず、高齢者の配食サービスの提供。
病院そのものが送迎付。高齢者ボランティアの育成(卒業後、各方面の支援を行う)。送迎付サロン。
まちかど運動教室へ参加したいと思ってもそこまで歩けない、送迎があるといい。歩行器等を利用している人がタクシーを頼んだ時、断られるケースがある。介護タクシーがもう少し広がって、利用できるようなになると助かると思う。
有償ヘルパーさんとの受診や買い物同行支援。現存のものはオプションが多く、結果的に高額になってしまう。

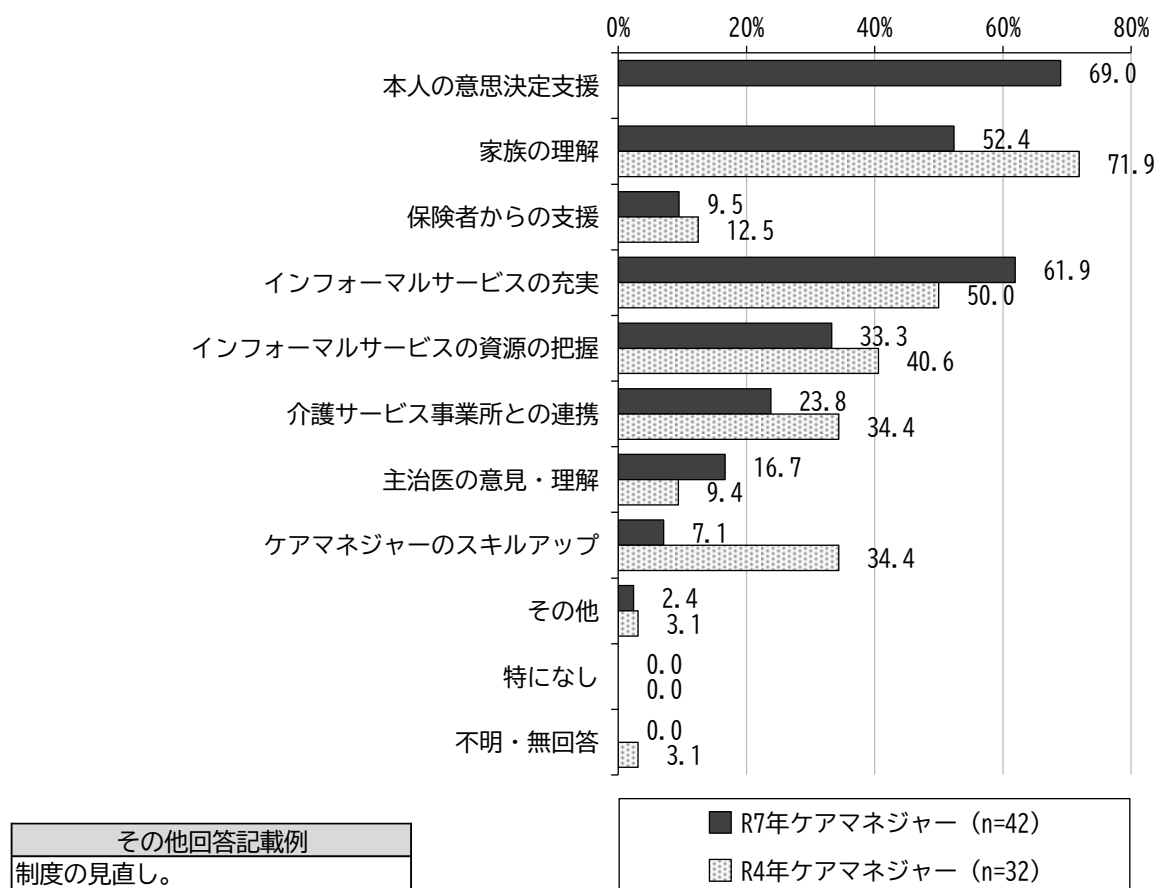
問8 東郷町の高齢者福祉サービスで不要と思うサービスは何ですか。(複数回答)

「特になし」が73.8%と最も高く、次いで「外出支援サービス（寝たきり等の方の介護タクシー費用を補助）」が14.3%となっています。



問9 自立支援のためのケアマネジメントを促進するために必要だと思うことはありますか。(3つまで複数回答)

「本人の意思決定支援」が69.0%と最も高く、次いで「インフォーマルサービスの充実」が61.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「インフォーマルサービスの充実」が11.9ポイント高く、「ケアマネジャーのスキルアップ」が27.3ポイント、「家族の理解」が19.5ポイント低くなっています。

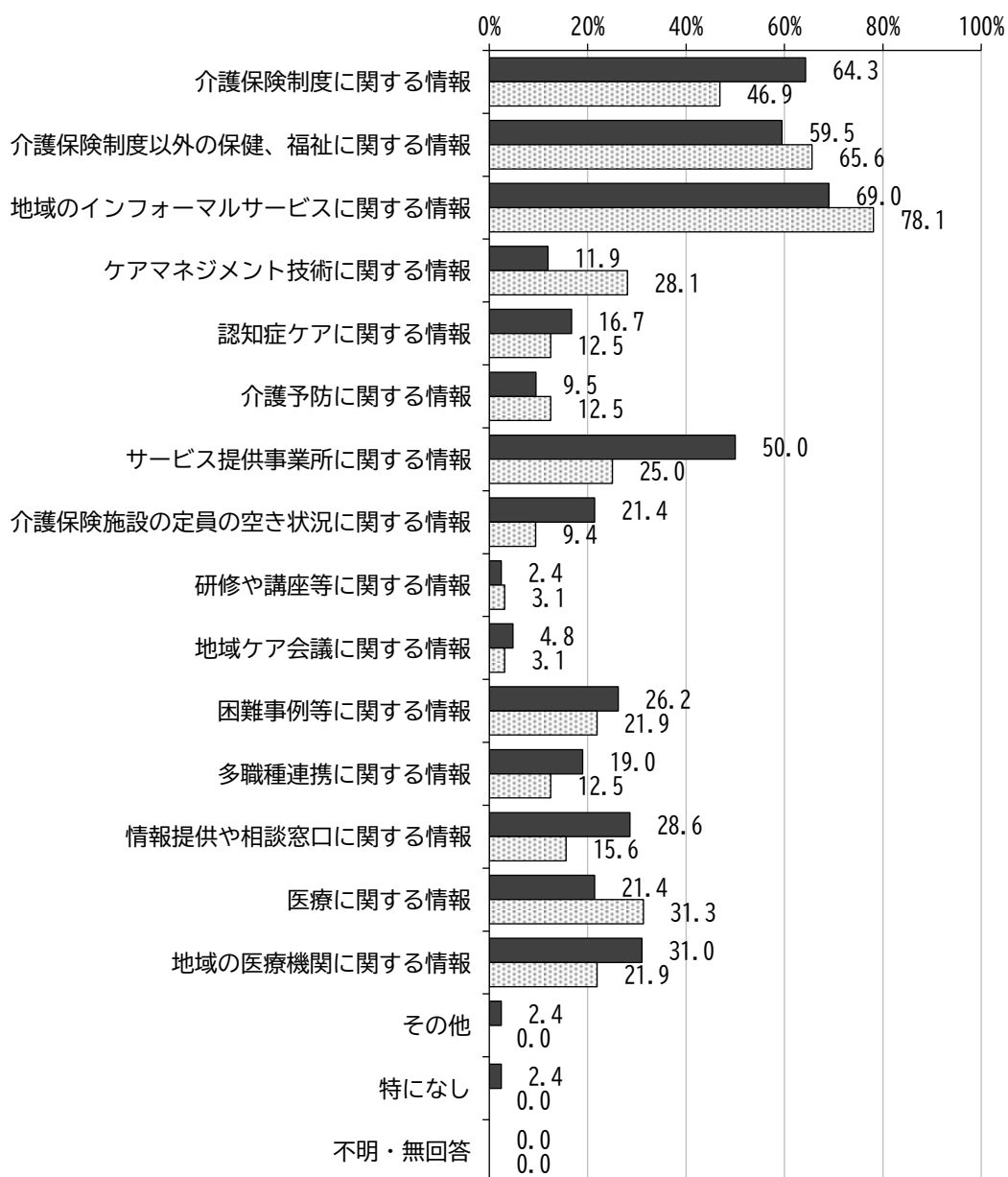


※選択肢：「本人の意思決定支援」はR7年度調査のみとなっています。

※R7年度調査の選択肢「家族の理解」「特になし」は、R4年度調査では「本人・家族の理解」「なし」となっています。

問10 ケアマネジメントを円滑に行うために、どのような情報が必要ですか。
(5つまで複数回答)

「地域のインフォーマルサービスに関する情報」が69.0%と最も高く、次いで「介護保険制度に関する情報」が64.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「サービス提供事業所に関する情報」が25.0ポイント、「介護保険制度に関する情報」が17.4ポイント高く、「ケアマネジメント技術に関する情報」が16.2ポイント低くなっています。



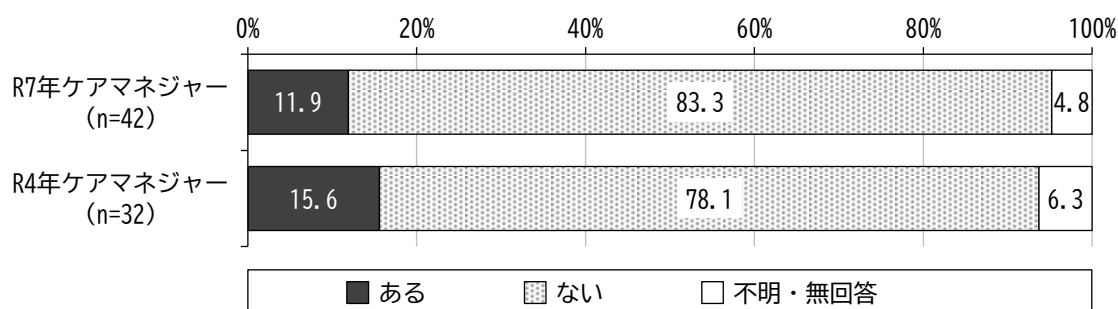
その他回答記載例
病院との連携。

■ R7年ケアマネジャー (n=42)
▨ R4年ケアマネジャー (n=32)

※R7年度調査の選択肢「特になし」は、R4年度調査では「特にない」となっています。

問 11 介護サービス計画の作成を断ったことはありますか。(単数回答)

「ある」が11.9%、「ない」が83.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「ない」が5.2ポイント高くなっています。



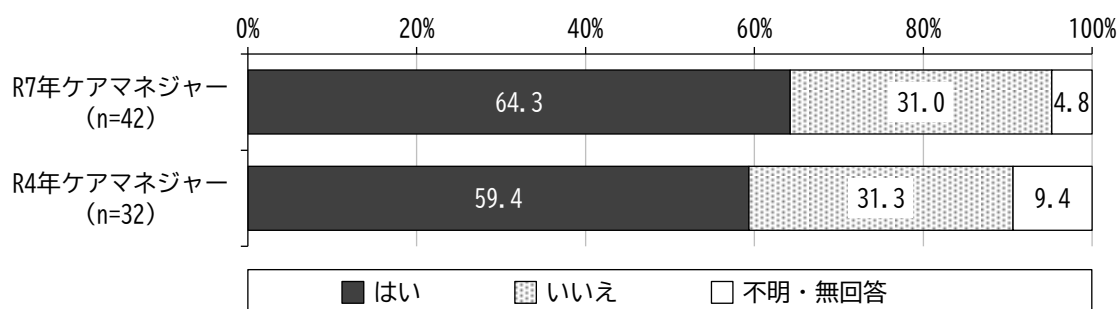
【問 11 で「ある」と回答した方のみ】

問 11-1 その理由は何ですか。(記述回答)

介護サービス計画の作成を断った理由
区域外である、要介護者であるため。
件数がいっぱい、勤務時間帯だけでは対応できず。
自分の担当できる件数を(キャパ)超えるため。十分な支援ができないと、考える。
集中減質の関係。受け持ち人数の関係。
担当の人数限界。

問 12 困難事例を地域包括支援センターに相談したことはありますか。(単数回答)

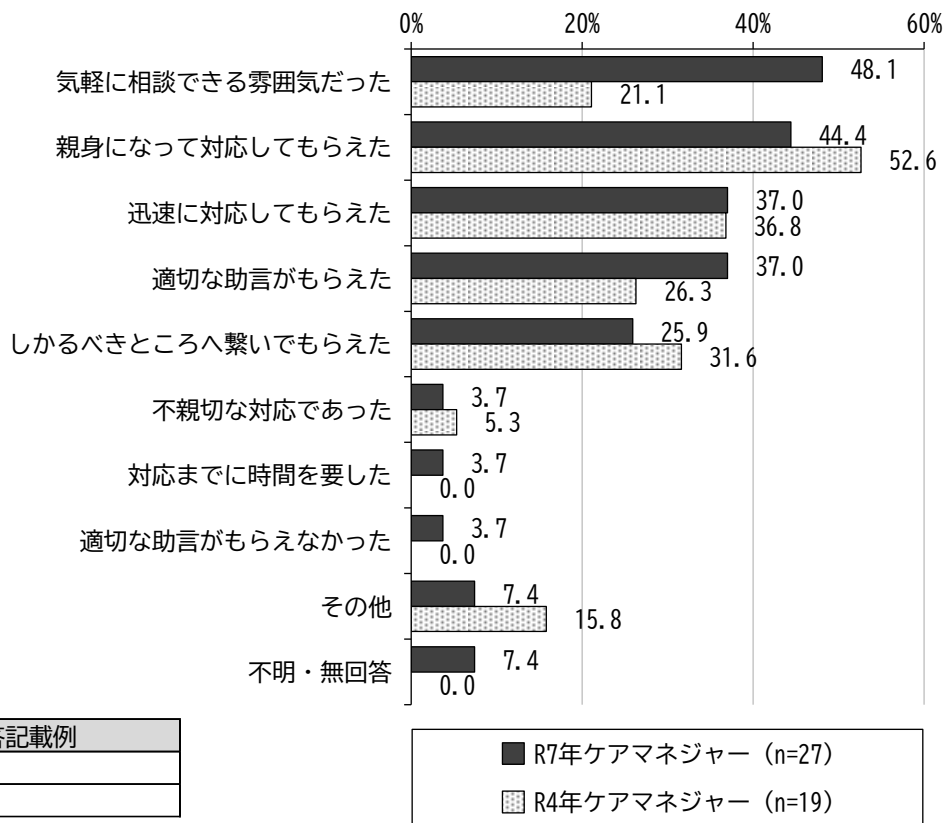
「はい」が64.3%、「いいえ」が31.0%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【問12で「はい」と回答した方のみ】

問12-1 その時の地域包括支援センターの印象はどうでしたか。(複数回答)

「気軽に相談できる雰囲気だった」が48.1%と最も高く、次いで「親身になって対応してもらえた」が44.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「気軽に相談できる雰囲気だった」が27.0ポイント、「適切な助言がもらえた」が10.7ポイント高く、「親身になって対応してもらえた」が8.2ポイント低くなっています。



その他回答記載例
上目線で喋られる。
何とも言えない。

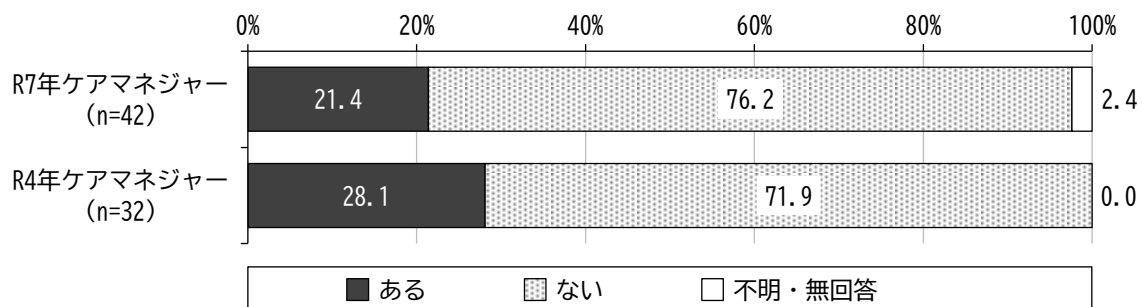
【問12で「いいえ」と回答した方のみ】

問12-2 地域包括支援センターへ相談しない理由は何ですか。(記述回答)

地域包括支援センターへ相談しない理由
今は困難事例が無い。
困難事例がまだ無い。経験が無い。
困難事例と思わないため。
困難事例を担当していないため。
事業所内で解決できた。
先輩に相談できる環境のため。
相談しても何も対応してもらえず、丸投げ状態のため。
他事業所と相談しながらサービスを提供しているため。
特に対象となる方がいないため。以前はあったが、現在はいない。
必要が無かった。

問13 あなたが関わる要介護認定者のうち、この1年間で高齢者虐待を受けた、または受けていると疑われる事案はありましたか。(単数回答)

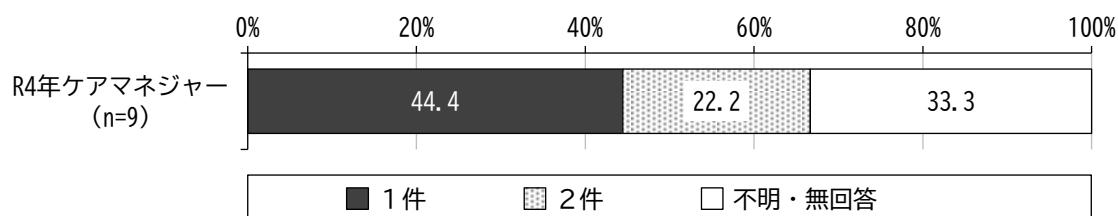
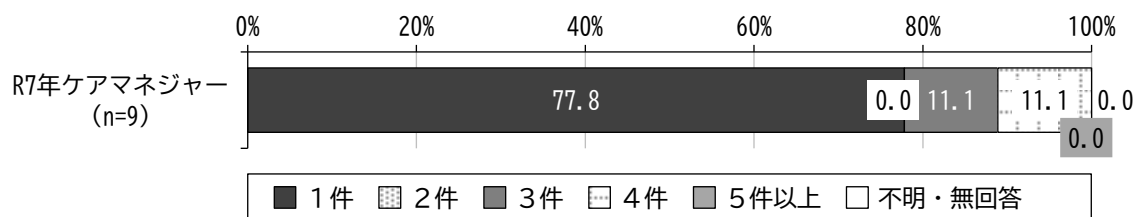
「ある」が21.4%、「ない」が76.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「ある」が6.7ポイント低くなっています。



【問13で「ある」と回答した方のみ】

■虐待案件数 (数量回答)

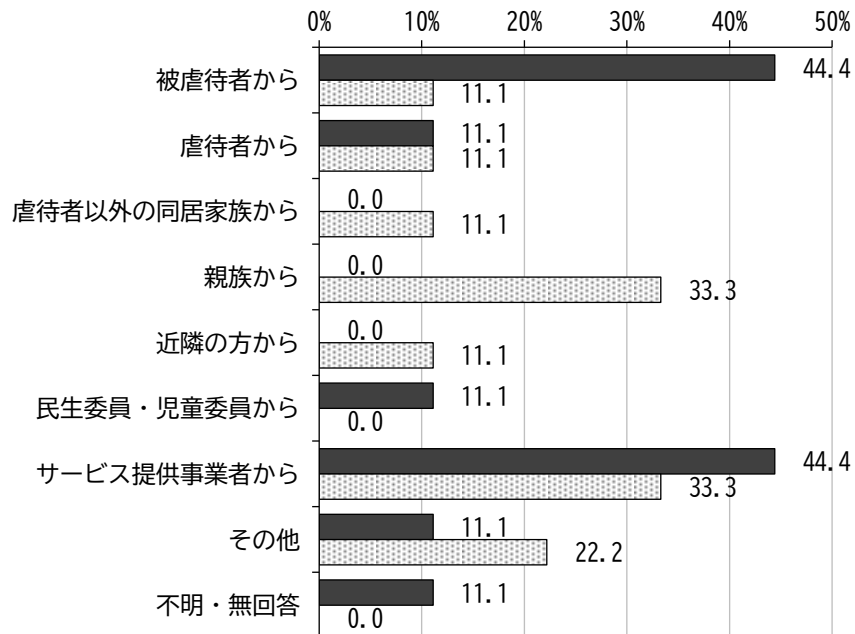
「1件」が7件 (77.8%) と最も多く、次いで「3件」「4件」が1件 (11.1%) となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「1件」が高くなっています。



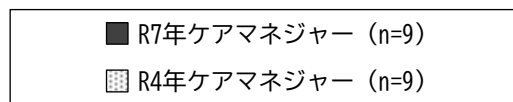
【問13で「ある」と回答した方のみ】

問13-1 それは誰からの通報でしたか。(複数回答)

「被虐待者から」「サービス提供事業者から」が4件(44.4%)と最も多く、次いで「虐待者から」「民生委員・児童委員から」が1件(11.1%)となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「被虐待者から」が高く、「親族から」が低くなっています。



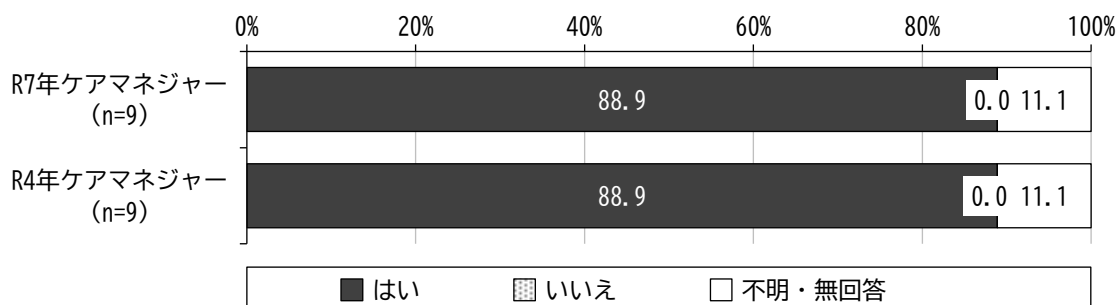
その他回答記載例
高齢者支援課 病院側。



【問13で「ある」と回答した方のみ】

問13-2 関係機関に相談・通報しましたか。(単数回答)

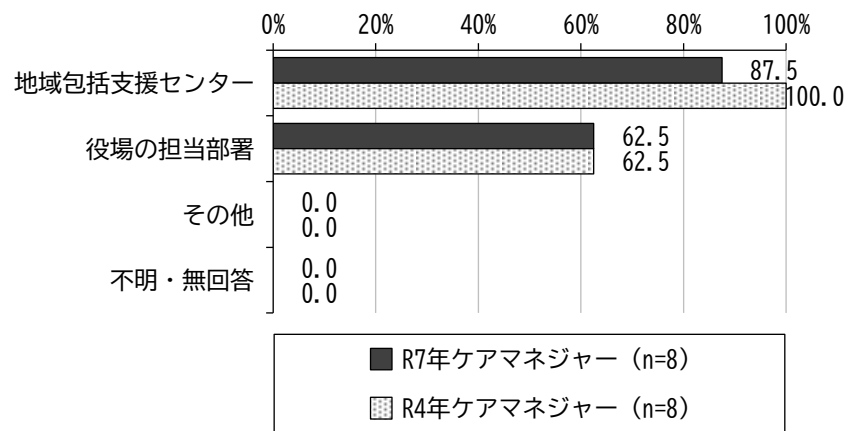
「はい」が8件(88.9%)となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【問13-2で「はい」と回答した方のみ】

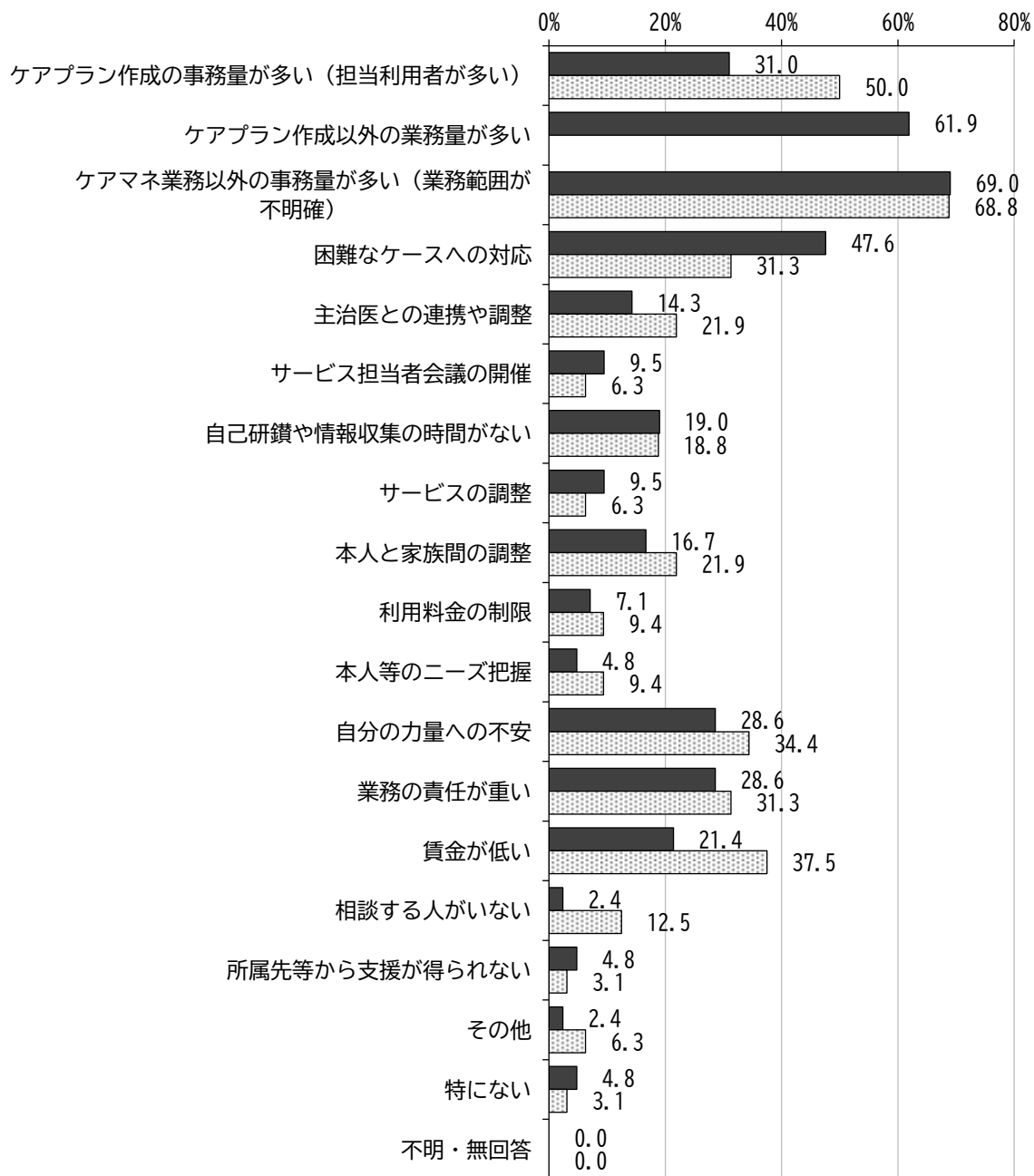
問13-3 相談・通報先はどこですか。(複数回答)

「地域包括支援センター」が7件(87.5%)と最も多く、次いで「役場の担当部署」が5件(62.5%)となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「地域包括支援センター」が低くなっています。



問 14 あなたが、ケアマネジャーとして困っていることは何ですか。(5つまで複数回答)

「ケアマネ業務以外の事務量が多い(業務範囲が不明確)」が69.0%と最も高く、次いで「ケアプラン作成以外の業務量が多い」が61.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「困難なケースへの対応」が16.3ポイント高く、「ケアプラン作成の事務量が多い(担当利用者が多い)」が19.0ポイント、「賃金が低い」が16.1ポイント低くなっています。



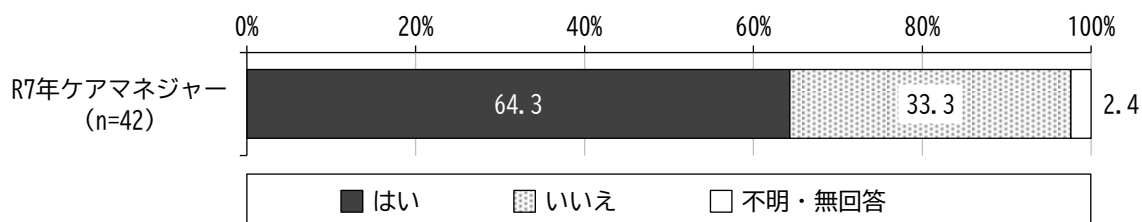
その他回答記載例
東郷町役場での研修が多い。

■ R7年ケアマネジャー (n=42)
▨ R4年ケアマネジャー (n=32)

※選択肢:「ケアプラン作成以外の業務量が多い」はR7年度調査のみとなっています。

問15 ケアマネジャーとしての本来の業務以外の事項で、業務中に負担感を感じる場面はありますか。(単数回答)

「はい」が64.3%、「いいえ」が33.3%となっています。

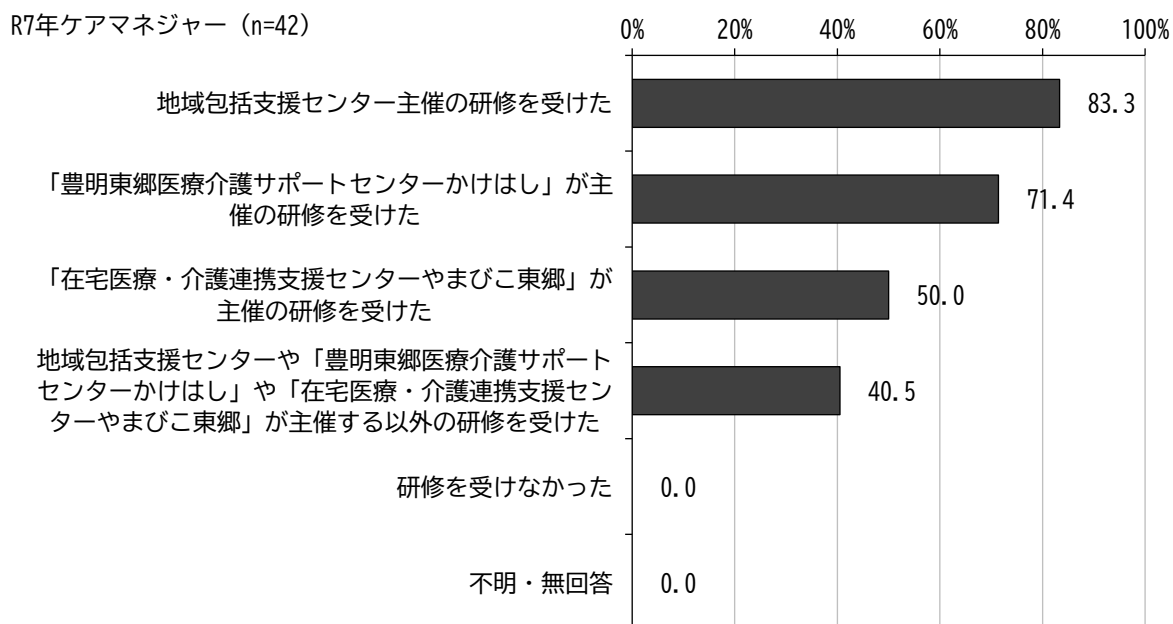


問16 業務中に、ケアマネジャーとしての本来の業務以外で対応している仕事があれば、具体的にお書きください。(記述回答)

ケアマネジャーとしての本来の業務以外で対応している仕事の内容
介護保険以外のサービスの、相談、連絡。
家族が遠方で一人暮らしの利用者の入退院時の支援（入院に必要な物を届ける）。
家族からの介護保険以外の相談対応。
家族の相談。家事支援。介護保険以外の申請。医療への助言。入院等の準備。
急な受診の付き添い等。
急な独居高齢者宅への安否確認のための訪問（家族から連絡が付かないのを心配し、本人と連絡がつかない場合は行くしかないため）。必要物品の買い出し。単なる漫然とした不安に付いての話を1時間近く付き合わされる。
社協職員のため、社協本部の業務があり、加えてセンター長としての業務がある。
書類手続き。
通院の付き添い、救急搬送時の病院での待機。
通院、緊急搬送時の付き添い。
どこまで関わるべきラインが分からない、個別の対応。
独居、保証人になる親族がいない、利用料金の制限がある、本人と一緒に金銭管理。
一人暮らしの方のスマホ操作の相談。
病院付き添い、入院時付き添い（家族がいない、あるいは仕事や遠方で来られない場合）。
包括業務
本人がお金の管理がうまくできないが、他者からの支援を受ける事を拒んでいる。先月は電気代が払えず、電気が止められた。親族がお金を出してくれたが、毎月はできないと思う。本人の収支を調べ、使える金額を出したが、今後自己管理できるか不明。
役場への届け出、県営住宅の申し込み等、いろいろ。
有料老人ホーム内での他業務（他部署へのOJT指導）。

問 17 過去1年間に研修を受けましたか。(複数回答)

「地域包括支援センター主催の研修を受けた」が83.3%と最も高く、次いで「豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし」が主催の研修を受けた」が71.4%となっています。



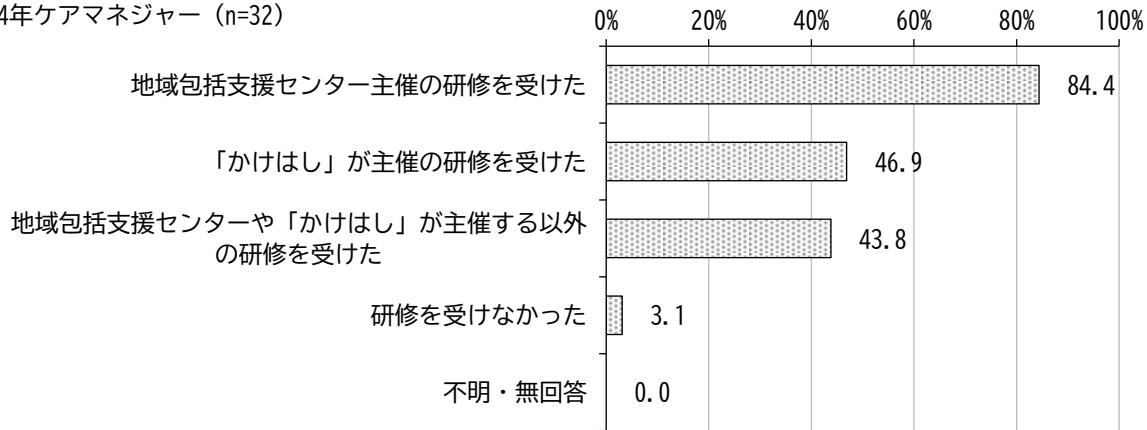
【問 17 で「地域包括支援センターや『豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし』や『在宅医療・介護連携支援センターやまびこ東郷』が主催する以外の研修を受けた」と回答した方のみ】

■研修内容 (記述回答)

研修内容
介連
あすライツが主催の意思決定支援。
医療連携を行う必要性が高い人との町内の医者との連携の必要性があるケースの担当が、現在無いため。また、他のツール (MCS) を使用して情報共有を取っていた人もおり、それ以上に他でも行うのは効率が悪い
ため。
介護支援専門員更新研修 I、認知症地域支援推進員研修。
虐待、ケアマネジメントプロセス、権利擁護。
虐待対応、加算について。
権利擁護 (後見人制度)。看取り。ACP。重層。AI 介護。
障害制度の理解について。
認知症について。
認定調査員

□参考値

R4年ケアマネジャー (n=32)



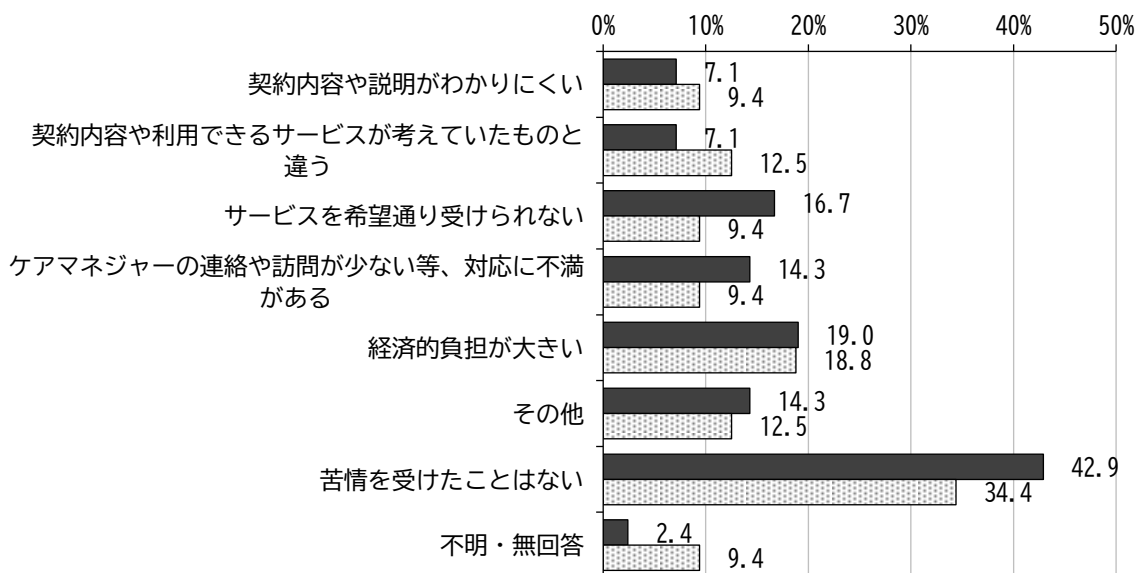
【問 17 で「研修を受けなかった」に回答した方のみ】

問17-1 研修を受けなかった理由は何ですか。(記述回答)

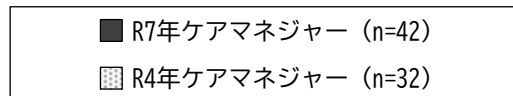
研修を受けなかった理由
利用者訪問を優先した。

問 18 利用者や家族から受けたことがある苦情は何ですか。(複数回答)

「苦情を受けたことはない」が42.9%と最も高く、次いで「経済的負担が大きい」が19.0%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「苦情を受けたことはない」が8.5ポイント、「サービスを希望通り受けられない」が7.3ポイント高く、「契約内容や利用できるサービスが考えていたものと違う」が5.4ポイント低くなっています。



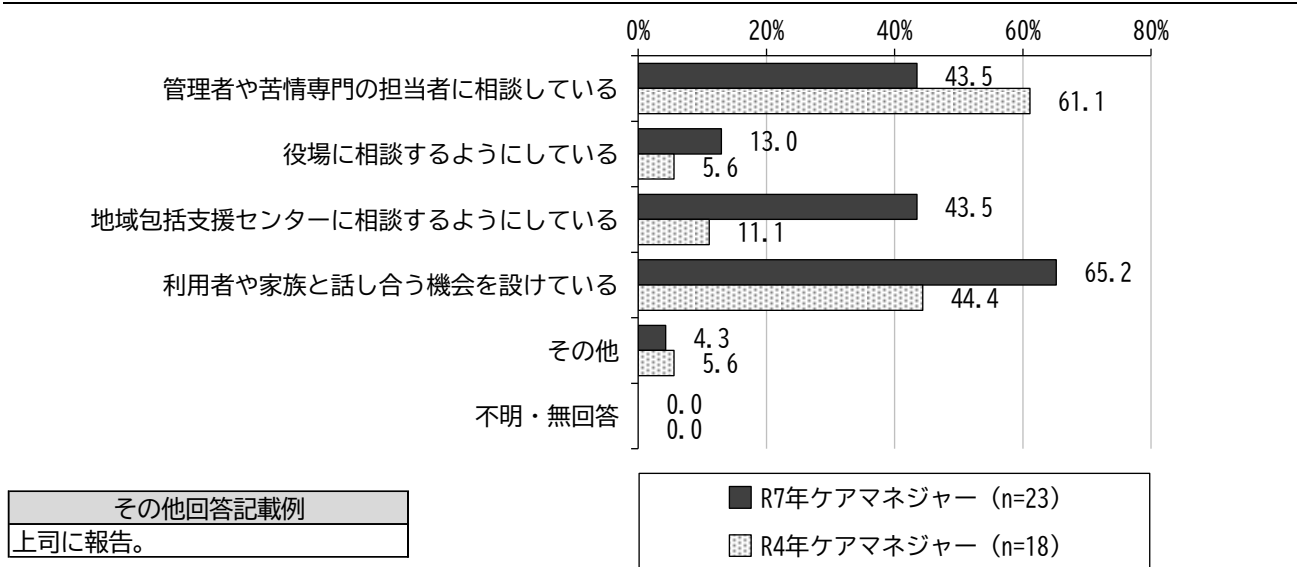
その他回答記載例
介護者の意向をくみ取っていない。ケアマネジャーの質が悪い。
経験のあるケアマネジャーの希望。
サービス事業所に対して。
町のタクシー助成 非。



【問 18 で「契約内容や説明がわかりにくい」～「その他」のいずれかに回答した方のみ】

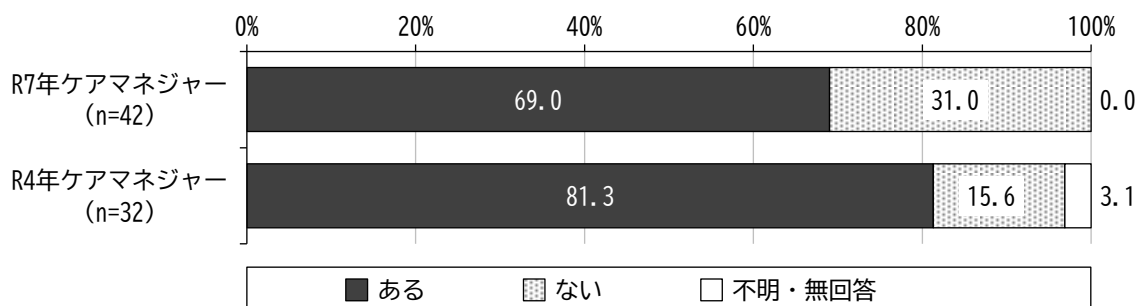
問 18-1 あなたはどのような対応をとっていますか。(複数回答)

「利用者や家族と話し合う機会を設けている」が 65.2%と最も高く、次いで「管理者や苦情専門の担当者に相談している」「地域包括支援センターに相談するようにしている」が 43.5%となっています。なお、令和 4 年度調査と比較すると、「地域包括支援センターに相談するようにしている」が 32.4 ポイント、「利用者や家族と話し合う機会を設けている」が 20.8 ポイント高く、「管理者や苦情専門の担当者に相談している」が 17.6 ポイント低くなっています。



問 19 介護者から、被介護者の相談以外に、介護者自身のことについて相談を受けたことがありますか。(単数回答)

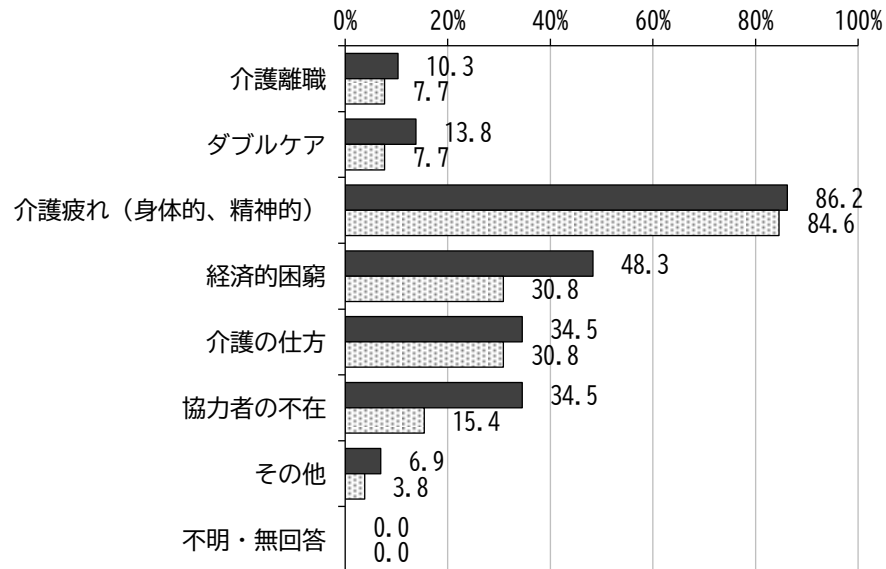
「ある」が 69.0%、「ない」が 31.0%となっています。なお、令和 4 年度調査と比較すると、「ない」が 15.4 ポイント高く、「ある」が 12.3 ポイント低くなっています。



【問 19 で「ある」と回答した方のみ】

問 19-1 どのような相談でしたか。(複数回答)

「介護疲れ(身体的、精神的)」が 86.2%と最も高く、次いで「経済的困窮」が 48.3%となっています。なお、令和 4 年度調査と比較すると、「協力者の不在」が 19.1 ポイント、「経済的困窮」が 17.5 ポイント高くなっています。



その他回答記載例
ご近所トラブル。

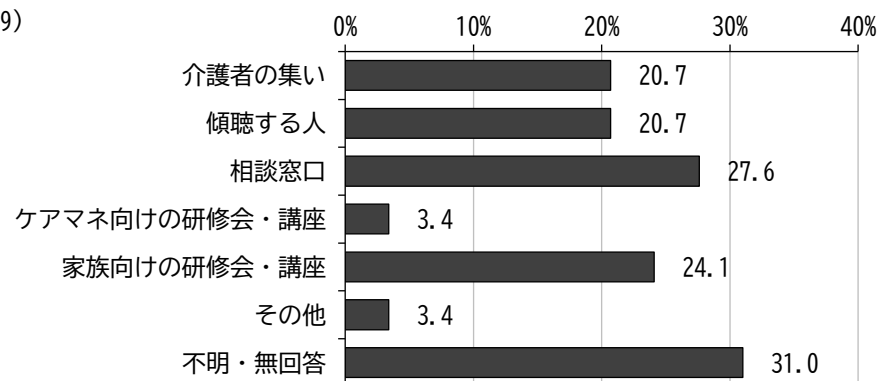
■ R7年ケアマネジャー (n=29)
▨ R4年ケアマネジャー (n=26)

【問 19 で「ある」と回答した方のみ】

問 19-2 どのような支援があると良いですか。(複数回答)

「相談窓口」が 27.6%と最も高く、次いで「家族向けの研修会・講座」が 24.1%となっています。

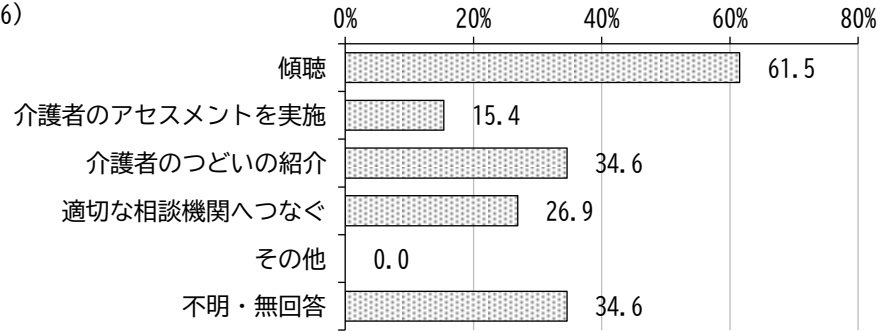
R7年ケアマネジャー (n=29)



その他回答記載例
自治会の協力。孤立を防ぐ集まりの増設。

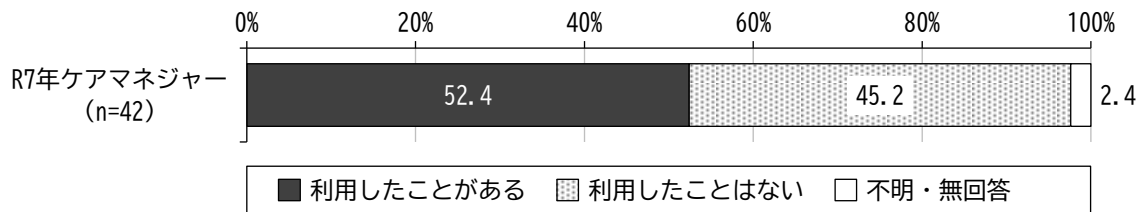
□参考値：設問 どのように対応していますか。(複数回答)

R4年ケアマネジャー (n=26)

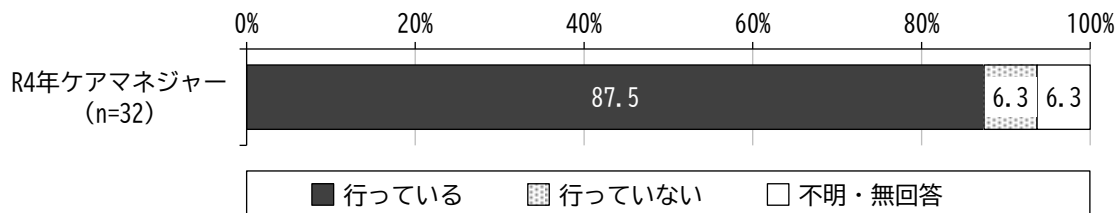


問 20 電子@連絡帳レガッタネットとうごうを利用し、主治医等と介護サービス利用者の状況について情報共有を行ったことがありますか。(単数回答)

「利用したことがある」が52.4%、「利用したことはない」が45.2%となっています。



□参考値：設問 利用者の病状や健康状態について主治医と連携し、情報共有を行っていますか。(単数回答)



【問 20 で「利用したことはない」と回答した方のみ】

問 20-1 その理由は何ですか。(記述回答)

利用したことはない理由
●●とレガッタを行う機会がなかったため。
あまり役に立つとは思えない。使いにくい。
環境が整っていない。
管理者のみが対応しているため。
説明を聞いていない。
使い方が分からない。
使いにくい。TEL、メールのほうが早く済む。文章によっては誤解が生じる。
電話、手紙、FAX 等でやりとりするため。
どう使っているのか分からない。
本人からの同意が得られない。
利用機会が無かった。
利用しにくい。よく分からない。
利用者の担当医が活用していなかったため。

問 21 あなたは他職種との連携がどの程度とれていますか。

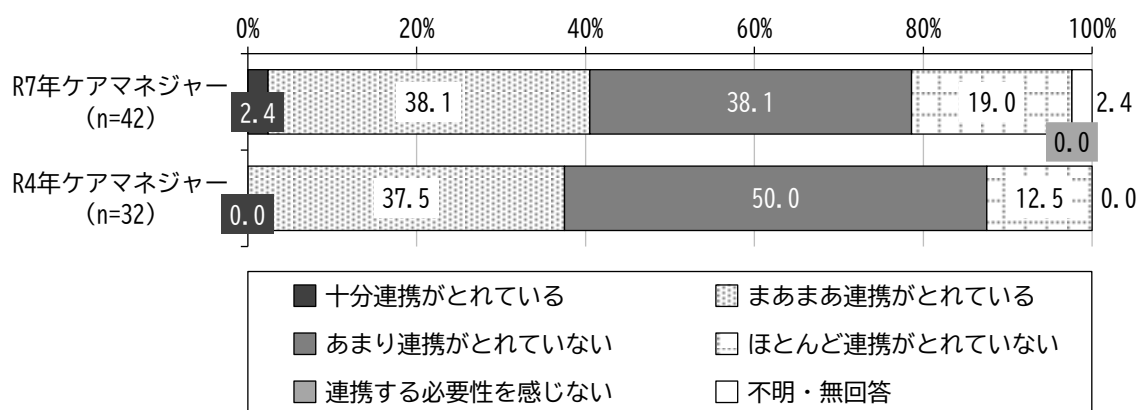
本設問の選択肢にかかる表現は以下のように区分しています。

『連携がとれている』 … 「十分連携がとれている」と「まあまあ連携がとれている」の合算

『連携がとれていない』 … 「あまり連携がとれていない」と「ほとんど連携がとれていない」の合算

①医師（単数回答）

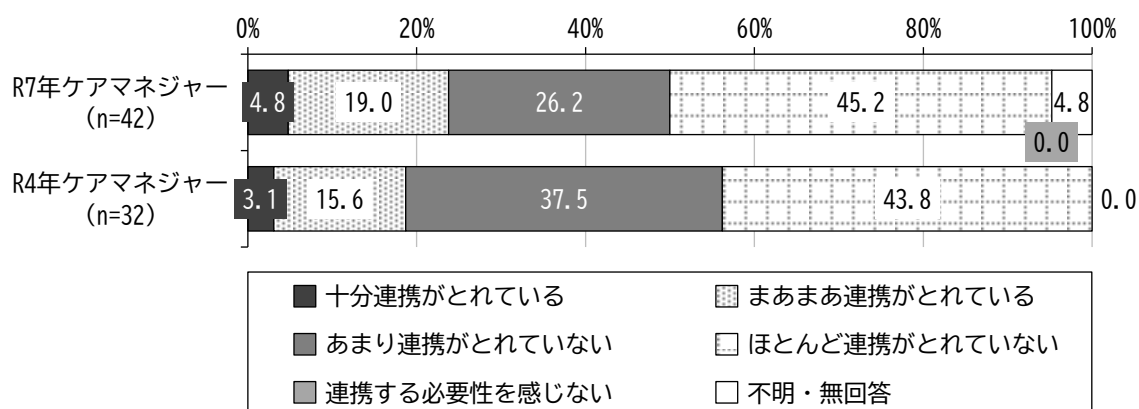
『連携がとれている』が40.5%、『連携がとれていない』が57.1%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、『連携がとれていない』が5.4ポイント低くなっています。



※選択肢：「連携する必要性を感じない」はR7年度調査のみとなっています。（以下、②から⑧、⑩も同様）

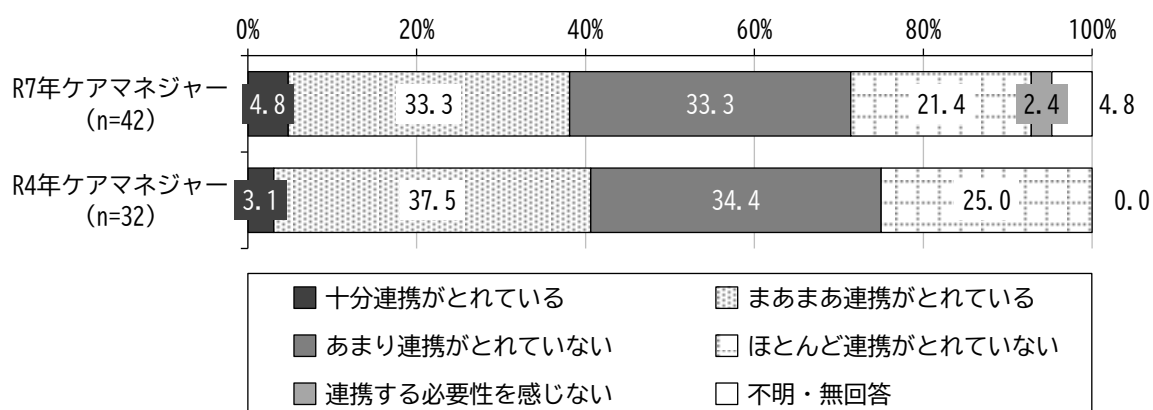
②歯科医師（単数回答）

『連携がとれている』が23.8%、『連携がとれていない』が71.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、『連携がとれている』が5.1ポイント高く、『連携がとれていない』が9.9ポイント低くなっています。



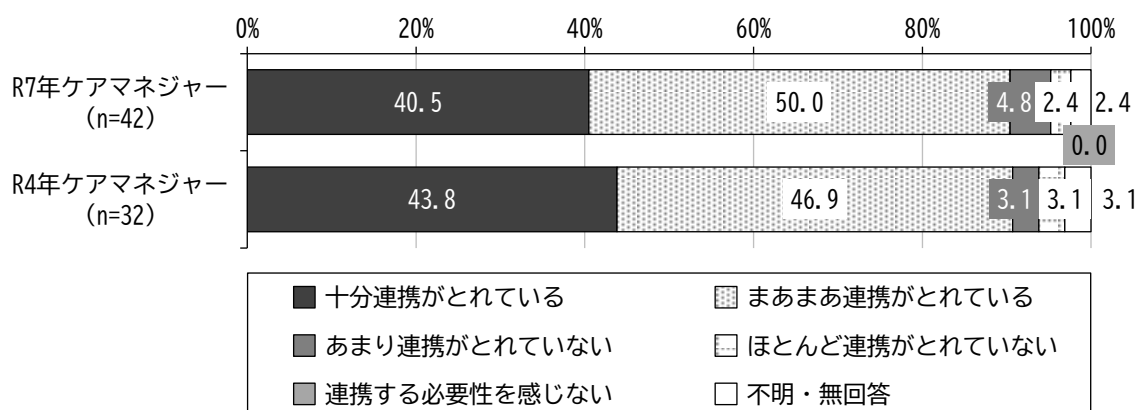
③薬剤師（単数回答）

『連携がとれている』が38.1%、『連携がとれていない』が54.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



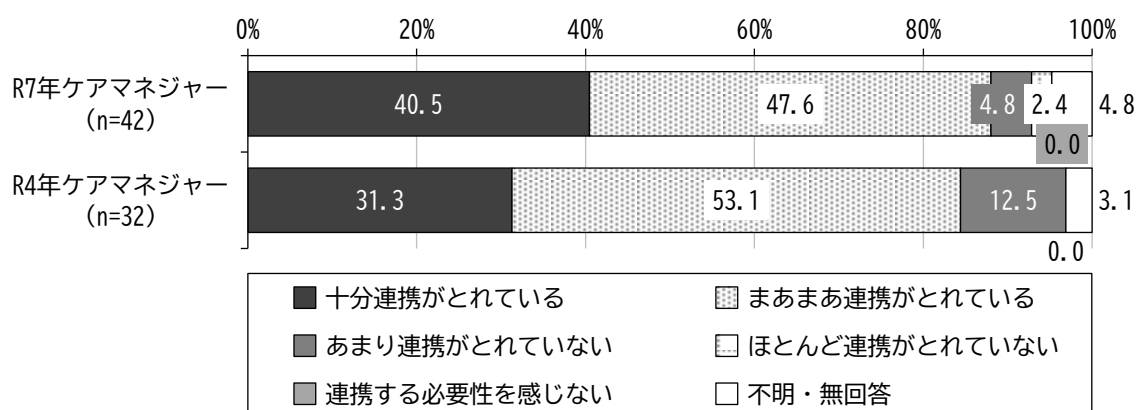
④訪問看護師（単数回答）

『連携がとれている』が90.5%、『連携がとれていない』が7.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



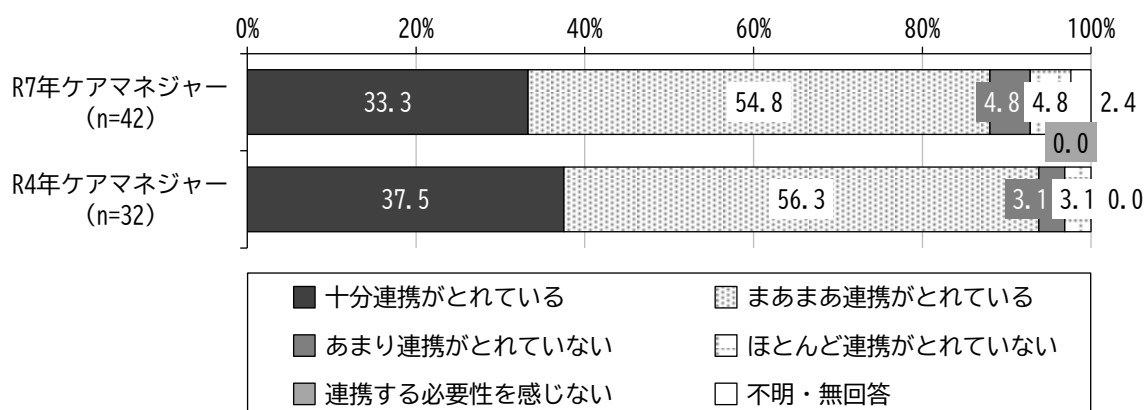
⑤リハビリ職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）（単数回答）

『連携がとれている』が88.1%、『連携がとれていない』が7.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、『連携がとれていない』が5.3ポイント低くなっています。



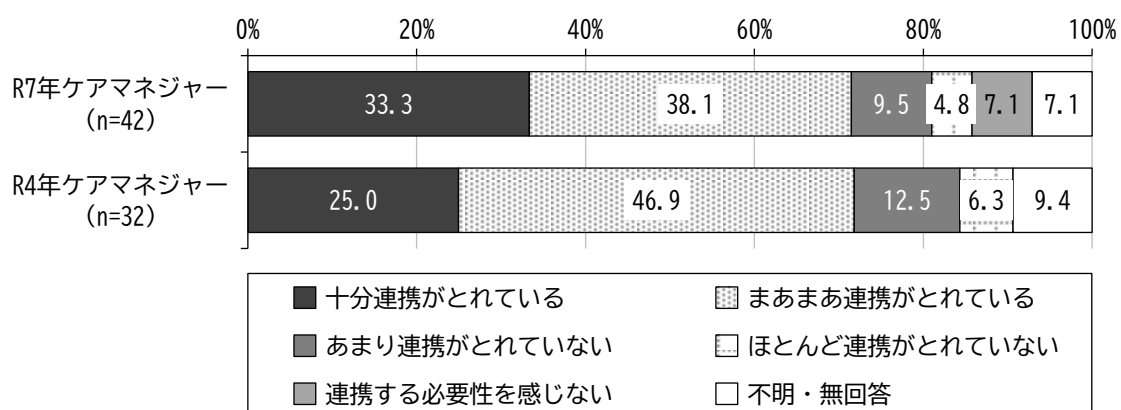
⑥介護職員（単数回答）

『連携がとれている』が88.1%、『連携がとれていない』が9.6%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、『連携がとれている』が5.7ポイント低くなっています。



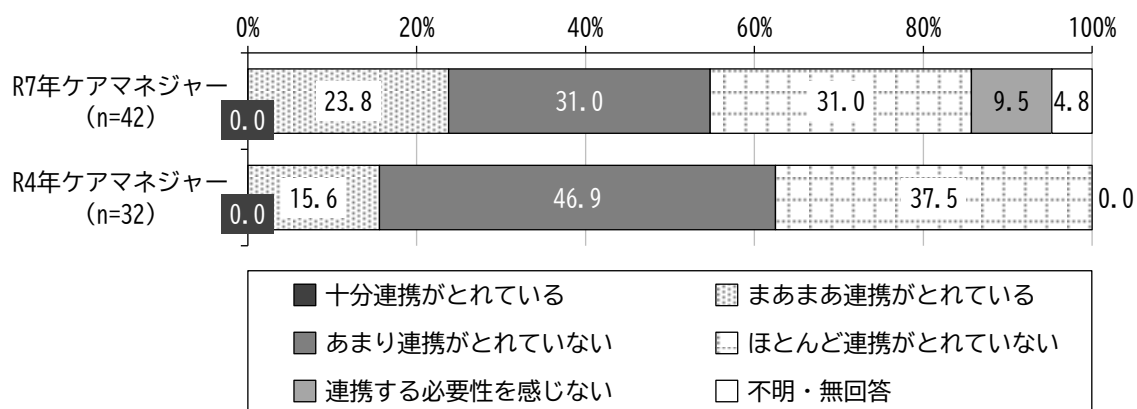
⑦地域包括支援センター（単数回答）

『連携がとれている』が71.4%、『連携がとれていない』が14.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



⑧豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし（単数回答）

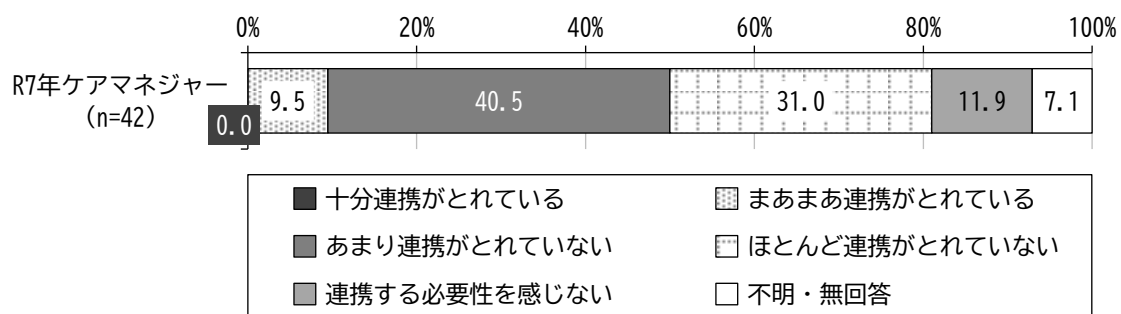
『連携がとれている』が23.8%、『連携がとれていない』が62.0%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、『連携がとれている』が8.2ポイント高く、『連携がとれていない』が22.4ポイント低くなっています。



※R4年度調査では「⑧医療介護サポートセンター（かけはし）」となっています。

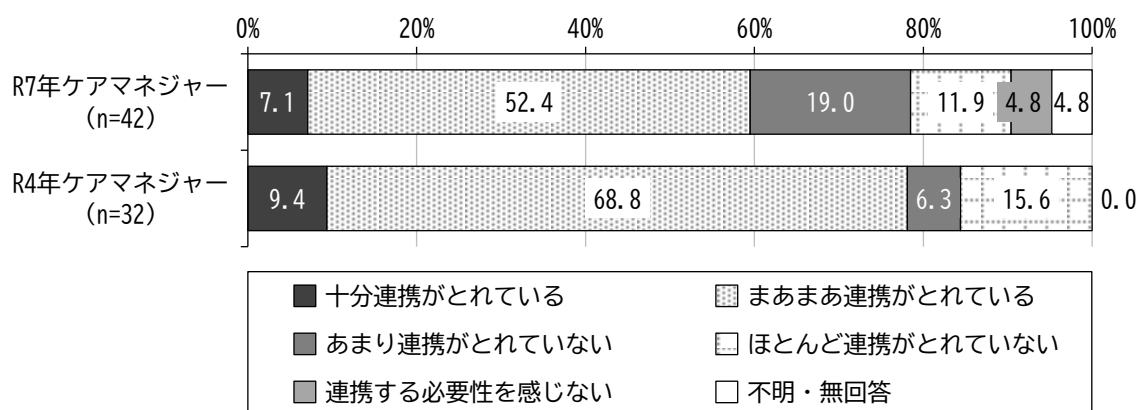
⑨在宅医療・介護連携支援センターやまびこ東郷（単数回答）

『連携がとれている』が9.5%、『連携がとれていない』が71.5%となっています。



⑩医療相談員（医療ソーシャルワーカー）（単数回答）

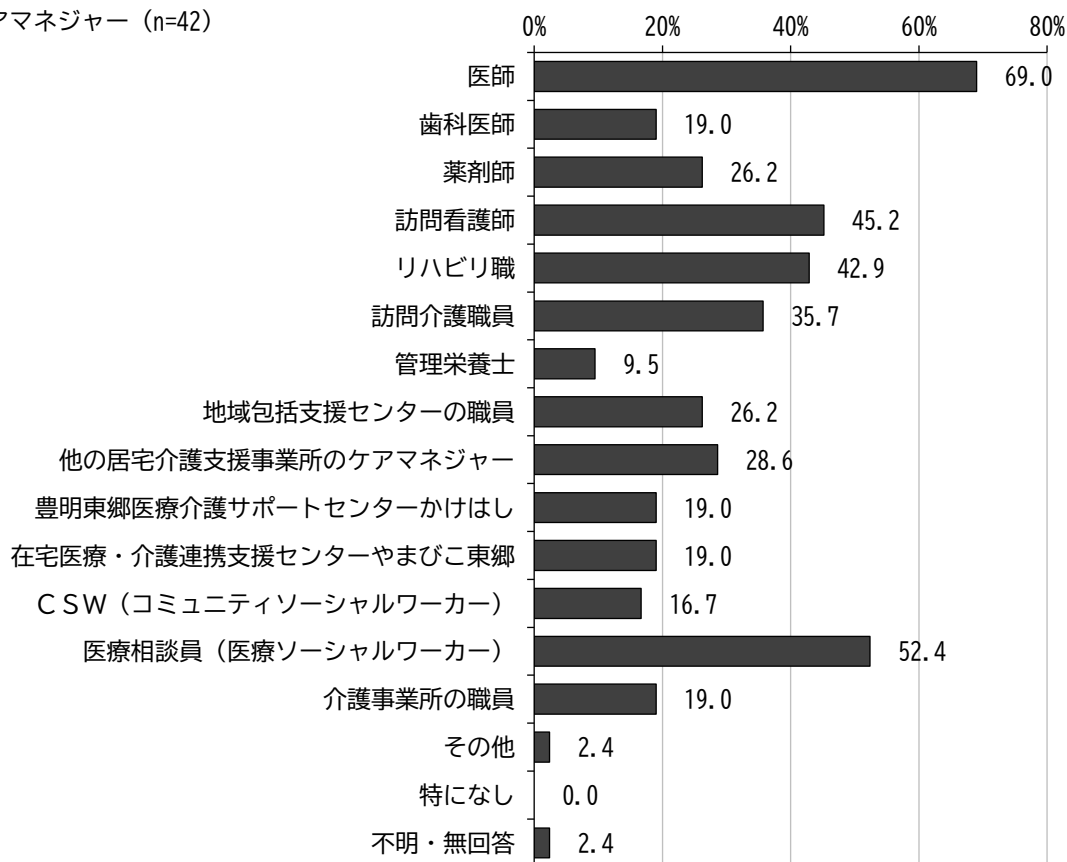
『連携がとれている』が59.5%、『連携がとれていない』が30.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、『連携がとれていない』が9.0ポイント高く、『連携がとれている』が18.7ポイント低くなっています。



問 22 あなたが今後、より連携を図ることが重要だと思う職種等は何ですか。(複数回答)

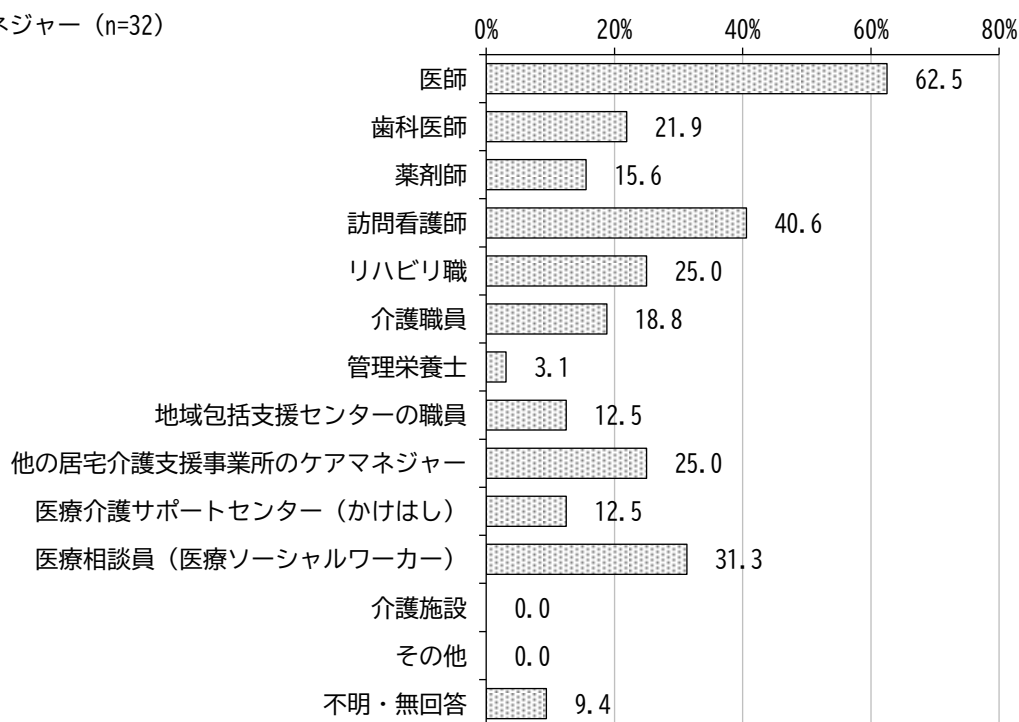
「医師」が69.0%と最も高く、次いで「医療相談員（医療ソーシャルワーカー）」が52.4%となっています。

R7年ケアマネジャー (n=42)



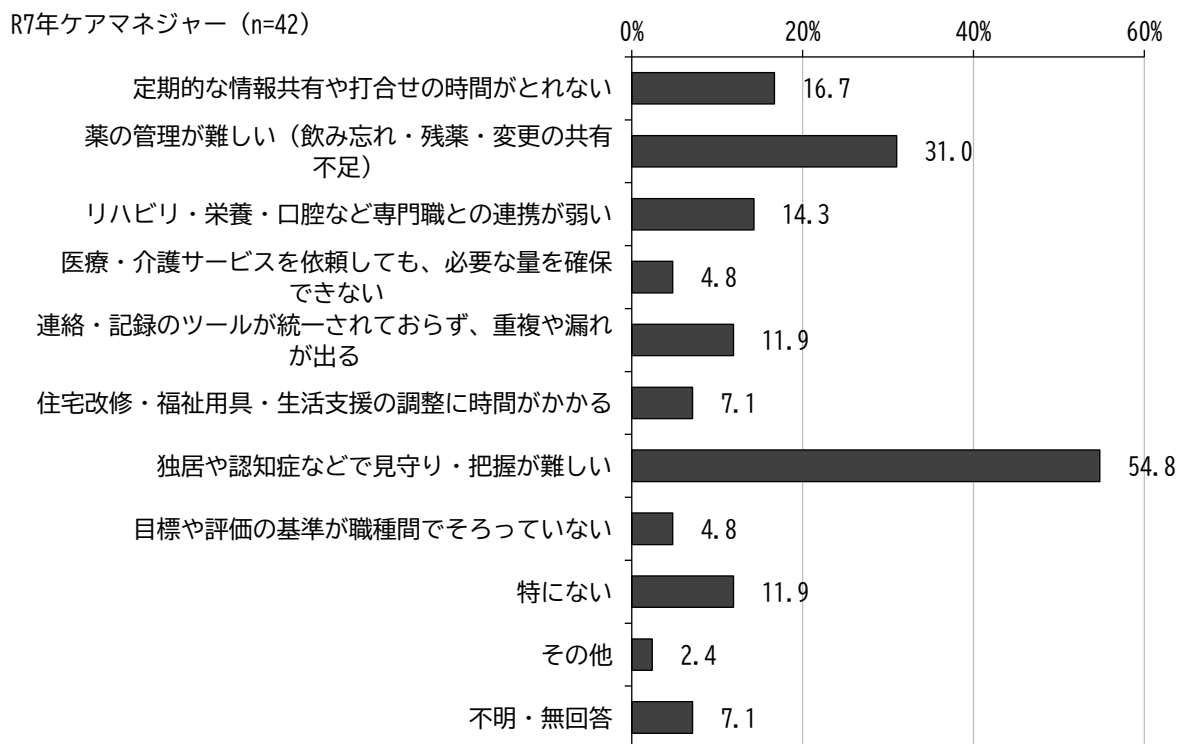
□参考値

R4年ケアマネジャー (n=32)



問 23 在宅療養を続けるための連携で、現在困っていることはどれですか。(複数回答)

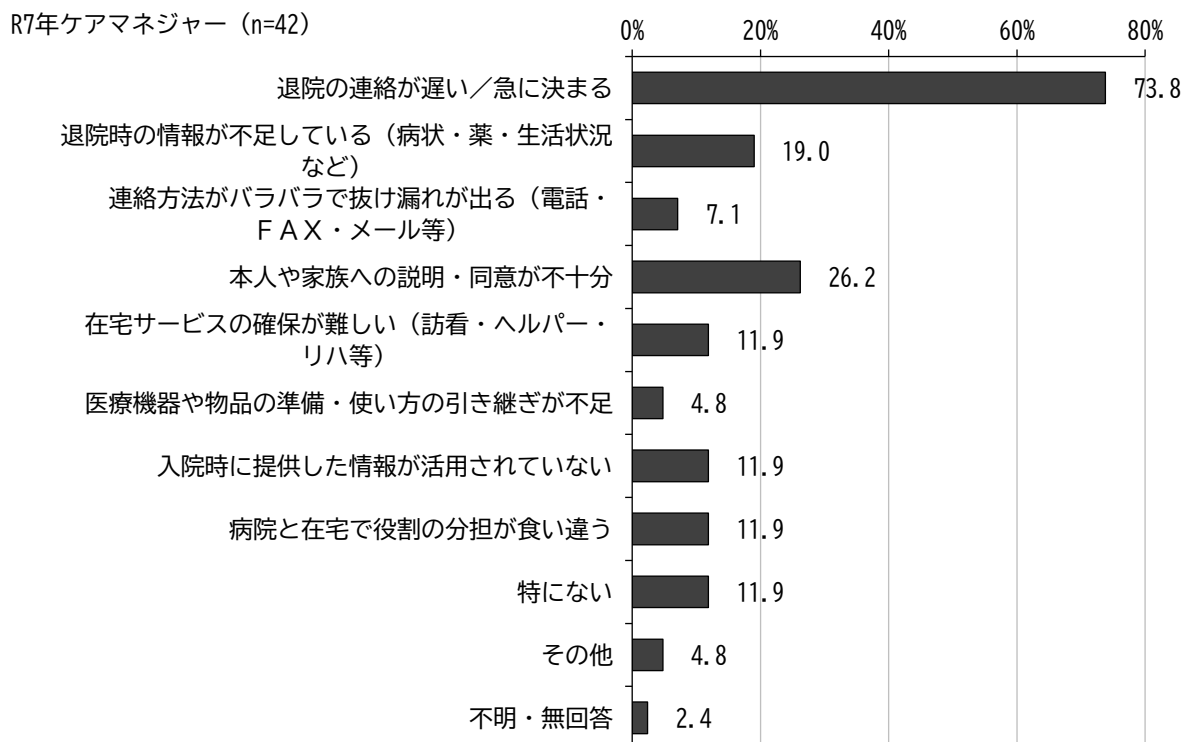
「独居や認知症などで見守り・把握が難しい」が54.8%と最も高く、次いで「薬の管理が難しい(飲み忘れ・残薬・変更の共有不足)」が31.0%となっています。



その他回答記載例
 家族がサービスありきで、本人の意思が後回しになる事。

問 24 入退院時の連携で、現在困っていることはどれですか。(複数回答)

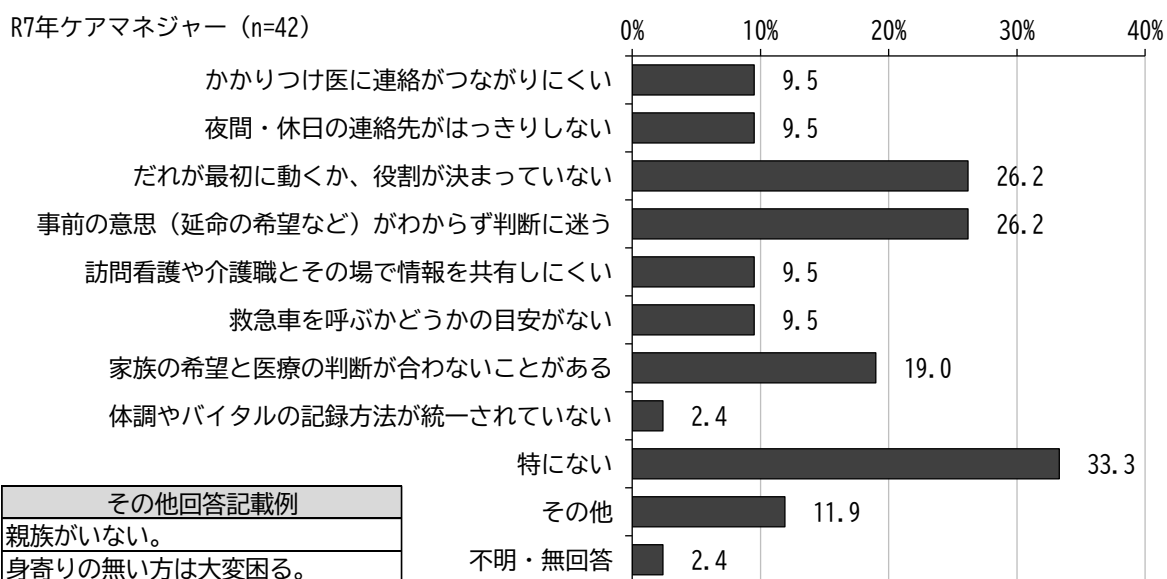
「退院の連絡が遅い／急に決まる」が73.8%と最も高く、次いで「本人や家族への説明・同意が不十分」が26.2%となっています。



その他回答記載例
介護サービス利用意向がないのに、「認定を受けるように」と伝えている場合が散見される。
個人情報という事で本人の状態を教えてもらえない（大●病院）。

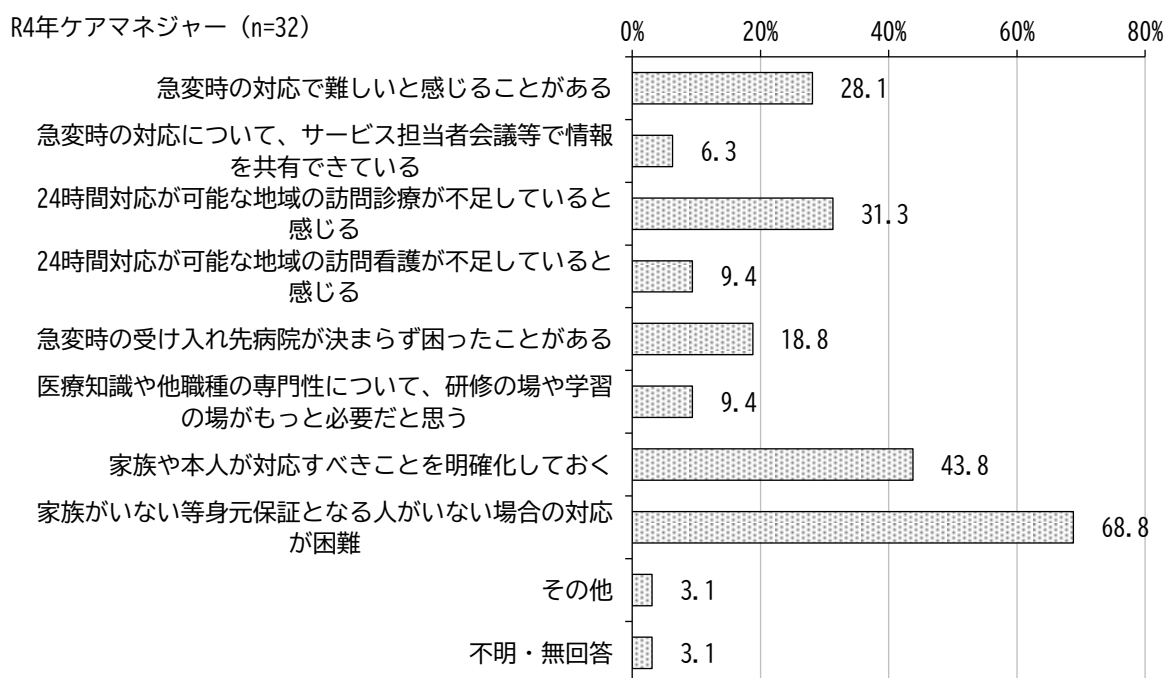
問 25 急変時の連携で、現在困っていることはどれですか。(複数回答)

「特にない」が33.3%と最も高く、次いで「だれが最初に動くか、役割が決まっていない」「事前の意思（延命の希望など）がわからず判断に迷う」が26.2%となっています。



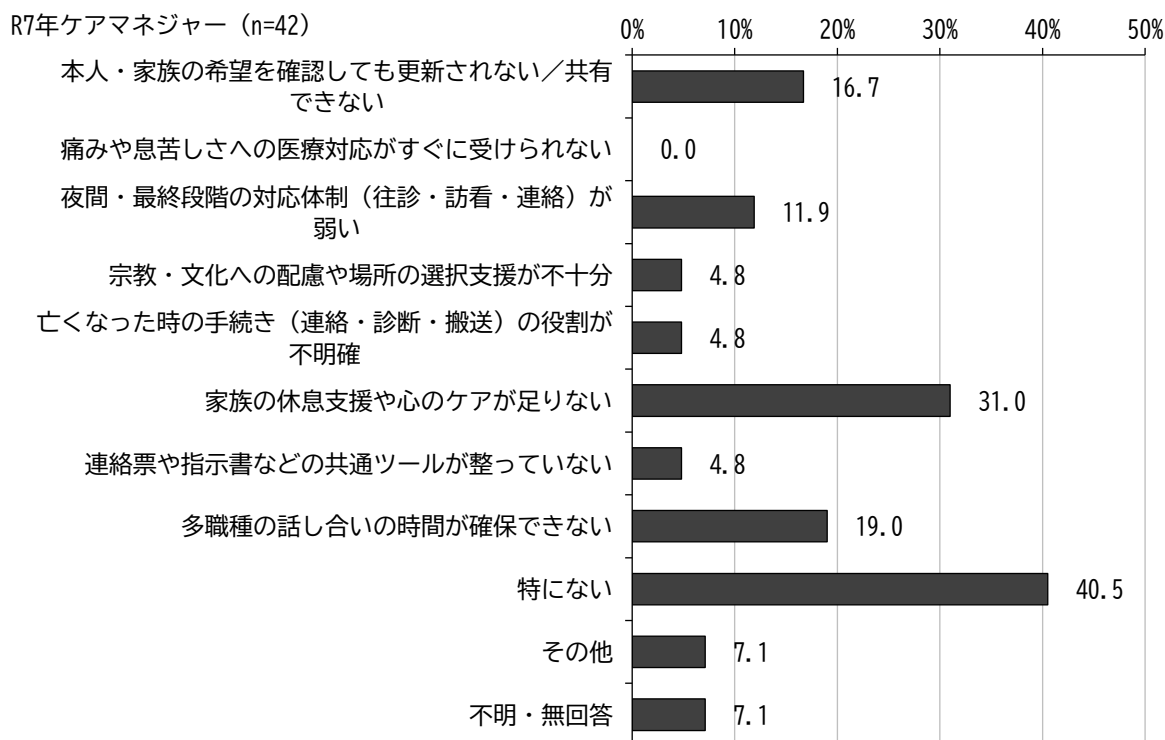
その他回答記載例
親族がいない。
身寄りの無い方は大変困る。

□参考値：設問 利用者の容態が急変した場合の対応について、あなたが感じていることはどれですか。(複数回答)



問 26 看取りの連携で、現在困っていることはどれですか。(複数回答)

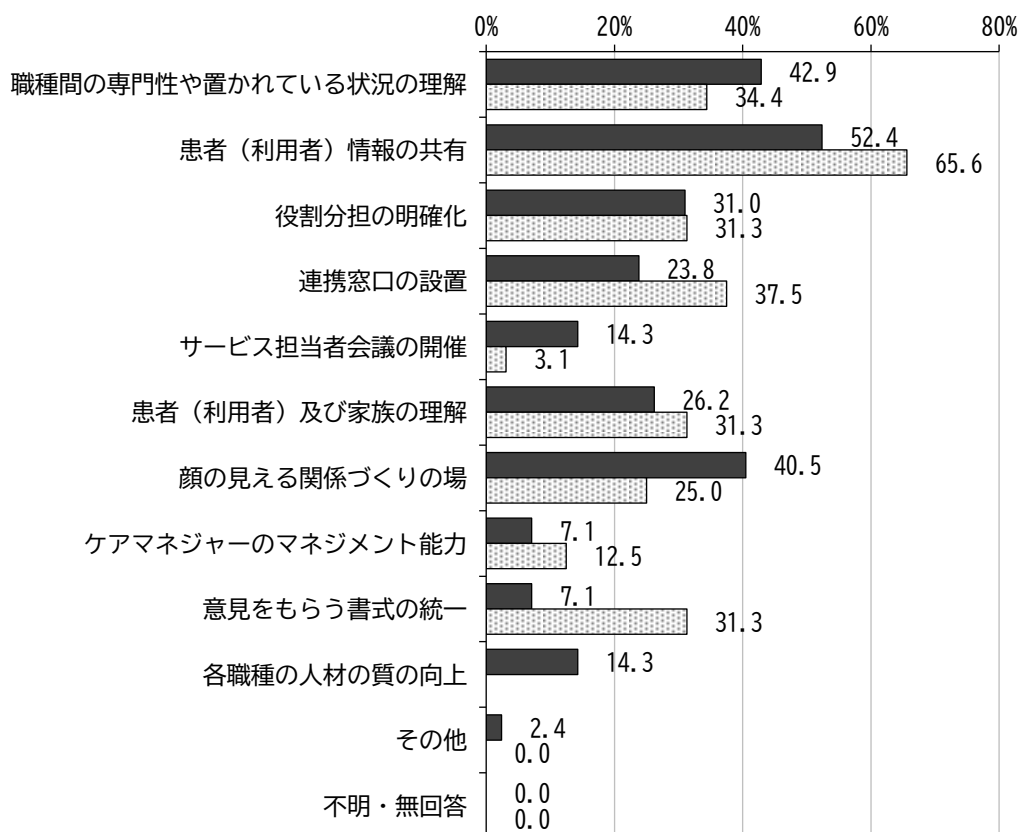
「特にない」が40.5%と最も高く、次いで「家族の休息支援や心のケアが足りない」が31.0%となっています。



その他回答記載例
一人暮らし（身寄りの無い人）の対応が大変。
看取りの経験無し。

問 27 医療機関や医療従事者等他職種との連携のためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで複数回答)

「患者（利用者）情報の共有」が52.4%と最も高く、次いで「職種間の専門性や置かれている状況の理解」が42.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「顔の見える関係づくりの場」が15.5ポイント、「サービス担当者会議の開催」が11.2ポイント高く、「意見をもらう書式の統一」が24.2ポイント、「連携窓口の設置」が13.7ポイント低くなっています。



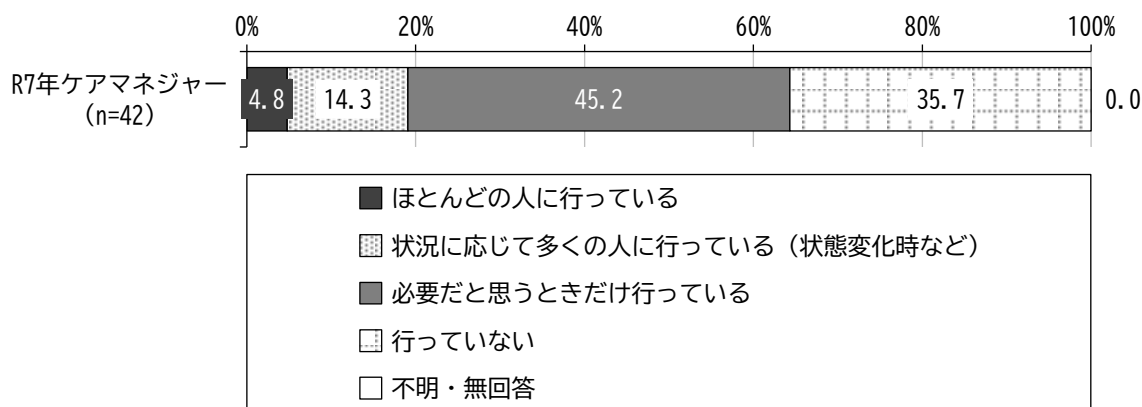
その他回答記載例
連絡ツールの統一。

■ R7年ケアマネジャー (n=42)
▨ R4年ケアマネジャー (n=32)

※選択肢：「各職種の人材の質の向上」はR7年度調査のみとなっています。
※R7年度調査の選択肢「顔の見える関係づくりの場」「ケアマネジャーのマネジメント能力」は、R4年度調査では「医師との適切な関係づくり」「ケアマネジャーの積極的な行動」となっています。

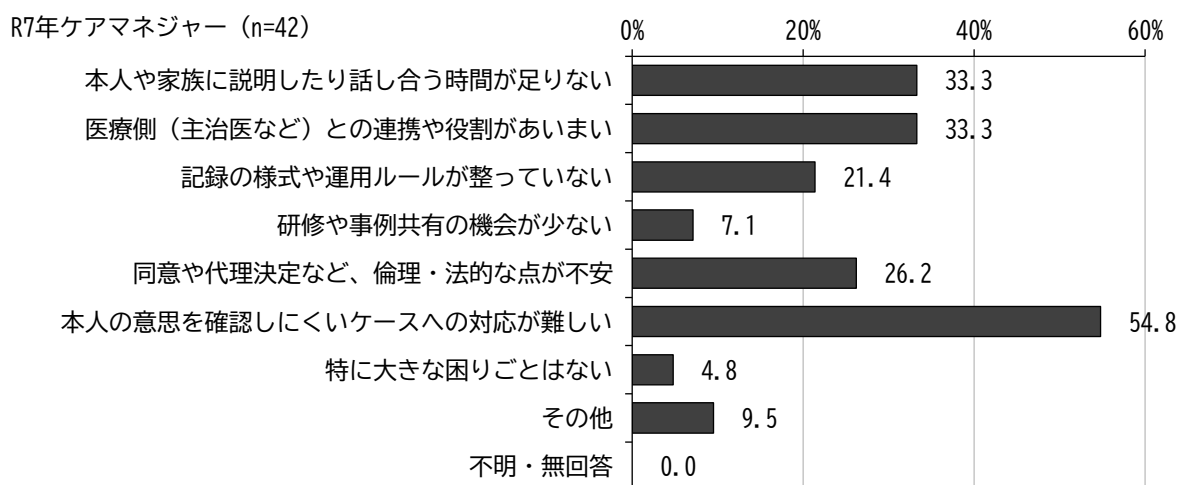
問28 担当している利用者に対して、ACPの説明や希望の確認を計画的に行っていますか。(単数回答)

「必要だと思ふときだけ行っている」が45.2%と最も高く、次いで「行っていない」が35.7%となっています。



問29 ACPを進めるうえでの困りごとは何ですか。(複数回答)

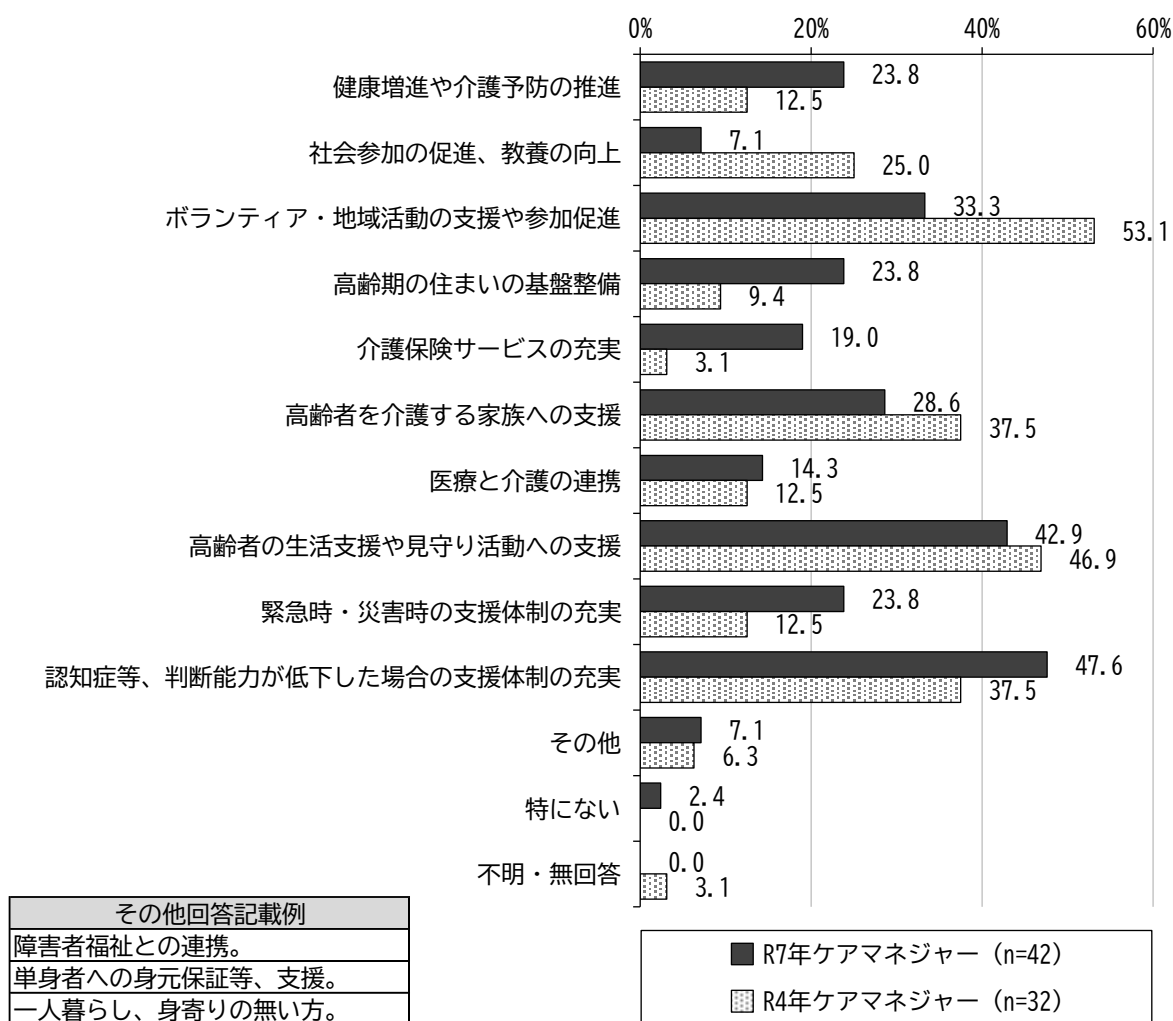
「本人の意思を確認しにくいケースへの対応が難しい」が54.8%と最も高く、次いで「本人や家族に説明したり話し合う時間が足りない」「医療側(主治医など)との連携や役割があいまい」が33.3%となっています。



その他回答記載例	
上手に説明できない。	
遺言?早く死ねということかと言われて、対応に苦慮した事がある。	

問 30 今後、高齢者の保健福祉や介護予防等に関する取組を進めていく上で、町はどのようなことに重点を置くべきだと思いますか。（3つまで複数回答）

「認知症等、判断能力が低下した場合の支援体制の充実」が47.6%と最も高く、次いで「高齢者の生活支援や見守り活動への支援」が42.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「介護保険サービスの充実」が15.9ポイント、「高齢期の住まいの基盤整備」が14.4ポイント高く、「ボランティア・地域活動の支援や参加促進」が19.8ポイント、「社会参加の促進、教養の向上」が17.9ポイント低くなっています。



その他回答記載例
障害者福祉との連携。
単身者への身元保証等、支援。
一人暮らし、身寄りの無い方。

問 31 あなたが、認知症の人本人と関わる中で見聞きしたご本人の生きがいややりたいこと、また困っていることなどご本人が発信されていることを教えてください。
(記述回答)

生きがいややりたいこと	困っていること	その他
遠方のお墓の墓じまいをしたい。	-	-
今の夫との生活が続けられたらよい。	特に無い(夫が全て行ってくれている)。	夫もボケていても、本人に変わらない。2人で暮らせるからよいと、言っている。
自分のペースで一人暮らしを続けていきたい。	頼れる親族がいない。	-
-	外出したいのに車の運転ができない。	-
俳句を作り続ける、作品を発表する。	経済面の不安が大きい(子供達に金銭支援を頼めない)。	-
自宅で住み続けたい。	外出、買い物難しい。	-
役割を持つ事。人との繋がり。	周りの理解。認知症に特化した病院が分からない、無い。	-
海釣りに行きたい。旧友に会いたい。現役時期を振り返る意向が多いと感じています。	家族を含む支援者が不在、もしくは対応が足りない。該当支援が無い(見つけられない)。	-
いつまでも住み慣れた自宅で過ごしたい。施設には入りたくない。	一人暮らし不安。	家族に迷惑はかけたくない。
地域の行事に参加した事が嬉しかった(一人暮らしの方対象の食事会)。	1人で外出はできない。誰かが声をかけてくれると嬉しい。	認知機能低下した人は自身の現状の理解がなく、変わりなく過ごしたいと言われるため、サービス導入が難しい(家族が困るケースが多い)。
-	運転免許の返納、更新について。	-
特に無いが、今まで通りやっていきたいと、よく聞きます(実際はできていない)。	なんだかよく分からない。周りが勝手に決めている。とよく聞きます。	-
旅行	-	-
-	困っている事は「ない」と言うが、周りから見れば生活に支障がある。	-
地域交流の場での、役割を続けたい。	交流の場までの足が無い(1人ではバス、タクシーは利用できない)。	-
残存能力の維持、または引き出す。	徘徊、1日何回もの訴え、要望への対応。	-
現時点の症例が1名のため、認知症の人がいません。	-	-
今まで通りの家族の一員としても役割を続ける(家族の役に立ちたい)。	ゴミ出し。分別やいつ出すのか分からなくなっている。薬を飲んだのか飲んでいないのか、大切なのは理解しているが、分からなくなっている。	-
施設になんか入ったら、直ぐに死んじゃう。自宅で庭に手入れをして、過ごしたい。	何でも直ぐに忘れてしまう。	-
今まで行っていた。参加していた所に迷惑じゃなければ、行きたい。	当日や直前に誘ってくれたり、声をかけてくれると続けられる。	-
自宅で自分の好きなように生きたい。	忘れていく事。できなくなる事が怖い。困っている事は無い(本人にとって)。	-
畑仕事を続ける。住み慣れた所で暮らす。家事を続ける。	物事をすぐ忘れてしまう。配偶者や家族に負担をかけてしまう事。	-
趣味や好きな事(今までやってきた事)の継続。人の役に立てる事。	一緒に手伝ってやってくれる人がいない。	住み慣れた町(家)で生活したい。

問 32 あなたが地域包括支援センターに期待することは何ですか。(記述回答)

地域包括支援センターに期待すること
一般高齢者対象の事業。認知症だけ特化する必要は無いと感じる。
介護予防支援業務が多く、本来の包括の業務ができていないのが困っている。
気軽に相談できる場であってほしい。
気軽に立ち寄れる場所。相談できる場所。
ケアマネのなり手不足が深刻。町独自のケアマネ処遇改善、手当の支給など。
現状しっかり対応していただいているので、これ以上の希望はないです。
困難ケースの支援をさせてほしい。せめて一緒に考えようという姿勢を見せてほしい。
困難事例については、一緒に考え一緒に動いてほしい。同行してほしい。
生活に支障が出始めている高齢者を見つける力（周辺住民からの情報提供を生かしていく）。
相談しやすい。いろいろな情報が得られる。
相談しやすい空気感。
相談のしやすさ。インフォーマルサービスの情報共有。
他制度を含めての活用できる、支援や資源情報の共有。
独居や老老介護の支援。同居家族がいるときの、生活支援。
認知症の人が生きがいを持って（人の役に立てる事）参加できるサロン等。

問 33 あなたが町に期待することは何ですか。(自由記述)

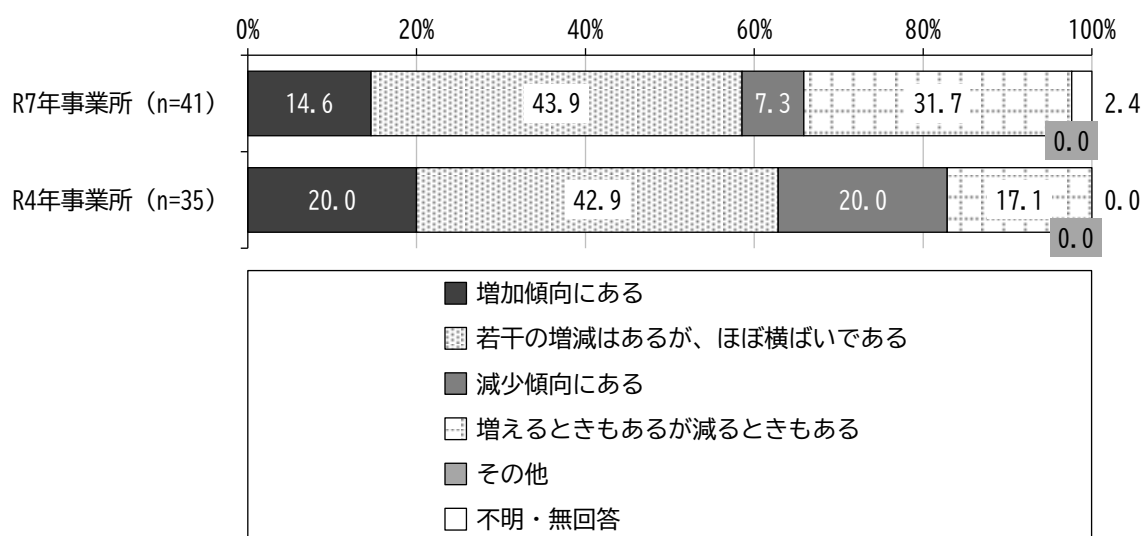
町に期待すること
医療福祉の充実。交通、買い物の利便性。
老い支援についての研修の機会を設ける。終末期、特に入院時に支援し合える住民の関係作りを推進する。
行政でしかできない事を考えてほしい。一時しのぎの行事の実施は必要ないと思う、継続支援が大事。利用者側に立った考え方、いつでも相談ができ、いつでもリラックスできる居場所作りの資金援助。ボランティアの育成。高齢者支援は若い時から、若者を交えて育てていく必要性。
ケアマネがついているから利用者は安心ではなく、相談に窓口まで行く時は、本当に困っている時なので、一緒に何かよい方法がないか考えてほしい。包括に相談に乗るように声をかけてもらえるのも、ありがたい。
高齢者のための制度が使いにくい（条件が厳しい）、足りない。子供の施策の方が多いような気がする。
今後一人暮らしの方や高齢世帯が、益々増加していくと思われるため、必要な社会資源（ゴミの回収等）検討してほしいです。
災害対応のフォロー、研修。
職員の介護保険に関する知識をつける。
単身の高齢者でも安心して生活できる体制作り。
地域に偏りなくサービスが提供できるように。
地域の資源の活用。
机上で決まる事について、実際の現場では難しい事もある。現場の状態を知ってもらいたい。
独居の身寄りの無い方の支援。
認知症の人が生きがいの持てるボランティアか、仕事をする場があると良いのでは。
窓口職員の丁寧な対応。高齢者の移動手段の確保。

V 事業者調査の結果

1. サービス提供の概要について

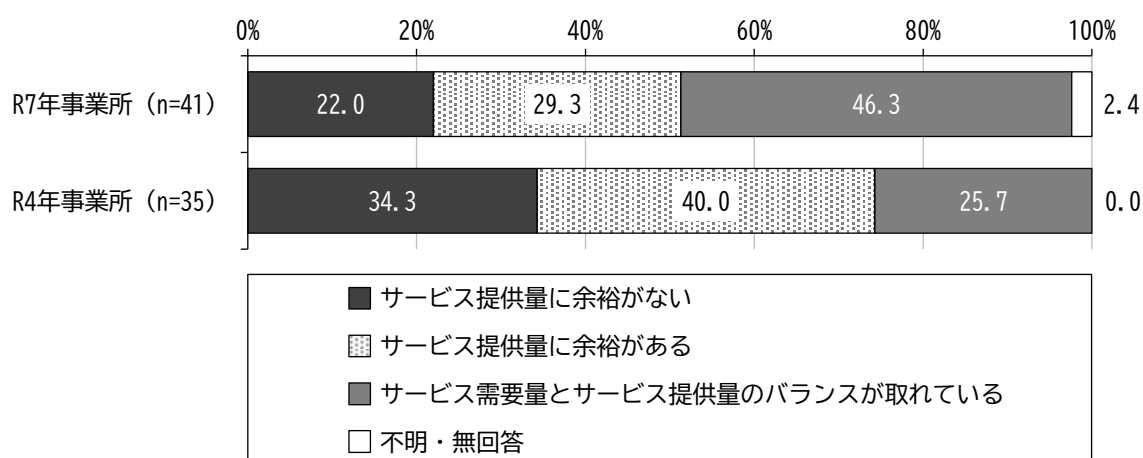
問1 貴事業所の利用者数の状況についてお答えください。(単数回答)

「若干の増減はあるが、ほぼ横ばいである」が43.9%と最も高く、次いで「増えるときもあるが減るときもある」が31.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「増えるときもあるが減るときもある」が14.6ポイント高くなっています。



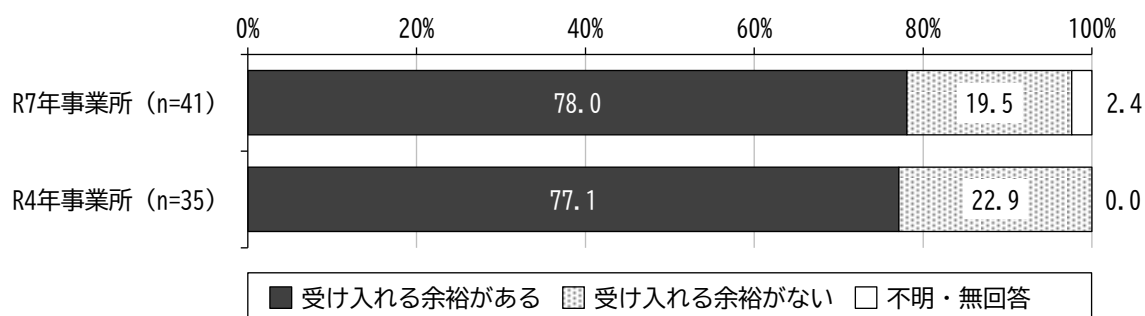
問2 現在、貴事業所のサービス提供は、どのような状況ですか。(単数回答)

「サービス需要量とサービス提供量のバランスが取れている」が46.3%と最も高く、次いで「サービス提供量に余裕がある」が29.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「サービス需要量とサービス提供量のバランスが取れている」が20.6ポイント高くなっています。



問3 サービスの待機者の状況はいかがですか。(単数回答)

「受け入れる余裕がある」が78.0%、「受け入れる余裕がない」が19.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。



【問3で「受け入れる余裕がない」と回答した事業所のみ】

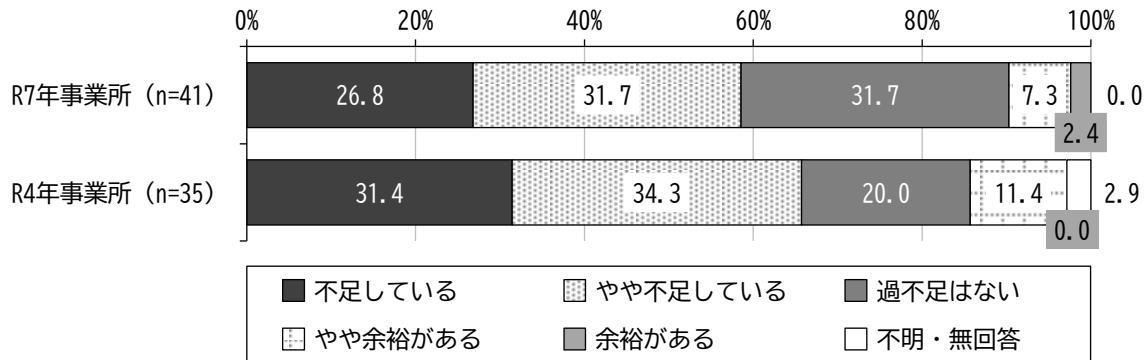
問3-1 その理由は何ですか。(記述回答)

主な回答
同一法人内の有料老人ホームへの訪問介護で余裕がないため。
人員不足の為です
緩和型も給付（現行）相当も、ほぼ定員いっぱいのため。
満床のため
人員不足で受入体制がなかなかとれない。食介が必要な方や、寝浴を利用の方などの入居依頼があっても人員不足で断らなくてはならないことがある。

2. 人材確保の状況について

問4 現在、職員数の過不足はありますか。(単数回答)

「やや不足している」「過不足はない」が31.7%と最も高く、次いで「不足している」が26.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「過不足はない」が11.7ポイント高くなっています。



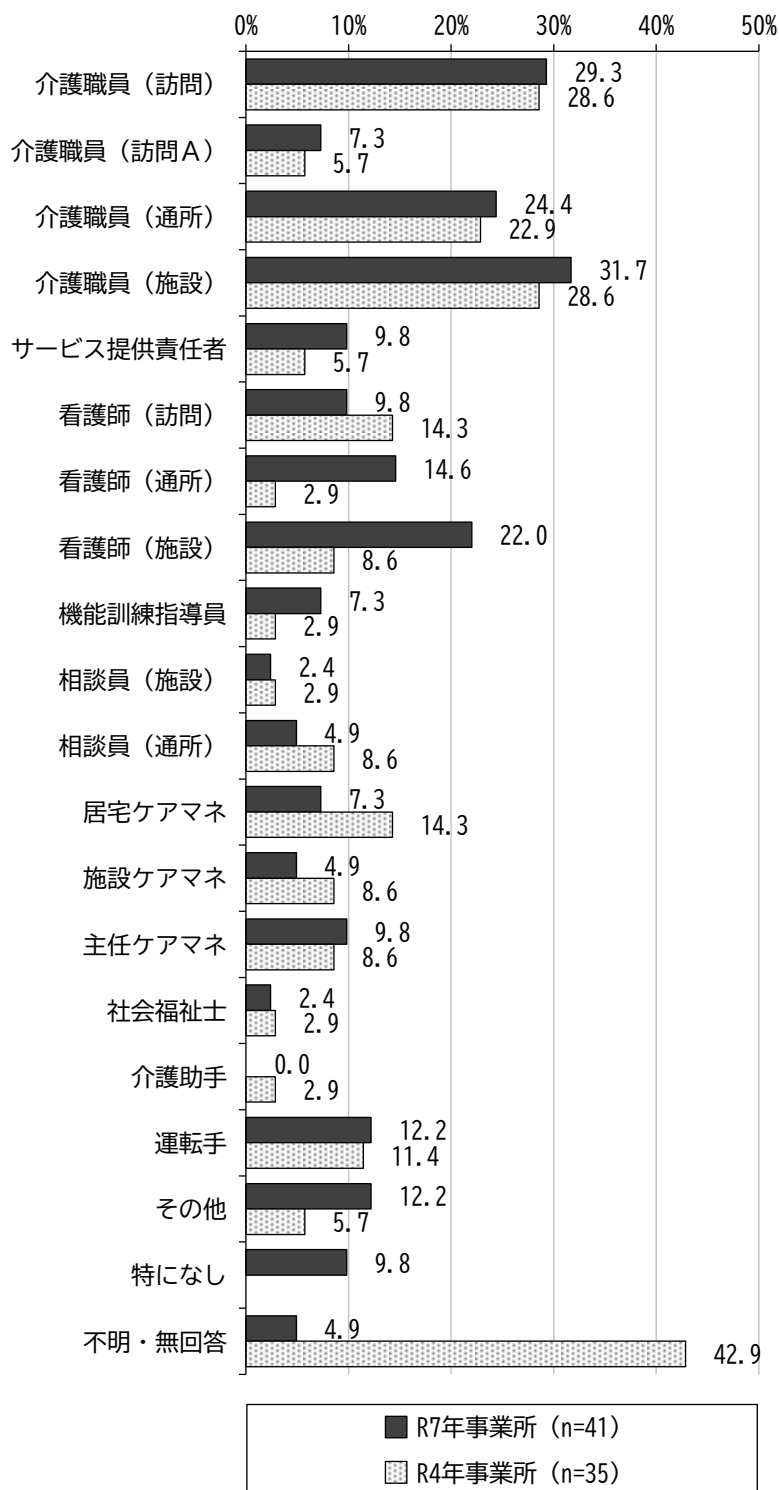
【問4で「不足している」または「やや不足している」と回答した事業所のみ】

問4-1 どのような点で不足していると感じますか。また、それに対してどのような取組をしていますか。(記述回答)

主な回答
完全に訪問介護サービスを使用し(契約通りの時間に訪室し時間通りにケアを行うこと)利用者様が安心安全に過ごせるようにケアを提供しようと思うと、当事業の場合、入居者様の人数(満床 25 名)に対して、日勤介護士で4~5名、夜勤介護士で2名の介護士が必要になる(施設専属の職員1名配置義務あり、別で訪問介護士1名)求人募集や人材紹介会社を利用している。介護士を補助するスタッフの採用(無資格)。職員の業務負担軽減ややりがいの充実、キャリア形成の確立を職員を対話している。
業務量に対し職員の不足を感じており、会社に求人を依頼している。
求人に対しての応募者が少ない。応募者がいても他施設と取り合いの現状。入職しても早期退職する方も一定数いて、定着率が低い。人材紹介会社や募集媒体の数を増やしたりして対応している状況。人材紹介料も高く臨時的でなければ毎回紹介からの入職は難しい。
各種委員会や必須研修、訓練などの業務が介護保険改正の度に増えており、生産性向上を検討していく必要があるのに、生産性向上委員会の設置も今後義務付けがされており、そのための工数が必要となる矛盾が生じている。
土日祝における人材不足。求人を積極的にかけてとともに、訪問プランの変更も検討する。
現在の入居者数に対して配置基準は満たしておりますが、入居数が増えると職員数が不足しています。自社 HP、求人広告、ハローワーク、紹介会社、職員からの紹介制度などを活用しています。
直接雇用での職員がなかなか採用出来ず、派遣を採用しないといけない。
不足な点:職員の平均年齢の高齢化。特に看護職員 取り組み:職員採用サイトの外部委託(年間 200 万弱)、採用成功時報酬型サイト(採用の都度、30 万から 100 万弱程度)
利用者の ADL 低下に伴い介護量が増大しているため
タブレットも導入して ICT 導入も取り組んでいるが、新たな人員確保ができず、既存の職員も高齢化し業務量をこなせない。

問5 特に人材確保に苦慮している職種はどれですか。(複数回答)

「介護職員（施設）」が31.7%と最も高く、次いで「介護職員（訪問）」が29.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「看護師（施設）」が13.4ポイント、「看護師（通所）」が11.7ポイント高くなっています。

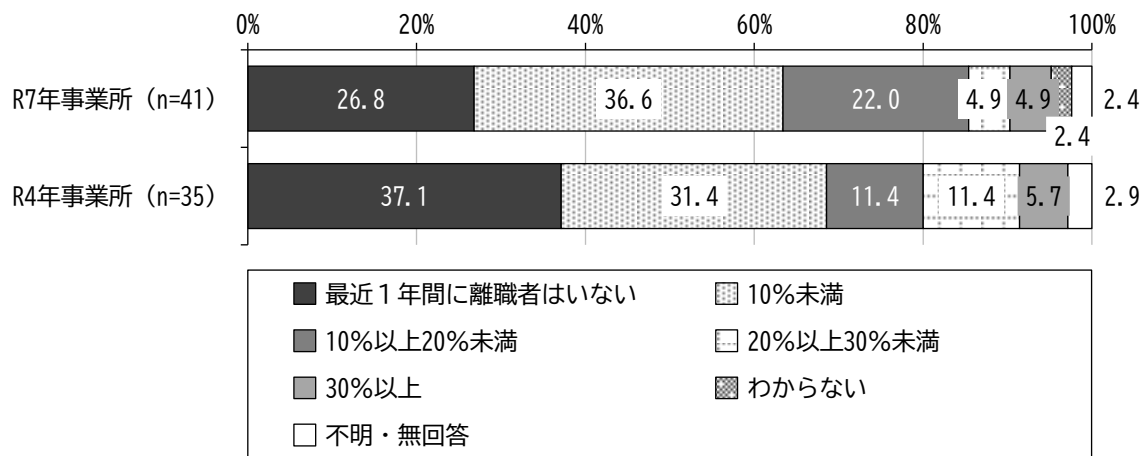


※選択肢：「特になし」はR7年度調査のみとなっています。

その他回答記載例
保健師
機能訓練指導は看護師以外の職種

問6 貴事業所のこの1年間の離職率（登録ヘルパーは除く）はどのくらいですか。
（単数回答）

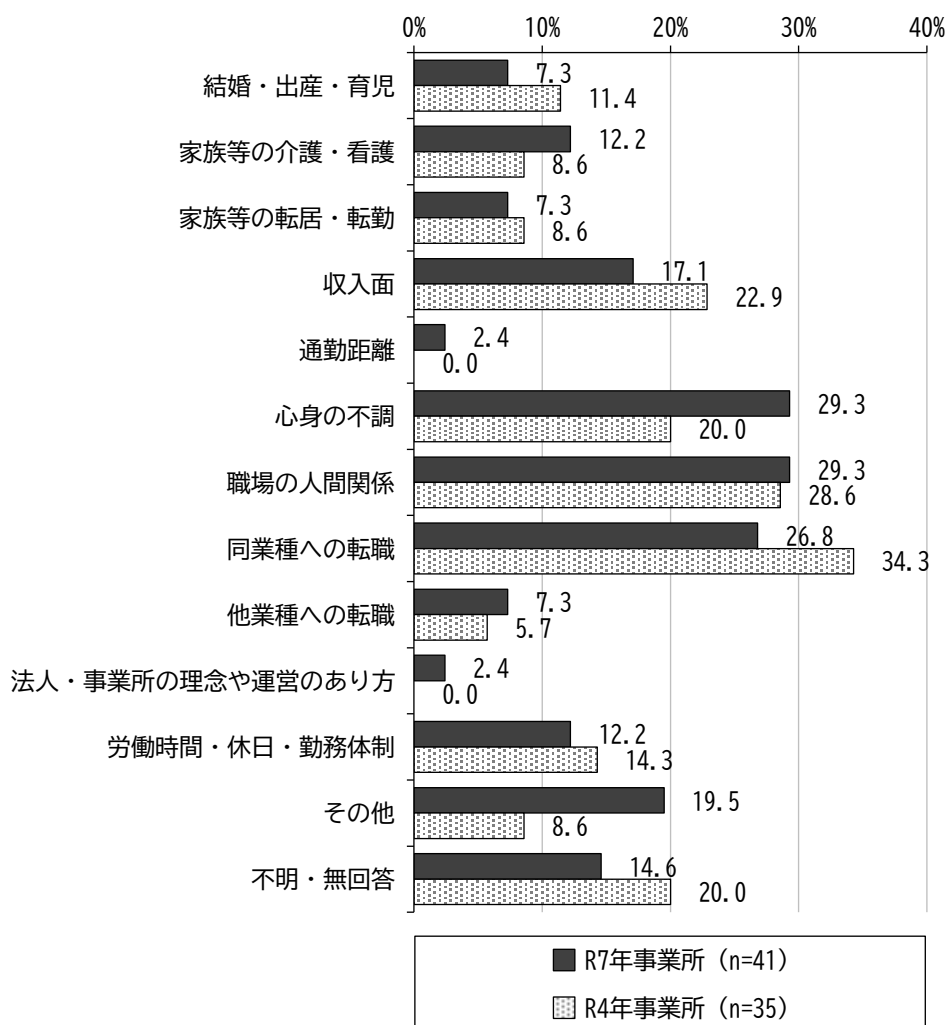
「10%未満」が36.6%と最も高く、次いで「最近1年間に離職者はいない」が26.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「10%以上20%未満」が10.6ポイント高く、「最近1年間に離職者はいない」が10.3ポイント低くなっています。



※選択肢：「わからない」はR7年度調査のみとなっています。

問7 職員の離職理由は、どのような内容が多いですか。(3つまで複数回答)

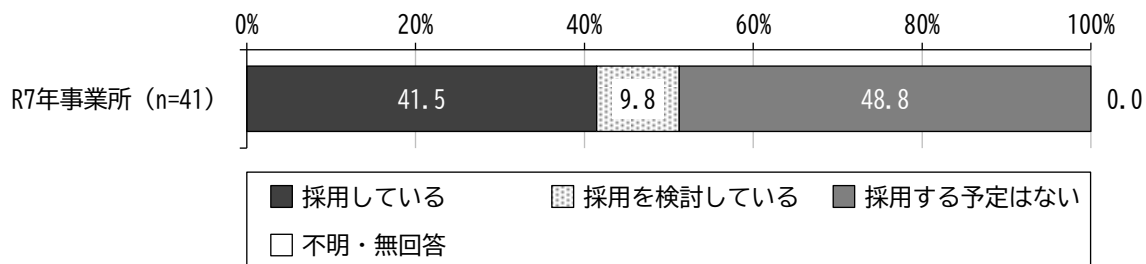
「心身の不調」「職場の人間関係」が29.3%と最も高くなっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「心身の不調」が9.3ポイント高く、「同業種への転職」が7.5ポイント低くなっています。



その他回答記載例
社長への不信感・対立
高齢になったため

問8 貴事業所において、事務手続きを担う人材を採用していますか。(単数回答)

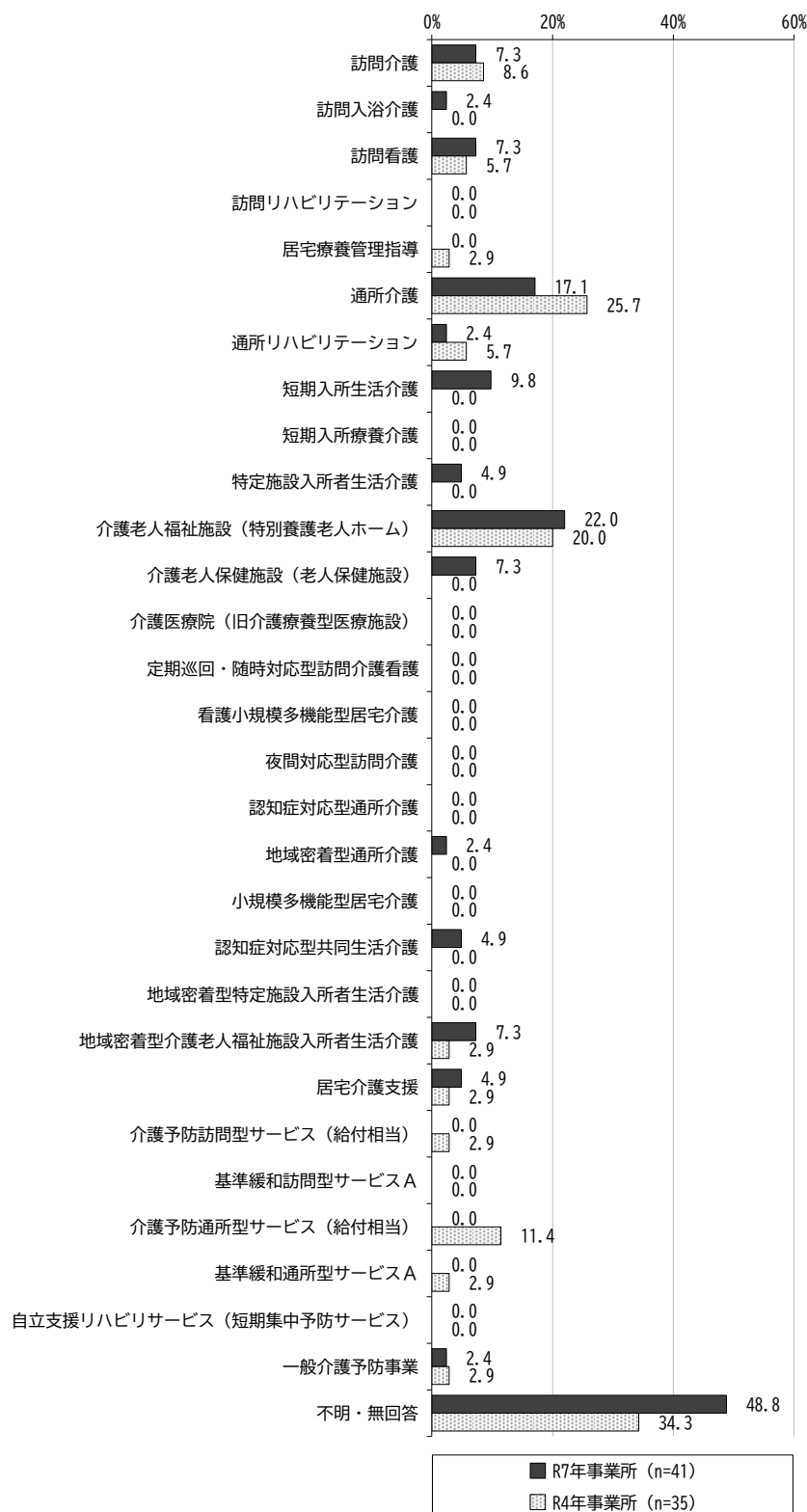
「採用する予定はない」が48.8%と最も高く、次いで「採用している」が41.5%となっています。



問9 下記サービスのうち、町内において充足している及び不足していると思うサービスは何だと思えますか。(5つまで複数回答)

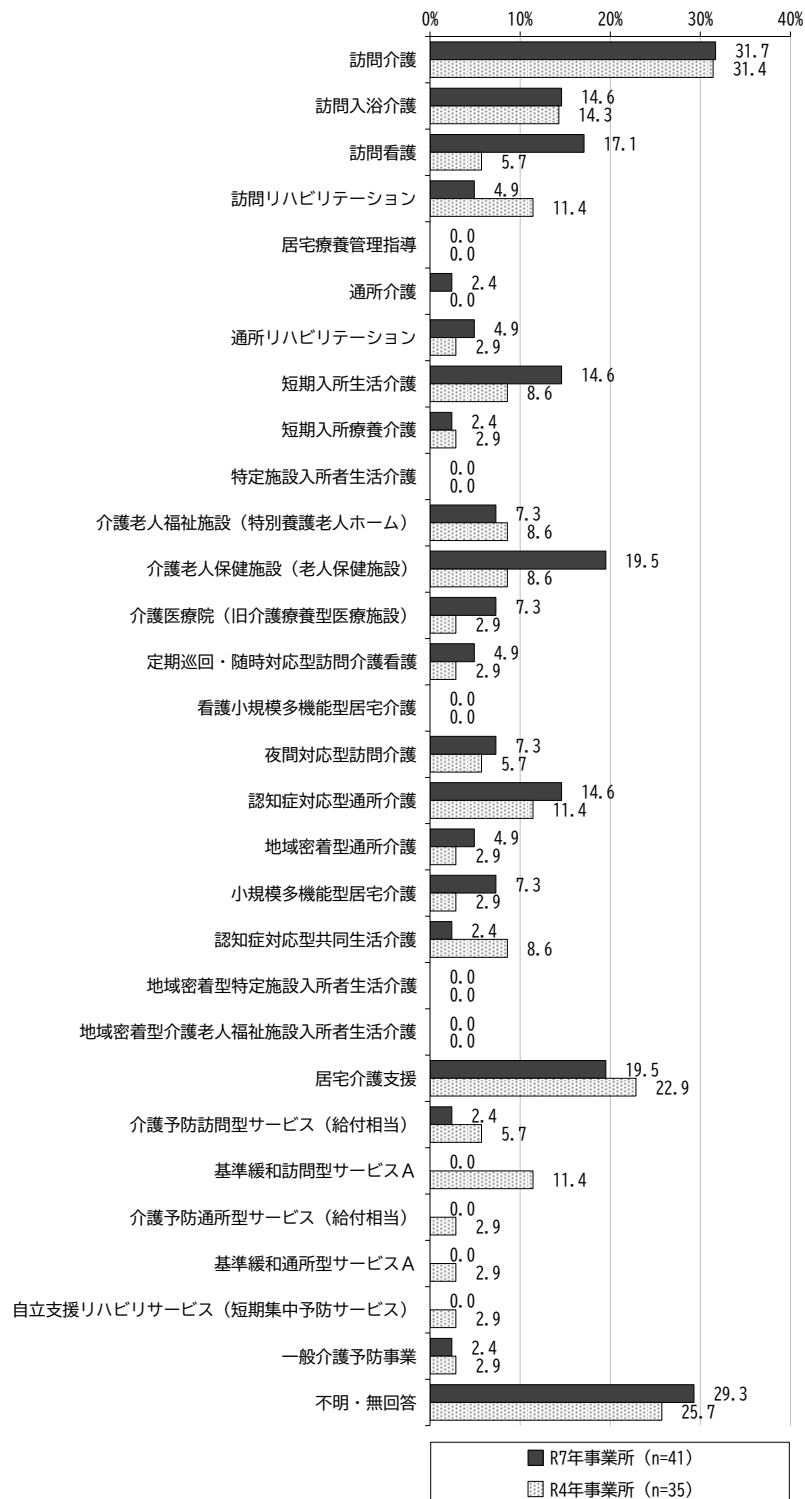
■充足していると思うサービス

充足していると思うサービスは、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が22.0%と最も高く、次いで「通所介護」が17.1%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「短期入所生活介護」が9.8ポイント、「介護老人保健施設（老人保健施設）」が7.3ポイント高く、「介護予防通所型サービス（給付相当）」が11.4ポイント、「通所介護」が8.6ポイント低くなっています。



■不足していると思うサービス

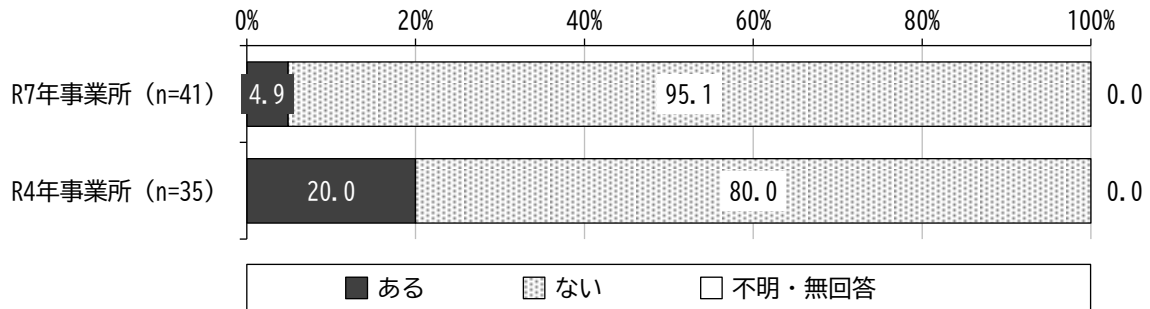
不足していると思うサービスは、「訪問介護」が31.7%と最も高く、次いで「介護老人保健施設（老人保健施設）」「居宅介護支援」が19.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「訪問看護」が11.4ポイント、「介護老人保健施設（老人保健施設）」が10.9ポイント高く、「基準緩和訪問型サービスA」が11.4ポイント低くなっています。



3. 高齢者虐待について

問 10 貴事業所がサービスを提供している要介護等認定者の中で、この1年間に高齢者虐待を受けた、または受けていると疑われる事案がありましたか。(単数回答)

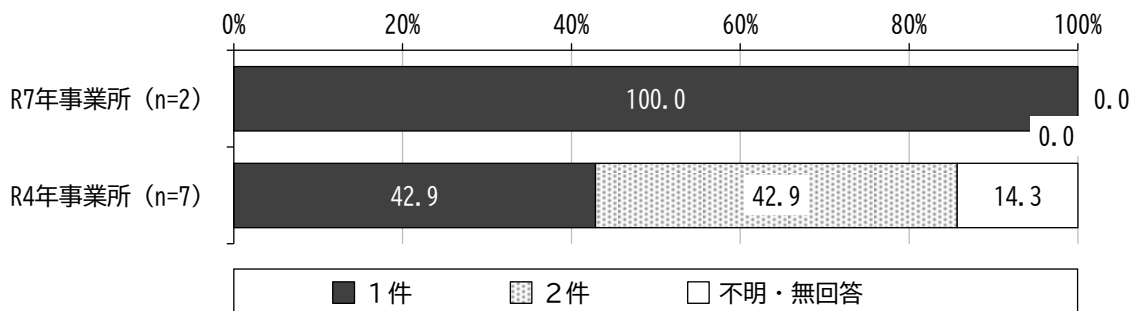
「ある」が4.9%、「ない」が95.1%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「ある」が15.1ポイント低くなっています。



【問 10 で「ある」と回答した事業所のみ】

虐待案件数

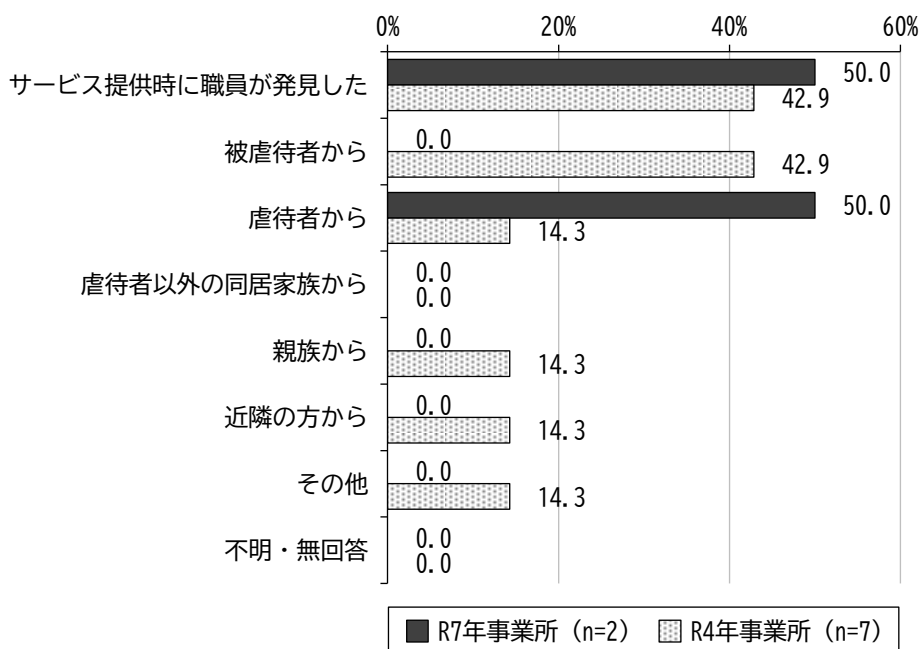
「1件」が2件(100.0%)となっています。



【問 10 で「ある」と回答した事業所のみ】

問 10-1 どこから虐待を発見しましたか。(複数回答)

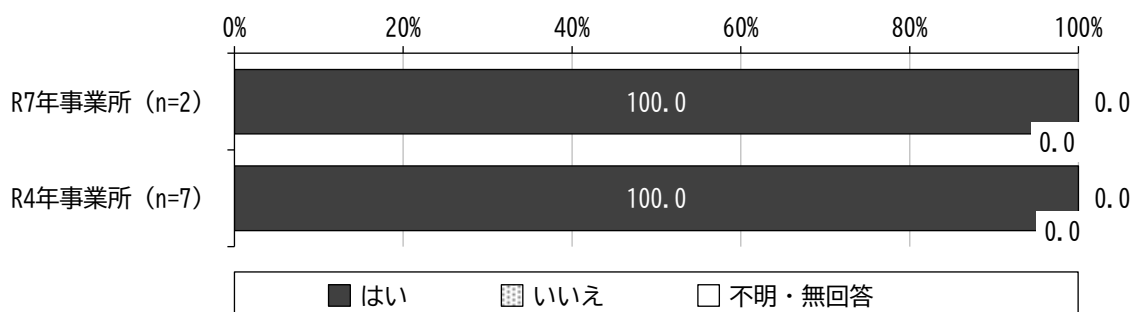
「サービス提供時に職員が発見した」「虐待者から」が1件(50.0%)となっています。



【問 10 で「ある」と回答した事業所のみ】

問 10-2 その時に、関係機関に相談・通報しましたか。(単数回答)

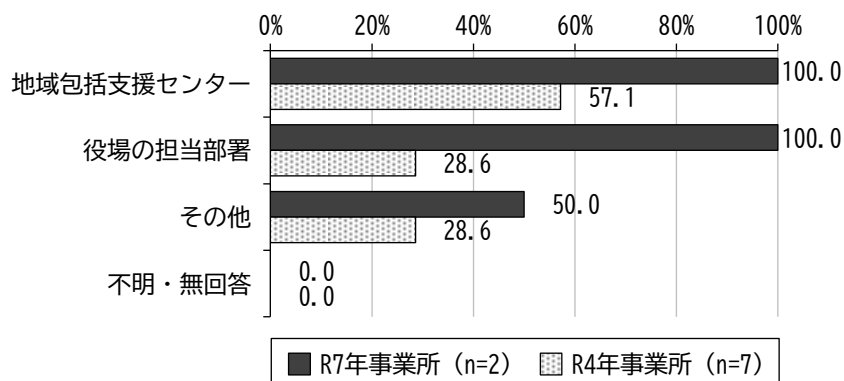
「はい」が2件(100.0%)となっています。



【問 10-2 で「はい」と回答した事業所のみ】

問 10-3 相談・通報先はどこでしたか。(複数回答)

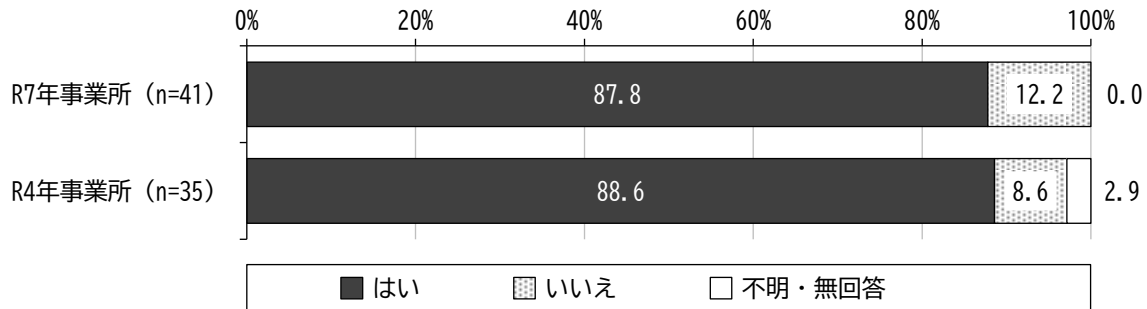
「地域包括支援センター」「役場の担当部署」が2件(100.0%)と最も多くなっています。



4. 他機関等との連携状況について

問 11 日頃から同業種との関わり（情報交換、連携等）は必要だと思いますか。
（単数回答）

「はい」が87.8%、「いいえ」が12.2%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、大きな差異はみられません。

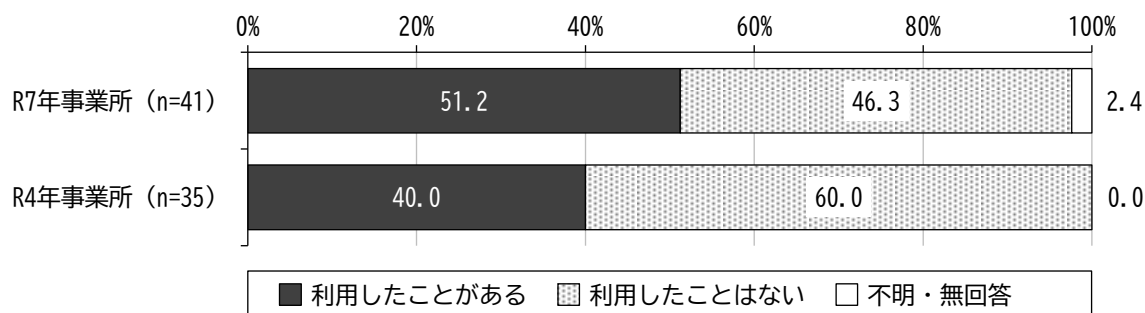


問 12 同業種とどのような関わりがしたいですか。（相談がしたい、合同で研修がしたい等）（記述回答）

主な回答
地域で同業種の方との情報交換、研修による他社とのスタッフのレベルアップ均等化に。連携によって施設荒らしと言われる人材の採用を食い止める。地域における医療機関の密に連携をとれる様にしたい。
合同での問題解決を目的とした、事故報告書及びクレームの顛末共有。 地域で困っている利用者様の保護を目的とした、利用者様の情報共有。担当できる事業所探し。 BCP の設定内容。現状報告会。特に地域の保護指定施設に関しては、町からも情報や指示や問い合わせが欲しいです。
法制度上のこと等や請求等についてなど相談がしたいことがある。
災害時のお互いの受け入れ体制や非常食、非常物資の共有及び連携。また、入居者の受け入れ状況（お互いの施設の受け入れの可否状況など）のやりとり。
利用者の受け入れ状況で話し合い（空いている施設、入居待ちの施設がともにあり、バランスが崩れている）
訪問、通所、居宅等職種別での合同研修や懇親会等があると横のつながりが出来て情報共有が出来て良いと思う
職員の足りないところをどう補助しているのか。記録の取り方。介護についてこのパターンの時どうしているかの情報の交換など。
入居者様の情報交換や職員研修の開催。離職に関して同地域内で他法人への紹介（東郷町内で介護職員の就職を強化）
職員の採用方法、入居者の募集方法についての情報交換
特殊事例の対応について情報共有がしたい
ヘルパーのスキルアップ研修についての情報交換
利用者対応の相談やアドバイス等話し合う意見交換会、スキルアップ研修。
合同研修や法改正など情報共有
入所の新規利用者獲得のための活動
医療的なケアをどの程度まで実施しているかなどの情報交換
利用者様状況の共有。しかし、そのためのツールであるレガッタネット東郷は、一部の利用者様のみの登録にとどまり、限定的な運用となっている。
お互いの施設の良いところなどを共有したい（情報） お互いの足りていないところを指摘し合いたい

問 13 電子@連絡帳レガッタネットとうごうを利用し、主治医等と介護サービス利用者の状況について共有を行ったことがありますか。(単数回答)

「利用したことがある」が51.2%、「利用したことはない」が46.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「利用したことはない」が13.7ポイント低くなっています。



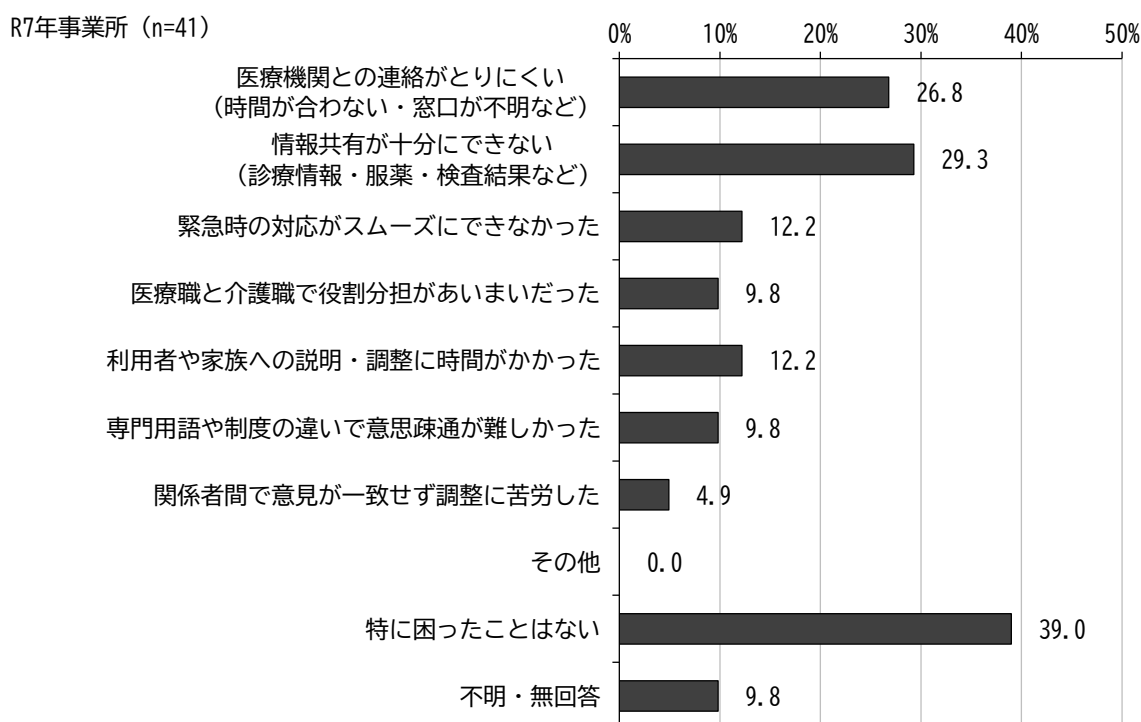
【問 13 で「利用したことはない」と回答した事業所のみ】

問 13-1 その理由は何ですか。(記述回答)

主な回答
使用する場面がわからない。東郷町から指示があった場合に閲覧したことがある程度。
レガッタネット東郷は知っているが使ったことがないため。
パソコンを更新してからログインができなくなった為
電子連絡帳のことを知らなかった。
特養に関しては、レガッタネットとうごうを利用しなくても直接やり取りを行っている。
利用する状況がない
リアルタイムに多職種間で情報共有が可能なツールであるためである。しかしながら、当事業所においては、現在登録されている利用者様が1名のみであり、運用は一部にとどまっているのが実情である。
施設内システムにより利用することができなかった
特に必要な案件がなかったです
レガッタ東郷は取り入れているが、それを利用するケアマネがないため利用していない。

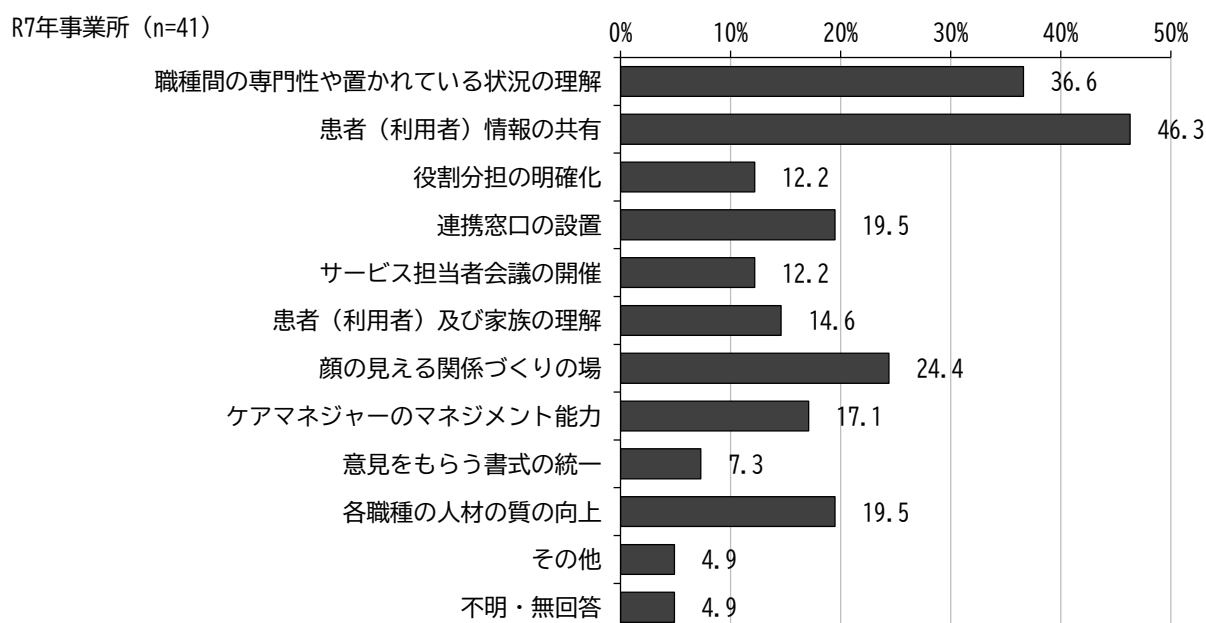
問 14 医療・介護連携を行うに当たって困ったことはありませんか。(3つまで複数回答)

「特に困ったことはない」が39.0%と最も高く、次いで「情報共有が十分にできない(診療情報・服薬・検査結果など)」が29.3%となっています。



問 15 多職種の連携を進めるに当たって必要なものは何ですか。(3つまで複数回答)

「患者(利用者)情報の共有」が46.3%と最も高く、次いで「職種間の専門性や置かれている状況の理解」が36.6%となっています。

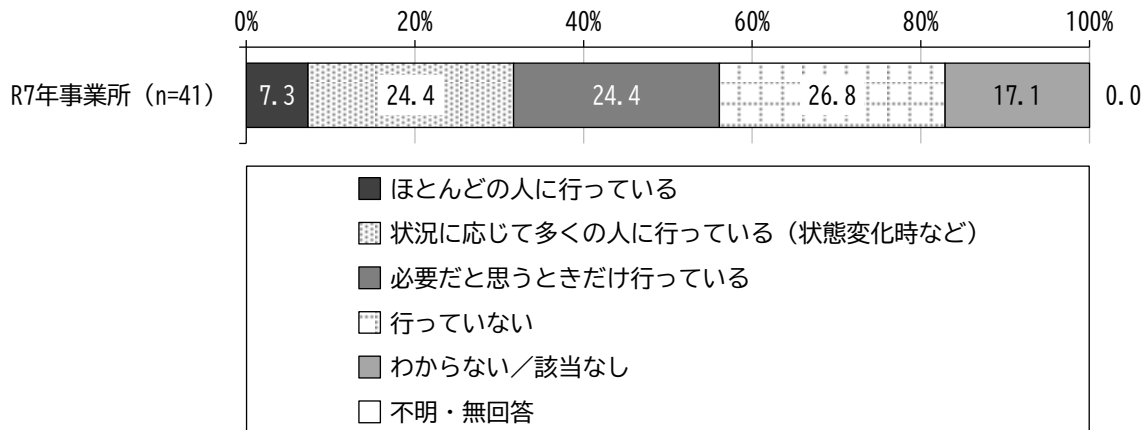


その他回答記載例
 利用者の行方などどの事業所が空いているのかの共有が必要

5. サービスの質の向上等について

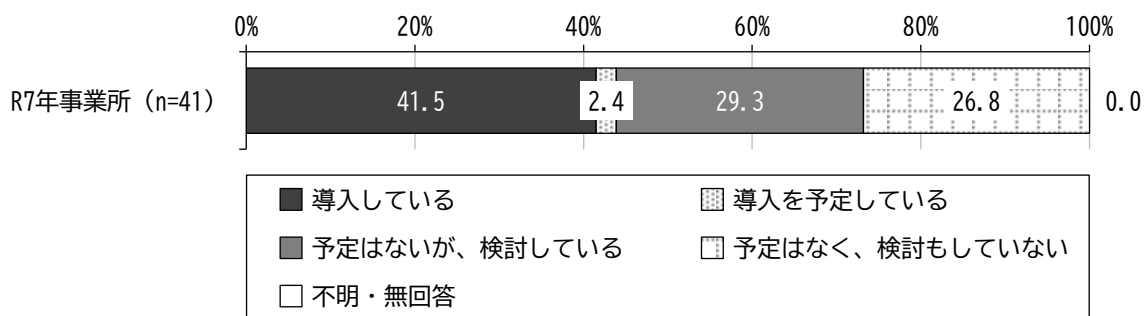
問 16 利用者に対して、ACPの説明や希望の確認を計画的に行っていますか。
(単数回答)

「行っていない」が26.8%と最も高く、次いで「状況に応じて多くの人に行っている(状態変化時など)」「必要だと思ふときだけ行っている」が24.4%となっています。



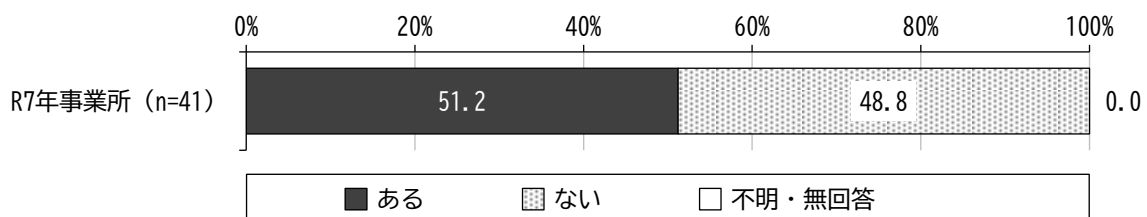
問 17 貴事業所の業務において、ICTやAIなどを導入していますか。(単数回答)

「導入している」が41.5%と最も高く、次いで「予定はないが、検討している」が29.3%となっています。



問 18 貴事業所においてカスタマーハラスメントの事案又はカスタマーハラスメントと疑われる事案はありましたか。(単数回答)

「ある」が51.2%、「ない」が48.8%となっています。



6. 地域包括支援センターや町へ期待することについて

問 19 地域包括支援センターに期待することは何ですか。(記述回答)

主な回答
在宅に困っているご家族様と事業所側の橋渡しを期待しています。
困ったことやわからないことなど相談ができ助言がほしい。介護関係者の顔の見える関係づくりの場を作る。
相談のしやすさ。スピード感のある対応。
サービス(又は施設入所)利用を求めている(又は必要としている)利用者がいる場合、各事業者に展開の強化をしてもらえたと思う。サービスの需要と供給がどこまで把握できているのか確認したい。
利用者さんの公平な紹介
独居の方のフォローアップや生活の向上への対策・意外にサービスを知らない方も多いのでこういうサービスをわかりやすいように何かイベントなどを設ける。
・居宅介護支援事業所や介護事業所が少ない地域だからこそ、地域包括支援センターが中心となり、医療・介護・福祉関係者をつなぐ役割をより強化してほしい。 ・人材や情報が限られる小規模訪問介護事業所に対し、制度変更や地域資源の情報提供、相談対応などの支援を継続的に行ってほしい。
何か起こった時の調整役としてお願いしたいです。事業所の困りごとを聞いてほしい
情報提供
地域の使える社会資源を増やしてほしい。
困難ケースへの相談対応などの支援(無関係としてかかわろうとしない姿勢はとても悲しいです。できなくても一緒に考えよう、一緒に関わろうとする姿勢だけでもほしい)

問 20 町に期待することは何ですか。(記述回答)

主な回答
ぜひ福祉に強い町作りをお願いいたします。
移動手段の確保。介護教室などの開催
町内に総合病院がなく、町外病院に頼るしかない状況。町外の医師や病院との連携ではなく、町内で完結できるように是非希望します。高齢化は今後も進み、医療体制の構築は地域住民にとって一番の不安要素ですので、体制を整える事は急務と考えます。
要支援者は月単位利用にしてほしい。
地域包括支援センターと同様に、現在各事業所等の介護サービスの利用の状況を把握できるよう、電子掲示板も利用し、例えば認知症等で困っている利用者がいるなどの情報を掲示板で各事業者に展開しサービス枠に余裕がある事業所や利用者の募集をしている事業者、ベッドの空きがある事業者などを空き情報として一括にし一目瞭然で見れるなどのシステムがあれば、利用者が利用待ち、入所待ちなどが改善できるのではないかと思います。
介護・医療の拠点となる施設の創設
介護に対してもっと親近感を感じてもらえるような取り組み・通所介護系のスタッフの補充確保の通知や事業所との職員の確保状況の確認
地域密着型の特養を運営していますが、待機者の獲得に苦慮しており、空きが出て入所に結びつかない場合が多くみられます。町外の在住者も枠を設けて認めていただけるようにしてほしいと思っています。
・事業所からの質問に回答を提示すること ・事業所が事業継続を図るために求めた、制度の柔軟な運用について、速やかな対応を求めます(地域密着型特養における、他市町村からの入所希望者の受け入れ【瀬戸市、日進市においては対応可】) ・福祉事業所に求められる、地域の方との災害時の協力、連携等の体制構築の支援。 関係作りにおける仲介役を担っていただけると、大変助かります。
・介護人材不足や小規模事業所の経営の厳しさを踏まえ、新規参入支援や、既存事業所が継続できる環境整備(情報提供・補助・連携支援)を進めてほしい。 ・情報共有ツールが一部利用にとどまっている現状を改善するため、町主導での周知・活用促進、運用ルールの整理を期待する。

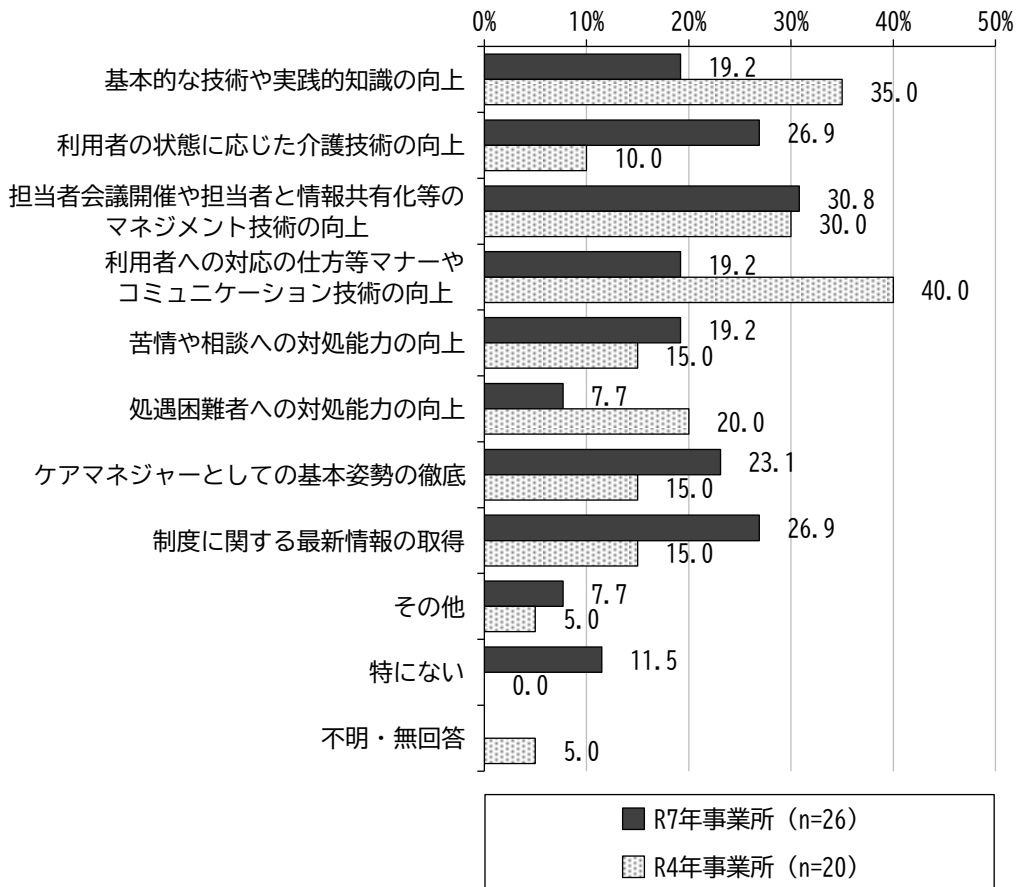
主な回答
町長さんにもっと具体的に動いて欲しい(敬老の日等、表彰に来ていただきたい) ジブリ効果が欲しい。東郷町に湯屋(千と千尋の神隠し)を建ててスーパー銭湯風にし、高齢者と子供など異年齢の交流を深めることができると良いと思います
居宅のケアマネの事業所を増やしてほしい
福祉フェスティバルみたいなイベント
相談窓口設置
高齢者が使えるサービスを増やしてほしい。交通手段やボランティア活動など、どんなサービスがあるかも情報共有がもっとできるようにしてほしい。
地域包括支援センターの対応について相談した時に、指導などなんらかの対応をしてもらえるとうれしい

7. 居宅介護支援及び施設サービスについて

【居宅介護支援及び施設サービスの事業所のみ】

問 21 貴事業所では、ケアマネジャーの質の確保・向上を図るために、特にどのような点を重視して取り組んでいますか。（3つまで複数回答）

「担当者会議開催や担当者情報共有化等のマネジメント技術の向上」が30.8%と最も高く、次いで「利用者の状態に応じた介護技術の向上」「制度に関する最新情報の取得」が26.9%となっています。



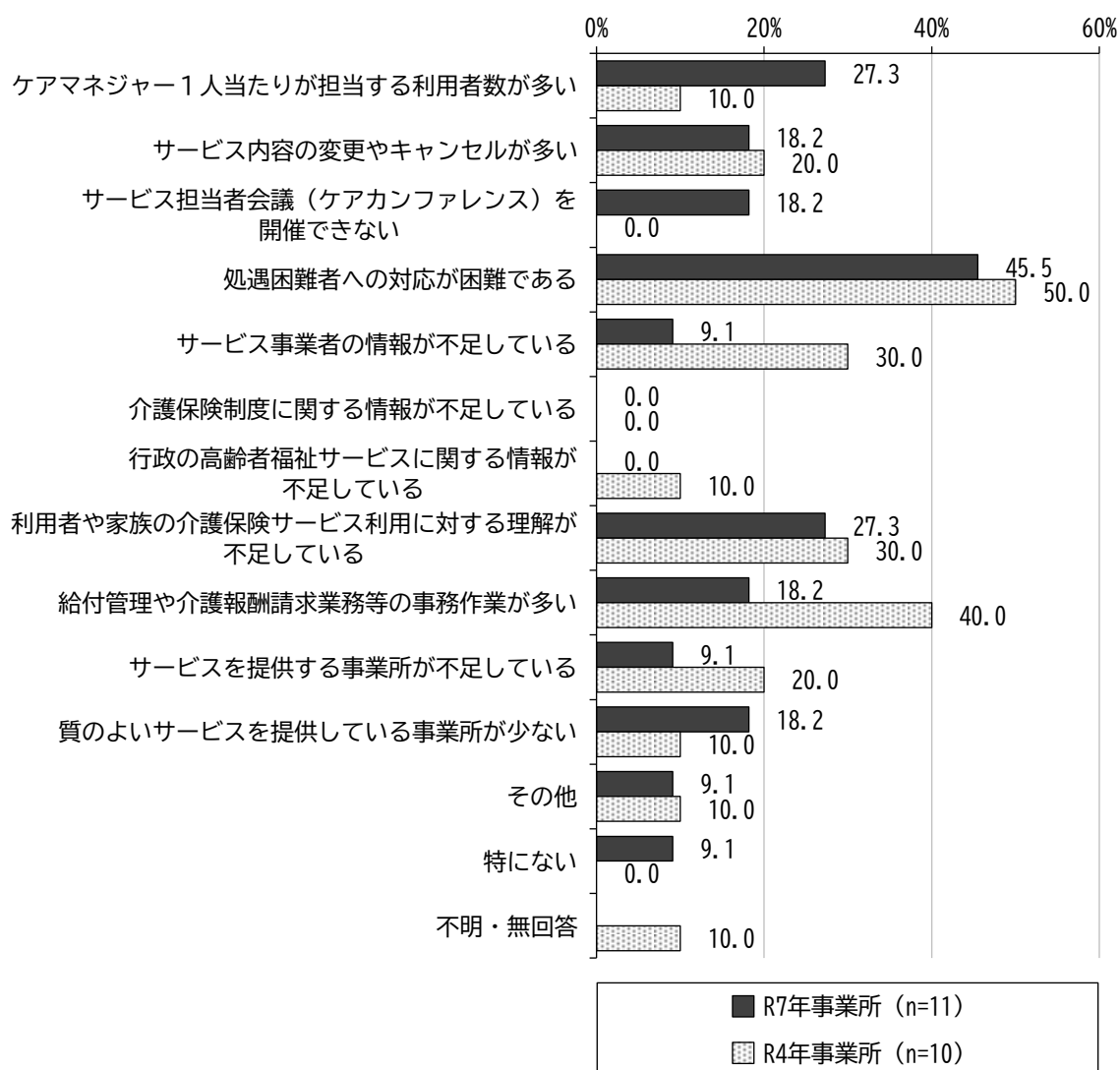
その他回答記載例

施設専属のケアマネはいない(全て外部)

【居宅介護支援の事業所のみ】

問 22 居宅介護サービス計画を作成するに当たって、問題があると考えているのは、どのようなことですか。（3つまで複数回答）

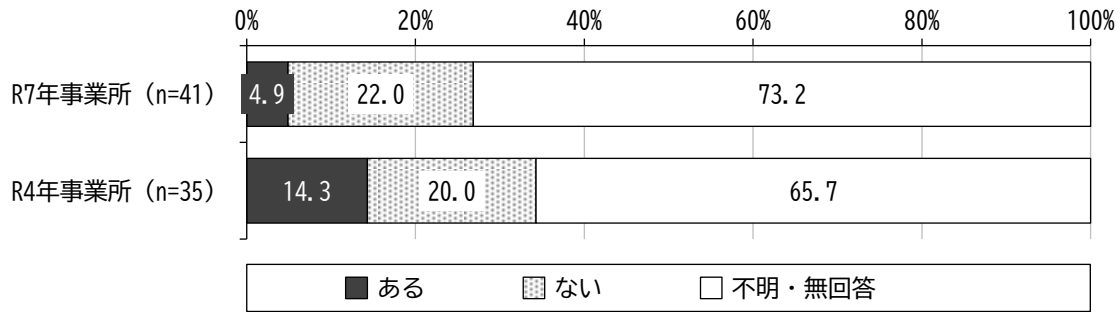
「処遇困難者への対応が困難である」が45.5%と最も高く、次いで「ケアマネジャー1人当たりが担当する利用者数が多い」「利用者や家族の介護保険サービス利用に対する理解が不足している」が27.3%となっています。



【居宅介護支援の事業所のみ】

問 23 適切なサービスを提供することが困難であると認めた場合は、他の居宅介護支援事業者への連絡、適当な他の事業所の紹介等必要な措置を講じることになっています。貴事業所では、サービス提供が困難な事例がありましたか。(単数回答)

「ある」が 4.9%、「ない」が 22.0%となっています。なお、令和 4 年度調査と比較すると、「ある」が 9.4 ポイント低くなっています。



【問 23 で「ある」と回答した事業所のみ】

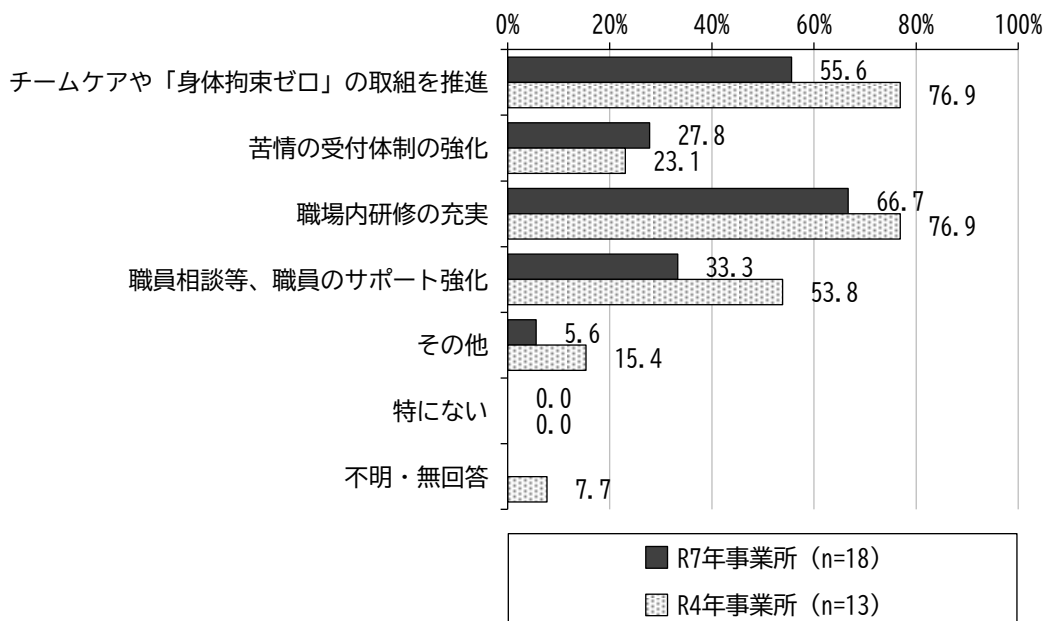
問 23-1 どのような事例でしたか。(記述回答)

事例
家族からのケアマネ交代希望:別居の長女からのカスハラあり
認知症がかなり重い一人暮らしの利用者で、家族の支援が十分に受けられていないケース。ゴミ屋敷だったり、通院や入院時に家族が支援を拒否するためにケアマネが代行せざるをえないなど、いくつものケースがある。

【施設サービスの事業所のみ】

問 24 貴事業所では、虐待予防に関してどのような取組をしていますか。(複数回答)

「職場内研修の充実」が 66.7%と最も高く、次いで「チームケアや『身体拘束ゼロ』の取組を推進」が 55.6%となっています。



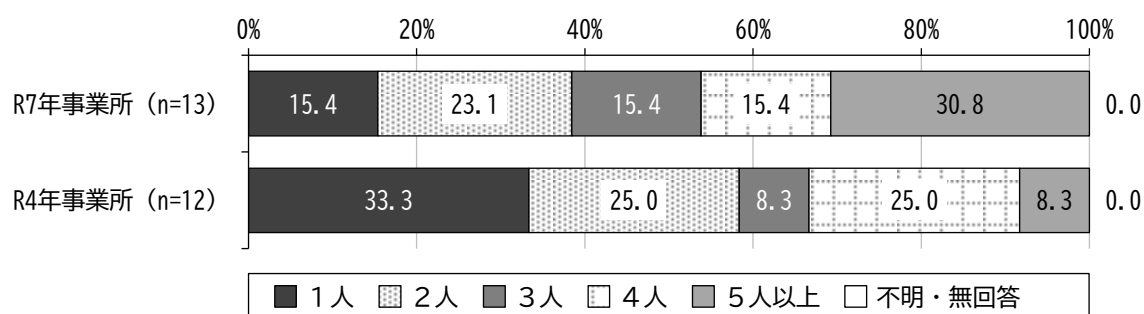
VI 在宅生活改善調査の結果

【事業者票】

問1 貴事業所に所属するケアマネジャーの人数、および利用者数について、ご記入ください。

①所属するケアマネジャーの人数

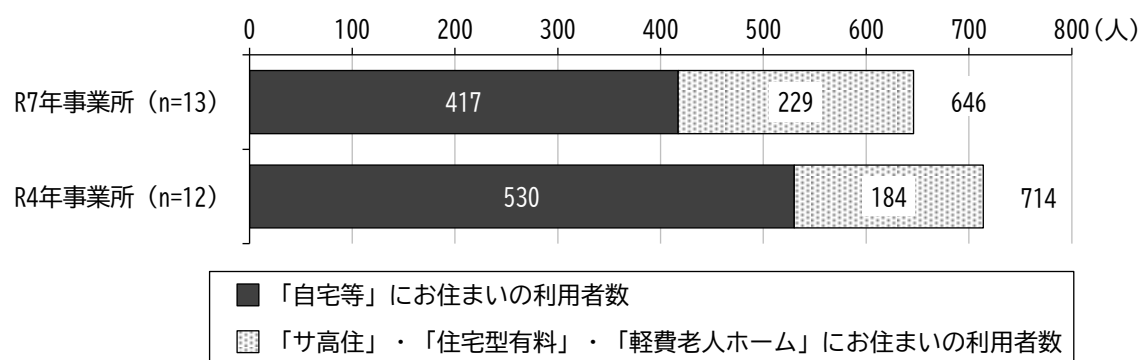
「5人以上」が30.8%と最も高く、次いで「2人」が23.1%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「5人以上」が22.5ポイント高く、「1人」が17.9ポイント低くなっています。



②「自宅等」にお住まいの利用者数

③「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」にお住まいの利用者数

回答した13事業所の利用者数を合計すると、「自宅等」が417人、「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」が229人となっています。

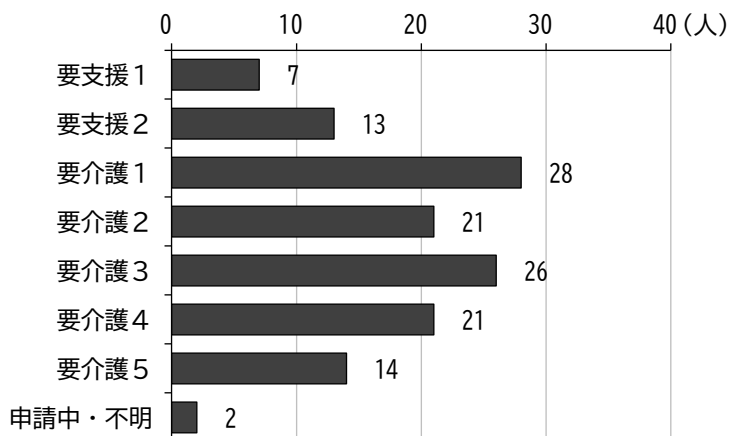


問2 貴事業所において、過去1年の間に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から、居場所を変更した要介護度別の利用者数」と「自宅等で死亡した利用者数」をご記入ください。

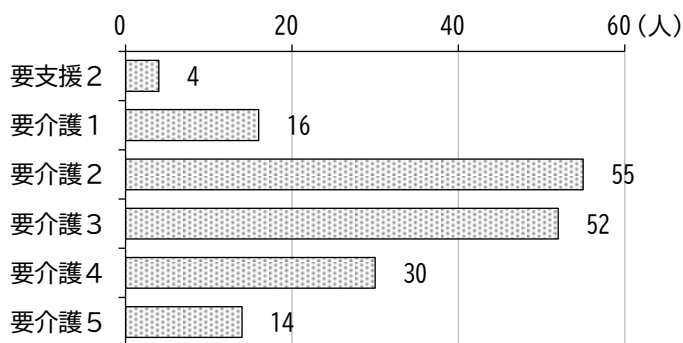
①自宅等から、居場所を変更した利用者

過去1年の間に居場所を変更した利用者は、13事業所の合計で132人となっており、「要介護1」が28人と最も多く、次いで「要介護3」が26人となっています。

R7年事業所 (n=13)



R4年事業所 (n=12)



②自宅等での死亡

自宅等での死亡した利用者は、13事業所の合計で65人となっています。



問3 貴事業所において、過去1年間の間に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から、居場所を変更した利用者数」を行先別にご記入ください。

居場所を変更した利用者 197 人の行き先をみると、「自宅等での死亡（搬送先での死亡を含む）」が 36.0%と最も高く、次いで町内の「住宅型有料老人ホーム」、町外の「病院・診療所（一時的な入院を除く）」が 10.2%となっています。

【町内】行き先別の割合（％）															
	兄弟・子ども・親戚等の家	住宅型有料老人ホーム	軽費老人ホーム（特定施設除く）	サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	グループホーム	特定施設	地域密着型特定施設	介護老人保健施設	介護医療院	特別養護老人ホーム	地域密着型特別養護老人ホーム	病院・診療所（一時的な入院を除く）	その他		
居所変更利用者（n=197）	0.5	10.2	0.5	1.0	2.0	0.0	0.0	4.1	1.0	5.6	2.5	0.5	0.0		
【町外】行き先別の割合（％）															
	兄弟・子ども・親戚等の家	住宅型有料老人ホーム	軽費老人ホーム（特定施設除く）	サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	グループホーム	特定施設	地域密着型特定施設	介護老人保健施設	介護医療院	特別養護老人ホーム	地域密着型特別養護老人ホーム	病院・診療所（一時的な入院を除く）	その他	行先を把握していない	自宅等での死亡（搬送先での死亡を含む）
居所変更利用者（n=197）	0.5	7.1	1.0	1.0	1.0	0.0	0.0	3.0	0.5	7.1	1.0	10.2	2.5	1.0	36.0

問4 貴事業所の利用者で在宅生活の維持が難しくなるのは、どのような場合が多いですか。よくあるケースについてお答えください。（自由回答）

在宅生活の維持が難しくなる主なケース
家族の介護負担増 介護者が体調を崩されたり、死去されたり、排泄介助が増え、歩行困難、一人で留守番ができなくなる。認知度が進み介護者が対応できなくなる。
徘徊による通報・捜索 独居による金銭管理困難・服薬管理困難
独居の方、老々介護の方、認知症の方、退院後の自宅での生活が困難な方 ・認知症の進行で、徘徊・失禁・意思疎通困難 ・家族が病気になる、疲弊する ・癌の緩和ケア
1人で排泄ができなくなる場合。
介護者の負担が大きくなった時 ・認知症の進行で一人でいる時の不安感が強くなり、本人が施設入所を希望 ・要介護度が高くなり、一日3回のヘルパーが必要になるが、転倒が増え在宅生活を支えられなくなった ・必要な介護サービスが限度額内でまかなえなくなり、自費負担の金額が大きくなってきた
・認知症状の進行により自宅での生活が困難になる ・病状の急性増悪のため、医療行為が必要となり自宅が困難となる
ひとり暮らしの方などで身体的理由により買物に行けない方や現金の引出しなど金銭管理、服薬管理等ができない場合。ほぼ常時、医療・介護サービスが必要とされ、今まで以上の家族等介護や援助が難しい場合。 ・認知症により、生活全般において管理ができなくなった場合（保清、整理整頓、食事、金銭） ・ガン末期

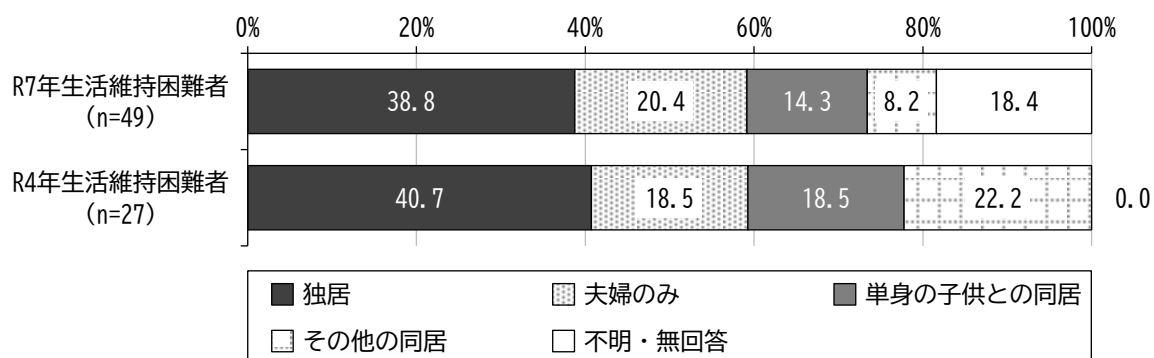
【利用者票】

※「自宅」、「サ高住」、「住宅型有料」、「軽費老人ホーム」にお住まいの方のうち「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている利用者」が対象。

1. 対象となる利用者の状況等について

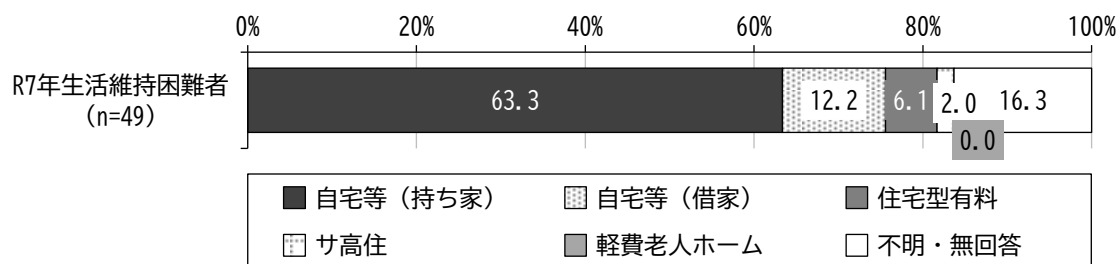
問1-1 世帯類型（単数回答）

「独居」が38.8%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が20.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「その他の同居」が14.0ポイント低くなっています。



問1-2 現在の居所（単数回答）

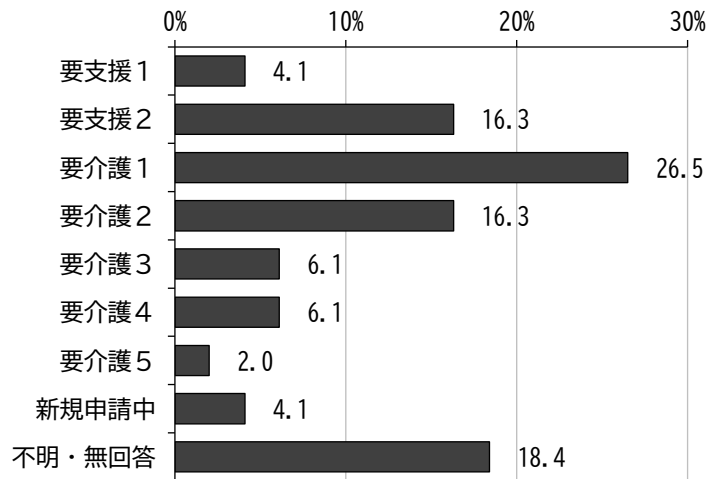
「自宅等（持ち家）」が63.3%と最も高く、次いで「自宅等（借家）」が12.2%となっています。



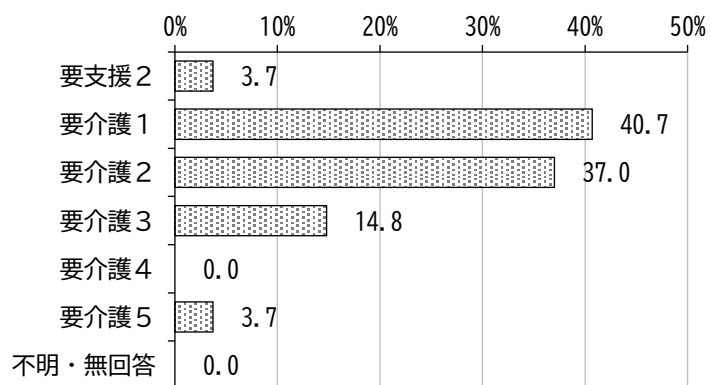
問1-3 要支援・要介護度（単数回答）

「要介護1」が26.5%と最も高く、次いで「要支援2」「要介護2」が16.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「要支援2」が12.6ポイント高く、「要介護2」が20.7ポイント、「要介護1」が14.2ポイント低くなっています。

R7年生活維持困難者（n=49）



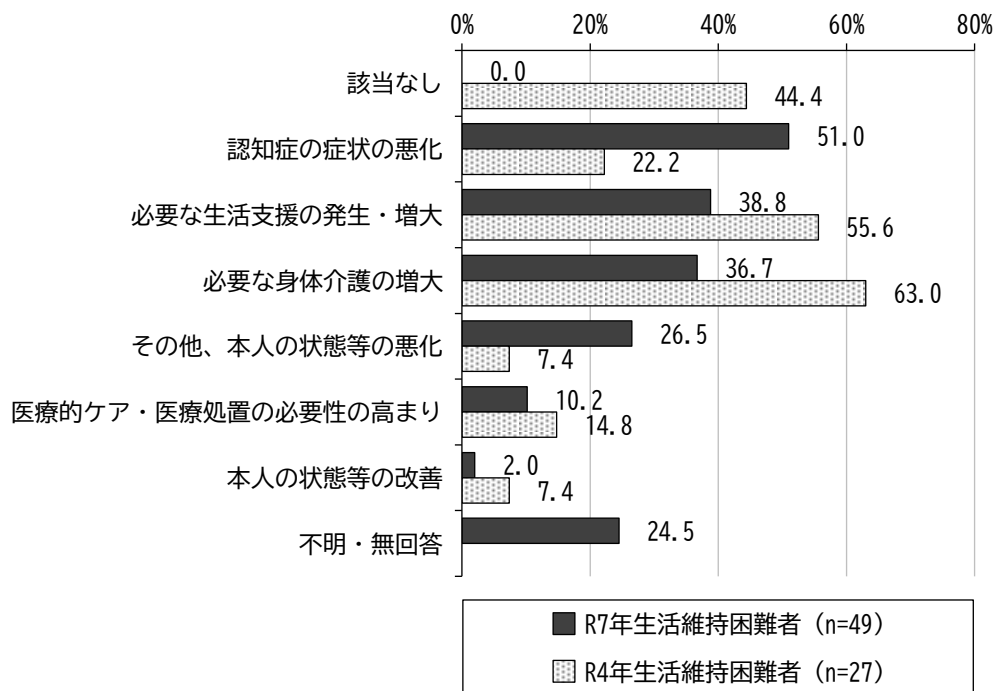
R4年生活維持困難者（n=27）



2. 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由について

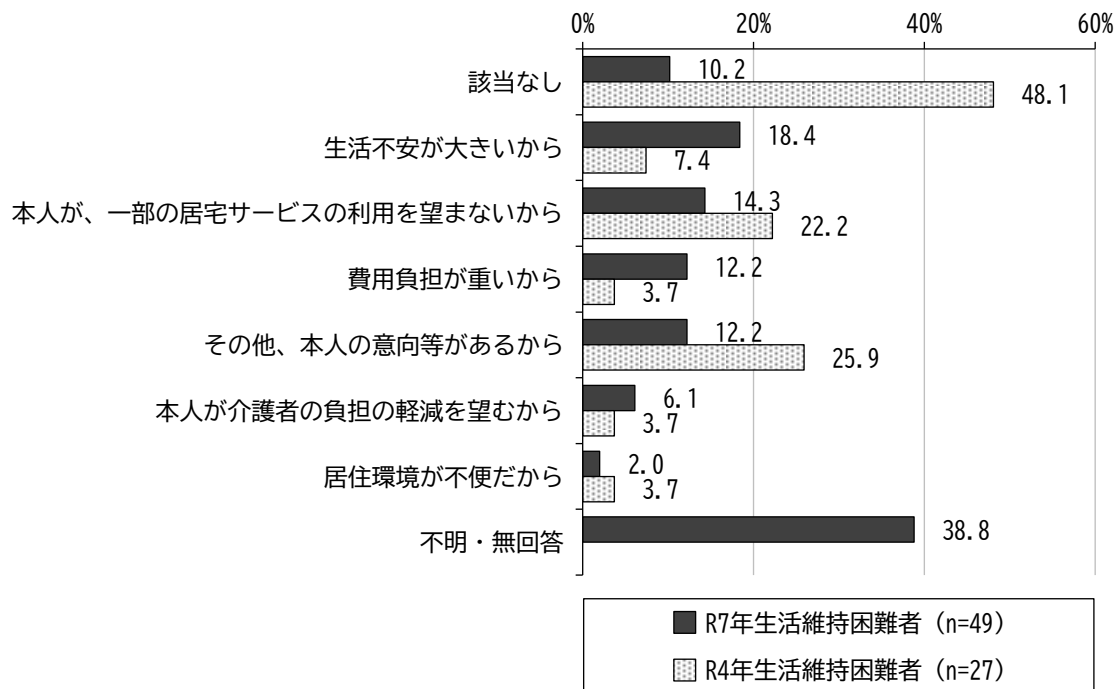
問2-1 本人の状態等に属する理由について、お答えください。(複数回答)

「認知症の症状の悪化」が51.0%と最も高く、次いで「必要な生活支援の発生・増大」が38.8%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「認知症の症状の悪化」「その他、本人の状態等の悪化」が19.1ポイント以上高く、「該当なし」「必要な生活支援の発生・増大」「必要な身体介護の増大」が16.8ポイント以上低くなっています。



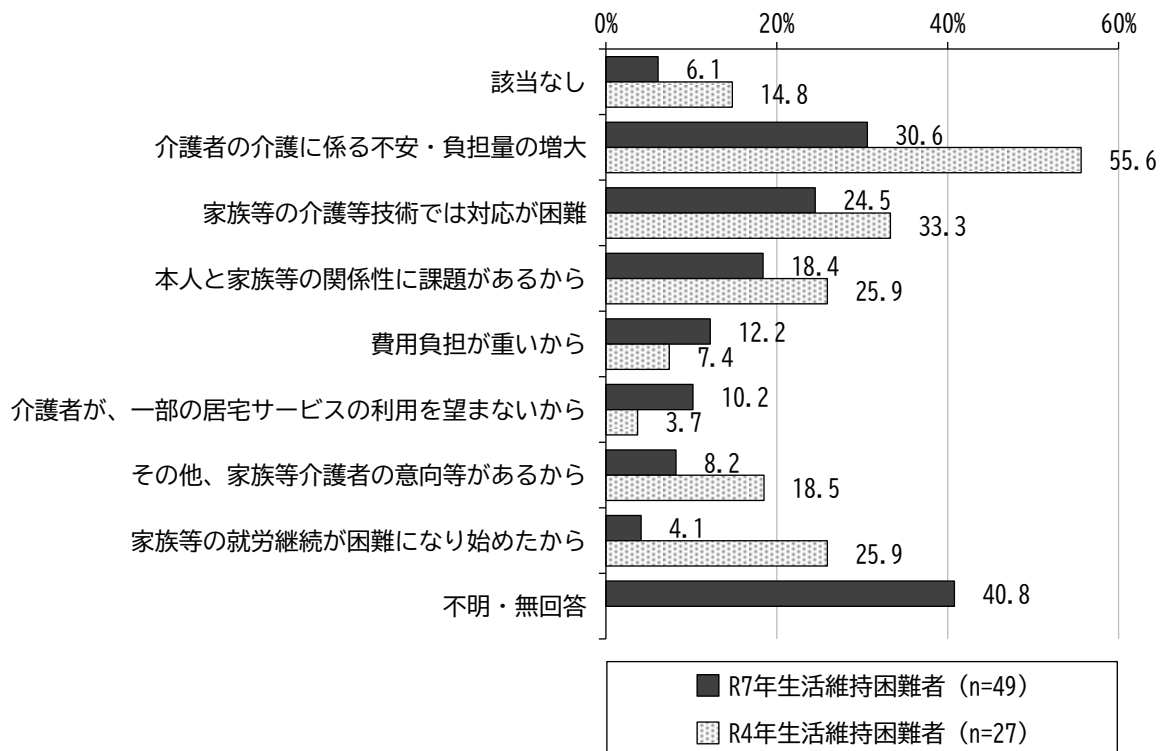
問2-2 主に本人の意向等に属する理由について、お答えください。(複数回答)

「生活不安が大きいから」が18.4%と最も高く、次いで「本人が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」が14.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「生活不安が大きいから」が11.0ポイント高く、「該当なし」が37.9ポイント、「その他、本人の意向等があるから」が13.7ポイント低くなっています。



問2-3 主に家族等介護者の意向・負担等に属する理由について、お答えください。
(複数回答)

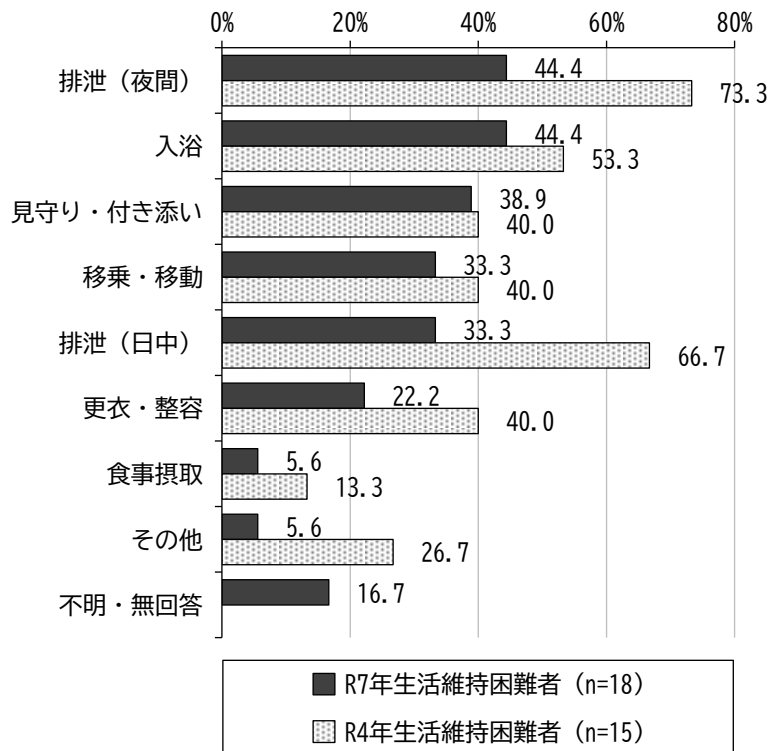
「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が30.6%と最も高く、次いで「家族等の介護等技術では対応が困難」が24.5%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「介護者が、一部の居宅サービスの利用を望まないから」「費用負担が重いから」を除いた項目で低くなっており、特に「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」「家族等の就労継続が困難になり始めたから」が21.8ポイント以上となっています。



【問2-1で「必要な身体介護の増大」を選択した場合のみ】

問2-4 理由となる、具体的な「身体介護」をお答えください。(複数回答)

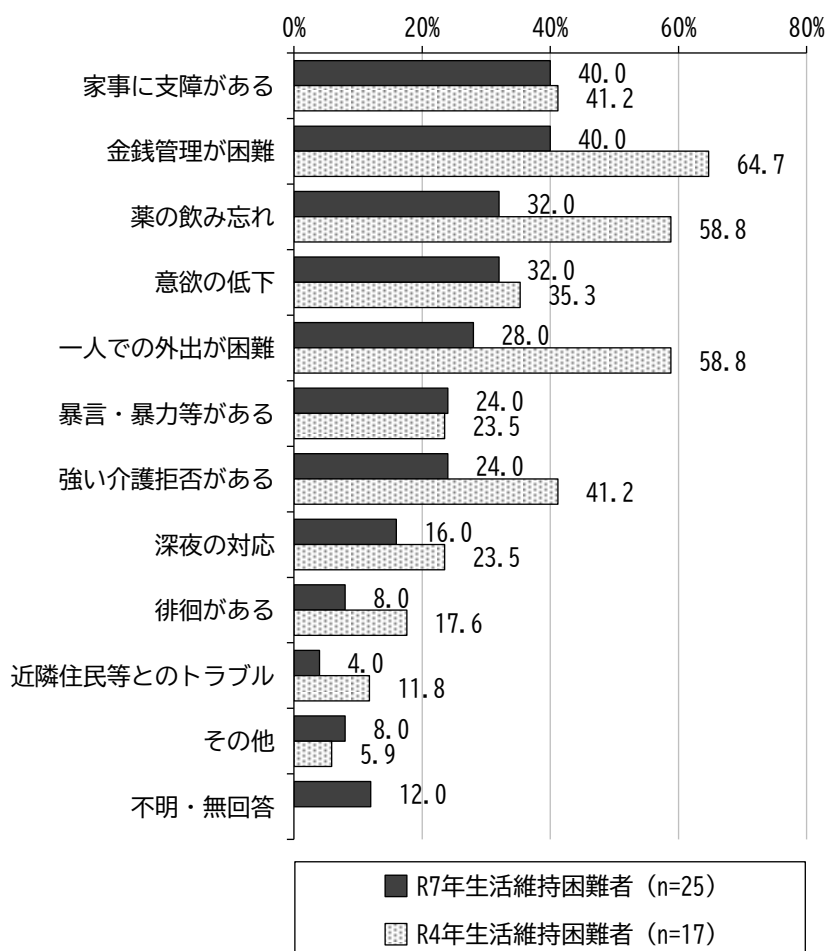
「排泄(夜間)」「入浴」が44.4%と最も高く、次いで「見守り・付き添い」が38.9%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、すべての項目で低くなっており、特に「排泄(日中)」「排泄(夜間)」「更衣・整容」が17.8ポイント以上となっています。



【問2-1で「認知症の症状の悪化」を選択した場合のみ】

問2-5 理由となる、具体的な「認知症の症状」をお答えください。(複数回答)

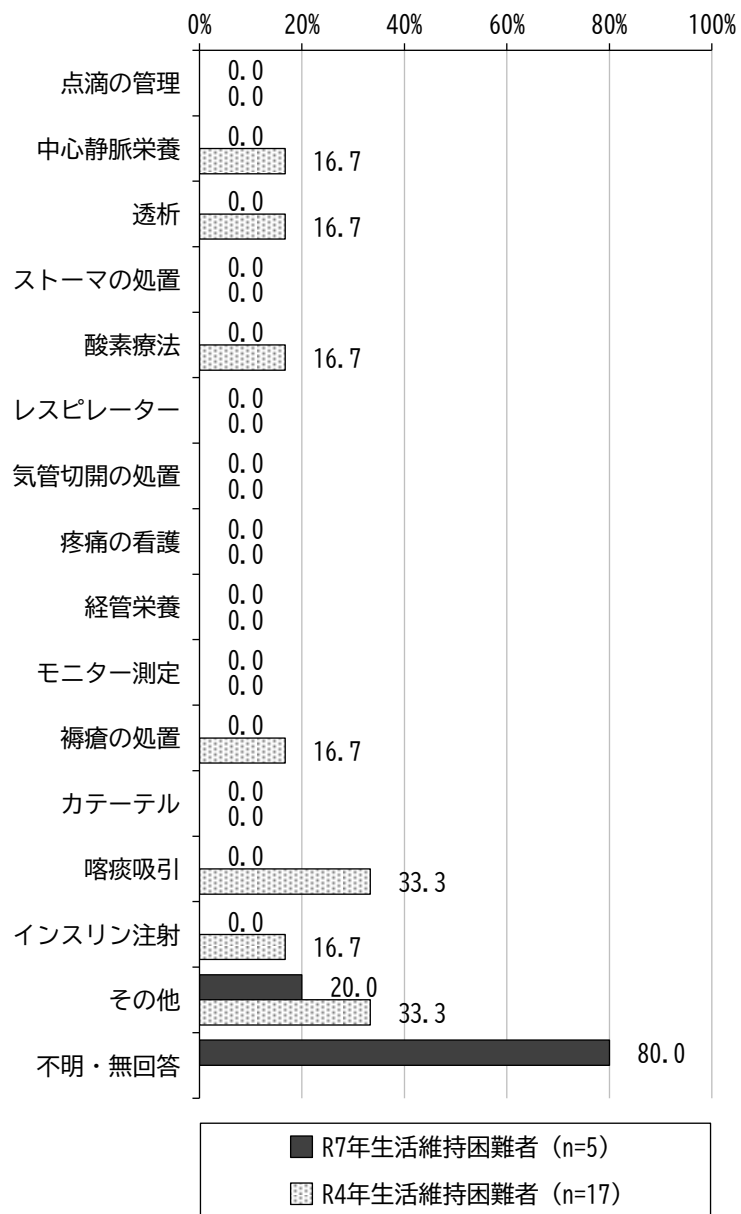
「家事に支障がある」「金銭管理が困難」が40.0%と最も高く、次いで「薬の飲み忘れ」「意欲の低下」が32.0%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、ほとんどの項目で低くなっており、特に「一人での外出が困難」「薬の飲み忘れ」「金銭管理が困難」「強い介護拒否がある」が17.2ポイント以上となっています。



【問2-1で「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」を選択した場合のみ】

問2-6 理由となる、具体的な「医療的ケア」、「医療処置」をお答えください。(複数回答)

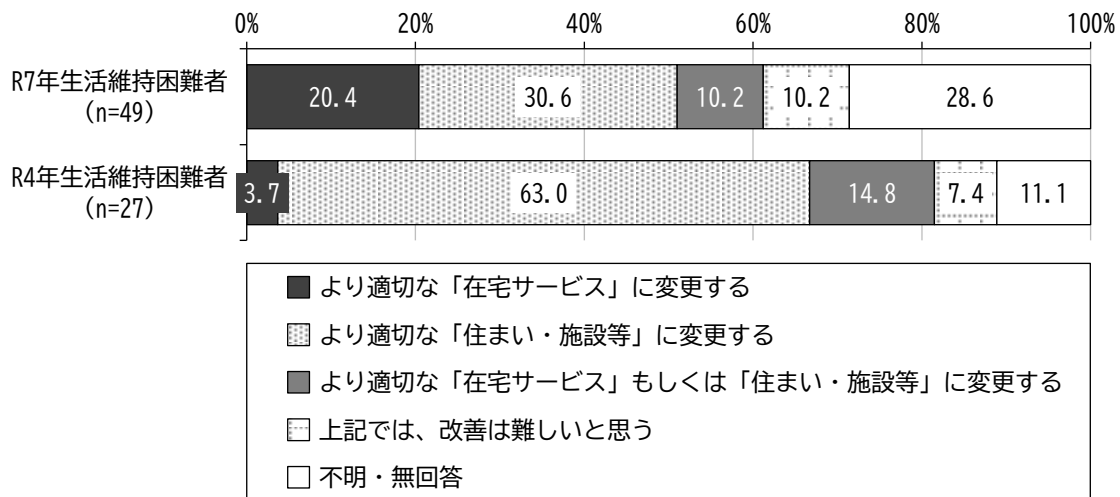
「その他」を除くと、該当する回答はありませんでした。



3. 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況を改善するための、サービス利用の変更等について

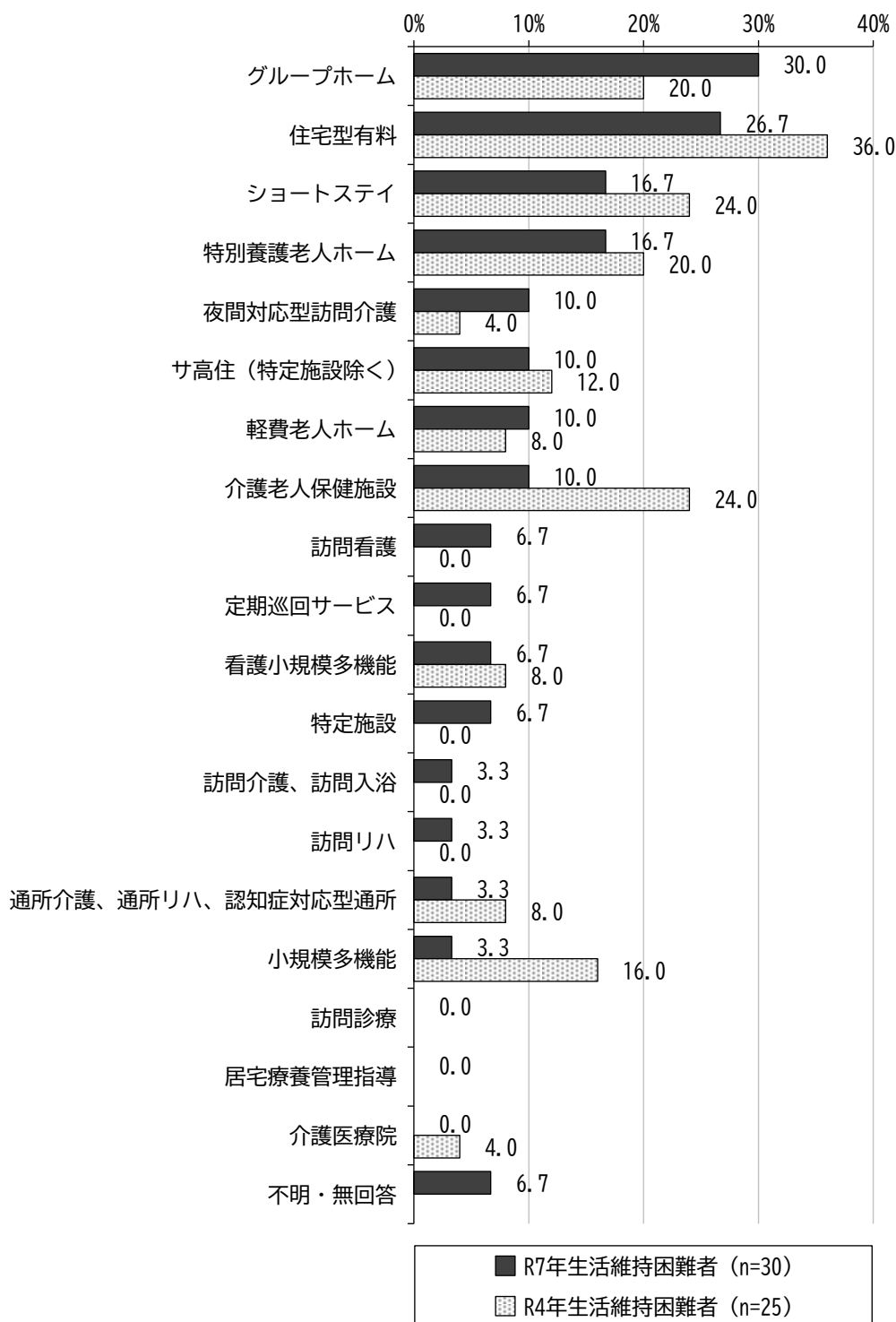
問3-1 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況に対して、どのようなサービスに変更することで改善できると思いますか。(単数回答) h

「より適切な『住まい・施設等』に変更する」が30.6%と最も高く、次いで「より適切な『在宅サービス』に変更する」が20.4%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「より適切な『在宅サービス』に変更する」が16.7ポイント高く、「より適切な『住まい・施設等』に変更する」が32.4ポイント低くなっています。



問3-2 問3-1で選択したサービス利用の変更について、本来であればより適切と思われる、具体的なサービスをお答えください。(複数回答)

「グループホーム」が30.0%と最も高く、次いで「住宅型有料」が26.7%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「グループホーム」が10.0ポイント高く、「介護老人保健施設」が14.0ポイント、「小規模多機能」が12.7ポイント低くなっています。



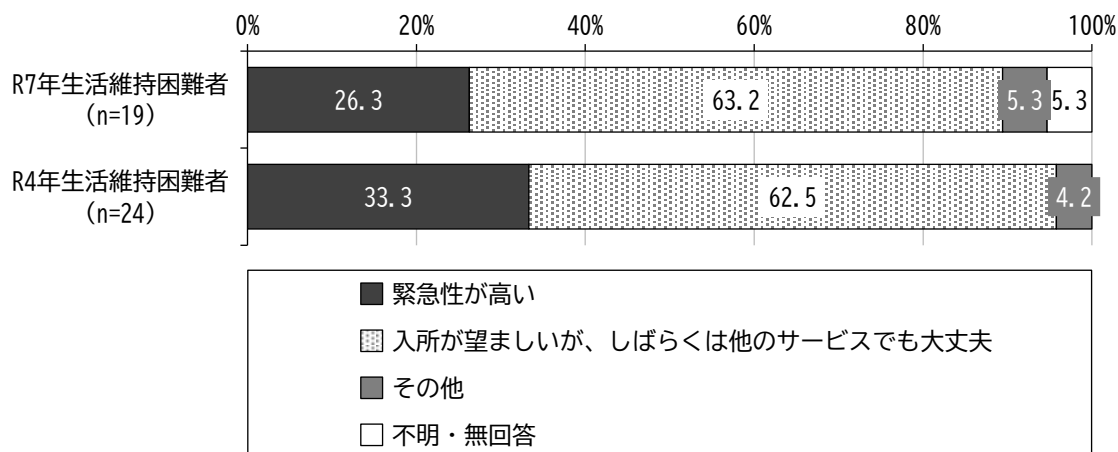
※選択肢：「訪問診療」「居宅療養管理指導」はR7年度調査のみとなっています。

※R7年度調査の選択肢「介護医療院」は、R4年度調査では「療養型・介護医療院」となっています。

【問3-2で「住宅型有料」「サ高住（特定施設除く）」「軽費老人ホーム」「グループホーム」「特定施設」「介護老人保健施設」「介護医療院」「特別養護老人ホーム」を選択した場合のみ】

問3-3 利用者の入所・入居の緊急度をお答えください。（単数回答）

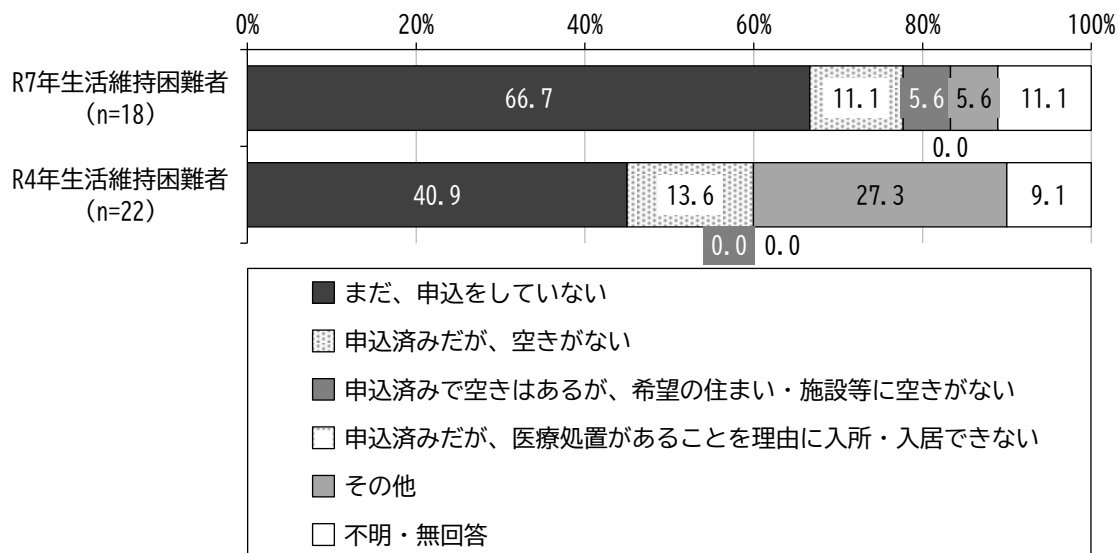
「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」が63.2%と最も高く、次いで「緊急性が高い」が26.3%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「緊急性が高い」が7.0ポイント低くなっています。



【問3-2で「住宅型有料」「サ高住（特定施設除く）」「軽費老人ホーム」「グループホーム」「特定施設」「介護老人保健施設」「介護医療院」（※特養以外）を選択した場合のみ】

問3-4 入所・入居できていない理由をお答えください。（単数回答）

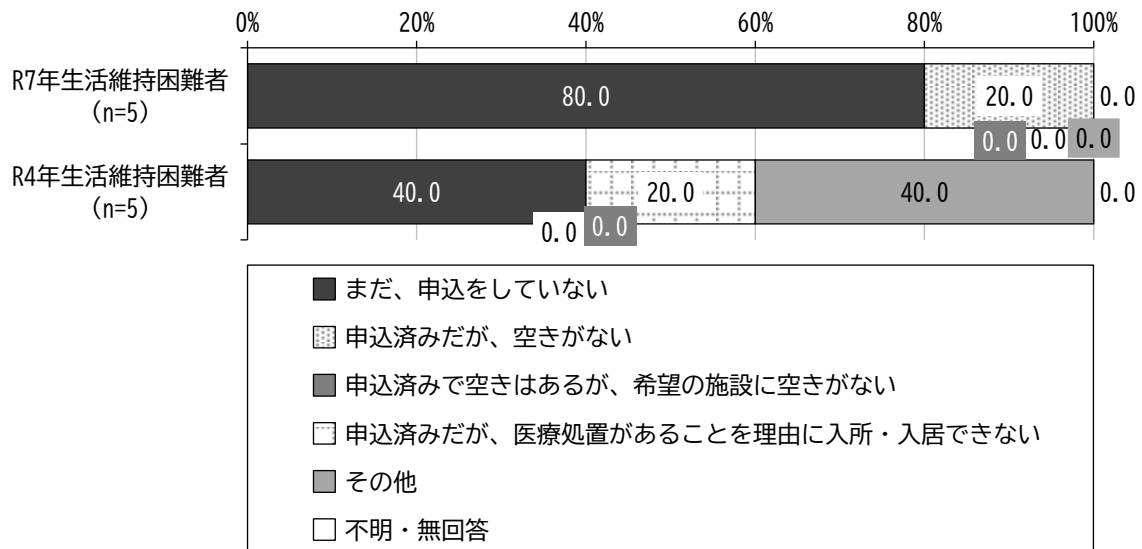
「まだ、申込をしていない」が66.7%と最も高く、次いで「申込済みだが、空きがない」が11.1%となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「まだ、申込をしていない」が25.8ポイント高くなっています。



【問3-2で「特別養護老人ホーム」(※特養)を選択した場合のみ】

問3-5 特養に入所できていない理由をお答えください。(単数回答)

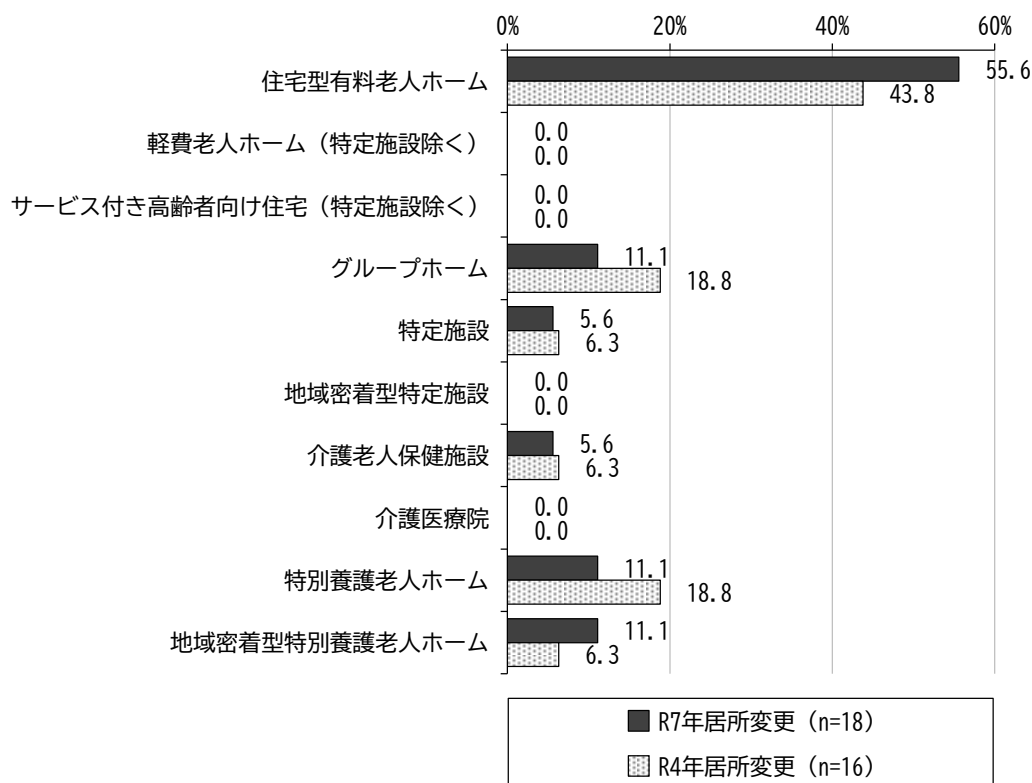
「まだ、申込をしていない」が4件(80.0%)と最も多く、次いで「申込済みだが、空きがない」が1件(20.0%)となっています。



Ⅶ 居所変更実態調査の結果

問1 該当するサービス種別をご回答ください。(単数回答)

回答を得られたのは、「住宅型有料老人ホーム」が10事業所(55.6%)、「グループホーム」「特別養護老人ホーム」「地域密着型特別養護老人ホーム」が2事業所(11.1%)、「特定施設」「介護老人保健施設」が1事業所(6.3%)となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「住宅型有料老人ホーム」が11.8ポイント高く、「グループホーム」「特別養護老人ホーム」が7.7ポイント低くなっています。



※R7年度調査の選択肢「介護医療院」は、R4年度調査では「介護療養型医療施設・介護医療院」となっています。

問2 貴施設等の概要について、以下にご記入ください。

回答のあった施設系事業所の入所・入居者数の合計は689人、待機者数の合計は110人となっています。

	回答施設数 (件)	入所・入居 者数合計 (人)	待機者数合 計(人)	特別養護老 人ホームの 待機者数合 計(人)
住宅型有料老人ホーム	10	322	10	1
グループホーム	2	15	1	0
特定施設	1	47	5	3
介護老人保健施設	1	101	5	0
特別養護老人ホーム	2	163	74	0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	41	15	0
合計	18	689	110	4

問3 現在の入所・入居者の要支援・要介護度別の人数について、ご記入ください。

[住宅型有料老人ホーム] [特別養護老人ホーム] は「要介護4」、[グループホーム] [特定施設] は「要介護2」、[介護老人保健施設] [地域密着型特別養護老人ホーム] は「要介護3」が最も高くなっています。

	回答施設数(件)	入所・入居者数合計(人)	入所・入居者の要介護度別の割合(%)								
			自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明
住宅型有料老人ホーム	10	319	0.3	0.0	0.6	13.8	19.7	17.6	26.6	18.8	2.5
グループホーム	2	15	0.0	0.0	0.0	6.7	46.7	20.0	20.0	6.7	0.0
特定施設	1	47	0.0	0.0	2.1	17.0	34.0	23.4	21.3	2.1	0.0
介護老人保健施設	1	100	0.0	0.0	0.0	7.0	23.0	50.0	15.0	5.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	163	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	35.0	41.7	21.5	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	41	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	39.0	34.1	26.8	0.0
合計	18	685	0.1	0.0	0.4	8.8	16.4	28.2	28.5	16.5	1.2

問4 貴施設等で、以下の医療処置が必要な利用者の受け入れは可能ですか。(複数回答)

全体では「褥瘡の処置」が83.3%と最も高く、次いで「酸素療法」が72.2%となっています。

	回答施設数(件)	受け入れ可能な医療処置が必要な利用者(%)							
		点滴の管理	中心静脈栄養	透析	ストーマの処置	酸素療法	レスピレーター	気管切開の処置	疼痛の看護
住宅型有料老人ホーム	10	70.0	70.0	60.0	80.0	100.0	40.0	50.0	70.0
グループホーム	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
合計	18	38.9	38.9	38.9	61.1	72.2	22.2	27.8	38.9

	回答施設数(件)	受け入れ可能な医療処置が必要な利用者(%)							
		経管栄養	モニター測定	褥瘡の処置	カテーテル	喀痰吸引	インスリン注射	左記に対応可能な医療処置はない	不明・無回答
住宅型有料老人ホーム	10	70.0	20.0	100.0	70.0	70.0	60.0	0.0	0.0
グループホーム	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
特定施設	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	100.0	0.0	50.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	100.0	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
合計	18	66.7	11.1	83.3	44.4	50.0	38.9	5.6	0.0

問5 現在、上記の医療処置を受けている入所・入居者の合計人数をご回答ください。

全体では「1～5人未満」が38.9%と最も高く、次いで「0人」が22.2%となっています。

	回答施設数(件)	医療処置を受けている入所・入居者の合計人数(%)						
		0人	1～5人未満	5～10人未満	10～15人未満	15～20人未満	20人以上	不明・無回答
住宅型有料老人ホーム	10	0.0	60.0	10.0	20.0	0.0	10.0	0.0
グループホーム	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	18	22.2	38.9	11.1	16.7	5.6	5.6	0.0

問6 過去1年間（令和6年12月1日～令和7年11月30日）に、貴施設等に新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。

問7 問6の過去1年間の新規の入所・入居者について、入所・入居する前の居場所別の人数をご記入ください。

①入所・入居する前の居場所：町内

〔住宅型有料老人ホーム〕〔特別養護老人ホーム〕は町外の「病院・診療所（一時的な入院を除く）」、〔グループホーム〕〔介護老人保健施設〕〔地域密着型特別養護老人ホーム〕は町内の「自宅（兄弟・子ども・親戚等の家含む）」、〔特定施設〕は町外の「自宅（兄弟・子ども・親戚等の家含む）」「介護老人保健施設」が最も高くなっています。

	回答施設数（件）	過去1年間の新規入所・入居者数（人）	【町内】入所・入居する前の居場所別の割合（％）						
			自宅（兄弟・子ども・親戚等の家含む）	住宅型有料老人ホーム	軽費老人ホーム（特定施設除く）	サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	グループホーム	特定施設	地域密着型特定施設
住宅型有料老人ホーム	10	145	9.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
グループホーム	2	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	15	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	20	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	50	12.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	17	58.8	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	18	250	16.8	1.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0

	回答施設数（件）	過去1年間の新規入所・入居者数（人）	【町内】入所・入居する前の居場所別の割合（％）					
			介護老人保健施設	介護医療院	特別養護老人ホーム	地域密着型特別養護老人ホーム	病院・診療所（一時的な入院を除く）	その他
住宅型有料老人ホーム	10	145	0.0	0.0	0.0	0.0	9.0	0.0
グループホーム	2	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7
介護老人保健施設	1	20	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	50	0.0	0.0	10.0	0.0	4.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	17	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0
合計	18	250	0.0	0.0	2.0	0.0	8.4	0.4

②入所・入居する前の居場所：町外

【町外】入所・入居する前の居場所別の割合（％）									
	回答施設数（件）	過去1年間の新規入所・入居者数（人）	自宅（兄弟・子ども・親戚等の家含む）	住宅型有料老人ホーム	軽費老人ホーム（特定施設除く）	サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	グループホーム	特定施設	地域密着型特定施設
住宅型有料老人ホーム	10	145	18.6	2.8	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0
グループホーム	2	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	15	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	20	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	50	24.0	6.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	17	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	18	250	19.6	3.2	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0

【町外】入所・入居する前の居場所別の割合（％）									
	回答施設数（件）	過去1年間の新規入所・入居者数（人）	介護老人保健施設	介護医療院	特別養護老人ホーム	地域密着型特別養護老人ホーム	病院・診療所（一時的な入院を除く）	その他	入居・入所する前の居場所を把握していない
住宅型有料老人ホーム	10	145	4.1	0.0	0.0	1.4	53.8	0.0	0.0
グループホーム	2	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	15	33.3	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	20	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	50	12.0	0.0	0.0	0.0	26.0	2.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	17	5.9	0.0	0.0	0.0	17.6	0.0	0.0
合計	18	250	7.2	0.0	0.0	0.8	38.4	0.4	0.0

問8 過去1年間（令和6年12月1日～令和7年11月30日）に、貴施設等を退去した人の人数をご記入ください。

問9 問8の過去1年間の退去者について、要介護度別の人数をご記入ください。

〔住宅型有料老人ホーム〕〔グループホーム〕〔特別養護老人ホーム〕は退去者の半数以上が「死亡」となっています。

	回答施設数（件）	過去1年間の退去者数合計（人）	退去者の要介護度別の割合（％）									
			自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明	死亡
住宅型有料老人ホーム	10	126	0.0	0.0	0.0	3.2	3.2	9.5	16.7	17.5	0.0	50.0
グループホーム	2	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7
特定施設	1	15	0.0	0.0	0.0	6.7	26.7	40.0	20.0	6.7	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	15	0.0	0.0	0.0	13.3	33.3	33.3	20.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	51	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.8	15.7	5.9	0.0	68.6
地域密着型特別養護老人ホーム	2	18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.6	27.8	16.7	0.0	0.0
合計	18	228	0.0	0.0	0.0	3.1	5.7	16.7	17.5	13.2	0.0	43.9

問10 問8でご記入いただいた過去1年間の退去者について、退去先別の人数をご記入ください。

①退去先：町内

「死亡（搬送先での死亡を含む）」を除くと、[住宅型有料老人ホーム] [グループホーム] [特別養護老人ホーム] は町外の「介護医療院を除く病院・診療所（一時的な入院を除く）」、[特定施設] は町外の「介護医療院を除く病院・診療所（一時的な入院を除く）」[特別養護老人ホーム]、[介護老人保健施設] [地域密着型特別養護老人ホーム] は町内の「介護医療院を除く病院・診療所（一時的な入院を除く）」が最も高くなっています。

	回答施設数（件）	過去1年間の退去者数合計（人）	【町内】退去者の退去先別の割合（％）						
			自宅（兄弟・子ども・親戚等の家含む）	住宅型有料老人ホーム	軽費老人ホーム（特定施設除く）	サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	グループホーム	特定施設	地域密着型特定施設
住宅型有料老人ホーム	10	126	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0
グループホーム	2	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	15	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	51	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	18	228	0.4	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0

	回答施設数（件）	過去1年間の退去者数合計（人）	【町内】退去者の退去先別の割合（％）						その他
			介護老人保健施設	介護医療院	介護医療院を除く病院・診療所（一時的な入院を除く）	特別養護老人ホーム	地域密着型特別養護老人ホーム		
住宅型有料老人ホーム	10	126	0.0	0.0	3.2	0.8	0.0	0.0	
グループホーム	2	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
特定施設	1	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
介護老人保健施設	1	15	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	
特別養護老人ホーム	2	51	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
地域密着型特別養護老人ホーム	2	18	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	
合計	18	228	0.0	0.0	4.8	0.4	0.0	0.0	

②退去先：町外

【町外】退去者の退去先別の割合（％）										
	回答施設数（件）	過去1年間の退去者数合計（人）	自宅（兄弟・子ども・親戚等の家含む）	住宅型有料老人ホーム	軽費老人ホーム（特定施設除く）	サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	グループホーム	特定施設	地域密着型特定施設	介護老人保健施設
住宅型有料老人ホーム	10	126	1.6	2.4	0.0	0.0	0.0	1.6	0.8	0.0
グループホーム	2	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特定施設	1	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7
介護老人保健施設	1	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	51	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	18	228	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	0.9	0.4	0.9

【町外】退去者の退去先別の割合（％）									
	回答施設数（件）	過去1年間の退去者数合計（人）	介護医療院	介護医療院を除く病院・診療所（一時的な入院を除く）	特別養護老人ホーム	地域密着型特別養護老人ホーム	その他	行先を把握していない	死亡（搬送先での死亡を含む）
住宅型有料老人ホーム	10	126	0.0	10.3	3.2	0.8	0.0	0.0	73.8
グループホーム	2	3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
特定施設	1	15	0.0	26.7	26.7	13.3	0.0	0.0	20.0
介護老人保健施設	1	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0
特別養護老人ホーム	2	51	0.0	23.5	3.9	0.0	0.0	0.0	68.6
地域密着型特別養護老人ホーム	2	18	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	72.2
合計	18	228	0.0	13.6	4.4	1.3	0.0	0.0	69.3

問 11 貴施設等の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。退去理由として最も多いものを3つまで選択してください。（3つまで複数回答）

全体では「医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから」が61.1%と最も高く、次いで「費用負担が重くなったから」が38.9%となっています。

	回答施設数（件）	退去理由として多いもの（%）										
		必要な生活支援が発生・増大したから	必要な身体介護が発生・増大したから	認知症の症状が悪化したから	医療的ケア・医療処置の必要性が高まったから	左記以外の状態像が悪化したから	入所・入居者の状態等が改善したから	入所・入居者が、必要な居宅サービスの利用を望まなかったから	費用負担が重くなったから	本人が希望したから	その他	不明・無回答
住宅型有料老人ホーム	10	0.0	20.0	20.0	30.0	0.0	10.0	0.0	50.0	20.0	10.0	20.0
グループホーム	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
特定施設	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
介護老人保健施設	1	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム	2	0.0	50.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	18	0.0	16.7	16.7	61.1	0.0	22.2	0.0	38.9	16.7	11.1	11.1

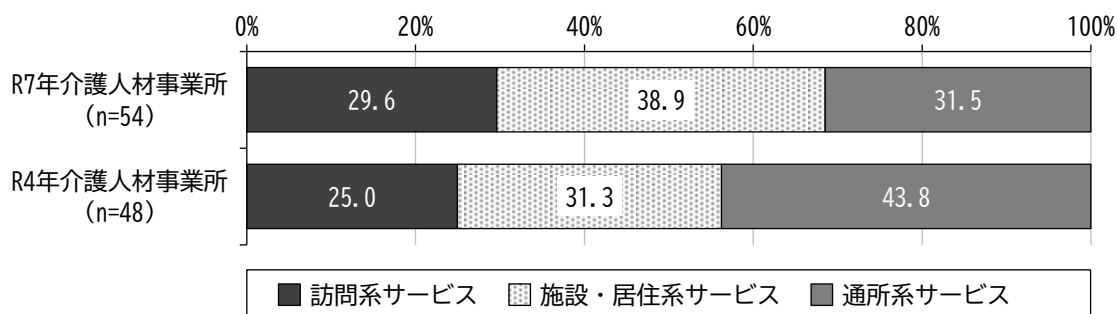
問 12 貴事業所で入居・入所者が退去するのはどのような場合が多いですか。よくあるケースについてお答えください。（記述回答）

入居・入所者が退去する主なケース
病院への受診から入院することによる退所が多い
入院され退院のめどが立たなくなった。
一番多い場合は「ご逝去」。以外ですとほとんどが入居者のADL悪化による入院先からのお戻りできない、もしくは入院先でのご逝去。認知症から精神発症で共同生活困難も多い。
ほぼ死亡退去。家族の自宅近くの施設へ転居された方も以前はおみえになった。
死亡退去又は搬送先の病院にてご逝去されている。
自宅で過ごせるまで改善した為。ご家族様のご要望でキーパーソンさんの自宅のそばに施設が出来た為。
死亡または、医療的ケア、医療処置の必要性が高まったから。
入所：自宅で過ごしていたが、認知症が進み同居の家族や独居の方など生活が困難になってきた場合が多い。
退去：慣れたところで最後までという方が多く、当施設での看取りの場合が多い。
死亡、認定結果が要介護3以下になった、状態悪化にて入院
※在宅扱いである特定施設において、オムツの利用が増え、費用負担がなくなる特養へ移ることが多い。単純に要介護度が上がり、特養に申し込んだら決まったから移る。どこの施設も入居者確保に必死、取り合いです。
施設で看取りで亡くなる場合が9割以上。
8割方は看取りで逝去されて退去、2割は費用の安い施設や特養に転居
医療依存度が高くなる場合になります。

VIII 介護人材実態調査の結果

問1 該当するサービス種別（介護予防を含む）を、ご回答ください。（単数回答）

「訪問系サービス」が16事業所、「施設・居住系サービス」が21事業所、「通所系サービス」が17事業所となっています。なお、令和4年度調査と比較すると、「通所系サービス」が12.3ポイント低くなっています。



問2 貴事業所(問1で○をつけたサービス種別の事業所)に所属する介護職員について、お伺いします。

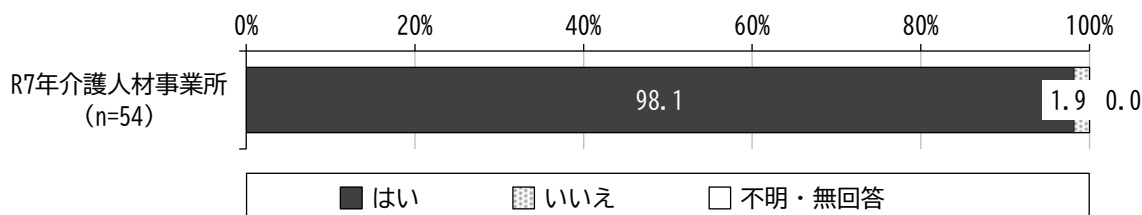
問2-1 介護職員の人数を、ご記入ください。

介護職員の総数、外国人職員数、派遣職員数は以下の通りです。

	回答事業所数(事業所)	介護職員の総数(人)			外国人職員(人)	派遣職員(人)
		常勤職員	非常勤職員	小計		
全サービス系統	54	350	402	752	26	27
訪問系サービス	16	100	160	260	2	3
施設・居住系サービス	21	196	161	357	21	15
通所系サービス	17	54	81	135	3	9

問2-2 貴事業所は開設から1年以上経過していますか。（単数回答）

「はい」が53事業所となっています。



問2-3 令和7年12月1日時点で、開設から1年以上を経過している事業所にお伺いします。過去1年間（令和6年12月1日～令和7年11月30日）の介護職員の採用者数と離職者数を、常勤・非常勤別にご記入ください。外国人人材も含めてご回答ください。

採用者数と離職者数は以下の通りです。

	回答事業所数（事業所）	採用者数（人）			離職者数（人）		
		常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計
全サービス系統	53	87	156	243	66	81	147
訪問系サービス	16	29	80	109	25	36	61
施設・居住系サービス	21	42	58	100	29	31	60
通所系サービス	16	16	18	34	12	14	26

問3 採用や人材定着に関する課題をご回答ください。（記述回答）

主な回答
介護職員が集まらない
利用者からの暴力や問題行動に対応するという過酷な労働内容の割に賃金が低すぎるため新入職者を確保することができない。
心の病気による離職も増えてきている。常に気を抜けない現場、利用者からの暴言暴力の対応をしている職員に対し心のケアを行う必要があるが、人員不足でそこまで手が回らない。低賃金で過酷労働。
専門職の職員の入れ替えは、最近激しいと感じます。特に、直近で入職される方の定着率は低く、逆にベテランほど退職にならない傾向にあります。若い年齢の職員の入職が少なく、職員の高齢化が益々進んでいる現状です。
介護士の負担軽減。介護補助スタッフの採用。リーダー職員のポテンシャル向上。全ての職員のコミュニケーションスキルの向上。介護士としての質の向上。面接希望者を増やしたい。
現場に合った適材適所の確保、人間関係に問題があった際の対応
給料面の見直し。人間関係で苦しむ方が多いので、精神的ケアできる体制。全国的に人手不足が深刻な為、スタッフへの業務負担増をどう軽減するか？
有資格者の採用が難しい
常勤職員の確保が課題。また、入社前との業務内容のギャップや業務多忙により定着に至らない。
社長との折り合いや仕事量の減少が好ましい。
夜勤対応可能な方の募集が来ないことです。
求職者の意識の低さ
広告費、採用時の採用手数料など、業者に払う費用の負担が大きいです。
・職員が徐々に高齢化している。 ・直接雇用の職員が採用が難しく、派遣に頼ることが多くなっている。
オープンから少しずつ利用者様が増加していき、働く環境や忙しさが利用者様増加に伴い変化する。しっかりと情報交換を行い職員の思いを聞きながら業務調整し定着してもらえよう関わっていく。
ハローワークやフリーペーパーでは問い合わせが少ない
町内の居宅介護支援事業所の数が限られていることも、人材不足の一因となっている。町内からの支援依頼が少ないため、近隣市町村の居宅介護支援事業所から依頼を受ける状況も生じているが、移動距離が長くなることでヘルパーの負担が増し、対応を敬遠されるケースが少なくない。その結果、業務量の安定確保や人材の定着が一層困難となっている。

主な回答
募集を行うが、応募数が少ない。派遣会社に問い合わせても地域柄で少ないとの返答を頂くことが多くあります。業務内容や給与面、人間関係での不満がありました。給与面や施設の魅力などを増やしていくことが課題かと感じています。
なかなか人材が集まらない
職員の採用は、人材紹介会社経由がほとんどの現状。また、採用しても定着する方の率が低い。外国人技能実習生の受け入れを強化して、今後も定期的に毎年受け入れていく方向だが、定着に関しては未知数。特に特定技能実習生は、職場を選べるのでコミュニティを通じて異動する可能性もある。
一般企業より賃金が安く休みが少ない
ネット広告などでは募集をかけても集まらないため、人材紹介に頼らざるを得ない状況。採用費が1人あたり120~140万円掛かり、それでも能力の保証も無く短期退職も珍しくないため、経営に極めて甚大な被害が出ています。

問4 人材確保に関して市町村に期待するサポートがあれば、ご回答ください。(記述回答)

主な回答
介護職員やりたい人をあっせんしてほしい
最低賃金に処遇を含むことができるため、経営側が最低賃金に近い金額の時給しかださない。処遇を最低賃金に含んではないという方針を国若しくは市町村が示してほしい。最低賃金+処遇にすれば、時給があがり離職減少や入職者増加につなげることができる。このままではどんなに国が処遇をあげる対策をだしても、ずっと最低賃金に近い時給になってしまう。
腰痛対策で、マッサージ・鍼灸等の利用時の補助金など介護士への優遇を考えて頂きたい。
専門職(介護職)全体の人材確保に町として、具体的にどのようなツールを使用し、どこに向けてPRしていくのかを実施していかないと介護職員は減る一方で、介護される方は増加する一方です。
求職者の施設見学希望などがあればぜひご対応させていただきます。紹介会社はかなり高額なためできれば利用は控えたい。その費用を運営や職員の処遇改善に当てたい。
国の取り組みで、他業種との賃金差を無くすとありますが、他業種と賃金が一緒なら他業種に移籍してしまいます。処遇の上乗せ等がありますが、法人の報酬が上がらないと、法人の存続が厳しいです。大手の不正があったことから規制強化するのは分かりますが、真面目に事業している中小法人も規制するはいかが
町内に実務者研修の実施する機関等の提供
賃金上昇が職員確保、定着につながると考える。
介護自体の記録をペーパーレスとは言え、多すぎるのでそこを何とかサポートしてほしい。
東郷町限定のハローワーク的な部署の開設。求人情報の共有等
現在、職員の研修について、年間50万円程度は必要としています。一部でもご支援いただければ幸いです。
町内の介護人材確保を支援する取り組みとして、無償での人材紹介やマッチング支援を実施していただきたい。現状、ハローワークや福祉人材センターを通じた応募はほとんどなく、実質的な採用につながっていない。有償の人材紹介サービスを利用した場合、資格を有するヘルパーの採用には10~20万円程度の費用が発生することが多く、小規模事業所にとっては大きな負担となっている。
東郷町内福祉人材補助金制度(東郷町内で5年、10年勤務すると補助金支給など)、東郷町内の福祉施設で勤務する事でメリットとなる制度の策定。
人材の紹介
介護専門職の求人を他業種にもPRできる機会がほしい。SNSを通じた町専門サイトの立ち上げなど昨今の時代に合わせた若い人材の確保が急務。介護される方(需要)は増加していくが、介護ケアする方(供給)を増やしていかなければ介護崩壊がおきます。特に小さな自治体ほど、働き手が町外や他サービス行などへ流失し、今後も増加していくと予測します。介護の魅力を若い方へ直接伝える機会を多く設けないと人材は減る一方です。
清掃、お茶汲み、見守りといった仕事は現在も高齢の方に依頼しているので、出来ることなら就業希望者を町でも募集・紹介して頂けると助かります。

第10期東郷町高齢者福祉計画策定のための
アンケート調査結果報告書

発行：令和8年3月

発行者：東郷町

編集：福祉こども部 高齢者支援課

〒470-0198

愛知県愛知郡東郷町大字春木字羽根穴1番地

TEL：(0561) 56-0753 (直通)

FAX：(0561) 38-7932